教育年報 2019

岡　山　県　立　大　学

はじめに

岡山県立大学
学長　沖　陽子

「未来」を教育するのが大学の役割です。今、わが国では「大学力」向上のための大学改革が進められています。社会から第 4 次産業革命、Society5.0 といわれる大きな産業構造、社会構造の変化に対応する教育研究の革新が求められているからです。現代社会の変容は、内容はもちろんのこと、その変化も驚きの速度です。18 歳人口の大幅な減少が拍車をかけています。

そのような現状の中、検討の方向性として挙がっているのは、大学教育の質の向上で、学修の質保証です。すなわち、「教学マネジメントに係る指針の策定」や「学修成果の可視化と情報公開」が求められています。具体的には、学生達が身に付けた能力や付加価値の見える化が期待されることになりますが、思うほど簡単なものではありません。このような混沌とした状況の中で考えるべきことは、大学として中軸となる「強み」や「特色」をより明確化することです。

上述の観点から、本学の教育体制を見直す時期が到来しています。教育をどう変えるべきか、目指す研究はどう進展させるか、大学の第 3 ミッションである社会貢献の進め方など、本学の存在価値や選ばれる大学になるための検討が急務となってきました。

本学は「人間尊重と福祉の増進」という建学の理念の下に歩んできました。教育研究の理念を「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」ことに置き、この理念に基づく人材育成を目指してきました。これは未来社会で活躍する次世代に必須の理念とも思われます。未来社会に即した具体的なアクションプランの合意が学内外で必要です。

本学は幸運にも文部科学省の補助事業である 2015 年度「地（知）の拠点大学による地方創生事業（ＣＯＣ+）事業」に選定され、「地域で学び地域で未来を拓く“生き活きおかやま”人材育成事業」に取り組んでまいりました。2019 年度で事業は終了しますが、その成果は本年報に記載されています。副専攻「岡山創生学」は学部の「主専攻」に加えて学ぶ教育カリキュラムで、地域を知り、地域で体験して、地域と共に学生の社会人基礎力を育てる目的で実施してきました。地域連携教育の充実を図ることにより、地域志向型の学生を輩出し、社会への貢献度は高まってきたと自己評価をしています。しかしながら、質保証は今後の課題です。本学の「強み」を活かすのはこれからです。

大学、学部、学科のディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーは協議を重ねて作成しました。本学の教育研究の方向性も「いま胎動する地域創造への挑戦：未来社会を拓く　～知識・感性・技術のハーモニーが奏でる地域共生型拠点大学～」と決定しました。学内外の皆様に本教育年報をご笑覧頂き、本学の教育体制の見直しと今後の新たな展開に、ご助言とご示唆を賜りたくお願い申し上げます。

2020 年 3 月

目次

はじめに

第１部　学部及び大学院における教育活動と成果 ア-1

第１部・第１章
学部における教育活動と成果 ア-1
1　概要 ア-1
2　入学者受入 ア-1
2-1　概要 ア-1
2-2　選抜方法 ア-1
2-3　入学前教育 ア-4
2-4　留学・転学受入等 ア-5
2-5　まとめと課題 ア-7
3　高大連携 ア-7
3-1　概要 ア-7
3-2　高等学校校長協会との連携 ア-7
3-3　高大連携事業 ア-8
3-4　まとめと課題 ア-8
4　共通教育における学生の学習支援 イ-1
4-1　概要 イ-1
4-2　共通教育部 イ-2
4-3　教養教育推進室 イ-3
4-4　語学教育推進室 イ-5
4-5　情報教育推進室 イ-11
4-6　健康・スポーツ教育推進室 イ-11
4-7　社会連携教育推進室 イ-12
4-8　留学生・転学生 イ-13
4-9　大学コンソーシアム岡山 イ-13
4-10　まとめと課題 イ-17
5　専門教育における学生の学習支援 ウ-1
5-1　概要 ウ-1
5-2　保健福祉学部 エ-1
5-3　情報工学部 オ-1
5-4　デザイン学部 カ-1

第１部・第２章
地域連携教育（ＣＯＣ＋）における教育活動と成果 キ-1
1-1　概要 キ-1
1-2　組織体制 キ-1
1-3　授業の構築 キ-2
1-4　学修成果の発表 キ-17
1-5　「地域創生推進士」の授与 キ-19
1-6　PROGテストによる学修評価 キ-20
1-7　正課外での活動 キ-23
1-8　まとめと課題 キ-24

第１部・第３章
大学院における教育活動と成果 ク-1
1 大学院における教育活動と成果 ク-1
1-1 概要 ク-1
1-2 保健福祉学研究科 ケ-1
1-3 情報系工学研究科 コ-1
1-4 デザイン学研究科 サ-1
2 大学院における研究活動と国際交流 シ-1
2-1 概要 シ-1
2-2 保健福祉学研究科 シ-1
2-3 情報系工学研究科 シ-8
2-4 デザイン学研究科 シ-9
2-5 まとめと課題 シ-10

第２部 各センターにおける教育活動と成果 ス-1
1 概要 ス-1

第２部・第１章
教育開発センターにおける教育活動と成果 セ-1
1 概要 セ-1
2 各部門における教育活動と成果 セ-1
2-1 概要 セ-1
2-2 アドミッション部門 セ-1
2-3 共通教育部門 セ-19
2-4 ＦＤ部門 セ-20
2-5 教育評価部門 セ-38
2-6 まとめと課題 セ-44
3 教育改革推進事業における教育活動と成果 ソ-1
3-1 目的 ソ-1
3-2 本年度実施事業及び来年度実施予定事業 ソ-1
3-3 まとめと課題 ソ-6

第２部・第２章
キャリア・学生生活支援センターにおける教育活動と成果 タ-1
1 概要 タ-1
2 各部門における教育活動と成果 タ-1
2-1 キャリア形成支援部門 タ-1
2-2 就職支援部門 タ-9
2-3 正課外・ボランティア活動支援部門 タ-12
2-4 学生生活支援部門 タ-15
2-5 まとめと課題 タ-22

第２部・第３章
国際交流センターにおける教育活動と成果 チ-1

第２部・第４章
学術研究推進センターにおける教育活動と成果 ツ-1

第３部　附属図書館における教育活動と成果 テ-1

付録

A 入試統計 A-1
B 入学時アンケート..... B-1
C 卒業時･修了時アンケート..... C-1
D 授業評価アンケート D-1
E 学生生活アンケート..... E-1
F 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 ... F-1
G 国際交流 G-1
H 高大連携協定等に基づく授業に係る高等学校への講師派遣及び生徒の受入 H-1
I 高等学校への講師派遣及び生徒の受入（授業以外） I-1
J 学生・学生団体等の受賞 J-1
K 委員会等の審議事項 K-1

編集後記

第１部　学部及び大学院における教育活動と成果

第１章　学部における教育活動と成果

1 概要

第 1 部は本学の教育,すなわち学部と大学院の教育活動や成果といった本学の実際の教育活動の状況をダイナミックに示す場所であり,教育年報の中でも最重要の位置づけとするところである.令和 2 年 1 月 22 日に教学マネジメント指針が公表され、供給者目線から学修者目線への大学教育の明確な質転換が求められる中、第 3 期中期計画の初年度である本年度は,ディプロマ・ポリシーを基本とする教育体制の構築に向け教育改革の取組みを本格的に開始する年度であった．本学教育の特色たる地域連携教育のコアとなる COC+事業における副専攻「岡山創生学」が最終年度を迎える中，また令和 3 年度にはデザイン学部と保健福祉学科の改組を予定する中，これまでの教育活動の成果について情報公表をするとともに，それらを今後の教育の更なる充実に生かす必要がある.

2 入学者受入

2-1 概要

令和 2 度入学者選抜は，平成 29 年度に見直しを行った本学アドミッション・ポリシーに基づいて行われている．ポリシーの見直しが入試方法の変更を伴うものではなかったため，一般入試においては平成 27 年度における大学入試センター試験利用科目等改訂の内容を引き継ぐ形で実施された.

令和 3 年度入試からこれまでの大学入試センター試験に代わって大学入学共通テストが導入されるのに伴い導入予定であった英語外部認定試験や記述式問題の取り止めが相次いで報じられたが，第 3 期中期計画を念頭に，本学教育開発センター・アドミッション部門で実施した入学時アンケート結果や，入試区分及び日程別の入学者における履修状況と入試成績の比較分析結果，高等学校校長協会との協議内容等も踏まえて，本年度までに抜本的に改訂した本学アドミッション・ポリシーに基づいて計画し公表した本学の入試制度に，大きな影響は出なかった.

2-2 選抜方法

2-2-1 令和 2 年度入学者選抜の概要

令和２年度入学者選抜における志願者数等は，付録 A-1 のとおりである.

なお，令和２年度入学者選抜では，アドミッション・ポリシーを基準として，次のとおり試験を実施した.

(ｱ) 募集人員

（人）

学　　部	学科・専攻		入学定員	一般入試			推薦入試	帰国生入　試	私費外国人留学生入試
				前期日程	中期日程	後期日程			
保健福祉学部	看護学科		40	20	－	8	12	若干人	若干人
	栄養学科		40	25	－	3	12	若干人	若干人
	保健福祉学科	社会福祉学専攻	40	24	－	4	12	若干人	若干人
		子ども学専攻	20	10	－	4	6	若干人	若干人

情報工学部	情報通信工学科	50	14	23	－	13	若干人	若干人
	情報システム工学科	50	14	23	－	13	若干人	若干人
	人間情報工学科	40	12	15	－	13	若干人	若干人
デザイン学部	デザイン工学科	40	30	－	－	10	若干人	若干人
	造形デザイン学科	50	38	－	－	12	若干人	若干人
	計	370	187	61	19	103	－	－

(ｲ) 選抜方法

① 一般入試

大学入試センター試験，個別学力検査等及び調査書の内容を総合して行う．

（大学入試センター試験の利用教科・科目）

<table>
<tr><th>学科・専攻</th><th>日　程</th><th>教　科</th><th colspan="3">科　目</th><th colspan="2">科　目</th></tr>
<tr><td rowspan="7">看護学科</td><td rowspan="7">前期日程
後期日程</td><td>国語</td><td colspan="3">国</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td>地理歴史</td><td colspan="3">世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地Ａ，地Ｂ</td><td colspan="2" rowspan="2">から１</td></tr>
<tr><td>公民</td><td colspan="3">現社，倫，政経，倫・政経</td></tr>
<tr><td>数学</td><td colspan="3">数Ⅰ・Ａ</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td rowspan="2">理科</td><td colspan="3">物，化，生，地</td><td>から１：①</td><td rowspan="2">①又は②</td></tr>
<tr><td colspan="3">物基，化基，生基，地基</td><td>から２：②</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td colspan="3">英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)，独，仏，中，韓</td><td colspan="2">から１</td></tr>
<tr><td rowspan="9">栄養学科</td><td rowspan="9">前期日程
後期日程</td><td>国語</td><td colspan="3">国</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td>地理歴史</td><td colspan="3">世Ｂ，日Ｂ，地Ｂ</td><td colspan="2" rowspan="2">から１</td></tr>
<tr><td>公民</td><td colspan="3">現社，倫，政経，倫・政経</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数学</td><td colspan="3">数Ⅰ・Ａ</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td colspan="3">数Ⅱ・Ｂ</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td rowspan="3">理科</td><td colspan="3">物，化，生</td><td>から２：①</td><td rowspan="3">①又は②</td></tr>
<tr><td colspan="2">物，化，生</td><td>から１</td><td rowspan="2">から３：②</td></tr>
<tr><td colspan="2">物基，化基，生基</td><td>から２</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td colspan="3">英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td rowspan="8">保健福祉学科
社会福祉学専攻
子ども学専攻</td><td rowspan="8">前期日程
後期日程</td><td>国語</td><td colspan="3">国</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td>地理歴史</td><td colspan="3">世Ｂ，日Ｂ，地Ｂ</td><td colspan="2" rowspan="6">から１又は２（理科の「基礎を付した科目」から２）</td></tr>
<tr><td>公民</td><td colspan="3">現社，倫，政経，倫・政経</td></tr>
<tr><td>数学</td><td colspan="3">数Ⅰ・Ａ，数Ⅱ・Ｂ，簿記，情報</td></tr>
<tr><td rowspan="2">理科</td><td colspan="3">物，化，生，地</td></tr>
<tr><td colspan="2">物基，化基，生基，地基</td><td>から２</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td colspan="3">英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)，独，仏，中，韓</td><td colspan="2">から１</td></tr>
<tr><td rowspan="7">情報通信工学科

情報システム工学科
人間情報工学科</td><td rowspan="3">前期日程</td><td>国語</td><td colspan="3">国</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数学</td><td colspan="3">数Ⅰ・Ａ</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td colspan="3">数Ⅱ・Ｂ，簿記，情報</td><td colspan="2">から１</td></tr>
<tr><td rowspan="4">中期日程</td><td rowspan="2">理科</td><td colspan="3">物</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td colspan="3">化，生，地</td><td colspan="2">から１</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td colspan="3">英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td rowspan="9">デザイン工学科</td><td rowspan="9">前期日程</td><td>国語</td><td colspan="3">国(近代以降の文章)</td><td colspan="2" rowspan="9">から２又は３（理科の「基礎を付した科目」から２及び理科以外の教科の科目から１）</td></tr>
<tr><td>地理歴史</td><td colspan="2">世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地Ａ，地Ｂ</td><td rowspan="3">から１</td></tr>
<tr><td>公民</td><td colspan="2">現社，倫，政経，倫・政経</td></tr>
<tr><td rowspan="2">数学</td><td colspan="3">数Ⅰ・Ａ</td></tr>
<tr><td colspan="3">数Ⅱ・Ｂ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">理科</td><td>物，化，生，地</td><td>から１：①</td><td rowspan="2">①又は②</td></tr>
<tr><td>物基，化基，生基，地基</td><td>から２：②</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td colspan="3">英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td rowspan="2">造形デザイン学科</td><td rowspan="2">前期日程</td><td>国語</td><td colspan="3">国</td><td colspan="2">必須</td></tr>
<tr><td>地理歴史</td><td colspan="3">世Ａ，世Ｂ，日Ａ，日Ｂ，地Ａ，地Ｂ</td><td colspan="2">から１</td></tr>
</table>

		公民	現社，倫，政経，倫・政経	
		数学	数Ⅰ，数Ⅰ・Ａ，簿記，情報	
		理科	物，化，生，地	
		外国語	英(ﾘｽﾆﾝｸﾞ)	必須

※　国語→国，世界史Ａ→世Ａ，世界史Ｂ→世Ｂ，日本史Ａ→日Ａ，日本史Ｂ→日Ｂ，地理Ａ→地Ａ，地理Ｂ→地Ｂ，現代社会→現社，倫理→倫，政治・経済→政経，「倫理，政治・経済」→倫・政経，数学Ⅰ→数Ⅰ，数学Ⅰ・数学Ａ→数Ⅰ・Ａ，数学Ⅱ・数学Ｂ→数Ⅱ・Ｂ，簿記・会計→簿記，情報関係基礎→情報，物理→物，化学→化，生物→生，地学→地，物理基礎→物基，化学基礎→化基，生物基礎→生基，地学基礎→地基，英語→英，ドイツ語→独，フランス語→仏，中国語→中，韓国語→韓

（個別学力検査等の教科等）

学部・学科・専攻		日程	教　科　等
保健福祉学部	看護学科 保健福祉学科 社会福祉学専攻 子ども学専攻	前期日程	小論文，面接
		後期日程	
	栄養学科	前期日程	理科（化学基礎・化学，生物基礎・生物から１）
		後期日程	個別学力検査等を課さない．
情報工学部		前期日程	数学（数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学Ａ，数学Ｂ(数列，ベクトル)）
		中期日程	
デザイン学部		前期日程	実技（鉛筆デッサン）

②　推薦入試

学　　部	教　科　等
保健福祉学部	書類審査，小論文，面接(栄養学科の面接では，理科に関する試問も行う．
情報工学部	書類審査，面接（数学，英語及び理科に関する試問も行う）
デザイン学部	書類審査，実技（鉛筆デッサン），面接

③　帰国生入試

学　　部	教　科　等
保健福祉学部	書類審査，小論文，面接（一般教科に関する試問も行う）
情報工学部	書類審査，面接（一般教科に関する試問も行う）
デザイン学部	書類審査，実技（鉛筆デッサン），面接

④　私費外国人留学生入試

書類審査及び実技検査等により実施する．

学部・学科		書類審査		実技検査等
		日本留学試験	TOEFL (iBT)	
保健福祉学部		日本語，理科(２科目)，数学(コース１)	課す	小論文・面接
情報工学部		日本語，理科(2科目・物理必須)，数学(コース2)	課す	面接
デザイン学部	デザイン工学科	日本語，理科(２科目)，数学(コース１)	課す	実技(鉛筆ﾃﾞｯｻﾝ) 面接
	造形デザイン学科	日本語，総合科目，数学(コース１)		

※　保健福祉学部と情報工学部の面接では，一般教科に関する試問も行う．

2-2-2 入学者選抜の変更

学部の入学者選抜において課す教科・科目の変更等が入学志願者の受験準備に大きな影響を及ぼす場合は，2 年半前にはその内容を予告することとしている．その他の変更についても，入学志願者保護の観点から可能な限り早期の予告に努めている．

2-2-3 入試業務の改善

前年度の試験実施において整理した課題に対しては，説明会等を通じ引き続き関係教職員への周知に努めた。

2-3 入学前教育

2-3-1 保健福祉学部

2-3-1-1 看護学科

【目的】

看護学科では、入学後の学習への動機づけと基礎学力の補強と向上を目指して、入学前教育を実施している．今年度は高校側からの要望を考慮して集合教育という従来の形式を取らず，郵送による通信での教育形式とした．教育内容は大学での学びの導入となるように看護学・医学・英語の各領域からそれぞれ基礎的なテーマのレポート課題を提示し，返信してもらうようにした。入学前の期間を活用してこれまでとは違う大学での学び方へのシフトがスムーズに行われるとともに，学習習慣の維持になるように努めた．

【看護学】担当教員：佐々木純子准教授、井上幸子准教授、山形真由美助教
家族の事例を提示し、支援や社会資源の活用等についての論述を求めるもの
【医学】担当教員：高橋徹教授、荻野哲也教授
基礎的な解剖生理学の問題に対し、探索して解答を求めるもの
【英語】担当教員：関根紳太郎教授
長文を読解し、それについて論述を求めるもの

2-3-1-2 栄養学科

栄養学科では栄養学を学習するために，高等学校で化学並びに生物学を習得しておくことが重要となるため，推薦入試においては，理科の基礎知識を尋ねる口頭試問を実施している．しかしながら，センター試験ならびに個別試験で理科の学力検査に対応するために，高校でこれらの科目を勉強している学生と比較すると，理科の知識が不足しているのが現状である．このような背景から，本学科では推薦入学者への事前教育として，化学と生物について，栄養学科で必要な基礎知識を補充する講義を実施している．今年は新型コロナウィルス対策のために講義は実施せず，あらかじめ推薦入学者 12 名に対して，化学と生物学に関する課題を与えた．入学後に課題レポートを提出させ，教員がレポート内容を確認し，入学後の栄養学の修得に必要となる理科の基礎知識をより広範囲にカバーできるよう努めた．

化学担当教員：伊東秀之教授
生物学担当教員：田中晃一教授

2-3-1-3 保健福祉学科

保健福祉学科では，入学後の社会福祉学及び子ども学に関する専門知識習得のモチベーションを高め，また国際化に対応する英語教育を推進することを目的に，推薦入学者への入学前教育を実施している．具体的には英文和訳等の課題を課し，その内容に関して講義を行い，福祉専門職や保育・幼児教育専門職に必要な情報収集，問題分析，コミュニケーション，伝達力を高めるためのグループ討議も実施している．今年は，新型コロナウィルス対策のために講義は実施せず，あらかじめ推薦入学者 16 名に対して，英語に関する課題を与えた．入学後に課題レポートを提出させ、教員がレポート内容を確認し，入学後の英語教育をよりスムースに展開できるよう努めた．

英語課題担当教員：安久津太一教授

2-3-2 情報工学部

情報工学部では，入学者の選抜は，推薦入試（11 月下旬），一般入試前期日程（2 月下旬），一般入試中期日程（3 月上旬）の 3 回に分けて実施される．このうち，推薦入試による合格者は，12 月上旬の合格発表から 4 月の入学までの期間，高等学校での学習内容を維持することにより，入学後の授業に無理なく移行することが可能となる．これをサポートするために，以下の 3 項目を主眼とし，3 学科合同で入学前教育を実施している．

・高校卒業までの 3 ヶ月間の時間の使い方へ示唆を与える．
・大学入学までの心と体の健康維持と教養の深め方を示唆する．
・身の回りの現象を支配している物理や数学から理工系の勉強に興味を持たせる．

日程と内容は以下のとおりである．

【第 1 回】

日時:　令和元年 12 月 25 日（水）13:40～　約 2 時間
場所:　情報工学部棟 2202 室
内容:　学部長による挨拶の後，学科別(情報通信工学科は 2203 室，情報システム工学科は 2202 室，人間情報工学科は 2906 室)に分かれ，各学科長または教務委員の講話及び数学の小テストを実施した．また，全員に英語と数学の課題を配付し，第 2 回開催時に提出することとした．参加生徒数は，推薦入試合格者全員（情報通信工学科 13 名，情報システム工学科 14 名，人間情報工学科 13 名）であった．

【第 2 回】

日時:　令和 2 年 2 月 26 日（水）13:40～　約 2 時間
場所:　情報工学部棟 2202 室
内容:　はじめに，英語の課題に関する解説と小テストを行った．その後，学科別(情報通信工学科は 2203 室，情報システム工学科は 2202 室，人間情報工学科は 2906 室)に分かれ，第 1 回に配布した課題を回収した．次いで，数学の課題に関する小テストを実施し，各学科の数名の教員で採点を行いながら個別指導を行った．さらに 4 月までの課題を配布した学科や，学科長の講話を実施した学科もあった．参加生徒数は，推薦入試合格者全員（情報通信工学科 13 名，情報システム工学科 14 名，人間情報工学科 13 名）であった．

2-3-3 デザイン学部

2-3-3-1 デザイン工学科

次年度に延期して実施予定としている．

2-3-3-2 造形デザイン学科

次年度に延期して実施予定としている．

2-4 留学・転学受入等

2-4-1 外国人留学生の受入状況

本学では，国際社会に開かれた大学として外国人留学生の受け入れを進めており，主としてアジア諸国を中心に留学生の受け入れを行うとともに，国際交流協定を締結している韓国又松（ウソン）大学校からは学部への転学生や短期の交換留学生の受け入れを行っている．

令和元年度は、韓国のウソン大学から 2 人,中国の河南科技大学から 2 人，中国の南昌大学から 1 人、台湾の国立台湾芸術大学から 1 人、台湾の雲林科技大学から 1 人、インドネシアのハサヌディン大学から 1 人を新たに受け入れ，学部と大学院合わせて現在 13 人の留学生が在籍している.

〔留学生の在籍状況〕　　単位：人

年度	人数	学部･院別	所属学部等別	国籍別人数
27	10 (2)	学部 6(2)	保健福祉学部　5(1) 情報工学部　1(1)	韓国　4 中国　2(2)
		大学院 4	保健福祉学研究科　1 情報系工学研究科　1 デザイン学研究科　2	韓国　2 中国　2
28	9 (3)	学部 4(2)	保健福祉学部　4(2)	韓国　2 中国　2(2)
		大学院 5(1)	保健福祉学研究科　3(1) 情報系工学研究科　1 デザイン学研究科　1	中国　4(1) ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 1
29	9 (1)	学部 2(1)	保健福祉学部　1 デザイン工学部　1(1)	韓国　1 中国　1(1)
		大学院 7	保健福祉学研究科　5 情報系工学研究科　2	中国　5 ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 2
30	16	学部 8	保健福祉学部　4 情報工学部　2 デザイン工学部　2	中国　5 韓国　2 台湾　1
		大学院 8	保健福祉学研究科　6 情報系工学研究科　1 デザイン学研究科　1	中国　4 ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 2 韓国　1 ﾈﾊﾟｰﾙ 1
R1	13	学部 6(2)	保健福祉学部　3 デザイン工学部　3	中国　3(1) 韓国　2(1) 台湾　1
		大学院 7	保健福祉学研究科　4 情報系工学研究科　1 デザイン学研究科　2	中国　2 ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ 2 韓国　1 台湾　1 ﾈﾊﾟｰﾙ 1

※（　）内は留学生のうち研究生の数

2-4-2 外国人留学生の受入体制の整備

留学生の受入れは，留学生にとっては，専門知識や技術の修得，本学学生にとっては，異文化の情報収集や国際交流の機会が得られるなど，双方の学生に大変有意義なことであり，グローバル人材の育成を進めていく上でも重要である.

大学院では，留学生の受入れを積極的に進めるために，平成 28 年度入試から保健福祉学研究科及び情報系工学研究科（いずれも博士後期課程）において，海外特別入試を実施し，平成 29 年度入試から，保健福祉学研究科（博士前期課程）において，学術交流協定を締結

している海外の大学を対象とした指定校からの外国人留学生特別入試を実施している.

2-5 まとめと課題

本年度策定された令和元年度からの第 3 期中期計画に基づき令和 3 年度に予定している学科改編を見据え，平成 30 年度に「一体性・整合性」の観点から暫定的に見直したディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシーの再度の見直しを行った. 今回の見直しでは, 特に中教審のガイドラインに沿った学力の 3 要素の養成と各学科で養成する人材像の特徴をステークホルダーにわかりやすく表現することを念頭に, 令和 3 年度の入試制度改革に合わせた見直しである. 特に, 学力の 3 要素の評価基準をアドミッション・ポリシーに照らして具体的に策定した. 令和 6 年度には未来型社会に適合する人材育成に向けて新学習指導要領に基づいた教育を受けた学生が入学してくるが，Society5.0 時代の到来に伴い企業に求められる人材も変革しており，本学でも 3 ポリシーのさらなる見直しとそれに合わせた教育の実現を目指していくことが今後の課題である. また, 少子化に伴い今後入学者が減少する中，適性のある学生を確保する方法を IR に基づいて実現するためにアドミッションセンターを令和 2 年度より設置予定としている. 大学教育へのスムーズな移行を促すための取組とし推薦入学予定者へ実施していた入学前教育は，コロナウイルスによる国からの自粛要請が出た後は対面形式での実施を控え，保健福祉学部は課題を課して郵送させる方法に切り替え，デザイン学部は延期としている.

3 高大連携

3-1 概要

本学と岡山県高等学校長協会との懇談会及び本学と県内の高等学校等進路指導担当教員との意見交換会に加え, 本年度から県内高校と連携した高大連携事業の充実を図ることを目的として岡山県立大学高大連携推進作業部会を立ち上げ，令和 2 年度から実施する事業を計画した. また，平成 30 年度に続き，高校生向けにアレンジした本学の授業を提供することによって，高校生に大学で学ぶ意義と楽しさを理解させ，大学で学ぶために必要な基礎学力の修得に取り組むきっかけとさせることを目的とした「高校生のための大学授業開放」を実施した.

3-2 高等学校校長協会との連携

3-2-1 本学と岡山県高等学校長協会との懇談会

日　時：令和元年 7 月 31 日（水）13:00～14：30
場　所：本部棟 2 階大会議室
出席者：高等学校側　15 人，本学　14 人
内　容：学科改編，令和３年度入学者選抜における変更，令和２年度入学者選抜，議題協議，意見交換等

3-2-2 本学と県内の高等学校等進路指導担当教員との意見交換会

日　時：令和元年 6 月 20 日（木）13:00～15:00
場　所：学部共通棟（北）8105 室
出席者：高等学校側　50 人，本学　21 人
内　容：令和２年度入学者選抜，令和３年度入学者選抜における変更, 高等学校等からの事前質問・要望に対する本学の解答と質疑応答，学科ごとの個別相談

3-2-3 岡山県立大学高大連携推進作業部会

第１回会議

日　時：令和元年９月 11 日（水）13:30～15:35

場　所：本部棟２階中会議室

出席者：(岡山県立大学）高橋副学長，末岡副学長，伊東保健福祉学部長、樋笠共通教育部長，原ｃｏｃ＋推進室長，駒井教学課長，近藤入試班長（岡山県高等学校長協会）高槻校長（倉敷青陵），蟻正校長（高梁），梅田校長（井原市立），松下校長（高梁城南），三谷校長（総社），山本校長（西大寺）

内　容：高大連携事業についての提案，高大連携窓口に関する説明，高等学校の教育の現状ならびに入試改革についての意見交換

第２回会議

日　時：令和２年１月 31 日（金）13:00～14:00

場　所：本部棟２階中会議室

出席者：本学と校長協会から併せて 12 名

内　容：高大連携事業について従来事業の拡充と新規事業の実施について合意

3-3 高大連携事業

3-3-1 高校生のための大学授業開放

日　時：令和元年８月 24 日（土）10:00～（保健福祉学部），10:20～（情報工学部），13:30～（デザイン学部）

場　所：各学部棟他

出席者：429 名

内　容：各学部，学科毎に講義，演習，実験及び実技を交え高校生向けにアレンジした授業を実施した.

3-3-2 その他の高大連携事業

高大連携協定に基づく高等学校への講師派遣及び生徒の受入に関するデータは付録 H を，高等学校への講師派遣及び生徒の受入（高大連携協定以外）に関するデータは付録 I を参照されたい.

3-4 まとめと課題

高大連携事業の充実に向け，県内校長協会から６名の校長に来学頂き，高校生のための大学授業開放の拡充実施のほか，新規に OPU フォーラム 2020 での「高校生と大学生の地域における探求学習の成果報告会」，ならびに高校教員に向けた情報教育を実施することで合意がなされたことを受け，次年度の実施に向けて準備を進めている．本年度も高等学校教育から大学教育へのスムーズな移行を促すための高大連携事業の一つとして，教育開発センター・アドミッション部門の企画による高校生のための大学授業開放が継続実施されたが，事業後のアンケートの結果からも，大学の授業を理解するために高校での学習がいかに重要であるかを理解してもらうという高大接続事業としての役割，ならびに本学で学ぶ意義や楽しさを伝えることで，本学に適性のある受験生の確保につなげるという事業の目標のいずれも達成されていることが窺われている．少子化の進む中受験生の確保に向けて高大連携事業は今後重要性を増していくと考えられ，さらなる充実に向けた取り組みが大きな課題である．また，高大接続改革は大学の教育改革を含むものであり，今後は Society5.0 時代に求められる革新技術やビッグデータを最大限に活用し新たな価値を生み出す人材，多様性をもった集団をマネージしリーダーシップを発揮できる人材の育成に向

けたカリキュラム改革を進めていくことが課題である．さらに，技術革新の著しい時代においてリカレント教育の充実も社会から望まれており，実現に向けて検討して行く必要がある．

4 共通教育における学生の学習支援

4-1 概要

本学の共通教育は,建学の理念「人間尊重と福祉の増進」と,本学全体の教育目的「人間・社会・自然の関係性の理解」とに基づきながら,教養教育全般を担う全学対象科目を設置している.それは次の３科目群に大別される.

導入科目群　学部初年次教育として知的実践的自律性を培う
理論科目群　学部教育の知的根幹を担う理論的な知識を学ぶ
実践科目群　理論的な知識を応用する実践的な力を体得する

共通教育は３科目群の教育方針によって具体的には,

- 現代社会の多様性を理解し,時代の変化に対応することができる豊かな教養を備えた「人間力」を育成する.
- 地域社会あるいは国際社会との連携等を通して,実社会における課題を自ら発見し解決する能力を持った「社会力」を涵養する.
- 異文化理解あるいはチームワーク活動には不可欠な実践的「コミュニケーション力」,および科学技術の進展に支えられた「情報処理・活用力」を修得させる.

共通教育の教育課程は,下記のように教育方針としての３科目群（縦軸）によって編成されるとともに,学問分野に応じた６つの科目カテゴリー（横軸）によっても編成されている.

表　共通教育による教育課程の編成

共通教育		教育方針の３科目群		
		導入科目群	理論科目群	実践科目群
学問分野の６カテゴリー	修学基礎	○		
	人文・社会科学		○	○
	自然科学		○	○
	健康科学		○	○
	語学国際		○	○
	社会連携			○

学問分野の６カテゴリーの編成内容は以下のとおりである.

(1) 修学基礎：高校の学びから大学での学びへの転換と準備,そして大学生としての自律を促す

(2) 人文・社会科学：人間性を考える普遍的な理論や知識を習得し言葉の力を身につけるとともに,社会の仕組みや歴史から様々な解決すべき課題を学び,共同体のあり方を問う力を養う

(3) 自然科学：自然現象やそれに関わる発見から普遍的な真理を探究することを通じ,論理的思考力や問題発見力,批判力などを身につけるとともに,そのために必要な情報処理などの技能を習得する

(4) 健康科学：身体とその健康に関する理論や知識を習得し,実生活に応じた思考力を養う

とともに,社会の中で生涯にわたり健全な生活をおくる具体的技能を身につける

(5) 語学国際：グローバル化する地域社会のみならず一般的に国内外の様々な文化環境においても,そこで活躍するために必要不可欠な語学力を育成するとともに,異文化理解をも深める

(6) 社会連携：地域で活躍するために必要な地域の理解と,他者との協働性を養成する

ここで,全学科で必修となる授業科目の多くを 1 年次に配当し,高等学校での学習内容から大学教育へスムーズに移行できるようにしている.

また、平成 30 年度から、人文・社会科学、自然科学、健康科学の 3 カテゴリーには、各カテゴリー内の学問的精髄を集約した「要論」、各カテゴリーに属す伝統的な学問によって編成された「基幹科目」、現代の学際的な課題に対応する主題を扱う「複合 PBL（Problem Based Learning）科目」が設置され、現代的多様性に対応できるリベラルアーツ教育が実現している。平成 31 年度は、かかる教育の体制を定着させてゆくプロセスをつくった。

この 6 つのカテゴリーについて,共通教育部内に教養教育推進室,語学教育推進室,情報教育推進室,健康・スポーツ教育推進室,社会連携教育推進室の 5 つの推進室を設置して教育を実施していたが、このうち社会連携教育推進室については、地域共同研究機構の発足に伴って、平成 31 年度には地域共同研究機構に移設・移管することとなった。さらに,「共通教育の充実及び共通教育と専門教育との連携に関する」業務を実施するために,教育開発センター内に共通教育部会が設置されている.共通教育科目に対するカリキュラム等の企画・立案などをこの部会が担当し,共通教育部ならびに各推進室で実施するように役割分担ができている.共通教育科目の実施にあたり,共通教育部を兼務する教員のみだけではなく,学部専任教員にも協力を仰いでいる.

共通教育における平成 31 年度の主要な成果は,以下に集約される.

- 共通教育カリキュラム・ポリシーに基づいて,平成 30 年度に開始した共通教育の新カリキュラムの定着と充実を図った.
- 複合 PBL 科目を中心にアクティブ・ラーニングの積極的導入を推進した.
- 英語教育においては, 学修成果につながるセメスター制を導入し,平成 31 年度では,ELP1～6 のクラスにて実施した.
- 副専攻「岡山創生学」において,おかやまボランティア演習（1 年次）,地域協働演習（2 年次）等の実践科目の持続可能性を検討し,授業内容の充実を図った.また, 学修成果の更なる向上を目指して, 次年度以降の副専攻「岡山創生学」のカリキュラムについて検討した.

4-2 共通教育部

共通教育部では,部内に教養教育推進室,語学教育推進室,情報教育推進室,健康・スポーツ教育推進室,の 4 つの推進室を設置して教育を実施している.特に,本学の建学理念「人間尊重と福祉の増進」及び教育目的「人間・社会・自然の関係性」の理解を体現するために,

(1) 基礎的な知識を体系的に理解する姿勢の形成,

(2) 生涯にわたる知的活動あるいは社会生活において必要とされる論理的思考力・問題発見力・批判力・汎用的な技能の習得と形成,

(3) 地域連携等を通じた社会人基礎力や課題解決力の習得,

(4) 自己の人間的成長あるいは将来に継続する学習意欲の喚起を,専門分野にとらわれる

ことのない涵養,

の４項目を柱として,知的自律性を培うための教養と技能を涵養する教育を,所属学部に係わることなく全学生に実施している.また,これらを通して,

- 現代社会の多様性を理解し，時代の変化に対応することができる豊かな教養を備えた「人間力」の育成
- 地域社会あるいは国際社会との連携等を通して,実社会における課題を自ら発見し解決する能力を持った「社会力」の涵養
- 異文化理解あるいはチームワーク活動には不可欠な実践的「コミュニケーション力」,および科学技術の進展に支えられた「情報処理・活用力」の修得

を軸とした上で,文部科学省が提唱する「学士力」あるいは経済産業省が提唱する「社会人基礎力」を見据えた教育を目指している.具体的には,教養教育全般を導入科目群,理論科目群,実践科目群の 3 つで構成し,授業科目を建学の理念に合致する次の 6 つのカテゴリーで編成している.

- 高校教育から大学教育への円滑な移行を促す「修学基礎」
- 教養教育としての「人文・社会科学」および「自然科学」
- 建学の理念に基づく「健康科学」
- 国際交流に対する意識付けを涵養する「語学国際」
- 地域社会との結びつきを育成し,社会の一員である自覚を喚起する「社会連携」

なお,「人文・社会科学」,「自然科学」,「健康科学」のカテゴリーには,平成 30 年度から要論,基幹科目,複合 PBL（Problem Based Learning）科目を設定したが,平成 31 年度は、より具体的,実践的に学修内容の定着を図るため、令和 2 年度に向けて改善の検討を重ねた。これにより,所属学部に捕らわれることのない汎用的な知識や技能の涵養を目指している.令和 2 年度入学生の共通教育科目の概要をまとめると,下の表のようになる.

令和２年度入学生（共通教育科目）

カテゴリー	授　業 科目数	全学的な必修科目
修学基礎	6	大学で学ぶ,フレッシュマンセミナー
人文・社会科学	21	人文・社会科学要論
自然科学	16	自然科学要論
健康科学	10	
語学国際	24	ELP 1・2・3・4・5・6
社会連携	9	おかやまボランティア論,おかやまを学ぶ
合　　計	86	

4-3 教養教育推進室

教養教育推進室は,前節で述べた 6 カテゴリーのうち「修学基礎」,「人文・社会科学」,および「自然科学」の教育を推進する組織である.「修学基礎」カテゴリーにおいては,専門教育を修得する上で重要な共通教育科目の履修指導を行うとともに,新入生対象のフレッシュマンセミナーにおいて,各学部・学科に求められる資質や基礎知識を身に付ける教育を行っている.また,「人文・社会科学」と「自然科学」カテゴリーにおいては,平成 30 年度から設定された「要論」,「基幹科目」,「複合 PBL（Problem Based Learning）科目」の内実

を充実させ,より具体的,実践的に学修内容の定着を図った。これにより,大学生に求められる教養を身に付けた人材の育成を目指している.

コア科目である「人文・社会科学要論」および「自然科学要論」は全学必修であり,1年次生1Qおよび2Qに開講している.いずれの講義も3名の専任教員で構成するオムニバス形式を取っている.「人文・社会科学要論」では人文科学と社会科学の全体像を述べた後,「人文科学・哲学」,「社会科学・社会学」,「外国文学」の3分野を,「自然科学要論」では自然科学の全体像を述べた後,「物理学」,「生物学」,「化学」の3分野を5コマずつ講義し,学生の所属学部に依存することなく,各科学分野の概要を学べるようにしている点に特長がある.

教養教育推進室の課題については,共通教育部会において議題として取り上げ,その解決を図っている.共通教育カリキュラム・ポリシーに基づいて,平成30年度入学生からの共通教育新カリキュラムを平成31年度も実施している.「人文・社会科学」,「自然科学」,「健康科学」の3つのカテゴリーについて,旧科目名称と対比させながら, 令和２年度に向けた開講計画を示す.

表　令和２年度　共通教育科目（人文・社会科学,自然科学,健康科学）開講計画

カテゴリー		令和元年度 開講科目	授業の方法	旧科目名称
人文・社会科学（1＋14＋6）		人文･社会科学要論	講義	人文・社会科学入門
	人文科学（7）	哲学	講義	
		倫理学	講義	倫理学の基礎
		歴史学	講義	歴史学
		宗教学	講義	
		心理学	講義	心理学入門
		文学	講義	日本文学
		芸術学	講義	
	社会科学（7）	経済学	講義	現代社会と経済
		経営学	講義	経営管理
		人類学	講義	社会人類学
		法学	講義	現代社会と法律
		社会学	講義	
		政治学	講義	
		日本国憲法	講義	日本国憲法
	複合PBL（6）	感性文化論Ａ	講義	音楽の鑑賞
		感性文化論Ｂ	講義	美術の歴史
		感性文化論Ｃ	講義	メディア論
		感性文化論Ｅ	講義	食糧を考える
		共生社会論ＡＱ	講義	子どもと家族
		共生社会論Ｂ	講義	ジェンダー
自然科学（1＋11＋4）		自然科学要論	講義	自然科学入門
	自然科学（11）	数学Ａ	講義	数理と社会
		数学Ｂ	講義	基礎線形代数学
		数学Ｃ	講義	基礎解析学
		物理学Ａ	講義	基礎力学
		物理学Ｂ	講義	基礎電磁気学
		化学	講義	基礎有機化学
		生物学	講義	基礎生物学
		統計学Ａ・Ｂ	講義	統計学の基礎Ａ・Ｂ
		コンピュータ演習Ⅰ・Ⅱ	講義	コンピュータ演習Ⅰ・Ⅱ

	複合PBL（4）	科学技術論Ｂ	講義	みぢかなバイオテクノロジー
		環境科学論Ａ	講義	生物と環境
		環境科学論Ｂ	講義	環境の科学
		環境科学論Ｄ	講義	地球の科学
健康科学（1＋6＋3）		健康科学要論	講義	健康科学入門
	健康科学（6）	生命倫理学	講義	生命倫理
		健康心理学	講義	健康と心理
		脳と身体の科学	講義	脳と身体の科学
		スポーツ科学	講義	スポーツの科学
		健康スポーツＡ・Ｂ	講義･実技	スポーツＩ・II
	PBL複合（3）	応用健康科学論Ａ	講義	運動と健康
		応用健康科学論Ｂ	講義	食と健康
		応用健康科学論Ｃ	講義	住環境と健康

4-4 語学教育推進室

本学における語学教育は,「受動的な学習から能動的な学習」を目指すアクティブ・ラーニングを実施している．教師による一方的な指導ではなく，授業内での学生によるペア・ワークやグループ・ワークを主体とした学習，授業外でのインターネットを利用した自主学習を組み合わせた授業形態を採っている．

英語科目は「適切で分かりやすい英語運用能力の獲得を最優先とした教育」を目指している．すなわち,英語母語話者のみではなく,非英語母語話者とのコミュニケーションを目的とした「国際共通語としての英語」を学ぶことに主眼を置いている．また,英語以外にもドイツ語，韓国語，中国語，フランス語を選択科目として準備している．

以下,開講科目,語学教育推進室の利用状況,e ラーニング教材の利用状況等について述べる．

(1) ELP 科目と ESP 科目

英語科目は平成 28 年度から新しいカリキュラム English Language Program（以下 ELP）を開始した．平成 29 年度と 30 年度はクォーター制（4 学期制）を導入したが，学修成果を鑑みて，今年度から従来のセメスター制（2 学期制）で ELP 科目を開講した．ELP1～6 は必修科目であり ELP1～4 は 1 年次生を対象として，スパイラルに英語のコミュニケーション能力を伸ばすことを目標としている．ELP5,6 は 2 年次生を対象とし,受容的な能力の強化と異文化理解などを育成する発展科目としている．

ELP1,3,5,6 は理解力の涵養に焦点を当て，国際的な基準 CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）が求める 5 つの技能のうち,reading と listening を併せた技能複合型,ELP2,4 は発信力の涵養に焦点を当て,writing と speaking（interaction & presentation）を併せた技能複合型にすることで,履修者にも科目の性格が明確となるように工夫している．選択科目として ELP7～10 を,専門科目につなげる英語科目として ESP(English for Specific Purposes)科目を設置している．

以下は英語カリキュラムを図示したものである.

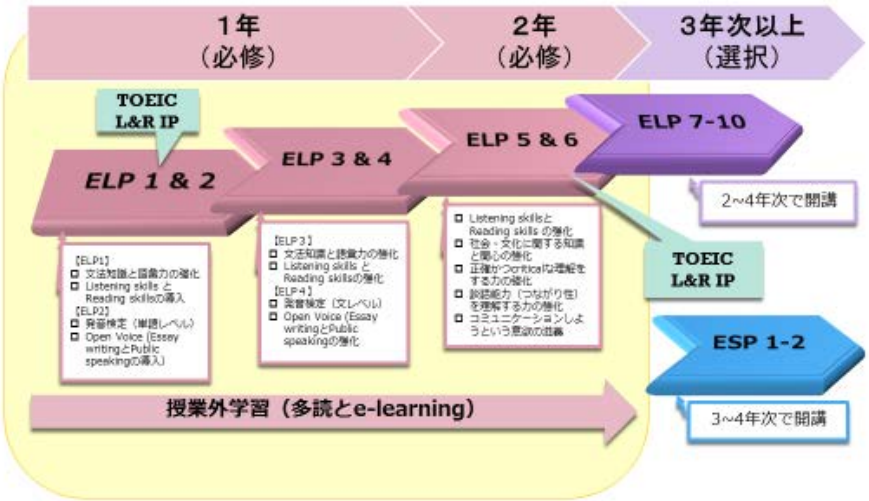


図.英語科目 ELP1～10,ESP1&2

(2) CALL 教室(8120, 8122 教室)の利用

CALL 教室は授業での利用の他,授業の空き時間ならびに夏季・春季の長期休暇中には学生に開放し,自主学習の機会を提供している.学生は,インターネットを利用した英語学習サイト Open Voice, e ラーニング教材 ALC NEXT, English Central の授業外学習が可能である.

(3) 多読用書籍利用

語学教育推進室では,多読用書籍の貸し出し, 管理業務も行っている.外国語の習得にはまずインプットが不可欠であり, そのために英語学習者が辞書なしで楽しめるように工夫された多読用の英語書籍を用意している.これらの書籍は,学生の関心を惹きつけるものを常備するため計画的に数を増やし,学生のニーズに応えられるよう心がけている.こうした書籍を大量に読んでいくことにより, 自然で平易に使える英語力育成および英語学習へのモチベーション向上を図っている.

語学教育推進室が所有する多読用書籍は,現時点では 2,000 冊を超えている.必修の英語科目を履修しているすべての学生が持つ学習ログ（学習記録）には,学生が読んだ多読本を記録していくようになっている. 語学教育推進室の常勤スタッフは,学生からの多読本の選択に関する相談にも応じる他, 学生のニーズの把握にも努めている.以下に月ごとの多読用書籍の貸出状況表を示す.数字は,貸し出し冊数を表す.

表.令和元年度　多読書籍の貸し出し状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
保健福祉	581	727	453	421	26	94	324	300	217	257	12	0
情報	321	350	259	315	20	83	169	134	74	87	14	0
デザイン	253	166	153	159	9	13	50	80	75	64	9	0
計	1155	1243	865	895	55	190	543	514	366	408	35	0

(4) 語学教育推進室の TA 指導数

語学教育推進室では,ティーチング・アシスタント（以下,TA）を月曜日から木曜日まで週に 4 日間配置している.これらの学習支援事業に関する利用者総数（数値は対応人数）は,下

表に示すとおりである.内訳は,英語学習相談,個人指導,授業補助等である.その中でも授業補助の割合は特に高く,新学期開始時（4 月，9 月）や ELP2&4 でのスピーキングテスト実施時（7 月，12 月）等に,円滑な授業運営のため TA の補助を必要とした.

表.令和元年度語学教育推進室の TA 指導数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
保健福祉	461	1	13	282	14	155	84	2	154	4	285	0
情報	442	24	71	228	0	169	29	4	149	3	125	0
デザイン	317	3	0	198	48	112	33	0	103	0	121	0
計	1220	28	84	708	62	436	146	6	406	7	531	0

(5) e ラーニング教材の利用状況

平成 30 年度より，TOEIC L&R 対策に焦点を当てた e ラーニング教材 ALC NEXT を導入している.1 年次生には TOEIC L&R 500 点コース，2 年次生には TOEIC L&R 600 点コースと 730 点コースを割り当て，授業外学習とした．利用者の達成率は以下の表のとおりである.

1，2 次年生とも、学期が進むにつれて達成率が下がる傾向が見られ、学習開始当初のモチベーションの維持が課題である。特に 2 次年生においては夏季休暇中の達成率が低く，授業期間外の時期にいかに自主学習に取り組む態勢を整えていくか，次年度に向けて検討する必要がある．なお，今年度より通常教室において各学生が所有するスマートフォンやタブレット等のモバイル情報端末を活用した BYOD[Bring Your Own Device]型授業を一部のクラスで試行的に実施した.CALL 教室以外でも気軽に e ラーニング教材に取り組むことにより，英語学習への動機付けとなることが期待される.

表.令和元年度 ALC NEXT 達成率の平均（%）
1 年次生 500 点コース

	保健福祉学部					情報工学部					デザイン学部				
stage	1	2	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試	1	2	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試	1	2	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試
前期	99.9	95.6	89.4	84.3	10.5	97.7	84.2	55.4	48.3	6.1	98.8	76.4	57.4	45.6	11.2
夏季	99.9	96.1	89.4	85.7	30.9	97.7	84.6	57.3	50.2	19.9	98.9	76.4	59.0	48.6	22.7

表.令和元年度 ALC NEXT 達成率の平均（%）
2 年次生 600 点コース

	保健福祉学部			情報工学部			デザイン学部		
stage	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試
前期	83.7	71.8	70.6	77.7	59.7	58.1	64.2	44.8	46.3
夏季	83.8	72.7	71.5	77.8	59.7	58.1	64.5	44.8	47.3
後期	85.3	75.8	77.0	78.5	61.2	58.6	65.0	46.2	47.7

表. 令和元年度 ALC NEXT 達成率の平均（%）
2 年次生 730 点コース

	保健福祉学部					情報工学部					デザイン学部				
stage	1	2	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試	1	2	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試	1	2	3	ﾚﾋﾞｭｰ	模試
夏季	37.5	24.9	0.9	1.5	28.8	23.7	10.0	0.2	0.7	16.4	13.4	3.4	0.1	0.0	12.0
後期	77.8	66.9	49.5	39.6	66.0	67.5	57.3	46.0	29.2	40.0	58.0	43.9	33.3	27.8	37.8

ELP 2 & 4 において,スピーキングおよびライティング練習に焦点を置いた e ラーニング・

メソッド Open Voice の効果を検証するため,学習者の前期および後期それぞれの始めと終わりにおける発話量の差を調べた．全体として学期開始時よりも終了時にワード数が増加する傾向が見られた.

表．Open Voice：前後期始めと終わりの学習者のワード数（平均値と標準偏差）

学部	ELP2（前期）	ELP4（後期）
保健福祉	134.34（45.18） **137.66（40.24）**	129.05（28.16） **127.69（26.11）**
情報	117.54（34.13） **117.68（28.58）**	99.90（24.98） **108.22（23.57）**
デザイン	99.85（39.82） **131.49（33.12）**	117.48（23.04） **134.42（45.70）**
全学部	119.45（42.07） **128.59（35.48）**	115.34（28.76） **121.99（32.94）**

注：上段の数値は学期の始め，下段の数値は学期の終わりの数値を表す.

ELP 4（1 年生必修科目）の履修者に対して,e ラーニング教材 English Central を準備した．この教材は，短い英語の動画を視聴し,その中で用いられていた語彙を学んだり発話練習をしたりするものであり，スマートフォンでの学習にも対応している．下記表は ELP4 履修条件の一つとしていた期間（9 月 24 日から 2 月 10 日）の学部別の利用平均値を示す.

表.令和元年度 English Central の利用（必須期間の平均）

学部	動画視聴数	学習単語数	学習活動数	発話数	学習時間
保健福祉 n = 159	29.10	91.66	104.21	50.26	64.12
情報 n = 168	43.75	185.31	218.49	131.38	173.34
デザイン n = 115	36.38	144.12	172.35	100.77	144.60

(6) TOEIC L&R IP 任意テスト受験

就職活動や進学の関係で受験を希望する学生がいるため,TOEIC L&R IP を学内で 3 回実施した.実施結果は以下のとおりである.任意テストは受験に対するモチベーションが高いため，平均点は比較的高かった.

表.令和元年度 TOEIC L&R IP 任意受験者の概要

通算回数	実施年月日	受験者数	平均点(標準偏差)	最高点	最低点
44	令和元年 5 月 22 日	20	442.25（101.78）	640	290
45	令和元年 7 月 4 日	23	452.09 （73.88）	590	335
46	令和 2 年 2 月 18 日	30	483.67（125.26）	810	315

(7) TOEIC L&R IP の全員受験の実施

1 年次履修の「ELP1」履修者を対象として,令和元年 5 月 18 日（5 月 22 日追試）に TOEIC L&R IP を実施した.受験者 407 名,受験者平均点は 373.72 点,最高得点は 660 点,最低点は 155 点であった（990 点満点）．前年度（386.31 点)と比較すると平均点が下降しているが,入学生の全員受験を開始した平成 28 年度以降のデータで比較すると，366.43 点（平成 28 年度)， 368.28 点（平成 29 年度)，386.31 点（平成 30 年度)，373.72 点（令和元年度）となり，決して今年度の平均点が低いわけではない.「ELP1」の履修クラスごとの平均点等は次の表のとおりである.

表.令和元年度入学生「ELP1」履修学科別の結果

学部	学科	受験者数	平均点（標準偏差）	最高点	最低点
保健福祉	看護	42	435.48（107.98）	660	195
	栄養	40	380.00（80.42）	575	245
	保健福祉A	47	369.26（91.47）	630	210
	保健福祉B	22	372.05（93.31）	545	205
情報工	通信 A	25	386.00（90.92）	590	230
	通信 B	24	421.67（102.09）	630	245
	システム A	32	367.03（120.21）	620	155
	システム B	32	401.41（103.71）	610	215
	人間情報	44	344.77（114.95）	590	180
デザイン	デ工	45	346.56（85.07）	520	215
	造形A	28	345.89（99.94）	565	175
	造形B	26	317.88（97.51）	520	180
全　学		407	373.72（103.29）	660	155

注：保健福祉学科,情報通信工学科,情報システム工学科,造形デザイン学科は2クラスに分けて実施.

2年次履修の「ELP6」履修者名を対象として,令和元年12月14日（12月17日追試）にTOEIC L&R IPを実施した.受験者381名,受験者平均点は361.46点,最高得点は665点,最低点は135点であった（990点満点）．経年変化を観察するため，表中上段に令和元年度2年次の数値を，下段には平成30年度入学当初の数字を入れている．最高得点は伸びているものの，全体として入学時点よりも平均点が24.85点下がっている．英語教員はこれを重く受け止め，原因を探求するとともに，次年度に向けた対策に着手している．

表．平成30年度入学生の入学当初と翌年2年次（令和元年度）での履修クラス別の結果
上段は令和元年度実施分，下段は平成30年度入学直後実施分

学部	学科	受験者数	平均点	標準偏差	最高点	最低点
保健福祉	看護	**44** 44	**393.86** 447.39	**92.87** 100.41	**640** 625	**220** 190
	栄養	**41** 43	**354.76** 416.28	**101.86** 101.80	**625** 620	**175** 265
	保健福祉 A	**39** 41	**359.74** 381.95	**94.96** 82.43	**630** 550	**180** 215
	保健福祉 B	**20** 20	**371.50** 395.25	**87.69** 98.20	**515** 575	**215** 235
情報工	通信 A	**30** 30	**405.17** 410.33	**112.76** 88.69	**590** 620	**135** 245
	通信 B	**29** 29	**366.55** 380.17	**114.87** 95.67	**615** 525	**200** 185
	システム A	**23** 25	**357.83** 346.20	**76.17** 88.40	**450** 490	**155** 170
	システム B	**24** 25	**358.33** 366.00	**92.09** 95.44	**550** 525	**205** 180
	人間情報	**40** 40	**349.13** 381.00	**96.68** 89.16	**525** 545	**155** 175
デザイン	デ工	**43** 43	**361.16** 381.40	**108.70** 98.91	**645** 620	**165** 230
	造形 A	**24** 25	**293.54** 309.60	**75.02** 71.67	**440** 515	**165** 205
	造形 B	**24** 25	**342.71** 359.60	**113.10** 114.46	**665** 625	**180** 215
全学部		**381** 390	**361.46** 386.31	**102.07** 99.02	**665** 625	**135** 170

注：太字が令和元年度．保健福祉学科,情報通信工学科,情報システム工学科,造形デザイン学科は 2 クラスに分けて実施.

(8) スピーカーズコーナー

大学祭第 1 日目（本年度は 11 月 2 日）に,本学の学生が外国語（英語・韓国語・ドイツ語）で，自身の関心や経験に基づくスピーチを披露した.本年度は 16 名が発表し，参加者は 50 名であった.“What is SDGs?”「日韓文化の違い（衣・食・住)」「サッカーで比べるドイツと日本」など,多岐にわたるテーマでスピーチが行われた.

(9) 定期発行物 Newsletter WeLL+

この Newsletter は教員や学生からの投稿記事を基に構成され，編集作業も各学部および大学院の学生と語学教育推進室のスタッフが協力して行っている.

4 月と 10 月にそれぞれ第 16 号と第 17 号を発行し，全学部 1･2 年生と教職員に配布された.語学学習の方法，語学研修の体験記事,語学教育推進室主催の行事，資格検定試験実施の案内などを掲載した.

(10) 映画鑑賞会（国際交流センターとの共催）

国際交流センターとの共催で,語学教育を目的とする映画鑑賞会を行った（5/30, 6/27, 11/21, 12/12）.4 本の映画の内 3 本は英語,1 本は韓国語のものだった.

(11) 岡山県立大学公開講座

毎年行われている岡山県立大学公開講座を，今年度は共通教育部が担当し，語学教育推進

室が中心となって講義を行なった．テーマは「テクストの中の＜世界＞」で，9 月 7 日（土），9 月 14 日（土）の 2 日にわたり，どちらも 10：20～12：30 に 2 クラスずつ開講された．

4-5 情報教育推進室

情報社会の進展に伴い，情報通信機器およびデータの活用があらゆる分野で求められている．そのような中，情報技術に関する知識を学ぶことによって情報社会に適応できる能力を養うことを目的として情報教育推進室が開設された．構成メンバーは室長，副室長の他，室員であり，いずれも情報工学部の教員が担当している．今年度入学生の開設授業科目において情報教育推進室が関係する科目は次の通りである．

・「統計学Ａ」
・「統計学Ｂ」
・「コンピュータ演習Ⅰ」
・「コンピュータ演習Ⅱ」

これらの科目の担当教員は本推進室の構成メンバーの他，非常勤講師で構成されている．「情報・統計」の開講科目は卒業判定に関係する科目が少ないなどの理由により科目数自体少ないが，多くの学生が情報技術の習得を望んでおり，情報技術教育のさらなる向上を目指す必要があると考えられる．カリキュラム改革により，「情報・統計」のカテゴリーが廃止され，担当科目が自然科学基幹科目のカテゴリーに移動した．

（演習室の開放）

学生の情報活用能力の向上を図り，情報教育演習や自主学習利用の目的のため，情報基盤活用推進センターにより，インターネットに接続された PC を備えた情報処理演習室を年間 164 日開放した．各月の延べ利用者数及び開放日数は下表のとおりである．令和元年度の延べ人数は 5,890 名であり，前年度比約 13 %の利用者減であったが，学生向けに開放している学内無線ＬＡＮの利用が相当数あり，全体としての情報ネットワーク利用者数は減っていないと思われる．但し，これら無線ＬＡＮアクセスについてはスマートフォンやタブレットが中心と思われ，ＰＣリテラシーの向上という観点から課題があると思われる．

（ア）延べ利用者数

月	4 月	5 月	6 月	7･8 月	9･10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
H27	1,835	1,368	1,713	2,550	2,264	1,126	1,145	1,144	468	13,613
H28	1,675	1,137	1,183	1,708	2,045	1,185	1,170	894	380	11,377
H29	762	1,025	676	768	1,159	1,066	1,028	966	329	7,779
H30	474	869	625	1,088	1,186	895	721	717	229	6,804
R1	356	782	725	1211	821	691	598	530	176	5,890

（イ）開放日数

月	4 月	5 月	6 月	7･8 月	9･10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	合計
H27	14	14	22	27	26	17	15	15	8	158
H28	15	19	22	26	25	19	15	15	8	164
H29	14	19	22	28	26	19	16	16	7	167
H30	14	20	21	27	26	19	15	17	7	166
R1	13	18	20	29	26	19	16	17	6	164

4-6 健康・スポーツ教育推進室

健康・スポーツ教育推進室は本学の教養教育における「健康科学」の教育を推進する組織であり，身体とその健康に関する理論や知識を修得し，実生活に応じた思考力を養うとともに，社会の中で生涯にわたり健全な生活をおくる具体的技能を養うことがその目的である．その他にも，学生の課外活動に使用する施設，機器等の維持管理，全学における学生及び教職員の健康の維持・推進のための施設利用に関する事項，全学のスポーツ施設の地域社会への提供に関する事項，地域における健康・スポーツ教育活動に関する事項など所掌事項は多岐にわたる．

構成メンバーは共通教育部兼務教員 3 名である．令和元年度の健康科学カテゴリー科目は，理論科目群と実践科目群から構成され，理論科目群にはコア科目の「健康科学要論」に加えて基幹科目である「生命倫理学」「健康心理学」「脳と身体の科学」「スポーツ科学」「健康スポーツ A」「健康スポーツ B」が配置され，実践科目群には具体的，実践的に学修内容の定着を図るための科目へと発展することを目指した複合 PBL (Problem Based Learning) 科目である「応用健康科学論 A」「応用健康科学論 B」「応用健康科学論 C」が設置されている．講義科目はいずれも准教授以上の専任教員が主担当となっている．実技科目については学科別の開講とし，天候に左右されない施設の有効活用を実現する時間割編成としている．これにより，実技科目の目的の 1 つである多様なスポーツの実践を通して，基礎的な運動能力はもとより健康の維持及び体力の増進に資する技能を獲得する環境を整備している．実技科目では，前期に全履修生を対象にスポーツ施設の使用に関するオリエンテーションを行い，その後 4 種のスポーツ種目を実施し，7 月期にはプールを活用したアクアスポーツを実施した．後期にも同様にオリエンテーションを実施した後，前期の受講種目とも関連させ，発展的な内容を取り入れたり，新規の種目を選択したりするなどして 4 種目実施した．

また，健康スポーツ A 及び B の TA に協力してもらい，その他の体育・スポーツ施設についても点検，整備を行った． 更に課外活動におけるスポーツ施設の有効利用を推進するため，スポーツ施設に関する適切な施設使用，管理に関する指導，助言を行った．

4-7 社会連携教育推進室

社会連携教育推進室は、地域共同研究機構の発足に伴って、平成 31 年度には地域共同研究機構に移設・移管することとなったが、カリキュラム上は共通教育部内で社会連携教育を審議するので、社会連携教育に関する実質的な検討及び実施事項について以下に記す。

完成年次まで進行した副専攻「岡山創生学」において，共通教育カテゴリー「社会連携」科目群には，「おかやまボランティア論」「おかやまを学ぶ」「地方自治論」「おかやまボランティア演習」「地域再生実践論」「地域協働演習」「地域インターンシップ」「企業と組織の活動」「起業の条件」がある．令和元年度はこれまでの経験を踏まえ，講義科目のサポート教員体制，おかやまボランティア演習（1 年次），地域協働演習（2 年次）等の実践科目の持続可能性を検討し，授業内容の充実を図った．また，学修成果の更なる向上を目指して，次年度以降の副専攻「岡山創生学」のカリキュラムについて検討した．

なお、社会連携教育推進室は（1）副専攻「岡山創生学」の修了に必要な授業科目の企画及び開発，（2）前号の授業科目のうち学部教育科目のカリキュラム案の作成支援及び実施支援，（3）共通教育科目の社会連携のカテゴリーに配置される授業科目のカリキュラム案の作成及び実施，（4）前号の授業科目に係る予算案の作成並びに施設及び機器等の整備（共通教育部の所掌するものを除く），（5）その他第 1 号及び第 3 号の授業科目に関連する業務（共通教育部及び各学部の所掌するものを除く）を主な所掌業務としている。今年度は，副専攻「岡山創生学」の開始から 4 年目を迎え，昨年度に全ての科目を開講して新たに確認できた課題を踏まえて，改善を重ねながら「岡山創生学」を推進した．

4-8 留学生・転学生

本学では,日本の生活に不慣れな留学生（韓国又松（ウソン）大学校からの転学生,短期留学生を含む）が,いち早く日本の生活・文化に慣れ,学習・研究活動に励むことができるようにするため,本学学生の中から学業や生活の相談相手を選定し,留学生のサポートを行うチューター制度を設けるなど学業・生活面の両面において支援を行っている.令和元年度は,留学生に対して,各学科における学習支援のほか,授業料減免制度や奨学金募集等の情報提供及び活用の支援などを行った.

なお,**令和元年度の留学生数は,学部生 6 人,大学院生 7 人の計 13 人で,2 人の留学生に対しチューターを配置した.**最近 5 年間における留学生数及びチューターを利用した留学生数は次のとおりである.

年　　度	H27	H28	H29	H30	R1	合計
留学生数（学部生）	6	4	2	8	6	26
留学生数（大学院生）	4	5	7	8	7	31
合　　計 （うちチューター利用）	10 (3)	9 (1)	9 (3)	16 (3)	13 (2)	57 (12)

4-9 大学コンソーシアム岡山

県内の 17 大学が参加する大学コンソーシアム岡山では,平成 21 年度に文部科学省「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」事業の選定を受けた「岡山オルガノンの構築」（代表校：岡山理科大学）の 3 年間にわたる事業に対し,平成 23 年度に補助金交付が終了したことを受けて,その事業を平成 24 年度から継承してきた.平成 27 年度に設置された将来構想委員会において事業運営を検討し,平成 30 年度はその方針に従って運営されている.

はじめに,令和元年度に実施された事業（単位互換,インターンシップ,吉備創生カレッジ,日ようび子ども大学,エコナイト,SD 研修会）に対する本学の参加状況を説明し,その後,令和 2 年度以降に対する対応を述べる.

〔本学の参加状況〕

（1）単位互換

(他大学→本学)

年　　度		H26	H27	H28	H29	H30	R1	合計
対面	履修学生数	1	1	1	0	0	0	3
	履修科目数	1	2	2	0	0	0	5
	本学提供科目数	10	8	4	4	4	3	33
双方向ライブ	履修学生数	3	1	0	0	0	0	4
	履修科目数	1	1	0	0	0	0	2
	本学提供科目数	1	1	0	0	0	0	2
VOD	履修学生数	0	7					7
	履修科目数	0	1					1
	本学提供科目数	1	1					2
合計	履修学生数	4	9	1	0	0	0	14
	履修科目数	2	4	2	0	0	0	8
	本学提供科目数	12	10	4	4	4	3	37

（本学→他大学）

年　　度		H26	H27	H28	H29	H30	R1	合計
対面	履修学生数	2	3	2	2	0	0	9
	履修科目数	2	2	3	1	0	0	8
双方向ライブ	履修学生数	1	0	0	1	0	0	2
	履修科目数	1	0	0	1	0	0	2
VOD	履修学生数	1	1					2
	履修科目数	1	2					3
合計	履修学生数	4	4	2	3	0	0	13
	履修科目数	4	4	3	2	0	0	13

（※）双方向ライブと VOD を履修した同一学生の数を除く

（２）インターンシップ参加（㈱ナジック・アイ・サポート）

年　　度	H27	H28	H29	H30	R1	合計
参加学生数	16	14	9	1	－	40

※「キャンパスウェブ」の利用が見込めないため、Ｒ１年度から利用を休止している。

（３）吉備創生カレッジ

No.	年度	開講期	科　目　名	講　　師
1	H22	前期	俳句を楽しむ	柴田奈美（デザイン学部教授）
2			くらしと微生物	中島伸佳（保健福祉学部准教授）
3		後期	懐かしの洋食器世界	久保田厚子（デザイン学部教授）
4			赤毛のアンの姉妹たち	桂宥子（情報工学部教授） 星野裕子（保健福祉学部教授） 杉村寛子（保健福祉学部准教授）
5	H23	前期	景観デザインを考える	熊澤貴之（デザイン学部講師）
6		後期	英米文学カフェ	杉村寛子（保健福祉学部准教授）
7	H24	前期	地産地消と食文化	岸本妙子（保健福祉学部教授）
8		後期	再生エネルギー発電	徳永義孝（情報工学部准教授）
9	H25	前期	近代期の禁酒運動	二宮一枝（保健福祉学部教授）
10			日本のデザイン文化	吉原直彦（デザイン学部教授）
11			高齢者の健康維持と運動	犬飼義秀（情報工学部教授）
12		後期	人とロボットの眼の不思議	滝本裕則（情報工学部助教）
13			いま,子どもの育ちを考える	池田隆英（保健福祉学部准教授）
14			続・日本のデザイン文化	吉原直彦（デザイン学部教授）
15	H26	前期	広がるワイヤレスの世界	大久保賢祐（情報工学部教授）
16			日本人の糖尿病	福島光夫（保健福祉学部教授）
17		後期	韓国の身近な文化を知ろう	朴貞淑（デザイン学部講師）
18			「嵐が丘」入門	杉村寛子（保健福祉学部教授）
19			情報とデザイン	尾崎洋（デザイン学部講師）
20			考えるコンピュータの考え方	但馬康宏（情報工学部准教授）
21	H27	前期	脳から解る認知症	澤田陽一（保健福祉学部助教）
22			人間のダイナミクス	迫明仁（情報工学部教授） 齋藤誠二（情報工学部准教授） 大山剛史（情報工学部助教）
23			メソアメリカデザイン	真世土マウ(デザイン学部准教授)
24		後期	生活習慣病予防のための食事	平松智子（保健福祉学部准教授）

25			インターネットの仕組み	國島丈生（情報工学部准教授）
26			映画の表現技法	山下万吉（デザイン学部講師）
27	H28	前期	小石川療養所の建築	福濱嘉宏（デザイン学部教授）
28			思春期の性に関する子育て	岡﨑愉加（保健福祉学部准教授）
29			再生可能エネルギー発電	徳永義孝（情報工学部准教授）
30		後期	高齢社会と地域―日韓比較―	井上祐介（保健福祉学部助教）
31			日本の工業デザイン史	益岡了（デザイン学部准教授）
32			人とロボットの類似点相違点	井上貴浩（情報工学部准教授）
33	H29	前期	美学入門	樋笠勝士（デザイン学部教授）
34			１９世紀イギリス小説を読む	杉村藍（情報工学部教授）
35			子どもの食と健康	川上貴代（保健福祉学部教授）
36		後期	歴史から見る人工知能	但馬康宏（デザイン学部准教授）
37			医療と自己決定	沖本克子（保健福祉学部教授）
38			世界のコミック入門講座	中西俊介（デザイン学部准教授）
39	H30	前期	介護保険と地域づくり	岩満賢次（保健福祉学部准教授）
40			脳を解剖するとは	柳原衞（情報工学部准教授）
41			生活の中のデザイン	尾崎洋（デザイン学部講師）
42		後期	はじめての社会調査入門	都島梨紗（保健福祉学部講師）
43			レーザー光が拓く現代社会	徳田安紀（情報工学部教授） 坂口浩一郎（情報工学部助教）
44			病気とたたかう子どもの空間	畠和宏（デザイン学部助教）
45	R1	前期	人生の最終段階で支えあう	名越恵美（保健福祉学部准教授） 實金栄（保健福祉学部准教授）
46			身体的コミュニケーション	渡辺富夫（情報工学部教授）
47			ウェブデザイニング	石王美（デザイン学部助教）
48		後期	「若草物語」の教育論	山本孝司（保健福祉学部教授）
49			日常生活に関わるセンシング	穂苅真樹（情報工学部教授）
50			生活の中のデザイン	尾崎洋（デザイン学部講師）

（４） 日ようび子ども大学

岡山県生涯学習センターと協力し,「日ようび子ども大学in京山祭」を平成23年より開催している.県内の17大学,5短期大学,1高専の大学生が集まって子どもが体験できるブースを設置するなど,親子で楽しんでいただく催しを開催している.令和元年度の実施状況及び本学の展示内容は次の通りである.

・開催日時： 令和元年６月 16 日（日） 10:00～15:00
・会　　場： 岡山県生涯学習センター
・参 加 者： 1,643 名（対象：一般,学生,大学教職員）
［内訳：大人 606 名,子ども 762 名,学生 225 名,大学教職員 50 名］
・展示内容： はんがであそぼう
・簡単スタンプづくり（約20分でスタンプを作りスタンプ作品とスタンプを持ち帰ってもらった.）
・成果と報告 思ったところにいかない体験も含めて,版表現の楽しみが伝えられた.
・担 当 者： 関﨑　哲教授（デザイン学部）ほか教員１名及び学生６名

年度	開催日	会　　場	参加大学数	参加者数
H23	6 月 26 日	岡山商科大学	8 大学	508 名
H24	6 月 24 日	岡山県生涯学習センター	11 大学	1,188 名
H25	6 月 2 日	岡山県生涯学習センター	13 大学・短大	1,500 名
H26	6 月 1 日	岡山県生涯学習センター	14 大学・短大	1,854 名
H27	6 月 7 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	2,428 名
H28	6 月 5 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	2,579 名
H29	6 月 4 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	1,587 名
H30	6 月 3 日	岡山県生涯学習センター	16 大学・短大	1,882 名
R1	6 月 16 日	岡山県生涯学習センター	15 大学・短大	1,643 名

（5）エコナイト

県内の 17 大学,5 短期大学,1 高専が連携し,地域貢献活動の一環として,環境問題への啓発を目的として平成 23 年度より実施している.具体的には,岡山県,岡山市等行政機関や企業と連携して,学生間の交流活動推進と地域との連携強化を図りつつ,学内消灯や自動車通勤の自粛,エコキャンドルの点灯,一斉ライトダウンの呼びかけ,その他,参加大学毎に独自のエコに関する環境教育の実践的活動を実施している. 令和元年度は,統一活動として「岡山の大学からエコの輪を広げよう！」を合言葉に,エコロジーを考える活動を,加盟校の 11 大学・短期大学が岡山奉還町商店街で実施し,本学からも学生が参加した.また,本学独自の令和元年度の実施状況は次の通りである.

・テ　ー　マ：　七夕フェスティバル 2019
・開　催　日：　令和元年 7 月 5 日（金）
・会　　場：　学生会館周辺
・参　加　者：　約 370 名
・開 催 内 容：　7/1～7/5 まで，学生会館に笹を設置し，学生・教職員に願い事を記入してもらった．イベント当日は学友会各委員会によりかき氷・フルーツポンチ・フランクフルト・冷やしパインの販売を行った．部・サークルによるパフォーマンスを屋外で行った.パフォーマンスはかき氷や冷やしパインなど冷たいものを食べながら,日中より涼しい夜行うことによって，空調を使用せず行うことができた.
・成果と課題：　早めに広報を行うことにより，昨年より 100 人ほど参加者が増加した．浴衣や甚平でイベントに参加した学生も多くみられ,見た目も涼しげであった．昨年出店したそうめんは，保健所の助言（食中毒を懸念）により冷やすことができなかったため，フルーツポンチに変更した．フルーツポンチは作成の際に火を使用しないため，暑さ対策にもなりよかった．電気を長時間使用しないよう，昨年度より早く閉会した。

年度	開催日	会　　場	参加大学数	参加者数
H27	7 月 5 日他	各大学及び岡山市奉還町商店街	16 大学/3 短大	約 2,900 名
H28	7 月 7 日	各大学及び岡山駅東口広場	17 大学/5 短大/1 高専	約 2,900 名
H29	7 月 8 日他	各大学及び岡山市奉還町商店街	17 大学/5 短大/1 高専	約 2,900 名
H30	7 月 14 日他	各大学及び岡山市奉還町商店街	10 大学/2 短大	約 2,400 名
R1	7 月 13 日他	各大学及び岡山市奉還町商店街	17 大学/5 短大/1 高専	約 2,530 名

（6）SD 研修会

平成 28 年 4 月の障害者差別解消法施行を念頭に,障がい学生の就労及び就労に向けた修

学上の支援について理解を深めることを目的とする研修会が開催されている.令和元年度の実施状況は次のとおりである.

・開催日時：　令和元年８月 27 日（火）　13:30～16:30
・会　　場：　岡山大学津島キャンパス 一般教育棟 Ａ棟４階 Ａ４１
・研修内容：　基調講演　「発達障がい学生への入学、卒業に伴う移行支援 」

取組事例１.「国立大学編」
講師　村田　淳 氏（京都大学 学生総合支援センター 准教授）

取組事例２.「私立大学編」
講師　鬼塚 淳子 氏（中村学園大学 学生相談室 カウンセラー）

年度	開催日	内　　容	会　　場
H27	9 月 28 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)
H28	8 月 23 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)
H29	8 月 24 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)
H30	8 月 28 日	障がい学生支援研修会	岡山大学（創立記念館）
R1	8 月 27 日	障がい学生支援研修会	岡山大学(津島キャンパス)

〔令和２年度以降〕
本学は,令和２年度からは会長校として、子供向けの環境保護の啓発イベントや就職説明会などの事業継続を図りながら、活力ある人材育成や地域活性化に向けて積極的な貢献に努めていく。

4-10 まとめと課題

本学の共通教育の特長は,(1)建学理念「人間尊重と福祉の増進」および教育目的「人間・社会・自然の関係性の理解」における教養教育全般を担う科目群として,大学に入学した初年次生対象の導入科目群,大学教育の根幹を担う理論的な知識を学ぶ全学対象の理論科目群,大学教育の理論的な知識を応用する実践的な力を体得する全学対象の実践科目群の３科目群に大別されること,(2)学問分野に応じて授業科目を「修学基礎」,「人文・社会科学」,「自然科学」,「健康科学」,「語学国際」,「社会連携」の６つのカテゴリーで構成していることに集約される.これまでに検討した共通教育カリキュラム・ポリシーに基づいて平成30 年度入学生から共通教育の新カリキュラムを開始し定着を図っている。さらに令和元年度以降の課題として,この新カリキュラムの点検と評価が必要であるが, 評価においては,共通教育科目の学修成果の評価法の確立が必要である. これは今年度から来年度にかけての全学的な各種学生アンケートの結果を元にして検討する。これとは別に,学修効果の向上のため,アクティブ・ラーニングの一層の積極的な推進を図り、アクティブラーニングの定義と共に、その多様な方法について導入への具体的な道筋をつくる.

英語教育においては,令和元年度から、学修成果につながると判断したセメスター制を導入し,ELP1～6 をセメスター制で開講した.これに対する学修効果上の評価が必要であり、次年度に向けて検討する。これを含めて,教育評価部門におけるアンケート結果と共に、平成28 年度から導入した ELP の教育体制について,TOEIC の有効活用と合わせた点検と評価も必要となる。他方,語学文化研修については,海外研修と合わせ,効果的な実施先と実施数を継続して検討する.

社会連携科目においては,令和元年度が COC+事業の最終年度であり,副専攻「岡山創生学」の開講科目について,学修成果の向上を目指して改善するとともに,COC+後継事業も勘案し

て、事業終了後のカリキュラムへの反映について検討する.また,大学コンソーシアム岡山の事業をCOC+のために活用することも視野に入れる.

5　専門教育における学生の学習支援

5-1　概要

本学の学士課程教育では,各学部・学科の何れも,実学を標榜する本学の教育理念及び学部・学科の教育目的に沿って策定されたカリキュラム・ポリシーに基づいた学部教育が展開されている.保健福祉学部では各学科にて，試験合格率において高い水準を維持している国家資格取得のためのカリキュラム実施と併せてグローバル教育や地域連携教育を加味した多彩な教育プログラムや授業方法を工夫している.情報工学部では,難度の高い理系教育への適応に向け初年次における補充教育等に注力するとともに，多数の学生が博士前期課程進学をめざすことから,情報工学の基礎を十分に修得させるほか,学士として社会進出する学生における実学教育も工夫している.デザイン学部では学生のキャリア形成支援を第一義におき，従来の産学連携教育に加えて地域連携教育やグローバル教育を加味し，演習や卒業研究等の場面を通じて企画提案力とマネジメント力を併せ持つ学生を育成するため，多様な学習機会を提供するなど教育方法を工夫している.

以上の実学教育により， 従来の少人数教育によるきめ細かな学習支援をベースに，各専門分野の知識とスキルを授けるべく工夫改善を継続している.中でもアクティブ・ラーニングの実施率について，本年度調査結果に基づき次年度以降の目標値を定めたとともに，その学修効果について調査を進めて行く予定としている.

なお，昨年度から学習支援や生活支援について相談―アドバイス活動をきめ細かく行えるようアドバイザー制度を刷新したが，本年度後期にはアドバイザー面談の実施率が学部学生全体の 95%を超えるに至った．今後は支援の実質化に向け制度のさらなる向上を図っていく予定である.

5-2 保健福祉学部

5-2-1　概要

保健福祉学部の学士課程教育は，実学を重視した本学の教育理念及び学部・学科の教育目的に沿って策定されたカリキュラム・ポリシーに基づいた学部教育を展開している．保健福祉学部の各学科では，国家資格取得のためのカリキュラムと併せてグローバル化や地域連携教育を通して教育プログラムや授業方法を工夫している．実学教育により，少人数教育によるきめ細かな学習支援を実践し，各専門分野の知識と技術を教授法について工夫改善を継続している．

5-2-2　看護学科

5-2-2-1　グローバル教育

学生に対する教育活動として，海外への研修および海外から本学への受け入れの活動が行われた．

香港理工大学看護学部への短期交換研修は学部間 MOU に基づき実施している，保健福祉学の専門実践研修である．平成 28 年度から香港へ学生を派遣しての研修を，翌平成 29 年度からは香港からの学生の受け入れを開始した．

香港理工大学からの受け入れは，7 月 29 日（月）～8 月 9 日（金）の日程で行われ，女子学生 6 名が来学した．研修プログラムは，講義形式が 3 割，施設訪問を中心とした体験型研修が 7 割の組み立てとした．この度は，さくらサイエンスプラン事業のおかげで，交通費等，柔軟なプログラムを組み立てることができた．香港理工大学の学生は医療や福祉施設の見学を通して，日本の医療の歴史と現状を知ることができた．例えば，長島愛生園邑久光明園の訪問では同様の施設が香港にもあるとのことで，日本と香港の医療や制度の共通点や異なる点を話し合い，隣県の原爆資料館に訪問することもできた．本学学生を交えたワークショップや演習の機会を設け，学生同士の交流を促進することもできた．香港理工大学学生の評価アンケートにおいて，各プログラムについて，とても満足，満足という高い評価が得られた．

また，香港理工大学の教員 2 名を引率者として招聘し，本学大学院博士前期課程の学生が，研究方法に関する授業を 2 コマ聴講することが出来た．

今年度の香港理工大学での研修の実施期間を令和元年 9 月 13 日（金）～9 月 22 日（日）とし，看護学科 2 年 7 名，看護学科 3 年 2 名，栄養学科 1 名の学生を選抜し，事前準備を進めていた．しかし，香港における「逃亡犯条例」改正に対するデモの激化のため，学生の安全を考え，8 月中旬に延期の決定をした．その後，香港理工大学と 3 月の開催に向け調整を行ったが，デモ活動の収束が見通せず，最終的に今年度の実施は断念した．JASSO 海外留学支援制度に本研修が採択され，70 万円の支援が可能であったため，学生の期待やモチベーションも大きかった．支援金を目指して TOIEC に再チャレンジし，規定の成績を収めた学生もおり，事前準備の段階でも学生の学習意欲の向上に大きく貢献した．

南オーストラリア州への海外研修には，看護学科 1 年生 1 名が参加した．研修は平日 5 日間の日程で，前後の土日にホームステイの家族と過ごす時間を設けた．Tafe SA では，オーストラリアの保健医療制度について講義を受け，高齢者施設 2 件に訪問し，施設職員の看護師やソーシャルワーカーの方からお話を伺った．また，1 施設では利用者の方との交流も行った．Shine SA では，性的に多様な人々を支援する団体に訪問し，相談者への対応時に工夫していることなどについて学ぶことができた．現地の小学校への訪問では，6，7 年生とお月見団子を調理し一緒に食べる経験をした．調理方法や日本の文化，風習について，英語で説明し交流する体験ができた．研修最終日には，University of South Australia の語学クラスで日本語を履修している多様なバックグラウンドの学部学生・大学院生と授業を一緒に受けるという経験をし，同年代の大学生同士の交流を持つことがで

きた.

5-2-2-2　地域連携教育

「統合実習」では，3 年次の看護政策・マネジメント論演習の成果を発展させて，岡山県備中保健所・笠岡市・ＮＰＯかさおか島づくり海社と協働して 1 泊 2 日の現地実習を行った．4 年生が主体的に運営する全体報告会では，3 年生も演習成果をふまえて質問し，備中保健所・笠岡市・ＮＰＯ関係者の講評により，北木島での宿泊体験を通して考えた看護の役割を深めて共有することができた．また，3 年次開講の地域保健福祉演習では，大学院保健師教育課程の公衆衛生看護診断論・同演習として，総社市東部北地域包括支援センターと共催する認知症カフェ（年 6 回の企画・運営）と連動し，地域の課題と看護の役割を学修した．さらに，大学院保健師課程の公衆衛生看護展開論演習では，公衆衛生看護診断論演習では，地区の自主防災組織主催の避難訓練に参加した.

5-2-2-3　アクティブラーニング

看護学科では，多くの科目でアクティブラーニングを取り入れている．具体的には，以下の通りである.「災害看護論」では，Disaster Imagination Game やＨＵＧ（避難所運営ゲーム）をとりいれた授業のあと，総社市の避難所としての本学の役割を考慮して，地域看護診断の視点から，課題を明らかにした（レポート提出).「看護学方法論Ⅰ」,「看護学方法論Ⅱ」,「看護学方法論Ⅲ」では，基礎看護技術（日常生活援助）の演習，グループワーク，発表，クリッカーを用いた双方向型の授業を行った.「成人看護学Ⅰ」「成人看護学Ⅱ」では，ジグゾー法を用いて演習を行い，学習内容を習得だけでなく，プレゼンテーション能力の向上を図った．さらにクリッカーを用いて双方向型授業を行なった.「がん看護学」では積極的傾聴についてロールプレイを用いた演習,「看護アセスメント学」ではケーススタディ・SBAR を用いた観察・アセスメント・報告についてのシミュレーション演習を実施した.

5-2-2-4　国家試験対策

4 月に「国家試験対策」について模試業者の講師による無料ガイダンスを調整し実施し，実習の間の春休みで，また後半の実習中において国家試験問題と連動させて取り組めるよう工夫した．国家試験対策として，業者による e-ラーニングシステムを導入し，学生の自己学習を支援した．また学生の自主的な運営による国家試験模試に対して，運営の支援を行うとともに，学生からの要望の多い病態学に関する講義を行った．模試結果は教員も共有し個別指導等に活用した.

5-2-3　栄養学科

5-2-3-1　グローバル教育

2019 年 6 月 14 日に岡山県立大学において，カセサート大学（タイ）との合同ワークショップを開催した．カセサート大学からは Sombat Chinawong 博士を含む 4 名の研究者が、本学からは 3 名の栄養学科教員と 2 名の博士後期課程学生がそれぞれ英語で講演を行った．ワークショップには，本学栄養学科を中心とする約 40 名（教員 12 名，博士後期課程学生 4 名，博士前期課程学生 8 名，学部生 15 名他）が参加し，活発な質疑応答や情報交換などを通してカセサート大学の研究者との交流を深めた.

5-2-3-2　地域連携教育

NPO 法人，社会福祉団体等他団体との協働事業において地域の健康課題の解決を見据えた食育講座を企画運営することを通じて，行政栄養士及び栄養教諭の地域における食育コーディネーターとしての資質向上を目指し，総社市における体験型料理教室やサイエンス講座の実施やベトナム人との食の交流会への参加を行った．本年度は行政栄養士希望の 3，4

年生と栄養教諭課程履修者が協働で実施したり，保健福祉学科と協働で福祉支援の料理教室を企画したり，専門職として多職種連携や職域連携の視点の形成にも努めた.

平成 26 年度から栄養学科では備前市の食育活動に継続的にかかわっており，令和元年度は備前市健康づくり計画や食育推進計画の第 2 次計画の推進会議に参加し，住民とグループワークにより地域の健康課題の明確化に取り組むとともに，解決に向けての提案として生活習慣病予防の講話と地産地消の料理教室を企画運営した.

5-2-3-3　学習支援

栄養学科では，1～4 年次全学生を対象として，4 月及び 10 月に年 2 回以上のアドバイザー教員との面談を行い，1～2 年次生は 6 月の研修旅行時にもアドバイザーミーティングを行う等，オフィスアワー以外でも教員と学生とのコミュニケーションの機会を持った. また，個別的に支援を要する学生に対しては，学科長・教務担当教員・アドバイザー教員の 3 人態勢で面談を行い，きめこまかな支援に努めた.

5-2-3-4　国家試験対策

管理栄養士国家試験対策として，4 年次生全員参加の校内・業者模試を 4 月初めから開始し，計 6 回実施した. また，その都度，受験生の自主学習の成果を分かりやすくするために模試成績の推移を本人に示すとともに，クラス内の成績順位を貼り出す等，学生の学習意欲を高揚させた. 9 月，10 月，12 月及び 1 月の校内・業者模試の成績が一定基準に達しない学生を対象に，個別指導および勉強会方式による学習支援を行った.

5-2-4　保健福祉学科

5-2-4-1　グローバル教育

令和元年 11 月 7 日に，又松大学の岡田節子教授を招聘し，韓国の児童福祉の現状と課題に関する講義を開講した. 39 名の学生が聴講し，韓国の少子化と要保護児童に関する問題等について学ぶことができた.

令和元年 9 月 18 日から 9 月 22 日まで，13 名の学生が，国際福祉研修（保健福祉学）の授業の一環として，韓国のソウル市及び又松大学校にて，韓国の伝統文化の体験，韓国の少子化や精神保健福祉に関する講義の受講，子ども園と障害者福祉施設の訪問を行った. これにより，グローバルな感覚を身に付けることができた.

令和元年 12 月 16 日から 12 月 20 日に，又松大学の 10 名の学生を対象に講義や文化体験のプログラムを提供し，その際に，又松大学の学生と 5 名の保健福祉学科の学生とが交流した.

5-2-4-2　地域連携教育

保健福祉学科では，複数の地域連携教育を通じて，地域の課題を理解し，地域の人々と協働することの大切さについて学ぶことができた. 具体的には，①地域の専門職との交流や地域の総合病院に対するインタビューを通じて，地域の医療・福祉課題や医療チームのニーズを理解する「チームガバナビリティ演習」の受講，②岡山県の補助金により開催されたコモンセンスペアレンティングプログラムに関する講演会への参加，③学内に開設されている子育て広場と連携した協働授業等により，地域連携教育を推進した.

5-2-4-3　アクティブラーニング

保健福祉学科では，以下の科目においてアクティブラーニングを取り入れ，学生は主体的な学びをすることができた. 音楽表現 A，音楽Ⅰ・Ⅱ，社会福祉施設経営論，公的扶助論，社会保障論Ⅰ，社会福祉政策論，社会保障論Ⅰ・Ⅱ，高齢者福祉論，権利擁護・成年後見制度，医療的ケアⅠ，医療的ケアⅢ，ユニバーサルデザインの理論と実践，生活支援と福祉工

学，エルゴノミクスの基礎，社会病理学，国際福祉論，国際家族政策論，ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，認知症ケア論，介護総合演習Ⅲ，介護原論，コミュニケーション技術論Ⅰ・Ⅱ，福祉用具の活用技術と理論，教師論，保育内容Ⅰ（言葉），教育心理学，身体表現，総合表現，保育原理Ⅰ・Ⅱ，幼児理解の理論と方法，教育と社会，教育基礎論，チームガバナビリティ演習，保健福祉学入門，身体機能と障害，知的発達と障害，認知症論，老年科学，子ども臨床基礎論，社会的養護原理，保育教育相談，社会的養護内容，子ども家庭支援論，乳児保育Ⅰ・Ⅱ，幼児教育方法論，保育内容総論，臨床心理学，子どもの心理学，生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ，介護総合演習（導入），介護総合演習Ⅰ，多文化介護論.

5-2-4-4　国家試験対策

社会福祉士国家試験対策としては，業者による模擬試験を計 3 回(8 月，10 月，12 月)実施し，延べ 106 人が受験した．また，教員が学生主導の国家試験学習チームを支援するとともに，既卒者による合格体験を聴講する機会を提供した.

介護福祉士国家試験対策としては，業者による模擬試験を計 3 回（7 月，10 月，12 月）実施し，延べ 80 人が受験した.また，教員がグループ学習を支援するとともに，自己学習のための「介護福祉士国家試験対策 e-learning」の機会を提供した.

以上より，両国家試験に対する勉学意欲が高まった.

5-2-5　まとめと課題

海外において看護・栄養・福祉等の保健福祉学分野の教育を経験することにより，これらの分野におけるグローバルな視点を養い，異文化理解を深めるとともに，外国語で異文化圏の人達と専門分野を含め広くコミュニケーションをはかる力を高めることを目的とし，科目名も海外研修（保健福祉学）に変更，実施され，学生の派遣先としては韓国又松大学校，香港理工大学ならびにオーストラリア TAFE SA を設定している．グローバル教育の充実に向け，学部間学術交流協定を締結した香港理工大学看護学院へは海外研修（保健福祉学）の研修先となり，本年度は本学から８名の学生が研修に参加し，香港理工大学からは 6 名が来学し，また，又松大学から 10 名，本学から 5 名の学生が交流し，交流協定が着実に進行している．一方，保健･医療・福祉等の各専門職として地域創生を目指した取り組みでは，各学科で専門職を活かした体験学修等を行い，地域連携教育を推進した.

5-3 情報工学部

5-3-1 概要

情報工学部においては，情報技術を活用して，人間を中心に据えた社会の形成に貢献できる技術者の育成を目指した教育を展開している．以下，情報工学部の 3 学科が令和元年度に取り組んだ専門教育における学生の学習支援の具体的な取り組みについて，導入教育，カリキュラム及び授業方法の改善，学生支援の 3 つの観点から報告する．

5-3-2 情報通信工学科

5-3-2-1 導入教育

情報通信工学科の導入教育は，推薦入試合格者に対しては，12 月と 2 月に情報システム工学科および人間情報工学科と合同で開催する懇談会から始まる（2-3-2 参照）．一般入試合格者を含む新入生に対しては，4 月に 1 泊 2 日で実施する学外オリエンテーションおよび 1 年次前期に開講する「フレッシュマンセミナー」を利用して導入教育を行っている．

学外オリエンテーションでは，新入生 7～8 名のアドバイザーグループに別れ，それぞれのグループに与えられたテーマについて議論を行い，グループとしての一定の結論を出すことを学んだ．また，高校教育から大学教育への転換の一環として，授業におけるノートの取り方に関する講習会を行った．

「フレッシュマンセミナー」前半は，コミュニケーション能力の開発，自らの主張を相手に受け入れて貰うディスカッション能力の開発，プレゼンテーション技法の指導，さらにグループディスカッションを通して時間管理を身に付ける事などを目的として，平成 28 年度以来，ディベートを行っている．これはそれぞれのグループで，あるテーマについて肯定側と否定側という立場で 2 回に亘り議論し意見をまとめ，3 週目の試合においてお互いの意見を戦わせる．一方，残りのグループは試合を観戦し，どちらのグループが理路整然と自らの主張を述べ相手を説得できたかを，クリッカーを利用して投票し勝敗を決める．これを数回繰り返すことにより，上記の能力の開発を試みた．成績評価ではルーブリックを活用し，アドバイザー教員間での公平性を担保するとともに，学生への可視化に努めた．また，学生とアドバイザー教員が毎週顔を合わせることで，入学直後の不安感，孤独感を和らげることとした．「フレッシュマンセミナー」後半は，物理（電気および波動）および数学（行列および微積分）の準備教育を実施した．毎回講義もしくはテストを行い，数学および物理の基礎的な事項を復習し，最後には理解度テストを行った．さらに 60%以下の成績の学生には再試験を実施した．全学で実施されている授業評価アンケートとは別に，独自にアンケートを実施し，同級生との親睦に役立った 80%以上，積極的な取り組み 80%以上の結果を得た．次年度以降も継続して実施する予定である．

全学共通の入学時アンケートにおいては，本学科を第一志望としている学生が 45.1%であったが，本学科を第一志望もしくは第二志望としている学生は 74.5%であった．これらを踏まえて今後の広報活動の充実が必要と考えられ，本年度はホームページの更新等を行った．

5-3-2-2 カリキュラム及び授業方法の改善

学科のカリキュラムあるいは学科全教員が担当する科目の実施・評価方法などは，学科教務委員会を組織し，定期的に検討している．また，半期ごとに実験演習検討委員会を開催し，実験演習に関する問題点，反省点，主な改善点とその効果を実験演習担当者で議論している．特に，講義科目が大半を占める学部教育科目の中で，1 年次から 4 年次まで演習科目，実験科目を必修として配置している．実験演習検討委員会では，実験・演習科目の PDCA サイクルを担当教員が科目横断的に議論している．

理工系の学科にとって実験演習は極めて重要な科目であるが，例年，実験演習の取り組み

方に戸惑う学生が散見されるため，実験演習科目に対する学生のモチベーション向上を目的として，1 年次の最初の実験演習において実験演習の目的，実験演習の内容，履修上の注意を伝える説明会を実施している．また，1 年次の実験演習科目では，レポート作成，ノートの取り方を指導し，2 年次以降の実験演習科目では，レポート提出を通して，将来的には論文につながる科学的な報告文章の書き方を教育した．一方，学生からの意見を吸い上げるために，学生が実験演習科目に対する意見・要望を述べる事ができる相談窓口も継続的に進めている．今年度は学生からの相談は 0 件であった．

5-3-2-3 学生支援

入学時のアドバイザーグループは，4 年次において「卒業研究」のための研究室配属が決定されるまで継続され，学生は「フレッシュマンセミナー」活動でのアドバイザー教員に対して，学生生活上の相談を受けることができる．また，オフィスアワーあるいは授業の空き時間を利用して，全ての学科教員に自由に相談できるようにしている．

各学生の成績は，学科教務専門委員が管理している．成績不振者に対しては，教務専門委員あるいは年 2 回の定期的なアドバイザー教員との面談等を通して，注意・指導を行っている．しかしながら，毎年，一定数の成績不振者がおり，今後，どのように改善していくかを検討しなければならない．なお，「卒業研究」を行う研究室配属は，卒業研究有資格者に対し，希望をもとに成績を考慮して行う．平成 29 年入学生については，在籍者に対する卒業研究有資格者の割合は 92.2%であった．また，以前より，特異な行動が見られた学生の情報を，一定のフォーマットで学生相談室に報告している．学科長，教務専門委員，教育開発推進委員（学生支援）は，学生相談室のアドバイスの下，学生の行動に注意できる体制を引き続きとっている．

就職・進学支援については，6 月と 12 月に進路説明会を開催し，大学院進学に重きを置いたキャリアガイダンスを行った．また，平成 30 年 3 月に設立された岡山県立大学協力会が教育支援活動の一環として 12 月に開催した業種説明会に，本学科の学生への参加を周知した．

5-3-3 情報システム工学科

5-3-3-1 導入教育

情報システム工学科の導入教育は，昨年と同様，推薦入試合格者に対して情報工学部合同で実施する入学前教育，及び，全新入生に対して実施する学外オリエンテーションと前期必修科目のフレッシュマンセミナーから構成されている．このうち入学前教育については 2-3-2 を参照されたい．

本年の学外オリエンテーションは 4 月 19 日午後から翌 20 日午前にかけて福山市の宿泊施設で開催した，まず，学科全体ミーティングにおいて，3 名の教員からノートの取り方含む効果的な受講方法，学生生活における時間管理や学習習慣の重要性等に関する講演を行った．そのあと，4 つのアドバイザーグループに分かれて班別ミーティングを実施した．班別ミーティングではアドバイザー教員との顔合わせを通じて相談しやすい環境を整え，さらにグループディスカッションを通して学生同士の親睦を深めた．

「フレッシュマンセミナー」では，最初にレポートや発表資料作成等のリテラシー教育を行い，次に大学における数学および物理の基礎を固める課題演習を実施した．課題演習では，2～3 名の教員（学科全教員が分担）とティーチングアシスタント 3 名が採点と個別指導にあたった．導入教育後の 7 月に理解度テストを行った結果，一定の効果が確認された．これらの導入教育については次年度も具体的な方法や内容は見直しつつ継続する予定である．

5-3-3-2 カリキュラム及び授業方法の改善

学科のカリキュラムは教育プログラム検討委員会を組織し，実験・演習科目は実験・演習

検討委員会を組織し，点検と改善を行っている．

平成29年度より開始されたクオーター制およびカリキュラム変更が学習効果に及ぼす影響については継続して検討中である．令和３年度に入試制度改革に対応したカリキュラムの見直しが想定されることから，令和２年度についてはほぼ現状維持としている（１科目のみセメスターからクオーターに変更）．

実験科目についても本年度も平成２年度も大きな変更はない．従来通り，大部分の実験演習科目において，授業の円滑な実施と学生の理解向上のため大学院生を TA として雇用した．TA を雇用した授業科目は，フレッシュマンセミナー，機械物理学実験 A・B，ソフトウェア演習Ⅰ・Ⅱ，CAD 演習，機械デザイン演習，回路デザイン演習，知能プログラミング演習，システム創造プロジェクトⅠ・Ⅱ，技術英語演習の合計 12 科目である．TA の人選に際しては，授業内容に関連のある分野の研究に携わっていることを重視した．

なお，令和 3 年度入試改革に伴うポリシーの更新及び新規中期計画へ対応するために，令和３年度カリキュラム草案を作成した．

5-3-3-3 学生支援

入学時のアドバイザーグループは卒業まで継続され，学生は担当のアドバイザー教員と年２回面談を行うほか，履修や学生生活上の相談を随時受けることができる．また，オフィスアワーや空き時間を利用して，全ての学科教員に自由に相談できるようにしている．

各学生の成績は，学科教務専門委員が管理しておりアドバイザー教員と必要な情報の共有を図っている．成績不振者に対しては，アドバイザー教員が年２回の面談時に成績不振の理由を聞き取ると共に履修指導を行う他，適宜，学科教務専門委員がサポートを行っている．面談時にメンタルな問題が懸念された学生には，学生相談室への相談を勧めている．また，合理的配慮を希望する学生に対する支援体制も構築している．なお，平成 29 年度入学生については，在籍者に対する卒業研究有資格者の割合は 90.2%であった．毎年，一定数の留年者がおり，成績不振者への効果的な対応法についてさらなる検討が必要である．

5-3-4 人間情報工学科・スポーツシステム工学科

5-3-4-1 導入教育

人間情報工学科では，推薦入試合格者を対象とした懇談会（12 月と 2 月に情報通信工学科および情報システム工学科と合同で開催），全新入生を対象とした学外オリエンテーション（4 月に 1 泊 2 日で実施）および 1 年次前期に開講する「フレッシュマンセミナー」を導入教育として位置付けている．

第 1 回の推薦入試合格者懇談会では，学部で統一された数学の試験を実施し，同懇談会終了時に採点結果を学生に周知し，第 2 回までの学習方針を示すとともに，数学と英語に関する課題を与え，入学までの学力維持を促進した．第 2 回の同懇談会では，3 学科合同で前回配布した英語の課題を確認する小テストを実施した後に，学科別に分かれ 4 名の教員が参加し，教員あたり 3～4 名の生徒を担当し，全ての課題ができるまで指導し，各自の入試活動が終わったといえ，大学教育へ向けた学びを継続することの重要性を伝えることができたと思われる．

学外オリエンテーションでは，アドバイザーグループに分かれ，「のれんの町勝山に世界中の人が来たくなるような仕掛けを考える」をテーマに，勝山町並み保存地区を散策した上で，その特徴をまとめ，国内外の観光客に勝山への来訪動機を与えるための方法について討論した．翌日には，「地域創生コモンズ まにわ」（真庭市）において各グループがまとめた来訪動機を与えるための方法についてプレゼンテーションを行った．

「フレッシュマンセミナー」は 2 部構成とし，前半では，力学に関するサポート教育を実施し，後半では，人間情報工学に関する課題を課した．力学に関するリサポート教育では，講義の後に 60%を合格とした達成度評価を実施し，60%に達しなかった学生については，

時間外学習としてレポートを課した．その結果，全員が合格のレベルに到達した．人間情報工学に関する課題については，学科教員から課題の例を挙げてもらい，工学的な課題とはどのようなものかを学ぶところから始め，図書館での文献検索及び WEB を利用した情報収集の仕方も学んだ．そして，学生毎に独自の課題を設定し，その解決策を考え，レポートとして提出させた．レポートの評価については，4 名の教員でチェックを実施し，個別に，評価できる点，改善を要する点を指摘し，各学生個々のレベルに合わせた指導を行った．また，工学倫理に加え，専門分野や立場の違う人を含む他者と協働することの必要性に観点を絞った学際協調に関する内容を取り入れた．

5-3-4-2 カリキュラム及び授業方法の改善

学科のカリキュラムを検討するために教育プログラム検討委員会を設けるとともに，実験・演習科目に特化した検討を行う実験・演習検討 WG を設けている．

教育プログラム検討委員会では，重点科目の設定，補助教員の配置等の効果を評価し，その有効性を確認し，継続することとした．

実験・演習検討 WG では，前期及び後期の終了後，実験・演習科目に関する問題点を洗い出し，改善策を検討した．来年度に向けては，特に変更の必要がないこととなったが，担当者が交替しても継続的な実施が可能な形態に改める必要があり，継続して検討することとした．

授業アンケートの結果から，概ね好評であるが，その効果についての検討を継続して実施する必要がある．

工学系学科の集大成の授業科目として位置付けられる卒業研究について，本年度も継続して，専門分野の異なる 2～3 の研究室をグループとし，月に 1～4 回の合同ゼミを実施した．これにより，指導教員とは異なる視点からの指導を受けることで，より学際的な卒業研究の実施を推進できたものと思われる．さらに，卒業研究の計画的な遂行を促進するために，2 月の発表会とは別に，9 月に中間発表会を継続して実施した．教員からの聴取した意見によれば，本年度も，テーマの決定の早期化，計画的な実施の促進，中だるみになりがちな夏季休暇の有効利用等の改善効果が見られた．

また，平成 30 年度からクオーター制が導入され，実験・演習科目を含むほぼすべての科目をクオーター制対応に変更した．しかし，本学科で独自に学生アンケートを実施した結果，“学習効果の観点から実験・演習科目はクオーター制の方がよい”と回答した学生が 10%に満たなかったことから，実験・演習科目の一部をセメスター制に変更した．

5-3-4-3 学生支援

本学科には，学生相談の担当教員が在籍しており，大学生活や私生活での相談について，積極的に利用することを勧めているとともに，該当教員以外の教員にも気軽に相談できる体制をとるように教員にも周知している．また，昨年度に引き続き，新年度当初の 4 月および前期の履修状況が周知される 9 月下旬のオリエンテーション後に，全学年を対象とした複数教員による面談を実施した．面談の内容は主に単位習得状況の確認と私生活面での問題の有無に関するものであった．これにより，就学状況が不調な学生や進学，就職等で悩みを抱えている学生の早期発見に繋がり，ほっとルームの利用勧奨やキャリアカウンセラーへの相談につなげられたケースもあった．

5-3-4-2 に記した重点科目について，本年度も継続して，毎月の定例学科会議で出席状況を報告することとしており，出席状況が不良の学生の情報を共有し，担当授業科目で見守る体制を整えた．

また，欠席が目立つ学生については，教務専門委員が面談し，注意・指導を行っている．

学生の成績は，学科長と教務専門委員が連携して管理を行っており，成績不振者に対しては，指導を行っている．また，所属教員の担当科目の学習状況についても，組織的に管理・支援を行っている．

卒業研究における研究室配属は，卒業研究有資格者を対象に研究室紹介や研究室訪問の機会を設けて研究テーマを紹介し，本人の適性や興味・関心などを勘案して配属を行っている．なお人間情報工学科平成 29 年入学生については，在籍者に対する卒業研究有資格者の割合は 80.5%であった．

就職支援については，“好況である今だからこそ，充実した支援が必要”との観点から，来年度に向けた検討を行い，2 月に開催した進学・就職ガイダンスにおいて，本学科 OB と現役の大学院生各 1 名，株式会社マイナビから講師として招聘し，進学の意義や就職活動における留意点等に関する講演を実施した．さらに，来年度 4 月に，同社からの講師による大学院進学に重きを置いたキャリアガイダンス，及び，本学科の就職担当教員による全学生の面談を実施することとし，支援の充実を図ることとした．また，平成 30 年 3 月に設立された岡山県立大学協力会が教育支援活動の一環として 12 月に開催した学内業種説明会，岡山県立大学協力会とシステムエンジニアリング岡山が 2 月に開催した学内業界説明会・業界研究会，及び，県内外企業の参加により 3 月に開催した学内合同企業説明会に，本学科の学生への参加を周知した．

5-3-5 学外活動

情報工学部は，文部科学省「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」に大阪大学を中心として選定された「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク（enPiT）」に引き続き，平成 28 年度からスタートした「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成事業（enPiT2）」の 4 分野（ビッグデータ・AI 分野，セキュリティ分野，組込みシステム分野，ビジネスシステムデザイン分野）に対し，連携校（組込みシステム分野）あるいは参加校（セキュリティ分野，ビジネスシステムデザイン分野）として参加している．

平成 24 年度から平成 28 年度に実施された enPiT は大学院生向け事業であったが，enPiT2 は学部生向け事業となっている．今年度は，各分野において，次の活動を行った．

(1) 組込みシステム分野

本学は enPiT2 連携校として，中四国地域の大学を中心に連携を行い，効果的な人材育成を行うためのネットワーク形成を進めている．今年度は，沖縄工業高等専門学校および明石工業高等専門学校が参加校として新たに参画している．

本学では enPiT2-Emb 事業での教材開発を進めており，開発した教材（Qpro）を導入して，組込みシステム開発に関する PBL 演習を実施している．また，徳島文理大学，福山大学，広島工業大学，の 3 校においても，Qpro 教材を導入して組込みシステムの教育を実施している．

さらに，中核校である名古屋大学において，2 月 25 日～27 日に開催されたスプリングスクールに，3 年次生 4 名が参加した．ここでは，Arduino を用いた組込みシステムの開発についてのチーム演習や，テクニカルライティングに関する演習を行うとともに，本学で実施した enPiT 教材による PBL 演習の成果発表を行った．

(2) ビジネスシステムデザイン分野

enPiT2 連携校である愛媛大学において，夏季休業期間中に毎年開催されている集中合宿型 PBL（Project-Based Learning）である「enPiT BizSysD PBL@EHIME」（9 月 16 日～20 日）に，3 年次生及び 4 年次生計 14 名が参加した．愛媛大学工学部情報工学科学生 12 名，鹿児島大学工学部電気電子工学科学生 6 名と 3～4 人のチームを構成し，GPS 機能やサーバーとの通信機能を備えた Android アプリの開発，タブレット端末への実装と実験，活動成果のプレゼンテーションなどを，協働して行った．プロジェクトチームによる開発を行うことで，チームワークやコミュニケーション能力など，情報処理推進機構（IPA）のコンピテンシー評価項目で示されている様々な項目に対応した能力を高めることができた．

(3) セキュリティ分野

enPiT2 連携校である岡山大学において，今年度後期に開催された enPiT-Security の実践的人材育成コース「Basic SecCap」に，3 年次生及び 4 年次生計 5 名が延 9 科目を履修し，幅広いセキュリティ分野の最新技術や知識を，体験を通して習得した．

5-3-6 まとめと課題

情報工学部の 3 学科共，基礎学力の補強を軸に学生支援をきめ細かく実施している．教育方法については，学部として岡山県工学教育協議会主催の「岡山県工学教育協議会シンポジウム」に教員を派遣し，近隣大学・高専等の最新の教育方法に関する情報を収集すると共に，本学部の教育プログラムに関する発表を行い，他大学教員からの意見を聴取した．また，enPiT2 の 4 分野（ビッグデータ・AI 分野，セキュリティ分野，組込みシステム分野，ビジネスシステムデザイン分野）に対し，連携校（組込みシステム分野）あるいは参加校（セキュリティ分野，ビジネスシステムデザイン分野）として参画し，活動を行った．平成 27 年度に採択された COC+事業に関連して，平成 28 年度入学生からはカリキュラムの一部に地域との協働による授業科目が設置しているが，これらの授業科目と学内で実施する授業科目との連携により，高い教育効果を上げることが今後の課題である．

また，平成 30 年度に発足した主に民間企業を会員とする「岡山県立大学協力会」を対象に，令和元年 12 月と令和 2 年 2 月に学内で業界説明会を開催した（令和 2 年 2 月は「システムエンジニアリング岡山」による業界説明会と同時開催）．教育についての連携をさらに進める予定である．

5-4　デザイン学部

5-4-1 概要

デザイン学部学士課程での教育は,変化する社会のなかで,豊かな生活と新たな文化の形成に必要なデザイン力とマネジメント能力を備え,地域と世界に貢献できる人材の育成を目指している.主な継続的な取組は，1)導入教育（フレシュマンセミナー)，2）カリキュラム及び授業方法の改善，3）学生支援（インターンシップ)，4）中国・四国地域人材育成連携協議会への参加，5）国際交流活動の 5 つである．フレッシュマンセミナーは，平成 29 年度より学科毎で実施している.

5-4-2 デザイン工学科

5-4-2-1 導入教育（フレシュマンセミナー）

デザイン工学科では，外部講師として，企業から OB・OG デザイナー講師を招き，初年次生向けのキャリア教育として実施した．全体として，基本的な就業力とともにデザイナーとしての将来設計に向けたキャリア構築ステップについての理解力を高め，志を立てることを支援することを目的とした.また,『アカデミック・スキルズ』(慶応義塾大学出版)を教科書に使用し，今後の受講のあり方を指導した．講義を受けて聞くだけではなく，振り返りレポートを作成させ,自己の中での学びの統括によるキャリアに関する意識と知識の定着を図った． また， 大学の推進するキャリアカルテの実際の使用についての導入を行い，今後の大学生活における学びの情報や経験の管理についての意識を高めた.

デザイン工学科（履修生：46 名）

日程	授業内容	担当講師
4/16	1.［オリエンテーション/アカデミック・スキル 1］ ノートの取り方	福濱学科長
4/23	2.［アカデミック・スキル 2］ レポート・論文の書き方などの文章作法	三原鉄平
5/7	3.［アカデミック・スキル 3］ 口頭発表の技法を身につける	西川博美
5/14	4.［アカデミック・スキル 4］ 学生生活における時間管理や学習習慣を身につける	林秀紀
5/21	5.［デザイン工学科・学生の将来設計 1］ デザイン学研究科デザイン工学専攻)	大学院生 安達駿　河野純平
5/28	6.［デザイン工学科・学生の将来設計 2］ 建築・都市デザイン領域編 就職編	建築・都市デザイン領域 卒業生　橋本美佳
6/4	7.［デザイン工学科・学生の将来設計 3］ 製品・情報デザイン領域編 就職編	製品・情報デザイン領域 卒業生　濱田貴行
6/11	8.［デザイン工学科・学生の将来設計 4/まとめ］ 製品・情報デザイン領域編 就職編 まとめ：ノート提出	製品・情報デザイン領域 卒業生　福水恵理 福濱学科長

5-4-2-2 カリキュラム及び授業方法の改善

デザイン工学科では,

1）学生経費の配分を見直し，課外活動と特別講師の招聘を容易にした．その結果，それぞれ 1 件ずつの活動が実施された.

2)インターンシップの成績評価方法を改善した．すなわち，昨年度まで評価の材料が存在し

ていなかったが，今年度より，学生が記入する「実施報告書」，受入れ先が記入する「評価報告書」を作成し，実行した．このことにより，学生の取り組み意識の向上と成績評価の客観性が得られた．

3)「卒業研究」を中心として，地域と連携した課題や研究テーマに取り組んだ事例が多くあった．それらのタイトルを以下に示す．

卒業研究
・岡山県の郷土玩具 吉備津土人形を題材にした土産品のデザイン
・美作を中心に農村舞台の境内配置に関する研究
・市営住宅における持続可能な住環境に関する研究
・無人駅の活用と JR 桃太郎線無人駅の景観に関する調査研究
・玉島の西綿屋の建築について

5-4-2-3 学生支援（インターンシップ）

デザイン工学科では，専門職ごとの業界慣習に応じ，県内外の夏季インターンシップやオープンオフィスに参加する他，学内での出張インターンシップイベントも開催された．

・製品・情報デザイン領域インターンシップ

製品・情報デザイン領域では，16 社の学内インターンシップ説明会が開催され，キャリア支援委員を通じ 3 年生並びに 1・2 年生への告知が行われた．また企業と連携し，5 月と 10 月に出張型インターンシップイベントを開催し，2・3 年生の計 19 名が参加した．企業の所在地の内訳は県内 1 社，その他はすべて県外企業であった．

・建築・都市デザイン領域インターンシップ

建築・都市デザイン領域では，5 月にインターンシップ説明会を開催し，意義や重要性を周知し，参加手続きについて説明を行った．報告会は 1 月中旬に実施した．低年次生には聴講の機会を設け，キャリア形成への意識醸成の場とした．総社市インターンシップをはじめ建築設計事務所（JIA 日本建築家協会所属）などで模型作成，図面作成，建築見学，現場見学などを行った．2019 年度建築・都市デザインインターンシップ参加者は 17 名である．受け入れ先の内訳は，建築，インテリアの設計事務所が大多数を占めるが，そのほとんどが県外である．一方，官公庁，公共美術館でも 1 名ずつの受け入れがあり，こられはいずれも県内であった．

5-4-3 造形デザイン学科

5-4-3-1 導入教育（フレッシュマンセミナー）

外部講師として，デザイナー5 名（卒業生 4 名，学外講師 1 名）を招き，初年次生向けのキャリア教育としてフレッシュマンセミナーを実施した．大学生として学修に必要となるノートの取り方を初め，デザイナーとして必要なデザイン能力やプレゼン力とともに，社会人としての倫理観，価値感の異なった他者との協働，そして人間力養成への理解を高めることを認識させることを目的とした．また，各授業の講師に対し質問票を用いて学生が講師へ質問を行い，講師の回答を次週に返却する相互方式を登用し，学生の授業参加意識を高めることができた．講義を聞くだけではなく，振り返りレポートを作成させ，自己の中での学びの統括によるキャリアに関する意識と知識の定着を図った．

さらに，本学キャリアカウンセラーによるキャリアガイダンス及び，大学の推進するキャリアカルテについて導入を行い，今後の大学生活における学びの情報や経験の管理についての啓蒙を図った．さらにアドバイザー教員との接点を設けることで，必要に応じて相談しやすい環境づくりをした．以下が実施したプログラムである．

造形デザイン学科（履修生 59 名）

	日程	内容	講師	対象
1	4/15	1. オリエンテーション：「これからデザインを学ぶ」,「ノートと大学生活」	野宮謙吾 柴田奈美	造形デ学科長 日本語文章作法担当教員
2	4/22	2. キャリアプランニングの扉 1： デザインスペシャリストの視点造形	佐藤豪人	HIDETO SATO DESIGN アートディレクター
3	5/9	3. 造形デザイン学科学生の将来設計： ビジュアルデザイン系（H27 卒業生）	高妻千春	株式会社 IDA デザイナー
4	5/13	4. 造形デザイン学科学生の将来設計： ビジュアルデザイン系（H24 卒業生	大宮真央	岡山第一ビデオ デザイナー
5	5/20	5. 造形デザイン学科学生の将来設計： 造形デザイン系（H27 卒業生）	長谷川雅美	凸版印刷株式会社 デザイナー
6	5/27	6. 造形デザイン学科学生の将来設計： 造形デザイン系（H29 卒業生）	北井菜月	大塚オーミ陶業株式会社 デザイナー
7	6/3	7.キャリアプランニングの扉 2： 「進学ノススメ」（院生） 「大学でのキャリア形成とは」	野宮謙吾 青野日向子 本田陽子	造形デ学科長 院生 本学キャリアカウンセラー
8	6/10	8. キャリアプランニングの扉 3： 「キャリアカルテを使いこなす」 「先生と話そう」 授業アンケート	野宮謙吾 齋藤美絵子 アドバイザー教員	造形デ学科長 キャリア形成支援部門長

5-4-3-2 カリキュラム及び授業方法の改善

造形デザイン学科では，クォーター制の導入によるその効果と改善について,前年に引き続き,検討と分析を行った.その結果,学修効果の向上を図る目的により一部の専門科目をセメスター開講とする措置を講じた.また,卒業研究におけるルーブリック評価を本格実施し,成績評価の公平性と透明化を向上させることを目指した.

卒業研究においては,地域と連携した研究テーマに取り組んだ事例が多くあったが,一部においては学生を本学共同研究及び地域連携事業に参画させ,研究と実際の地域貢献活動を連動させる手法を試みた.

・勝央町「ブランド」の新商品企画及びデザイン提案（越智美月）共同研究
・キャラクターを使用した防災かるたの研究（須増早苗）
・元号の時代感イメージをテーマとした奉還町のブランディング（沼田倖希）
・キャラクターPR戦略におけるストーリーの重要性（松尾千晴）
・笠岡市立図書館のサイン表示におけるピクトグラム活用の提案（和田ほの花）地域連携事業
・NPO法人「だっぴ」の活動支援のための提案（織田翔子）
・ファスナーを用いた可変式ベンチの研究（大塚桃子）
・地域活性化の広告媒体としての漫画冊子の有用性の研究（橋本悠生）

5-4-3-3 学生支援インターンシップ）

造形デザイン学科では,事前に,岡山県内のデザイン関連企業等とインターンシップ受入れに関する取決め書類を交換し,年度当初に学生にインターンシップ先の情報を開示している.今年度は学科 3 年生 41 名がインターンシップを行い,以下 11 の受入れ先に 12（1 件の事業所で 2 件のプログラム受入れ）のインターンシッププログラムの実施があった.事前

準備と報告会開催も必須とし,広く学生を支援した.報告会は,前年度以上に学生が主体的に運営し自主性の向上を見ることができた.また,令和元年度インターンシップ報告書を作成し,報告会参加者への資料とした他,受入れ先に配布することで実施状況の共有を図った.

・株式会社三浦印刷所
・株式会社Ｉ プランニング KOHWA
・サンコー印刷株式会社
・株式会社矢野デザイン事務所
・株式会社マック MAQINC.
・株式会社ウィルコミュニケーションデザイン研究所
・株式会社 OHK エンタープライズ
・岡山第一ビデオ株式会社
・株式会社イールドインテリアプロダクツ
・滋賀県立陶芸の森
・岡山県立美術館

5-4-4 中国・四国地域人材育成連携協議会

平成 28 年度以降は,平成 24～26 年度実施の文部科学省補助事業テーマ A「産業界のニーズに対応した自律的な技術者養成プログラム」及び,平成 26～27 年度実施の同テーマ B「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化)」事業終了後も教育力向上を目的に学外連携事業として取組を継続している.

5-4-4-1 中国・四国地域大学グループ会議及びシンポジウム等への参加

デザイン学部では,中国・四国地域人材育成連携協議会が開催する大学グループ会議及び組織運営委員会主催のシンポジウム等への参加を継続して行った.

・令和元年度中国・四国地域インターンシップフォーラム（3 名）
　令和元年 11 月 11 日（月）学校法人福山大学　宮地茂記念館
・中四国産学連携合宿授業（学生 3 名，教員 1 名）
　令和元年 8 月 29 日（木）～31 日（土）　マツダ本社，サテライトキャンパス広島

5-4-4-2 大学連携事業

平成 27 年度より,サブグループ 3 校(岡山理科大学,山口東京理科大学,岡山県立大学)は,3 大学連携の協定書を結び,連携会議による大学相互の授業見学等による教育力向上を目的にした取組を行っている．取組から 5 年目となる本年度は,本学が幹事校を担当し,相互授業参観活動が実施された.

・連携大学による相互授業参観（令和 2 年 1 月 29 日）
　各大学において令和元年度の見学可能授業をリストアップし,本学にて集約，3 大学のリストが公開された.（岡山県立大学：3 科目，岡山理科大学：3 科目,山口東京理科大学：11 科目）本年度は,本学の公開授業に岡山理科大学から教員 1 名,職員 2 名が参観した.

（岡山県立大学 授業見学）
日時：1 月 29 日（水）15 時 30 分～17 時 40 分
場所：デザイン学部棟 1 階スタジオ
科目：「ビジュアルデザイン領域演習Ⅳ」
担当：柴田奈美，野宮謙吾，山下万吉
授業概要：「俳句のビジュアライズ」の作品プレゼンテーションを見学いただく.自作の俳句のを元に,グラフィックアートと 30 秒のアニメーションを制作する.（ADOBE イラス

トレータ,フォトショップ,アフターエフェクツにより制作)

5-4-5 国際交流推進（国際交流活動事業）

5-4-5-1 メキシコ・モンテレイ工科大学，モンテレイ大学

令和元年9月8日～9月17日（9日間）メキシコ・モンテレイ市とメキシコシティ市へのスタディツアーを実施し,教員 2 名学生 6 名が参加した.モンテレイ工科大学では,Martine 教授と Hernandez 教授による,同大学が地域と共同で実施しているキャンパス周辺の公園計画についての講義を受講した.本学部でも大学周辺のまちづくりに取り組む機会があり,学生たちは大いに参考になった.また,モンテレイ大学では,日本人の東教授が担当するインテリア計画の授業で現地の学生との共同で,室内の光について模型を用いながら検討した.陽光の強いメキシコにおける室内光についての考えを学ぶ貴重な機会となった.

モンテレイ工科大学にて講義受講

モンテレイ大学にてインテリア授業の受講

5-4-5-2 韓国・又松大学校

ウソン大学テクノメディア融合学部・本学デザイン学部は平成30年年度から各卒業展示に共同展示を行うことを協議し,7 月本デザイン学部はウソン大学メディアデザイン学部の卒展に参加しブース展示を行った.

平成30年度2月はウソン大学から訪れ共同で展示を行った.2回の展示はブース形式で行われ,各学科の優秀作をパネル紹介,実物を 2 点,動画作品を展示した.さらに今年は特に岡山県立大学デザイン学部を紹介するポスターを別に制作し,各学科ことの活動や就職率などを紹介,学生と学長から岡山県立大学への短期留学システム及び単位を共同で取れる方法について様々な希望や依頼があった.

・共同展示期間：韓国・ウソン（2019年7月10日（水）～7月13日（土）
　　岡山県立大学（2019年2月27日（水）～ 3月 3日（日）
・参加学生：又松大学校3名
・教員：又松大学校デザイン学部長（Park Jongbin 教授），嘉数彰彦教授，石王美助教

又松大学校との共同展示

5-4-5-3 テキサス A&M コーパスクリスティ大学

令和元年 6 月 1 日～30 日テキサス A&M コーパスクリスティ大学 LOUIS KATZ（ルイス・カズ）教授及び GAIL BUSCH（ゲル・ブッシュ）との研究交流やレクチャー及びワークショップを実施した.倉敷市玉島のギャラリー遊美工房にて,教員及びセラミックコース 4 年生の展示発表を行なった.

6 月 12 日：大学での講義および学生教員との意見交換

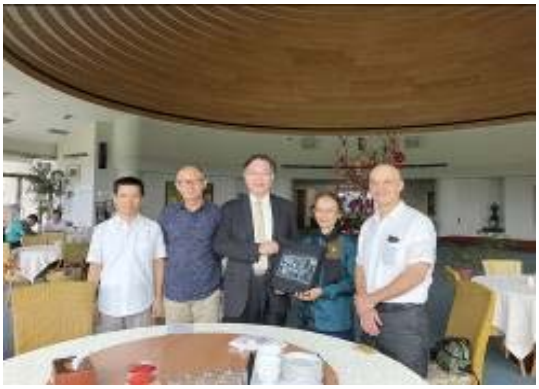
6 月 21～28 日：岡山県立大学との交流展覧会を遊美工房にて実施

倉敷市玉島のギャラリー遊美工房

セラミックワークショップの様子

5-4-5-4 台湾国立台南藝術大

令和元年 6 月 8 日～6 月 15 日（8 日間）,台湾国立台南藝術大（TNNUA）からの招待により,難波教授及び真世土准教授が当該大学との共同研究や学生交流活動を推進するために,TNNUA においてワークショップ及びレクチャー実施し,大学施設等視察並びに意見交換を行なった.



学科長・国際交流担当者等への表敬訪問　　学長への表敬訪問

5-4-5-5 台湾・台南藝術大学

令和元年 11 月 30 日～12 月 7 日（8 日間）,MOU 締結のための台南藝術大学訪問と台湾スタディツアーに関する現地調査を実施し,教員 2 名と大学院生 2 名が参加した.国際交流長及び Material Arts and Design 学科長との MOU の締結・交換を行い,学長及び学科所属教員と今後の 2 校間交流方向性について話し合われた.また,本学教員によるレクチャーと大学院生による研究発表を通じ本学教育研究の紹介を行い,テキスタイルの Lu 先生によるワークショップ参加を通じ,現地学生との交流を図った.

現地調査として台北,台中,台南の主要な文化施設を訪問し,スタディーツアー実施に向けたルート等の検討を行った.さらに台南藝術大学教員の案内により現地企業を訪問し,共同研究や企業間交流の可能性を探索した.

校長及び教員との２校間交流会議

本学教員レクチャー及び院生研究発表

5-4-6 まとめと課題

新入生対象の導入教育（フレシュマンセミナー）は,各学科の専門性と目的を理解し,学ぶ上で必要となる意欲と学修姿勢を身に付ける修学基礎科目として実施してきた.令和 3 年度からの学科再編に向けて,新たなポリシーに基づき教育プログラムとして再編成が求められている.カリキュラム及び授業方法の改善においてルーブリック評価を卒業研究に導入するなど,改善が進んでいる.また,卒業研究で地域課題に取り組む事例が増加している.学生支援（インターンシップ）では,長期インターンシップの導入が課題である.学外連携事業は文科省の補助事業終了後も事業を継続してきたが,ＣＯＣ+事業での様々な大学との連携が進み,それぞれの事業の在り方を検討する必要がある.国際交流活動は積極的に進めているが,ここ数年で連携事業が急増したため,今後の進め方が課題として残る.

第２章　地域連携教育（ＣＯＣ＋）における教育活動と成果

1-1 概要

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に本学が代表校となって応募した「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」(以下，本 COC+事業）が，平成 27 年度に選定されたことを受け，平成 28 年度入学生より，副専攻「岡山創生学」が開設された．すなわち，今年度は副専攻「岡山創生学」の第 4 年度であり，1 年次生を対象とする 3 科目「おかやまボランティア論」,「おかやまボランティア演習」,「おかやまを学ぶ」, 2 年次生を対象とする 2 科目「地域再生実践論」,「地域協働演習」に加え，3 年次生を対象とする長期インターンシップ 2 科目「地域インターンシップ」及び「エンジニアリング演習」が開講された．副専攻「岡山創生学」授業科目は，1-3 項で述べるように，共通教育科目に加え，各学部の学部教育科目で構成されており，年次進行で副専攻「岡山創生学」科目として開講していくこととしている．

本 COC+事業は，岡山県の「晴れの国おかやま生き活きプラン」(平成 26 年度から 3 年間）及び「おかやま創生総合戦略」（平成 27 年 10 月）とも方向を一にしており，また，県内の事業協働自治体の政策課題も取り込みながら，これまで本学が取り組んできた教育改革，域学連携，産学連携活動を，表 1 に示す県内大学，自治体，団体，企業等と協働して発展させ，地域志向事業として推進することによって，事業協働地域内への若者の定着率を向上させることを目的としている．

表 1.「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」協働機関

参　加　大　学	岡山大学，岡山理科大学，ノートルダム清心女子大学，就実大学，山陽学園大学，吉備国際大学（COC 既採択校），倉敷芸術科学大学（COC 既採択校），くらしき作陽大学（COC 既採択校）
参 加 自 治 体	岡山県，総社市，笠岡市，備前市，真庭市，岡山市，倉敷市，高梁市，赤磐市
参加経済団体等	岡山県経済団体連絡協議会，岡山県商工会議所連合会，岡山県経営者協会，一般社団法人岡山経済同友会，岡山県中小企業団体中央会，岡山県商工会連合会，岡山県産業振興財団
参 加 企 業 等	株式会社中国銀行，株式会社トマト銀行，一般財団法人岡山経済研究所，株式会社山陽新聞社，特定非営利活動法人岡山 NPO センター

なお，文部科学省より本 COC+事業に対して助成されるのは令和元年度までとされているが，本学の地域連携教育は，「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し，地域に貢献する」という教育研究の理念に基づき，令和 2 年度以降も継続・発展させる予定としている．

［目標Ⅰ（教育改革)］: 地域を志向し，地域の未来を切り拓く知識と高度な専門性を身につけた実践力のある人材の育成

［目標Ⅱ（域学連携)］: 子育て・教育支援，高齢者・障害者支援，防災・減災支援等により，安心して生活することのできる魅力ある地域づくり

［目標Ⅲ（産学連携)］: 岡山県内の市町村の共通課題である健康寿命の延伸，中小企業・小規模事業者の技術支援，観光振興などの分野の研究開発を通した雇用創出

1-2 組織体制

副専攻「岡山創生学」では，共通教育科目内カテゴリー「社会連携」科目と各学部の学部

教育科目とが連携しつつ地域連携教育を構築していく．本 COC+事業「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」は，若者の地元定着率の 10%向上を目的として，教育改革，域学連携及び産学連携により地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行う．教育改革では，「岡山創生学」を副専攻として新設し，実践的な専門性と高い地域志向を有する人材の育成を図る．域学連携では，自治体，NPO 等と協働で子育て，高齢者・障害者支援等を実践し，住み易く，安心安全で魅力ある地域づくりに貢献する．産学連携では，地場産業の支援による産業活性化を推進し，魅力的な雇用創出に努めるとともに，雇用マッチングシステムを開発することで雇用開拓と若者の地域への就業機会を拡大し，学生の県内定着を促進する．

本 COC+事業は，表 1 に示す事業協働機関との連携の下，図 1 に示す実施体制により組織される．

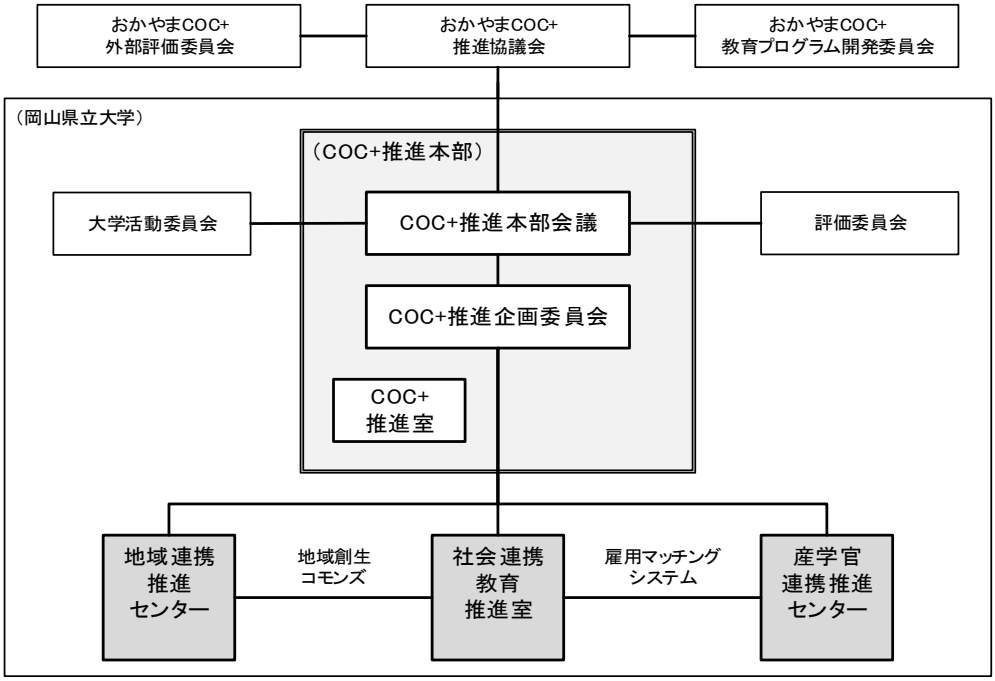


図 1．COC+実施体制

1-3 授業の構築

1-3-1 育成する人材像と修得すべき能力

副専攻「岡山創生学」では，学びの中で地域の魅力に触れ，コミュニケーションや協働の中で地域課題を認識し，ともにその解決までのプロセスを体験することで地域への愛着の形成や共感力を高め，それを基盤として専門性を存分に発揮して地域の持続的発展のために貢献することができ，社会の変化に対して高い適応能力をもつ人材を育てるものである．このような人材になるために修得すべき能力を次のように設定する．

(1) 地域「おかやま」の実態を体験的に学び，岡山の魅力を発信する力
(2) 実践的学習の中からアクション・ラーニングのプロセスを通じて課題を認識する力
(3) 地域で人とコミュニケーションを取りながら協働して課題解決に取り組む力
(4) 学部・学科の専門性を活かし，自律的に課題解決法を考える応用力
(5) 持続可能な岡山の未来を展望し，一市民としてまた専門家として社会に参画する力

1-3-2 教育プログラムの内容

副専攻「岡山創生学」では，低年次に「おかやま」の魅力と課題を学ぶ地域志向基礎科目，高年次に地元就職を意識させる地域志向実践科目を配置して，事業協働地域への定着を図っている．本副専攻の教育プログラムを岡山県の代表農産物である“もも”の育成に模して，1年次に地域志向の動機を「知る（植え付け)」，2年次に各学部・学科の専門性を加味して「学ぶ（受粉)」，高年次により専門的な視点から「実践（摘果)」の3段階に分け，卒業時に「収穫・出荷」できるようなイメージで設計している．

(1) 1年次では，地域「おかやま」を知り，地域と協働するための準備をする授業科目を配置している．岡山を中心とした地域の現状とグローバル化の中にある岡山の位置付けを知識として学び，地域に住む様々な人と接するために，現代社会で求められるボランティアなどを通して，また，大学生と社会の接点の現状やあり方についての学びを通して，地域志向を植え付ける．

(2) 2年次では，地域「おかやま」の課題を，学外における協働を通して発見し，解決に向けた取組を実践する授業科目を配置している．学部・学科の専門性にとらわれることなく地域社会を見つめる冷静な観察眼を習得するだけでなく，入学後に学んだ専門性を受粉させ，専門の学びが，どのように地域課題の解決に役立てられるかを自律的に考える．

(3) 3年次では，より専門的な視点から地域「おかやま」の課題を見つめ直し，自己のキャリア形成を支援する授業科目を配置している．地方自治や企業活動の仕組み，地域社会における自己の役割認識を涵養する学びの後，長期インターンシップを通して，より実践的な地域協働を体験することで，専門性による摘果を行う．

(4) 教育課程は共通教育科目と学部教育科目から厳選された授業科目から構成され，また，講義科目での学びの後に演習科目を配置することで，実学としての地域協働を涵養する．前述した「修得すべき能力」を学修させるために，新設した5科目を加えた計12科目で教育プログラムを構築している．各科目の開講計画を表2に，各授業科目の相互関係を示すカリキュラムマップを図2に示す．
なお，当初より，学部教育科目あるいはCOC+参加大学製作の授業コンテンツを今後，順次追加していく予定としているところである．

表2.「岡山創生学」授業科目表（平成30年度入学生）

区分	授業科目名	授業の方法	開講時間数	開講単位数	開講年次 1	2	3	4	必要単位数
共通教育	おかやまボランティア論	講義	15	1	◎				6単位
	おかやまボランティア演習	演習	30	1	★				
	おかやまを学ぶ	講義	15	1	◎				
	地域再生実践論	講義	15	1		★			
	地域協働演習	演習	60	2		★			
	地方自治論	講義	30	2			○		4単位
	地域インターンシップ	演習	120	4			◆		
	企業の組織と活動	講義	15	1			○		
	起業の条件	講義	15	1			○		
学部教育	チームガバナビリティ演習	演習	30	1			◆		
	地域保健福祉演習	演習	30	1			◆		
	エンジニアリング演習	演習	120	4			◆		
	デザインプロジェクト演習	演習	120	4			◆		

【注】 ◎印で示される授業科目は全学必修科目である．
★印で示される授業科目は，通常は選択科目であるが，地域創生推進士の認定を受けるためには，必ず修得すること．
◆印で示される授業科目を1科目以上修得すること．

※ 保健福祉学部で既に開講されている「統合実習」，「公衆栄養学実習Ⅰ」，「公衆栄養学実習Ⅱ」，「ソーシャルワーク実習」及び「保育実習ⅠB」の中から2単位以上を取得すれば，必要単位数の中から2単位を修得したものとする．

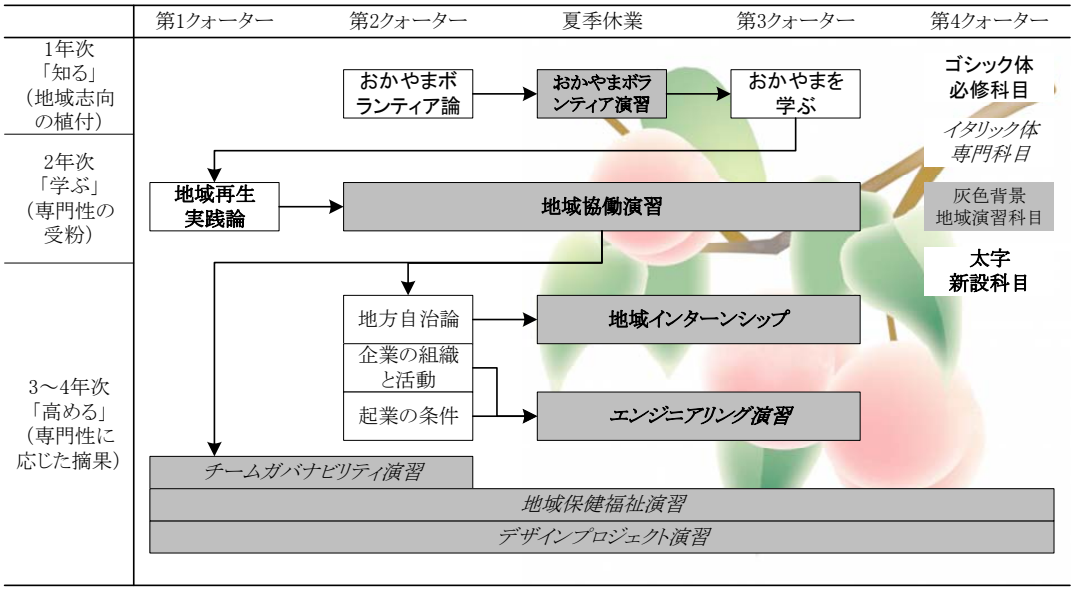


図 2．副専攻「岡山創生学」カリキュラムマップ

1-3-3 学生への周知

副専攻「岡山創生学」に関する情報を，大学案内及び高校生向け岡山創生学パンフレットなどにより受験生に提供しているところではあるが，十分な浸透，理解を得られたうえで入学しているとは言い難い面がある．このため，年度当初に開催されるオリエンテーションにおいて，副専攻「岡山創生学」の位置付け，特徴を学生に周知するようにしている．

新入生に対しては，入学式翌日に学部別で実施される共通教育及び履修登録の説明の中で，副専攻「岡山創生学」をアピールするチラシ（図 3 参照）を配布し，特に，選択科目である「おかやまボランティア演習」の履修を勧めた．

新 2 年次生に対しては，学科ごとに実施される在学生オリエンテーションの中で，選択科目である「地域再生実践論」及び「地域協働演習」を強調した新入生とは異なるチラシ（図 4 参照）を配布するとともに，両科目のペア履修を推奨した．

図 3．年度当初オリエンテーションで配布し新入生向けチラシ

図 4．年度当初オリエンテーションで配布した新 2 年次生向けチラシ

新 3 年次生に対しても，学科ごとに実施される在学生オリエンテーションの中で，今年度から新設される「地域インターンシップ」及び「エンジニアリング練習」のチラシ（図 5 参照）を配布し，両科目の履修を推奨した．

図 5．年度当初オリエンテーションで配布した新 3 年次生向けチラシ

1-3-4 実施状況

今年度は，副専攻「岡山創生学」の 4 年目に当たり，全ての副専攻「岡山創生学」科目を開講した．1 年次対象の 3 科目（「おかやまボランティア論」，「おかやまボランティア演習」，「おかやまを学ぶ」）及び 2 年次対象の 2 科目（「地域再生実践論」，「地域協働演習」）に加え，長期インターンシップ 2 科目として，共通教育科目「地域インターンシップ」及び学部教育科目「エンジニアリング演習」を開講した．

①「おかやまを学ぶ」第２クォーター・全学１年次生・１単位（必修）

本科目は，第３クォーター「おかやまボランティア論」と同様に，副専攻「岡山創生学」に即した内容の授業科目である．今年度は，授業科目の到達目標を，

(1) 経済，産業，文化，歴史，メディア，教育，行政など，様々な視点から「おかやま」の魅力を知る．
(2) 特定の地域課題に対し，自己の関わり方を考え，未来志向の意見を持つ．
(3) 主体的に物事を捉え，発信する．

とし，表３に示すテーマで開講した．特に，COC+協働機関である４市（総社市，笠岡市，備前市，真庭市）に加え，今年度は，文化，経済，海外事業，メディア，人権，歴史・教育など各回にテーマを設け，様々な視点から見た岡山の現状を知ってもらう目的で，新たな学外講師を招聘した．「おかやまボランティア論」に引き続き，講師との質疑応答などアクティブ・ラーニングの要素を取り入れた．

表３．令和元年度「おかやまを学ぶ」スケジュール

No.	月日	担当	テーマ
1	6/19	岡山県総合政策局主事	【岡山県全般】岡山のすがた
		備前焼ミュージアム	【文化】岡山の歴史文化から見る「特質」と今
2	6/26	一般財団法人 岡山経済研究所	【経済】経済指標で見る岡山県
		岡山県産業労働部	【海外事業】岡山県内企業の海外事業展開
3	7/3	丸五ゴム工業（株） 津山信用金庫	【地方創生】海外展開とグローバル人材の育成 【地方創生】地方創生と地域活動
4	7/10	山陽放送 株式会社	【人権】見捨てられた人々
5	7/17	公益財団法人 特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会	【歴史・教育】学びの原郷・閑谷学校
6	7/24	株式会社 山陽新聞社	【メディア】新聞記者から見た岡山県
7	7/31	岡山市，総社市，岡山電気軌道（株）	【交通】岡山の交通
8	8/7	本学教員	まとめ，総括

外部講師による講演

グループワーク

講師との質疑応答

②**「おかやまボランティア演習」**通年（主に夏季休業中）・全学 1 年次生・1 単位（選択）副専攻「岡山創生学」科目として平成 28 年度から新設された演習科目である．第 2 クォーターに必修科目として受講した「おかやまボランティア論」における学びを，フィールドワークにより学生自身が確認し，体験することを目的としている．授業科目の到達目標は，

(1) ボランティア原理である主体性，自主性，創造性の涵養
(2) 地域「おかやま」の理解
(3) 社会人基礎力及び学士力の涵養
(4) 学士力（知識・理解（文化，社会，自然等）、汎用的技能（コミュニケーションスキル，問題解決能力等）、態度・志向性（自己管理力，チームワーク，倫理観，社会的責任等）、総合的な学習経験と創造的思考力）の涵養
(5) ボランティア活動の実体験を通して、どのような地域課題があるかを認識する
(6) ボランティア活動の実体験を通して、他者との協働に求められるコミュニケーション力を身に付ける

である．

学生は，5 月 15 日(水)をはじめ数回の事前学習（グループの顔合わせ，活動目標の設定，注意事項など）の後，岡山県内の各種団体において，7 月～11 月初旬の期間内で活動先ごとに 3 日間のフィールドワークを実施した．各活動先における活動概要と受入実績数を表 4 に示す．今年度は，175 名の学生が，フィールドワークに取り組んだ．そして，活動報告を含む事後学習が 10 月 25 日(金)及び 12 月 13 日（金）に開催された．

表 4.「おかやまボランティア演習」活動受入先と実績

No.	主な活動場所	活動先	テーマ	参加者数			
				R1	H30	H29	H28
1	倉敷市	NPO 法人 KUKKA	不登校児童の居場所支援	1	6	7	6
2	岡山市	NPO 法人 岡山子どもセンター	子どもの遊び支援	7	20	11	17
3	笠岡市	認定 NPO 法人 ハーモニーネット未来	子ども，お年寄り支援	2	16	15	15
4	岡山市	NPO 法人 岡山 NPO センター	NPO 支援	―	5	7	4
5	真庭市	NPO 法人 勝山・町並み委員会	クラフト市の支援	―	9	10	9
6	総社市	NPO 法人 総社商店街筋の古民家を活用する会	小中学生の学習支援	29	31	22	21
7	岡山市	認定 NPO 法人 おかやまエネルギーを考える会	地球元気イベントプログラム支援	1	2	5	4

8	総社市	服部地区社会福祉協議会	地区活動への参加	―	15	11	11
9	備前市	片上地区支えあい実行委員会	地区住民との交流	1	5	20	12
10	笠岡市	笠岡市社会福祉協議会	地区での福祉活動	11	5	9	12
11	早島町	早島町社会福祉協議会	地区活動	8	12	7	8
12	岡山市	NPO 法人 だっぴ	活動支援	9	7	4	
13	岡山市	NPO 法人 岡山ロボット技術子供育成協会	ロボットプログラミング支援	7	2	4	―
14	真庭市	真庭市社会福祉協議会	地域をつなぐ納涼祭支援	―	8	6	―
15	倉敷市	玉島商業高校	パソコン学習支援	―	2	2	―
16	岡山市	キッズビジネスパーク in 岡山	小学生の職業体験支援	36	27	12	―
17	倉敷市	倉敷商業高等学校	パソコン学習支援	2	2	―	―
18	総社市	総社高等学校	パソコン学習支援	2	4	―	―
19	総社市	吉備路ボランティア観光ガイド協会	ボランティア観光ガイド	20	20	―	―
20	総社市	そうじゃ ぼっけえ造形の会	造形活動を楽しみながら，感性を豊かにし『生きる力』をはぐくもう」	―	5	―	―
21	岡山市	岡山マラソン	スポーツボランティア	14	―	―	―
22	その他	夏ボラ等		25	―	―	―
			合計	175	203	152	119

今年度も，昨年度と同様の取組みとしたが，一部学生がボランティア活動先を自主的に探し，連絡をとり，ボランティア体験をすることも勧奨した結果，39 名が大学で調整した団体以外での実践を行えた．今後は，更にこの取り組みを拡げていくことで学生の主体的な学びが深まると期待される．

また，事後学習においては，グループが順にポスター発表をする形式ではなく，ポスターを講義室内に掲示し，学生が他グループを巡回しながら質疑応答を行う形式とした．この形式による発表は，学生に対して自主的に他グループの活動に興味を持たせることができるとともに，ポスター発表担当者と間近で質疑応答をすることができるという利点があり，次年度以降も，継続して実施する予定である．

活動の様子

事後学習では，他グループの活動を知る機会を設けた．

③「おかやまボランティア論」第３クォーター・全学１年次生・１単位（必修）

昨年度に引き続き，大規模授業としての課題を克服すべく，後述のようにアクティブ・ラーニングの手法を取り込んだ形態で実施した．今年度は，次の４項目を授業科目の到達目標とした．

(1) ボランティア・NPO 活動，社会貢献の意義について理解を深める．
(2) 主体性，創造性，社会性について理解を深める．
(3) 地域には様々な課題が潜んでいることを理解する．
(4) 市民としてのボランティア活動の意義，必要性を考える．

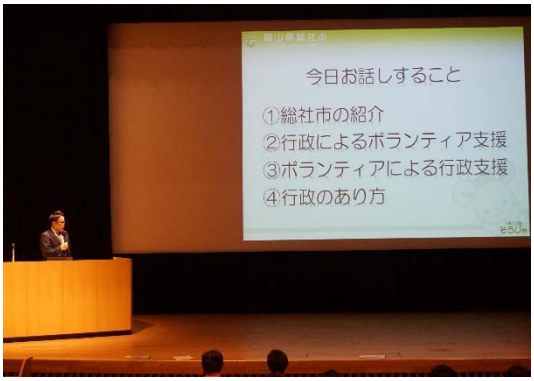
授業科目と COC+事業との関連性，ボランティア活動の意義を，初回講義において丁寧に説明した．２回目以降の講義では，本学３学部の特性も踏まえ，主に県内の様々なボランティア活動者及び NPO 法人で活躍している活動者を外部講師として招聘し，各々の活動内容の説明を聞いた後，COC+推進室コーディネーターの協力の下，学生自身の考えをまとめ，周囲の学生と意見交換し，グループの意見をまとめるというものであった．学生個々にとっては，興味が湧く内容と，必ずしもそうでない内容があったように見受けられるが，全体的には，それぞれの外部講師から多くのことを学びとることができたことを，講義ごとのミニッツペーパーから伺い知ることができた．

今年度の外部講師と各講義でのテーマは表５のとおりである．

表５．令和元年度「おかやまボランティア論」スケジュール

No.	月日	担当	テーマ
1	9/25	本学教員	オリエンテーション及び「ボランティアとは」
2	10/2	各学部の専門性と社会連携の意義 NPO 法人ハートアートリンク	デザインと社会連携活動
		NPO 法人岡山ロボット技術子ども育成協会	情報工学と社会連携活動
		医療法人創和会しげい病院	保健福祉と社会連携活動
3	10/9	認定 NPO 法人 ハーモニーネット未来	子どもからお年寄りまでの支援
		認定 NPO 法人 おかやまエネルギーの未来を考える会	エネルギーを通じたまちづくり
4	10/16	（株）マルシン物流 （株）タカヤ	企業の社会的責任とその役割
5	10/23	レッドライスカンパニー （株）長崎鐵工所	企業の社会的責任とその役割

6	10/30	総社市総合政策課	総社市における市民活動支援と行政の役割
7	11/ 6	総社市社会福祉協議会 要約筆記吉備うさぎ会	ボランティアセンターの役割 ボランティアの実践事例
8	11/ 20	本学教員	まとめ



外部講師による講演

グループワーク

④「**地域再生実践論**」第 1 クォーター・2 年次生・1 単位（選択）

授業科目の到達目標を，

(1) 地域課題の解決に向けた地域資源の活用事例から，その効果を理解する．

(2) 地域活性化に向けた地域資源の活用法を考える力を身につける．

(3) 自立的に課題解決方法を考える応用力を身につける．

と設定している．

開講初年度は 113 名，開講 2 年目は 96 名と減少したが，3 年目となる今年度は 131 名となり最も多くの履修を得ることができた．表 6 のスケジュールに示すように，COC+協働機関である 4 市（総社市，笠岡市，備前市，真庭市）から，「地域協働演習」における活動先を中心に外部講師を招聘し，各地域における課題解決に向けた実践活動例の紹介，課題解決の困難さ，学生・若者への地域の期待などを講演していただいた．100 名近い履修者があったため，隣席学生との意見交換，グループワークなど，アクティブ・ラーニングの要素を取り入れながら実施をした．

表 6．令和元年度「地域再生実践論」スケジュール

No.	月日	担当	テーマ
1	4/10	本学教員	オリエンテーション
2	4/17	岡山大学教員	新聞記事から学ぶ地域創生
3	4/24	NPO 法人英田上山棚田団，備前市総務部	地方創生実践
4	5/ 8	鶴田石材（株），田中実業（株）	岡山を知り岡山を活性化する 岡山県商工会議所連合会寄付講座
5	5/15	（株）アールケア，（株）大和エス・イー・シー	岡山を知り岡山を活性化する 岡山県商工会議所連合会寄付講座
6	5/22	真庭市林業バイオマス産業課	岡山を知り岡山を活性化する
7	6/5	元島おこし海援隊（笠岡市）	岡山を知り岡山を活性化する
8	6/12	本学教員	まとめ

講義の様子

⑤**「地域協働演習」**通年（主に夏季休業中）・2 年次生・2 単位（選択）

前述の「地域再生実践論」同様，副専攻「岡山創生学」の創設に伴い，2 年次生対象に開講する選択科目として昨年度に新設された演習科目であり,今年度は 3 年目の開講となる．授業科目の到達目標は,

(1) 地域住民や NPO との協働を通して，地域課題を見定める．
(2) 地域住民や NPO との協働を通して，リーダーシップとフォロワーシップを適切に発揮し，地域課題の解決，地方創生に向けた提案をする．
(3) これまでに修得した学部・学科の専門性が，どのように地域社会に貢献できるかを自ら考える．

と設定されている．

開講初年度は，63 名の学生が 5 グループ,昨年度は 48 名の学生が 7 グループ,今年度は 53 名の学生が 7 グループに分かれて地域課題に取り組んだ．6 月 16 日(日)の事前学習（グループの顔合わせ，活動目標の設定，注意事項など）の後，協定を締結している 4 市（総社市，笠岡市，備前市，真庭市）において，概ね 6 月下旬～9 月初旬の期間内で活動先ごとに 8 日間のフィールドワークを実施した．そして，活動報告を含む事後学習が 9 月 28 日(土)に開催された．事後学習では，地域活動での成果をグループ毎にポスター発表し，学生が他グループを巡回しながら質疑応答を行う形式で発表した．

[A] 総社市「英語を学び，英語で遊ぶ子どもたちと創ろう“英 PLAY キッズ夏祭り”」

参加人数　4 名
受入団体　ボランティアグループ英 PLAY
活動内容　英語に対して興味を持ってもらうという課題に対して，英語を使用してお店で会話したり，イベントを開き，説明を英語で行ったりすることで，英語に触れ合うことのできる機会を作ることを提案した．
日　　程　7/6,20,8/3,19,20,30,31,9/9　山手公民館

[B] 総社市「こども造形ひろば」

参加人数　10 名
受入団体　そうじゃ ぼっけえ造形の会
活動内容　学習要領の改訂により，子ども達が芸術に触れあう機会が少なくなっているという問題に対して，小学生と地域の方々との年齢や学校を越えた造形活動の場を設けることで，子ども達が自由に発想・表現して芸術に楽しむ機会を増やすことを提案した．
日　　程　7/13,8/23,29,9/7　総社市立常盤小学校
　　9/13,14,15　総社市立図書館

活動の様子

[C] 総社市「地域住民の情報を基にした商店街通りを活気づける方法の提示」

参加人数　5名
受入団体　NPO法人総社商店街筋の古民家を活用する会
活動内容　商店街通りでお店を開いている人や、住人に通りやお店についてインタビューした.そこで得た情報を整理し、商店街通りの地図を作成し店舗を増やす方法を提案した.
日　　程　6/22,8/16,24,9/14,21　旧堀和平邸
　　7/6,27　総社宮
　　7/13　学塾　誠和学舎

[D] 総社市「日本遺産「桃太郎伝説の生まれたまち」の魅力ある観光プランニング」

参加人数　4名
受入団体　吉備路ボランティア観光ガイド協会
活動内容　吉備路には抱負な観光資源を抱えながらも,ＰＲ不足のために観光客が少ないため,実際に大学生が古代吉備の遺跡を巡り,観光コースをまとめ,ガイドを行った.さらに,パンフレットを作成した.
日　　程　8/18,9/20　吉備路観光センター
　　8/24,31　遺跡巡り
　　9/1　総社支庁舎
　　9/15,16　観光コース案内

[E] 真庭市「木山　HOLY TRAIL Project」

参加人数　10名
受入団体　木山郷土保存会
活動内容　多くの若者や家族連れが訪れてもらえる魅力ある地域づくりの提案として,地域にあるお寺や神社をつなぐ古道を活用し,若者に人気のあるマウンテンバイクイベントを企画,告知および実施した.
日　　程　8/20,21,22,9/9,10,11　木山寺・木山神社

活動の様子

[F] 笠岡市「生活体験を通じた地域の魅力理解と実践および提案」

参加人数　10 名
受入団体　六島まちづくり協議会
活動内容　島外の人への知名度が低いことや,島外の人が観光に訪れても,案内が不十分で分かりにくいため, 看板の作成や設置を行い,SNS を活用した知名度向上計画の立案,草刈りなどの整備活動,特産となるレモンを生かした商品開発の提案を行った.
日　　程　7/7　　かさおかコモンズ
　　8/19,20,21,22 島小屋

[G] 備前市「移住政策を進めるために」

参加人数　10 名
受入団体　片上地区支えあい実行委員会
活動内容　若者の移住定住の推進を進めるために、まずは備前市について知ってもらうことが大事であり、そのための観光マップとパンフレットを作成した.また移動手段のためのレンタルサイクル設置の提案も行った.
日　　程　8/10　　片上地区タウンウオッチング
　　8/11,12　片上盆踊り
　　8/13　　陶芸センター
　　8/19,26　岡山県立大学　ミーティング
　　8/27　　備前市市民センター

ポスター形式による事後学習

⑥「企業の組織と活動」前期集中・3 年次生・1 単位（選択）

企業とはどういうものか, その組織と活動から働くことの意味等, 役員クラスの 3 名のオムニバス方式で講義を進めた. 講義の感想レポートと出席で評価している. 学生からは, 琴

線にふれる内容で感動した旨の感想も多い.

⑦**「起業の条件」**前期集中・3年次生・1単位（選択）

講義内容については，起業のために必要な知識（ベンチャー立上げとその持続及び知的財産）の修得を目的としており，その目的に沿った内容になっている．授業アンケートを通した評価は高く，有意義な講義を実施していると判断される．授業担当者として，実務経験者2名を非常勤講師としている．これは本授業の目的から，実務経験者が最適であり，今後も実務経験者雇用の継続が望ましいと考える．履修学生は，デザイン学部と情報工学部の学生である．将来，起業を考えている学生は，極めて熱心に受講している．

⑧**「地方自治論」**第2クォーター・3年次生・2単位（選択）

3年次対象科目であることから，今年度より副専攻「岡山創生学」科目としての開講となった．このため，今年度から新設される自治体での長期インターンシップ科目「地域インターンシップ」の事前学習も兼ねる内容となるよう，地方自治の仕組みや制度，地方自治体の活動や住民との関係性について理解を深め，地方自治の現状と課題，特に，地方自治体にとって喫緊の課題である地方創生について，岡山県の状況を中心に考察する機会とする内容とした．あわせて，行政サービスを提供する側，受ける側の観点から，それぞれの責任と役割を考える契機とした．

⑨**「地域インターンシップ」**通年（主に夏季休業中）・3年次生・4単位（選択）

共通教育科目として，平成30年度から開講となった自治体における長期インターンシップ科目である．主に夏季休業期間の約4週間を活用し，自治体での職場体験活動を通して，仕事や組織の仕組み，仕事の流れ，職場における人間関係などの理解を深めることを目的としている．特に，

(1) 自治体職員との交流を通して，学生視点では得られない地域との関わりを理解する．
(2) 自治体でのインターンシップを通して，社会人として必要なスキルや行動規範を身に付ける．
(3) 行政サービスを受ける側の視点から，提供する側への提言を行う．

ことを主眼とした．今年度は，3年次生12名（保健福祉学部3名，情報工学部8名，デザイン学部1名）が表7に示す自治体で職場体験活動を行った．

表7．令和元年度「地域インターンシップ」受入自治体と実績

No.	受入自治体	主な受入部署（順不同）	人数
1	岡山県庁	情報政策課,建築指導課,建築営繕課,備前局管理課,建築指導課,県立美術館	4
2	総社市役所	政策調整課，観光プロジェクト課，総務課人材育成推進室,生涯学習課,環境課,学校教育課,建築住宅課,文化芸術課,スポーツ振興課,復興推進課，環境課，市民課,	5
3	笠岡市役所	地域福祉課，生涯学習課，人事課,財政課,中央公民館,議会事務局,図書館	1
4	赤磐市役所	総合政策部秘書広報課	1
5	岡山市役所	岡山市保健所健康づくり課	1
		合計	12

自治体における実習の様子

実際に自治体に出向くまでの事前学習は,「地域インターンシップ」と同様に平成 30 年度から開講している企業における長期インターンシップ科目「エンジニアリング演習」と合同で，次のスケジュールで実施した.

5 月 7 日　　インターンシップ説明会（学生支援班と共同開催）
5 月 7 日～25 日　マッチング相談，自治体事前面接(希望自治体のみ),
　　エントリーシート提出
4 月 26 日　　インターンシップ説明会
5 月 27 日～6 月 5 日　　受入先決定通知，学生カード・誓約書の提出
6 月 21 日　　事前学習
7 月 5 日　　マナー講座
7 月 8 日～31 日　受入先への事前訪問（受入先が希望する場合）

4 月 26 日(金)開催のインターンシップ説明会は，従前，学生支援班が開催していた説明会を活用し，短期インターンシップへの参加説明を含む形で行われた．6 月 21 日(金)開催の事前学習では,長期インターンシップ科目の履修者に対し,各科目の達成目標,成績評価,事務的な手続きなどを説明した．また，7 月 5 日(木)開催のマナー講座では，岡山県社会保険労務士会から社会保険労務士の資格を持つキャリア設計デザイナーを外部講師として招き，働くことの意義，社会人としてのマナーなどを，実習を含む形式で学んだ.

「エンジニアリング演習」と合同で外部講師を招いてのマナー講座

インターンシップ終了後，11 月 14 日(木)に受入先担当者を招いての報告会を学内で開催した．通常の授業では，決して得られることのできない貴重な体験を積んだことが報告された．また，同じ自治体であっても，配属部署によって業務内容が異なることなどを実体験として得ることができたようである.

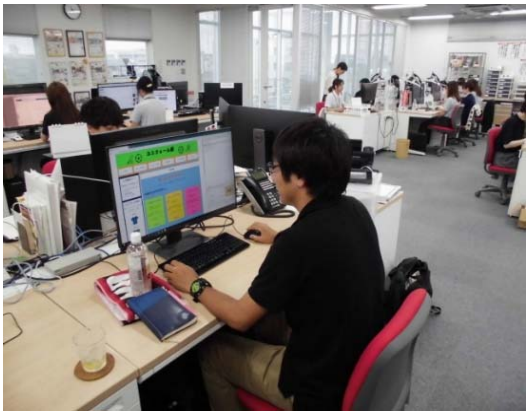
受入先担当者を招いての成果報告会

⑩**「エンジニアリング演習」**通年（主に夏季休業中）・3 年次生・4 単位（選択）

情報工学部の学部教育科目として，平成 30 年度から開講となった企業における長期インターンシップ科目である．主に夏季休業期間の約 4 週間を活用し，アルバイトとは違う「働く（就業体験）」を通して，職場の雰囲気，社会の基本的なルールやマナーに触れ，自分自身の将来の職業に関する意識を形成することを目的としている．専門分野に関連する業務活動を企業や団体で体験することで，技術者としての自覚，授業で修得した知識・技術の応用力，進路選択への心構え等を育成することが期待される．今年度は，情報工学部 3 年次生 16 名が，表 8 に示す企業 12 社で職場体験活動を行った．

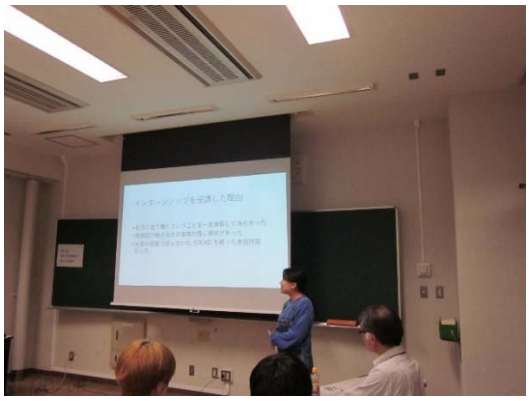
表 8．令和元年度「エンジニアリング演習」受入企業と実績

No.	受入企業	人数
1	(株)アステア	1
2	(株)アクシス	1
3	(株)イタミアート	2
4	内山工業(株)	1
5	オージー技研(株)	1
6	岡山ネットワーク(株)	1
7	興南設計(株)	1
8	(株)システムズナカシマ	1
9	(株)トンボ	1
10	ヒルタ工業(株)	2
11	松芝エンジニアリング(株)	2
12	タカヤ(株)	1
	合計	16



企業における実習の様子

実際に企業に出向くまでの事前学習は，「地域インターンシップ」と合同で，先に述べたスケジュールで実施した．インターンシップ終了後，10 月 24 日(木)に受入先担当者を招いての報告会を学内で開催した．通常の授業では，決して得られることのできない貴重な体験を積んだことが報告された．



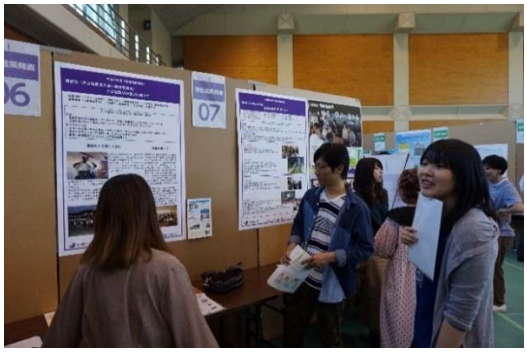
受入先担当者を招いての成果報告会

1-4 学修成果の発表

1-4-1 「OPU フォーラム 2019」

開学記念日となる 5 月 29 日に毎年開催されている「OPU フォーラム」において，昨年度の「地域協働演習」履修学生が，7 つのテーマでポスター発表を行った．

(1) 総社市「英語を学び・英語であそぶ子どもたちと創ろう“夏の英 PLAY イベント”」（英 PLAY）
(2) 総社市「こども造形広場・特別講座」（総社市ぼっけえ造形の会）
(3) 総社市「地域の豊かな生活を創るイベント「あかりおひろい」魅力化プロジェクト」（総社商店街筋の古民家を活用する会）
(4) 笠岡市「若者から見た白石島の魅力を発信するための WEB 素材作成」（笠岡市協働まちづくり課,白石・島づくり委員会）
(5) 笠岡市「漁業・海洋資源を生かした NEW プランの提案」（笠岡市協働まちづくり課,NPO 法人大島まちづくり協議会）
(6) 備前市「片上盆踊りの復活に向けて」（片上地区支えあい実行委員会）
(7) 真庭市「木山寺発展プロジェクト」（木山郷土保存会）



「OPU フォーラム 2019」ポスター発表

1-4-2 全国公立大学学生大会「LINKtopos」

岡山県立大学を代表して、7 名の学生が，9 月 3 日(火)～5 日(木)に高知県立幡多青少年の家及び大方あかつき館で開催された令和元年度全国公立大学学生大会「LINKtopos in 高知」に参加した．

「LINKtopos」は，2011 年の東日本大震災を契機に，2013 年に発足した公立大学学生ネットワーク（通称：LINKtopos）が中心となって毎年開催されている．今回は全国 41 の公立大学から 180 名以上の学生・教職員が参加した．

第 1 日は，各大学における地域活動を報告し合い，意見交換や課題を共有した．

第 2 日は，黒潮町長による南海トラフとの対応策について講演があり、その後、外部講師より，「防災イベントを立案する」，「災害時に情報を正しくわかりやすく伝える方法を考える」，「学生にとって必要な防災教育とは何か」の 3 テーマに分かれ，ワークショップを開催した．

第 3 日は，地区別に分かれ，今後の大会への展望についての意見交換をした．

昨年度の課題を受け，普段から地域で積極的に活動している学生グループの学生が参加したことで，活動の持続性が感じられた。

ワークショップでは積極的に交流しました！

1-4-3 おかやま COC+シンポジウム 2020

今年度における副専攻「岡山創生学」の学修成果として，2 月 17 日(月)にメルパルク岡山

にて開催された「おかやま COC+シンポジウム 2020」では,「地域創生推進士」候補学生計 28 名が，副専攻「岡山創生学」の 3 年に渡る学修成果について,岡山理科大学および就実大学を含めた計 10 件のポスター発表を行った.単に発表を行うだけでなく，シンポジウムの企画段階から関わり，当日の受付，会場案内，総合司会，パネリスト，コーディネーターなど多種多様に担当した.

表 9.「おかやま COC+シンポジウム 2020」ポスター発表

No.	グループ名	人数
1	岡山理科大学	4
2	就実大学	8
3	地域創生推進士 A	4
4	地域創生推進士 B	4
5	地域協働演習	2
6	地域インターンシップ	5
7	エンジニアリング演習	4
8	地域保健福祉演習	4
9	チームガバナビリティ演習	4
10	管理栄養士	3
	合計	42

「おかやま COC＋シンポジウム 2020」にて登壇し，ポスター発表しました.

1-5 「地域創生推進士」の授与

副専攻「岡山創生学」は，地域「おかやま」を知り，地域「おかやま」を学ぶだけでなく，地域「おかやま」に飛び出して，学生の社会人力を地域とともに育てることを目的としており，表 2 に示す必要単位数を修得し，修了認定を受けた者に『地域創生推進士』の称号を授与することとしている．従来は卒業時に『地域創生推進士』の称号を授与することとしていた．しかし，学生の就職活動が本格化する 3 年次 3 月に授与することにより，履歴書への記入など学生の就職活動に利することとの判断から，次に示す認定要件と共に詳細を決定した．その結果，3・4 年次生の 27 名が「地域創生推進士」の候補者となり，3 月 2 日(月)に「地域創生推進士」認定証の授与式を開催し，学長より授与した.

【地域創生推進士の認定要件】
次の（1）及び（2）を満たす学生に「地域創生推進士」の称号を授与する.
(1) 表 2 中，次に示す必要単位を取得すること.

(ア)「おかやまボランティア論」,「おかやまボランティア演習」,「おかやまを学ぶ」,「地域再生実践論」,「地域協働演習」の計 6 単位．なお，★印で示される授業科目は，通常は選択科目であるが，地域創生推進士の認定を受けるためには，必ず修得すること．

(イ)「地方自治論」,「地域インターンシップ」,「企業の組織と活動」,「起業の条件」,「チームガバナビリティ演習」,「地域保健福祉演習」,「エンジニアリング演習」,「デザインプロジェクト演習」の中から 4 単位．ただし，保健福祉学部学生は「統合実習」,「公衆栄養学実習Ⅰ」,「公衆栄養学実習Ⅱ」,「ソーシャルワーク実習」,「保育実習ⅠB」の中から 2 単位以上を修得すれば，必要単位数の中から 2 単位を修得したものとする．なお，◆印で示される授業科目を 1 科目以上含むこと．

(2) 次に示す公開イベントのいずれかにおいてポスター発表あるいは口頭発表を行うこと．

(ア)おかやま COC+シンポジウム

(イ)OPU フォーラム

(ウ)公立大学協会 LINKtopos 学生大会

(エ)その他，COC+推進本部会議が認定する公開イベント（地域創生コモンズ開所式など）

ただし，今後変更することがある．

「地域創生推進士」授与式（3 月 2 日(月)）

1-6 PROG テストによる学修評価

9 月～10 月にかけて，副専攻「岡山創生学」2 期生である 3 年次生がジェネリックスキル（リテラシー及びコンピテンシー）を定量的に測定する PROG テスト（河合塾，(株)リアセック共同開発）を受験した．3 年次生は入学時の平成 29 年 6 月にも PROG テストを受験しており，入学後 3 年間の学修成果としてのジェネリックスキルの成長を評価した．PROG テス

トにより，表 10 に示すリテラシー，コンピテンシーに関する構成要素を定量的に測定することができるとされている（コンピテンシーについては，さらに計 33 個の小分類が定義されている）．これらの構成要素は，経済産業省が 2006 年に提唱した「社会人基礎力」，文部科学省中央教育審議会が 2008 年に定義した「学士力」に対応するものとなっている．

表 10．PROG テストの構成要素

	大分類	中分類	
		要素名	定義
リテラシー	問題解決力	情報収集力	課題発見・課題解決に必要な情報を見定め，適切な手段を用いて収集・調査，整理する力
		情報分析力	収集した個々の情報を多角的に分析し，現状を正確に把握する力
		課題発見力	現象や事実の中に隠れている問題点やその要因を発見し，解決すべき課題を設定する力
		構想力	さまざまな条件・制約を考慮して，解決策を吟味・選択し，具体化する力
	言語処理力		語彙や同義語，言葉のかかり受けなど，日本語の運用に関する基礎的な能力
	非言語処理力		数的処理や推論，図の読み取りなど，情報を読み解くために必要な（言語以外の）基礎的な能力
コンピテンシー	対人基礎力	親和力	相手の立場に立ち，思いやりを持ち，共感的に接することができる．また，多様な価値観を柔軟に受け入れることができる．
		協働力	お互いの役割を理解し，情報共有しながら連携してチーム活動することができる．また，時には自分の役割外のことでも進んで助けることができる．
		統率力	どんな場・どんな相手に対しても臆せず発言でき，自分の考えをわかりやすく伝えることができる．また，そのことが議論の活性化につながることを知っており，周囲にもそうするよう働きかけることができる．
	対自己基礎力	感情制御力	自分の感情や気持ちをつかみ，状況にあわせ言動をコントロールできる．また，落ち込んだり，動揺したりした時に，独自で気持ちを立て直すことができる．
		自信創出力	他者と自分の違いを認め，自分の強みを認識することができる．また，「やればなんとかなる．自分がやれば大丈夫」と自分を信頼し，奮い立たせることができる．
		行動持続力	一度決めたこと，やり始めたことは粘り強く取り組みやり遂げることができる．また，それは自分が自分の意思・判断で行っていることだと納得をして取り組むことができる．
	対課題基礎力	課題発見力	さまざまな角度から情報を集め，分析し，本質的な問題の全体をとらえることができる．また，原因は何なのかを特定し，課題を抽出することができる．
		計画立案力	目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てることができる．また，その計画が妥当なものであるか，

			一貫した関連性があるものかを評価し，ブラッシュアップできる．
		実践力	幅広い視点からリスクを想定し，事前に対策を講じる．まら，得られた結果に対しても検証をし，次回の改善につなげることができる．

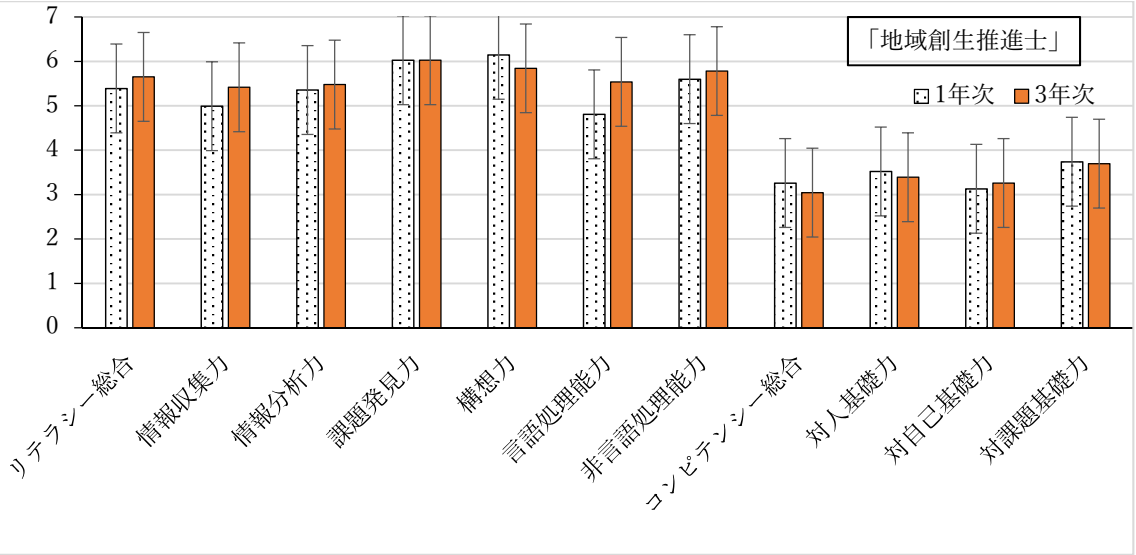
（出典）リアセックキャリア総合研究所(監修)，「PROG 白書 2018」，学事出版，2018

平成 29 年度入学生に対して，「地域創生推進士」と「地域創生推進士」以外で，入学後の 2 年間でジェネリックスキルの変化に差がみられるかを考える．なお，対象のデータ数は表 11 に示すとおりである．

表 11．平成 29 年度入学制の PROG テスト受験者数

	1 年次受験者数 （平成 29 年 6 月受験）	3 年次受験者数 （平成 31 年 9～10 月受験）
「地域創生推進士」候補者	27	23
「地域創生推進士」候補者以外	377	324
計	404	347

表 10 に掲げたリテラシー6 項目（中分類 4 項目と大分類 2 項目），コンピテンシー3 項目（大分類）に対して，「地域創生推進士」と地域創生推進士以外の平均値の経年変化を図 6 に示す．なお，図 6 のエラーバーは標準偏差としている．



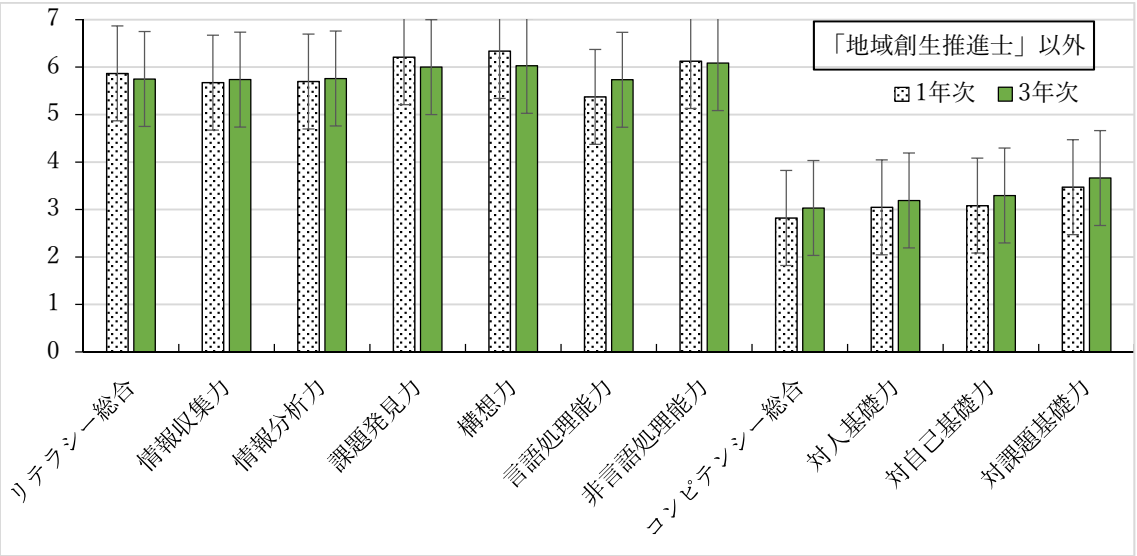


図 6.「地域創生推進士」と「地域創生推進士」以外の PROG テスト結果 2 年間の変化．ただし，リテラシー6 項目（情報収集力から非言語処理能力まで）は本来 5 点満点であるが，これを 7 点満点に換算した．他の項目は 7 点満点である．

「地域創生推進士」は「地域創生推進士」以外に比して，リテラシー総合得点が 2 年後に向上しており，中でも情報収集力，情報分析力による違いが大きかった．言語処理能力，非言語処理能力のリテラシーにおいてもその傾向が顕著であった．一方で，コンピテンシーに関しては，昨年度（一期生）同様に入学時において，推進士以外よりもやや高いスコアを有していた．大分類の対人基礎力，対課題基礎力において同様の傾向であり，地域創生推進士は入学時から地域活動などに関心を持っていた者が多く受講したのではないかと推察される．しかし，2 年間の推移をみると，対自己基礎力は上昇したものの，対人基礎力，対課題基礎力においては推進士以外のような顕著な上昇はみられなかった．この点についても昨年度同様の傾向であり，副専攻「岡山創生学」で育成する能力と共通教育も含めた主専攻で育成する能力について，共通点と相違点を明確にする検討が必要である．「地域創生推進士」は，3 年間に渡り毎年度，地域活動を行う副専攻「岡山創生学」演習科目を履修しており，自己の成長を感じ取ることができた一方において，実際の地域課題の複雑さ，課題解決への困難さを実感したことが推察されるが，これらの学修成果が本テスト結果にどのように反映されているのかは検討の余地がある．

今後は社会人基礎力や学士力に代表されるジェネリックスキルを経年的に評価し，副専攻「岡山創生学」による学修効果を効率的に測定する手法の開発が望まれる．

1-7 正課外での活動

副専攻「岡山創生学」の授業科目以外（正課外）においても，表 11 に示す課外活動を学生が実践している．

表 11．正課外における地域活動

No.	日程	活動地区	概要	学生数（学科）
1	4 月 21 日～5 月 5 日	総社市カミカツジプラザ	総社芸術祭 2019「総社の力」への作品展示の協力	8 名（造形デザイン学科）

2	8 月 3 日	本学	コミュニティキャンパスおかやま（親子で学ぶプログラミング教室）	4 名（情報通信工学科）
3	8 月 21 日 22 日	倉敷市真備町川辺	子どもの居場所作り活動ボランティア	2 名（保健福祉学科） 2 名（人間情報工学科） 6 名（デザイン工学科）
4	9 月 12 日	本学	コミュニティキャンパスおかやま（元気なからだ教室・調理実習編）	8 名（栄養学科）
5	10 月 24 日	本学	コミュニティキャンパスおかやま（元気なからだ教室・運動講座編）	4 名（栄養学科）
6	11 月 9 日	備前市総合運動公園	子ども応援フェスタでの子育て支援活動	8 名（保健福祉学科・子ども学専攻）
7	11 月 18 日	総社市	コミュニティキャンパスおかやま（歩得健康商品券健康講座）	4 名（人間情報工学科）
8	12 月 1 日	真庭市別所	コミュニティキャンパスおかやま（タウンミーティング）	1 名（デザイン工学科） 2 名（造形デザイン学科）
9	12 月 15 日	赤磐市熊山英国庭園	コミュニティキャンパスおかやま（手作りおもちゃ教室）	1 名（保健福祉学研究科） 1 名（保健福祉学科子ども学専攻）
10	2 月 16 日	笠岡市カブトガニ博物館	コミュニティキャンパスおかやま（手作りおもちゃ教室）	2 名（保健福祉学研究科）
11	9 月 26 日～ 2 月 20 日	本学	メディカルフィットネス講座	延べ 68 名（看護学科・栄養学科・人間情報工学科・造形デザイン学科）

活動の様子

1-8 まとめと課題

今年度は，平成 27 年度に選定された COC+事業「地域で学び地域で未来を拓く‘生き活きおかやま’人材育成事業」に基づいて設置された副専攻「岡山創生学」の第 4 年度であった． 4 度目の開講となった 1 年次対象科目では，

- アクティブ・ラーニングの強化（「おかやまボランティア論」，「おかやまを学ぶ」）
- より広い業種におけるボランティア実践者の招聘（「おかやまボランティア論」）

- 岡山県内の各界から3学部の特性を考慮した講師による講演の導入(「おかやまを学ぶ」)
- 活動日誌などの文書整備（「おかやまボランティア演習」）

などの改善を行い，必ずしも十分ではないものの，昨年度より高い学修効果を得ることができた．3度目の開講となった2年次対象科目では，

- 「地域協働演習」での活動を意識した外部講師の選定（「地域再生実践論」）
- アクティブ・ラーニングの積極的な導入（「地域再生実践論」）
- 活動日誌などの文書整備（「地域協働演習」）

などを意識した授業設計を行った．また，2回目の開講となった3年次対象の長期インターンシップ科目（「地域インターンシップ」，「エンジニアリング演習」）では，

- 外部講師によるマナー講座など事前学習の充実
- 受入先担当者を招いた報告会の開催

などに力を入れて授業を実施した．

平成27年度からの副専攻「岡山創生学」4年間の実施，成果を踏まえ，次年度以降に向けたカリキュラムの見直しを行った結果，社会連携，サービスラーニングに関する基礎的な学びを強化する目的で，「おかやまボランティア論」を「社会連携要論（1年次，必修)」と名称変更し，第2クォーターに配置することとした．また，「おかやまを学ぶ」は「地域資源論（1年次，必修)」と名称変更し，地域「おかやま」に関する学びは継承し，地方創生に関係する人，物，事などの地域資源の発見，活用等に焦点を当てた授業内容へと深化させることとした．更に，「おかやまボランティア演習」と「地域協働演習」を発展的に統合し，「地域創生演習（1 年次，選択)」として初年次に開講することで，地域での学びをより早い段階から実践し，2年次へと開講時期を早めた「地域インターンシップ」，3年次での「エンジニアリング演習」に代表される専門課程での実践へ途切れることのないスムースなカリキュラムを実現した．

今後の課題として，例えば，以下のものが挙げられる．

(1) 副専攻「岡山創生学」としての教育目標を，より一層明確化し，学修成果の評価指標及び評価方法を継続的に改善する．
(2) 「地域インターンシップ」，「エンジニアリング演習」など，自治体，県内企業における長期インターンシップを含む授業科目を適切に設計するためには，域学連携，産学連携との協働が必須であり，今まで以上に密な連携が求められる．
(3) 各授業科目及び副専攻「岡山創生学」を通した評価方法を確立させる必要がある．
(4) 副専攻「岡山創生学」授業科目及び正課外活動を通じた学生のキャリア形成，社会人基礎力・学士力を涵養する学内教育システムを構築しなければならない．
(5) 公立大学としての本学の地域連携教育の位置づけを明確にするとともに，教職員一体となったシステム作りは喫緊の課題である．

一方において，学生が主体となって結成されたボランティア団体には，「おかやまボランティア演習」を受講した1年次生，「地域協働演習」を受講した2年次生，ボランティアに興味を示す学生が参加しており，地域連携教育に対する教育改革の効果が出ている．今後は，これまでの実績に基づき，地域社会と学生ボランティア団体との繋がりを強化し，これらをコーディネートする組織の設置，システム化を進めていくことが必要となる．

第３章　大学院における教育活動と成果

1 大学院における教育活動と成果

1-1 概要

本学大学院では,各研究科・専攻で設定するディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき,より高度な専門性を備え,社会進出にあたって指導的な立場に立つことのできる人材や研究者の育成を目指している.以上を基本として,少子高齢化やグローバル化さらには地方創生の観点から地域連携の視点に基づいて,専門分野の知識・スキルを活かして課題解決を図ることのできる人材育成のため,各研究科において,従来の高度な専門教育に加えて教育プログラムの多様化や授業内容及び研究指導法の工夫改善に取組んでいる.

以上の取組を実社会において活かせるようマネジメントの視点から総合学習し，かつアクティブ・ラーニングにより主体的な学習態度を形成するため，試行をへて研究科共通科目として開講した授業科目「プロジェクトマネジメント実践論」（英語使用）は３年目を迎えた。また、今年度より「アカデミック・プレゼンテーション演習」ならびに,「学際研究論」を研究科共通科目として開講することとし，研究科学生におけるグローバルな研究姿勢や幅広く学際的な研究視野の獲得に資することとした.

1-2　保健福祉学研究科

1-2-1　概要

本学大学院では，各研究科・専攻で設定するカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに基づき，高度な専門性を備え，社会進出にあたって指導的な立場に立つことのできる人材や研究者の育成を目指している．少子高齢化やグローバル化に対応して，専門分野の視点から課題解決を図ることのできる人材育成のため，各研究科において，大学院教育プログラムや授業内容及び研究指導法の工夫改善の取組みを継続している．

1-2-2　博士前期課程

1-2-2-1 看護学専攻

(1)グローバル教育

今年度は、「国際保健看護学特論」の受講者がなく，ネパールに出向いての演習は実施されなかったが，香港理工大学から教員 2 名が 8 月に来学し，研究方法に関する授業を聴講することが出来た．また、香港理工大学学生が研修のために来学した際には，スタッフとして細やかなサポートを提供した．国際学会では，2 名の学生が，2020 年 1 月 10 日～11 日タイで開催された The 23rd EAFONS に参加し、研究発表を行った.以上のような体験から，学生は英語でのコミュニケーション力を養うとともに，海外での看護に触れることができた．

(2)地域連携教育

疫学演習で総社市健康増進計画中間評価としてのアンケート集計分析から課題整理・提言を行い，公衆衛生看護展開論・演習における事業の PDCA サイクルの理解につなげた．公衆衛生看護診断論・演習として地域包括支援センターと共催で年間 6 回の認知症カフェを企画・実施・評価した．加えて，公衆衛生看護展開論・演習及び公衆衛生看護管理論を連動させた演習では，総社市保健師・事務職に成果をプレゼンし講評を得た．アセスメントの一部は第 4 回岡山県地域包括ケアシステム学会でポスター発表した．

なお，認知症カフェは，単位取得済のM2 がＴＡとして加わり屋根瓦方式の演習とした．結果，院生は学びを深化させ，M1 及び学部生は身近な先輩と共に学び，看護師教育から保健師教育への円滑な連動となった．

1-2-2-2　栄養学専攻

(1)グローバル教育

2019 年 6 月 14 日に岡山県立大学において，カセサート大学（タイ）との合同ワークショップを開催した．カセサート大学からは Sombat Chinawong 博士を含む 4 名の研究者が、本学からは 3 名の栄養学科教員と 2 名の博士後期課程学生がそれぞれ英語で講演を行った．ワークショップには，本学栄養学科を中心とする約 40 名（教員 12 名，博士後期課程学生 4 名，博士前期課程学生 8 名，学部生 15 名他）が参加し，活発な質疑応答や情報交換などを通してカセサート大学の研究者との交流を深めた．

また，2019 年 9 月 23 日にカセサート大学の食品研究開発センターで開催された国際セミナー「International Seminar on Future Food for Well Being - Aging Society」において，栄養学科教員 2 名と栄養学専攻所属の博士前期課程学生 5 名が講演を行った．自分の研究を英語で紹介することは初めてという学生がほとんどであったが，栄養学・食品学を専門とする海外の研究者や学生とのディスカッションは、プレゼンテーション力・語学力・コミュニケーション力の向上に繋がる貴重な経験になったと思われる．

(2)地域連携教育
岡山県立大学大学祭にあわせて例年実施される岡山県栄養士会総社支部の事業において、管理栄養士として、栄養指導の協力や食育活動に取り組み，専門職として経験を積む良い機会を得た.

1-2-2-3　保健福祉学専攻

(1)グローバル教育
令和元年 11 月 7 日に，前・又松大学の岡田節子教授を招聘し，韓国の社会問題に関する現状と課題に関する講義を開講した．5 名の院生が聴講し，韓国の少子化と要保護児童に関する問題等について学ぶことができた.

(2)地域連携教育
1 名の院生が，岡山県の補助金により，児童虐待予防のためのコモンセンスペアレンティングプログラムに関わる講演会を開催し，参加者とともに地域の子どもが抱える課題と課題解決方法について学ぶことができた.

1-2-3　博士後期課程

1-2-3-1　看護学大講座
学術交流協定校であるネパールのトリブバン大学からの留学生が 1 名在籍しており,着実に研究を進め，令和 2 年 1 月 10 日～11 日にタイで開催された The 23rd EAFONS で研究発表を行った．また，学生 3 名が令和 2 年 2 月 28 日～29 日に日本で開催された he 6th WANS で研究発表を行い，学生 1 名の研究論文が国際誌に掲載された．少しずつ，国際学会での研究発表や国際誌への論文投稿が増えており，研究の国際化が進んでいる.

1-2-3-2　栄養学大講座
学術交流協定校であるインドネシアのハサヌディン大学から 1 名，中国の南昌大学から１名の留学生が博士後期課程に在籍している．来年度には，同じく南昌大学からの留学生を新たにもう１名博士後期課程に受け入れる予定で，交流協定校との交流が着実に進んでいる.
また，令和元年 6 月 14 日に，カセサート大学（タイ）と岡山県立大学の合同ワークショップが本学にて開催され，栄養学大講座に所属する学生 2 名が英語で研究発表を行った．また，本学学生のうち，博士後期課程学生 4 名，博士前期課程学生 8 名，学部生 15 名がワークショップに参加した.

1-2-3-3　保健福祉学大講座
令和元年 10 月 22 日に，サンディエゴで行われた国際 QOL 学会で、1 名の院生が地域高齢者のメンタルヘルスとウェルビーイングに関する発表を行った。

1-2-4　まとめと課題
大学院のグローバル教育の推進に関連して、海外特別奨学生としてインドネシアのハサヌディン大学から栄養学大講座への 1 名の受け入れ、さらに中国の南昌大学から留学生 1 名を栄養学大講座へ受け入れ、その研究成果も国際学会で発表され、着実に共同研究が進んでいる．さらに看護学大講座でも学術交流協定校であるネパールのトリブバン大学から留学

生１名を受け入れ、研究指導が進められている．来年度はさらに海外特別奨学生として中国の南昌大学から留学生１名を栄養学大講座で受け入れる予定で、新制度を活用した留学生の増加は順調に進んでおり、さらなる共同研究の成果が期待される．来年度は保健福祉学分野におけるグローバルな研究能力を養い、同時に異文化理解を深め、専門分野について外国語で異文化圏の人達とのコミュニケーションをはかる力を高めることを目的として海外研修（保健福祉学研究）を新設する．今後は交流のさらなる質的充実を目指し、国際的な共同研究ならびにグローバル教育への活用を進めていく必要がある．一方、2019 年度は栄養学専攻が定員を下回っており、今後は本学学生や社会人に本学教員の研究内容をわかりやすく伝えるなど、地道な広報活動を続けることも必要である．

1-3　情報系工学研究科

1-3-1　概要

情報系工学研究科では，急速に発展する環境の変化に対応するために，既存の教育研究分野にとらわれず幅広い視野を持ち，それぞれの研究内容のみならず融合型研究を深化させるための取組を行っている．

1-3-2　博士前期課程

1-3-2-1　学生指導体制

平成 28 年度入学生から 1 専攻 3 領域（電子情報通信工学領域，機械情報システム工学領域，人間情報システム工学専攻）に再編し，各領域における教育体制が，情報工学部 3 学科の学士課程教育との連続性を担保すると同時に，1 専攻の利点を生かしつつ，他領域の学問分野との交流（授業科目の履修，異なる視点からの研究指導）が活発になるような学生指導体制を整えている．今年度は，各研究室が主催する公開研究報告会を計 25 回開催した．

大学教育開発センターによる 3 研究科共通講義として開講された「プロジェクトマネジメント実践論」には 12 名が参加し（他の研究科学生と合わせ 18 名），他研究科の大学院生とのグループワーク等を通じて自己のキャリアアップにつなげることができた．

テクニカル・プレゼンテーション演習及びアカデミック・プレゼンテーション演習の受講者数は計 19 名であり，グローバル化に伴い国際学会などでの英語によるコミュニケーション能力の習得を目指す学生が増えている．

1-3-2-2　連携大学院

情報系工学研究科では，岡山県内の公共機関及び企業と連携大学院協定を締結し，学外の研究者による研究指導を受けることができる体制を整えている．令和元年度は岡山県工業技術センターおよびオーエム産業（株）表面処理研究所において各 1 名の大学院学生が研究の一部を遂行した．

1-3-3　博士後期課程

1-3-3-1　学生指導体制

博士後期課程は，平成 28 年度入学生より，講座制から領域制への転換を図り，電子情報通信工学領域，機械情報システム領域，人間情報システム工学領域の 3 領域制による学生指導体制にした．併せて，情報技術を多様な分野に展開できる人材育成を推進するため，従来の主指導・副指導教員に加えて，主指導教員とは専門分野の異なる教員を指導体制に加えることができる研究アドバイザー制度を導入した．平成 30 年度からは，主指導教員、副指導教員に加え、研究アドバイザー教員を割り当てることができるように制度変更し、より幅広い視野から教育研究指導を行える体制を整えた．また，社会人が学びやすい環境を整えることを目指し，平成 27 年度には早期修了要件を明確に定め，平成 28 年度入学生より修了要件を 12 単位に引き下げた．さらに，平成 28 年度には留学生及び社会人を対象とした秋入学制度を導入した．

1-3-4　まとめと課題

平成 25 年度の博士前期課程 1 専攻化により達成された幅広い視野を持ち融合型研究を深化させる特徴を維持しつつ，学部教育で実現された 3 学科の特色を大学院教育に引き継ぐため，平成 28 年度から博士前期課程を 3 領域（電子情報通信工学領域，機械情報システム工学領域，人間情報システム工学領域）に再編した．その結果，所属領域の授業科目を中心として他領域への履修を行うようになり，院生の履修行動の改善が確認された．

博士後期課程については，情報技術を多様な分野に展開できる人材育成を推し進めるため，平成 28 年度より，3 大講座を 3 領域に改め専門分野間の垣根を低くすると共に，専門分野以外の教員を指導体制に加える研究アドバイザー制度を導入している．

1-4 デザイン学研究科

1-4-1 概要

デザイン学研究科においては受験者数の減少や定員割れへの対応に加え，2021年度からの学科再編に合わせて，定員の見直しや専攻科再編について検討し,2024年度の文科省への申請に向けて,専攻をデザイン学専攻の1専攻とすることを決定した.また,定員確保のため,OPUフォーラムやオープンキャンパス等大学開放のイベントを利用して，進学説明会を実施し，さらに県外での進学説明会など新たな取り組みを引続き行った.教育の質の評価に向けて,修士研究における予備審査やルーブリック評価を実施した.国際交流協定締結大学の院生との交流の促進や研究の質向上を図るため,海外からの教員や研究者の招へいを行った.

1-4-2 修士課程

デザイン工学専攻では，修士研究テーマに関して，研究の社会的ニーズの確保というという観点から，以下の学生が取り組んだ.

1）南大東島における製糖工場を中心とした都市形成に関する研究－近代の産業遺産としての保存活用を中心に－（安達　駿）
2）角柱シザーズ機構による展開立体骨組の構成方法と静的力学特性（河野純平）

造形デザイン学専攻では,研修士研究テーマに関して,研究の社会的ニーズの確保というという観点から,以下の学生が取り組んだ.

1）聖地巡礼による地域活性化に関する研究-新たなアニメ活用の提案-（方 物）
2）シルクスクリーンプリントの特殊加工を用いたテクスチャー表現の提案（柴田芽映）

デザイン学研究科では，学部生の教育力向上を目的に，院生をTAとしてフレッシュマンセミナーの科目で雇用し，指導的実務者・研究者としてのデザイナー育成に取り組んだ.

修士研究予備審査及び,質の評価につながるルーブリック評価を本格実施し,研究の状況を正確に把握するなど,研究の質向上に繋げた.

1-4-3 まとめと課題

大学院デザイン学研究科は,造形性に富み,多様化したデザイン環境に対応する高度な専門知識・能力・技術と総合的な視野を備えた将来予想される問題を優れたデザインの創出により解決し,豊かで新しい便利な生活と文化に寄与できる人材の育成するため,対策を実施してはいるが,就職状況の回復などから受験者数の減少による定員割れへの現状から脱却することができなかった.今後,積極的な留学生の受入れやリカレント教育などへの重点的な対応など根本的な見直しが必要である.

2 大学院における研究活動と国際交流

2-1 概要

本学大学院では,学士力を備え,さらに専門分野において優れた研究能力,実践力,マネジメント力を身に付けた学生を育成するために,教員の基礎研究から最先端研究での親密な指導の下,関連学会での研究発表や論文投稿を奨励している.その範囲は国内,国際を問わず多岐にわたっており,学会における受賞等の実績を積み上げている. また本学大学院では,各研究科のディプロマ・ポリシーにおいてグローバル人材の育成を掲げている.国際会議での研究発表等のほか,国際交流協定を締結している大学との間で,学生・教員の相互派遣及び共同研究等による教育研究交流等を推進するとともに,その内容の一層の充実を図っている.

2-2　保健福祉学研究科

2-2-1　看護学専攻

2-2-1-1　学会発表

(1)国内学会

1. 子育て中の母親の情報活用の実践力が小児救急医療受診に与える影響,（指導教員：井上幸子）中田弥沙，井上幸子：松山市，第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会，2020 年 1 月 11 日，12 日
2. 性同一性障害に関する看護師の知識･理解および看護ケアの態度を測定する尺度の検討,（指導教員：井上幸子）西百久登，井上幸子：金沢市，第 39 回日本看護科学学会学術集会，2019 年 11 月 30 日，12 月 1 日
3. 現代の小学生における不登校要因：小学校教諭を対象とした調査,（指導教員：井上幸子）佐々木彩佳，川上莉奈，松本早織，中野亜美，井上幸子：松山市，第 8 回日本公衆衛生看護学会学術集会，2020 年 1 月 11 日，12 日
4. 認知症に焦点を当てた地域包括ケアシステムにおける地域の見守り体制～認知症になっても地域で生活できるように～,（指導教員：二宮一枝）岡部真子，小林由夏，佐々木彩佳，角南知佳，二宮一枝：岡山，第４回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会，2019 年 9 月 29 日
5. Ａ県内一般病院看護師の退院支援実践能力に関する現状と課題,（指導教員：二宮一枝）江田純子，二宮一枝：高知，日本公衆衛生学会，2019 年 10 月 24 日
6. 豪雨災害時に家屋被害を受けた高齢者の避難行動に関する調査,（指導教員：二宮一枝）小野薫，二宮一枝：高知，日本公衆衛生学会，2019 年 10 月 24 日
7. Ａ県新任期保健師の単独訪問に関する実態,（指導教員：二宮一枝）村田未来，二宮一枝：高知，日本公衆衛生学会，2019 年 10 月 24 日
8. 消化器疾患患者に関わる看護師が臨床判断力を向上する過程,（指導教員：名越恵美）津曲真弥，名越恵美，犬飼智子：日本看護研究学会第 45 回学術集会，2019 年 8 月
9. 日本語版 EOMⅡ（The Essentials of Magnetism Ⅱ）の信頼性と妥当性に関す検討,（指導教員：名越恵美）吉田雄太，名越恵美：第 23 回日本管理学会学術集会，2019 年 8 月

(2)国際学会

1. Family knowledge of schizophrenia, prejudice, and critical attitude toward people with schizophrenia: a cross-sectional study,（指導教員：井上幸子）Matsuda A, Inoue S., The 23rd EAFONS. Jan 10-11, 2020, Chiang Mai, Thailand.

2. Types of self-expression and interpersonal stress in Japanese nursing students during clinical practicums (指導教員：實金栄)Eiko Miyake, Kaori inoue, Yuto Seki, Mayumi Fukutake, Sanae Mikane, 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars, Thailand, 1.10-11,2020. ポスター発表

(3)受賞

1. 中村友樹（指導教員：佐々木新介），サーモグラフィを活用した表在静脈の描出に関する基礎的検討，日本サーモロジー学会 学術奨励賞 若手研究賞（2019 年 9 月 7 日）

2-2-1-2　論文発表

(1)国内誌

1. 職場のソーシャルキャピタルと健康関連 QOL：中学校教諭を対象とした横断研究，（指導教員:井上幸子)松原智，井上幸子,日本公衆衛生看護学会誌.,8(1). 53-62,（2019）
2. 女子看護学生の子宮頸がん検診受診に関連する要因，（指導教員：二宮一枝）角南知佳,新田玲奈,二宮一枝,岡山県立大学保健福祉学部紀要,26, 171-175(2020)
3. A 県における 1 歳 6 か月児の発熱仮想事例に対する母親の救急受診行動に関連する要因，（指導教員：二宮一枝）中村有美子，二宮一枝，小児保健研究，79（2），（2020）印刷中
4. 看護師の倫理的悩みとコーピングが情緒的疲弊に及ぼす影響，（指導教員：實金栄）萬木早苗，井上かおり，小藪智子，白岩千恵子，上野瑞子，三宅映子，竹田恵子，實金栄，臨床倫理，8，（2020）印刷中
5. Mastery 獲得に関する若年性脳梗塞患者の体験，（指導教員:名越恵美）宮武一江，名越恵美，新見公立大学紀要，4，（2020）印刷中
6. 外来化学療法を受けているがん患者にかかわる看護師の意思決定支援プロセス，（指導教員:名越恵美)門倉康恵,名越恵美，吉備国際大学紀要，38，（2020）印刷中
7. 医療処置を担う高齢介護者の在宅介護継続を支える訪問看護師の看護実践，（指導教員:名越恵美)山形真由美，名越恵美，難波峰子，岡山県立大学保健福祉学部紀要，26，49-59，（2020）
8. 4 年目看護師の臨床判断力獲得過程，（指導教員:名越恵美）津曲真弥,名越恵美，インターナショナル nursing Care Research，18（1），107-114（2019）
9. サーモグラフィを用いたバスキュラーアクセス描出に関する探索的研究，（指導教員：佐々木新介）中村友樹，佐々木新介： Biomedical THERMOLOGY，39(1)，32-37，（2019）

(2)国際誌

なし

2-2-2　栄養学専攻

2-2-2-1　学会発表

(1)国内学会

1. ヒシに含まれる抗糖化作用を有するポリフェノール成分（指導教員：伊東秀之）鈴木勝一，加藤奈々，河辺聡子，我如古菜月，上村知広，伊東秀之，静岡，第 73 回日本栄養・食糧学会大会，2019 年 5 月 17 日-19 日，口頭発表
2. 自然薯粉末を用いたえん下困難者用とろみ剤への応用（指導教員：山本登志子）

鴻池優佳，津嘉山泉，田中充樹，長谷川貴大，穂苅真樹，中村孝文，山本登志子，静岡，第73回日本栄養・食糧学会大会，2019年5月17-19日，口頭発表

3. ザクロ葉由来エラジタンニン類によるミクロソーム型プロスタグランジンE合成酵素-1発現抑制効果（指導教員：山本登志子）上山真依，田中将夢，津嘉山泉，戸田圭祐，爲延麻子，鴻池優佳，川上祐生，伊東秀之，高橋吉孝，山本登志子，第73回日本栄養・食糧学会大会,静岡，2019年5月17-19日,口頭発表
4. ミクロソーム型プロスタグランジン E 合成酵素-1 に対する食品由来活性阻害物質の探索（指導教員：山本登志子）爲延麻子，戸田圭祐，津嘉山泉，鴻池優佳，川上祐生，高橋吉孝，山本登志子，第73回日本栄養・食糧学会大会，静岡，2019年5月17-19日,口頭発表
5. 自然薯の栽培方法の違いによるテクスチャーへの影響（指導教員：山本登志子）津嘉山泉，應地芽生，鴻池優佳，山本登志子，第73回日本栄養・食糧学会大会，静岡県立大学，静岡，2019年5月17-19日，口頭発表
6. 人乳と牛乳の脂質プロファイル比較（指導教員：山本登志子）長崎祐樹，白岡咲，戸田圭祐，津嘉山泉，山本登志子．第55回おかやまバイオアクティブ研究会シンポジウム第21回学生プレゼンテーション，2019年7月9日，口頭発表・ポスター発表
7. 運動介入による腸内環境への影響（指導教員：入江康至）影山鈴美，井上里加子，綾部誠也，吉村征浩，望月智子，入江康至，日本スポーツ栄養学会 第6回大会，2019年8月23日-25日，口頭発表
8. ハナビラタケ由来多糖類のゲル形成と化学構造解析に関する研究（指導教員：新田陽子）古田絢裟，藤本大道，新田陽子，福岡，日本調理科学会2019年度大会，2019年8月26‐27日，口頭発表・ポスター発表
9. ハナビラタケ子実体由来βグルカンの構造および特性評価（指導教員：新田陽子）古田絢裟，藤本大道，新田陽子，兵庫，日本生物高分子学会大会，2019年9月14‐15日，口頭発表
10. ヒトとウシの乳汁中脂質プロファイル解析（指導教員：山本登志子）長祐祐樹，川井 恵梨佳，田中充樹，戸田圭祐，津嘉山泉,川上祐生，高橋吉孝，岡﨑 愉加，三木 寿美,山本 圭，村上 誠，山本 登志子，第92回日本生化学会大会，横浜，2019年9月18～19日口頭発表・ポスター発表
11. ラットにおけるヒシエキス投与後の加水分解性タンニンの生体内挙動に関する基礎研究（指導教員：伊東秀之）森彩夏，細川夏菜乃，鈴木勝一，上村知広，伊東秀之，松山，日本農芸化学会中四国支部第56回講演会（例会），2020年1月25日，口頭発表
12. 食品機能性を有する自然薯粉末を用いた嚥下困難者用増粘剤の開発（指導教員：山本登志子）鴻池優佳，津嘉山泉，長谷川貴大，穂苅真樹，山本登志子， 2019年度西日本・中四国支部合同大会沖縄，2019年11月8，9日，口頭発表
13. 高齢者の低栄養における腸内細菌叢の検討（指導教員：入江康至）土井美希，大谷優莉，井上里加子，吉村征浩，平松智子，角田光男，瀬戸千尋，綾部誠也，入江康至，第6回日本サルコペニア・フレイル学会大会，2019年11月9日-10日，ポスター発表

(2)国際学会

1. Polyphenols from peanut skins and their antiglycation activities（指導教員：伊東秀之） Ayaka Mori and Hideyuki Ito, International Seminar on：Future Food for Well-Being：Aging Society, Bangkok, Thailand, 2019.9.23, 口頭発表
2. Human urinary excretion of polyphenols from Phyllanthus species（指導教

員：伊東秀之） Kanano Hosokawa, Hideyuki Ito, International Seminar on：Future Food for Well-Being：Aging Society, Bangkok, Thailand, 2019.9.23, 口頭発表

3. Polyphenols with antiglycation properties from water caltrop（指導教員：伊東秀之） Shoichi Suzuki, Nana Kato, Satoko Kawabe, Natsuki Ganeko, Tomohiro Uemura, and Hideyuki Ito, International Seminar on：Future Food for Well-Being：Aging Society, Bangkok, Thailand, 2019.9.23, 口頭発表
4. Establishing brewing strategy of Japanese sake with a peach-like flavor（指導教員：田中晃一） Hazuki Shindo and Koichi Tanaka, International Seminar on Future Food for Well Being - Aging Society, Bangkok, Thailand, 2019.9.23, 口頭発表
5. The gel formation property of polysaccharide from fruit bodies of cauliflower mushroom *Sparassis Crispa* [Hanabiratake]（指導教員：新田陽子）Ayasa Furuta, International Seminar on Future Food for Well Being - Aging Society, Kasetsart University, Thailand, 2019.9.23, 口頭発表
6. Tannins with antiglycation activities from water caltrop（指導教員：伊東秀之）Shoichi Suzuki, Nana Kato, Satoko Kawabe, Natsuki Ganeko, Tomohiro Uemura, Hideyuki Ito, The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019), Kobe, 2019.11.28-12.1, ポスター発表
7. Human urinary excretion of amla (emblic myrobalan) polyphenols, Nov. 28-Dec. 1, 2019, Kobe（指導教員：伊東秀之）Ayaka Mori, Taishi Koyama, Hideyuki Ito, The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019), Kobe, 2019.11.28-12.1, ポスター発表
8. Proanthocyanidins from peanut skins and their antiglycation properties（指導教員：伊東秀之）Kanano Hosokawa, Hideyuki Ito, The 9th International Conference on Polyphenols and Health (ICPH2019), Kobe, 2019.11.28-12.1, ポスター発表
9. Screening of microsomal prostaglandin E synthase-1 inhibitor from food ingredients（指導教員：山本登志子）Asako Tamenobu, Keisuke Toda, Izumi Tsukayama, Yuka Konoike, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi, Toshiko Suzuki-Yamamoto. The 7the International Conference on Food Factors (ICoFF2019), Kobe, Japan, 2019.12.1-5, ポスター発表

(3)受賞

1. 長崎祐樹，第 55 回おかやまバイオアクティブ研究会シンポジウム第 21 回学生プレゼンテーション
2. 森　彩夏，2019 年度日本農芸化学会中四国支部奨励賞（学生部門）

2-2-2-2　論文発表

(1)国内誌

なし

(2)国際誌

なし

2-2-3　保健福祉学専攻

2-2-3-1 学会発表

(1) 国内学会

1. 保育場面における幼児の運動発達の評価に関する予備的研究―運動の協調性の視点から―（指導教員：中村光），青木みゆき・京林由季子・中村光，日本発達障害支援システム学会 2019 年度研究大会，小金井市，2020.12.18.

2-2-3-2 論文発表

(1) 国内誌

1. 園庭における築山の分類と幼児の遊びの実態（指導教員：中村光）橋口伸之介・新山順子・中村光，岡山体育学研究，27，2020 （印刷中）.

2-2-4　保健福祉科学専攻

2-2-4-1　看護学大講座

(1)学会発表

1. 養護教諭が発達障害児支援において保健師との協働を行う際の困難感、（指導教員：二宮一枝）河田恵子，二宮一枝：高知，日本公衆衛生学会，2019 年 10 月 24 日
2. 児童相談所における保健師の対人支援活動と対人支援能力―計量テキスト分析を用いて，（指導教員：二宮一枝）石井陽子・二宮一枝：愛媛，日本公衆衛生看護学会，2020 年 1 月 12 日
3. ＨＡＰＡモデルによる「子宮頸がん検診受診行動結果期待」尺度開発の試み（指導教員：岡﨑愉加）中越利佳,岡﨑愉加：広島,日本母性看護学会,2019 年 6 月 15 日,口演発表
4. ＨＡＰＡモデルに基づいた子宮頸がん検診受診行動に関する自己効力感尺度開発の試み（指導教員：岡﨑愉加）中越利佳,岡﨑愉加,實金栄,岡村絹代：大阪,日本看護研究学会,2019 年 8 月 20 日,口演発表
5. ＨＡＰＡモデルに基づいた子宮頸がん検診受診行動計画尺度開発の試み（指導教員：岡﨑愉加）中越利佳,岡﨑愉加,實金栄,岡村絹代：大阪,日本看護研究学会,2019 年 8 月 21 日,ポスター発表
6. Health Action Process Approach による子宮頸がん検診の受診行動に関する基礎的研究（指導教員：岡﨑愉加）中越利佳,岡﨑愉加,實金栄,岡村絹代,則松良明：東京,日本ＨＰＶ研究会学術集会,2019 年 11 月 30 日,口演発表
7. Family knowledge of schizophrenia, prejudice, and critical attitude toward people with schizophrenia: a cross-sectional study, （指導教員:井上幸子）Matsuda A, Inoue S., The 23rd EAFONS, Jan 10-11, 2020, Chiang Mai, Thailand.
8. Impact of an ethical environment on the practice of spiritual care among Japanese nurses（指導教員：實金栄），Ryo ando, Kaori Inoue, Tomoko Koyabu, Mizuko Ueno, Yurika Muramatsu, Keiko Takeda, Mieko Yamaguchi, Sakae Mikane, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Feb 28-29, 2020, Japan. ポスター発表
9. Prediction of intention to undergo screening for cervical cancer using the “Motivation Phase” of the Health Action Process Approach. （指導教員：岡﨑愉加）Rika Nakagoshi,Yuka Okazaki,Sakae Mikane, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Feb 29, 2020, Japan.ポスター発表
10. Literature review on factors associated with S-IgA level changes in breast milk due to maternal stress, （指導教員:沖本克子）Chisa Takimoto, Katsuko Okimoto, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, Feb 29, 2020, Japan.ポスター発表

(2)論文発表

(1)国内誌

1. 児童相談所における保健師の対人支援活動の特徴と対人支援能力―計量テキスト分析を用いて―、(指導教員：二宮一枝) 石井陽子，二宮一枝，富田早苗，日本公衆衛生看護学会誌，8(3)，153-162，(2019)
2. 訪問看護師の倫理的問題に関連するストレス認知尺度の作成(指導教員:實金栄) 小藪智子，竹田恵子，上野瑞子，井上かおり，白岩千恵子，森永裕美子，實金栄，岡山県立大学保健福祉学部紀要，26，31-38，(2020)
3. Health Action Process Approachによる子宮頸がん検診受診行動に対する自己効力感尺度の開発（指導教員：岡﨑愉加）中越利佳,岡﨑愉加，實金栄,則松良明，愛媛県立医療技術大学紀要，16(1)，(2020) 印刷中

(2)国際誌

1. Relationship among independence of daily living, human relationships, and preparation for bereavement among healthy elderly Japanese people. （指導教員：荻野哲也）Mayumi Fukutake, Misako Shimamura, Mineko Namba, and Tetsuya Ogino. Psychogeriatrics. Published online: 2020 Feb 17. doi: 10.1111/psyg.12526.

(3)受賞

なし

2-2-4-2　栄養学大講座

(1)学会発表

1. アミノ酸置換によるヒスタミン合成酵素からイミダゾールアセトアルデヒド合成酵素への変換（指導教員；新田陽子） 竹島大貴，小森博文，植野洋志，新田陽子，鳥取，ビタミン学会大会，2019年6月6－7日，口頭発表
2. Inhibition of arachidonate 5-lipoxygenase and improvement in psoriasis by red rice proanthocyanidin(指導教員:山本登志子)Keisuke Toda, Yuki Nagasaki, Izumi Tsukayama, Asako Tamenobu, Yuka Konoike, Natsuki Ganeko, Hideyuki Ito, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi, Yoshimi Miki, Kei Yamamoto, Makoto Murakami, Toshiko Suzuki-Yamamoto. 60th International Conference on the Bioscience of Lipids (ICBL), 2019.6.17-21, Tokyo, Japan, ポスター発表
3. 赤米由来プロアントシアニジンによる 5-リポキシゲナーゼ阻害効果と乾癬予防効果（指導教員：山本登志子）戸田圭祐，長崎祐樹，津嘉山泉，爲延麻子，鴻池優佳，我如古菜月，伊東秀之，川上祐生，高橋吉孝，三木寿美，山本圭，村上誠，山本登志子，第61回日本脂質生化学会，札幌，2019年7月4，5日，口頭発表
4. ヒスタミン合成酵素変異体によるアルデヒド合成（指導教員；新田陽子） 竹島大貴，小森博文，植野洋志，新田陽子，兵庫，日本生物高分子学会大会，2019年9月14－15日，口頭発表
5. Red rice proanthocyanidin inhibits 5-lipoxygenase and exhibits therapeutic effect on psoriasis（指導教員：山本登志子）Keisuke Toda, Yuki Nagasaki, Izumi Tsukayama, Asako Tamenobu, Yuka Konoike, Natsuki Ganeko, Hideyuki Ito, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi, Yoshimi Miki, Kei Yamamoto, Makoto Murakami, Toshiko Suzuki-Yamamoto, The 7the International Conference on Food Factors (ICoFF2019), 2019.12.1-5, Kobe, Japan, ポスター発表

(2)論文発表

(1)国内誌

なし

(2)国際誌

1. Ellagitannins from *Punica granatum* leaves suppress microsomal prostaglandin E synthase-1 expression and induce lung cancer cells to undergo apoptosis（指導教員：山本登志子）Keisuke Toda, Mai Ueyama, Shomu Tanaka, Izumi Tsukayama, Takuto Mega, Yuka Konoike, Asako Tamenobu, Februadi Bastian, Iria Akai, Hideyuki Ito, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi, Toshiko Suzuki-Yamamoto. *Biosci Biotechnol Biochem.* 84(4): 757-763, 2020.

2. Red-kerneled rice proanthocyanidin inhibits arachidonate 5-lipoxygenase and decreases psoriasis-like skin inflammation（指導教員：山本登志子）Keisuke Toda, Izumi Tsukayama, Yuki Nagasaki, Yuka Konoike, Asako Tamenobu, Natsuki Ganeko, Hideyuki Ito, Yuki Kawakami, Yoshitaka Takahashi, Yoshimi Miki, Kei Yamamoto, Makoto Murakami, and Toshiko Suzuki-Yamamoto. *Arch Biochem Biophys. in press.*

(3)受賞

なし

2-2-4-3　保健福祉学大講座

(1)学会発表

1. 医療機関に求められる機能と役割　-認知症者とその家族の願いに関する文献的検討-（指導教員：竹本与志人）倉本亜優未・杉山 京・仲井達哉・桐野匡史・神部智司・広瀬美千代・竹本与志人，第20回日本認知症ケア学会大会，京都市，令和元年5月25日．ポスター発表
2. 認知症専門医療機関における認知症が疑われる高齢者とその家族への対応 ― 認知症の鑑別診断時に焦点を当てた家族介護者へのアンケート調査 ―（指導教員：竹本与志人）倉本亜優未・杉山 京・神部智司・広瀬美千代・竹本与志人，日本社会福祉学会第67回秋季大会，大分市，令和元年9月22日．ポスター発表
3. 精神障害者の就労阻害要因としての「障害の開示・非開示」に関する検討（指導教員：村社卓）原田武彦・村社卓，日本社会福祉学会第 67 回秋季大会，大分市，令和元年9月21日，分科会発表

(2)論文発表

1. WHO-5を用いた医療ソーシャルワーカーのメンタルヘルスの実態（指導教員：竹本与志人）倉本亜優未・竹本与志人・杉山 京・小原眞知子，メンタルヘルスの社会学，25，17-26，2019.
2. 保健医療福祉領域の専門職における離転職に関する要因の文献的検討　-医療ソーシャルワーカーの離転職に関する研究に向けて-（指導教員：竹本与志人）倉本亜優未，医療社会福祉研究，27，　65-80，2019.
3. 医療機関に求められる機能と役割－認知症者およびその家族のニーズに関する文献的検討－指導教員：竹本与志人）倉本亜優未，杉山京，仲井達哉，桐野匡史，神部智司，広瀬美千代，竹本与志人，岡山県保健福祉学部紀要，26，印刷中，2020.
4. 連携なくして明日はなし，老健の連携(第4回)老健と行政と地域住民，三人四脚の

地域づくり，（指導教員：坂野純子）大片久,病院羅針盤 10(150)，48-52，2019.
産労総合研究所

5. 地域高齢者を対象としたSocial Provisions Scale（SPS）短縮化の試み:項目反応理論分析による検討,大片 久,澤田 陽一,矢嶋 裕樹,矢庭 さゆり,坂野 純子,岡山県立大学保健福祉学部紀要,25,2019.

(3)受賞

なし

2-3 情報系工学研究科

2-3-1 研究活動

博士前期課程では，システム工学専攻として 3 領域（平成 27 年度以前入学生は 5 領域）のいずれかに，博士後期課程では，システム工学専攻として 3 領域（平成 27 年度以前入学生は 3 大講座）のいずれかに属しながら研究活動を展開している．平成 28 年度以降の大学院博士前期課程学生による研究発表実績を表 1 に示す.

表１　博士前期課程の研究発表件数

発表内容	件数			
	R1 年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度
査読付き学術論文	8	9	6	21
国際会議録	13	14	17	31
全国大会発表	66	70	74	97
支部大会発表	49	32	30	52
学術表彰・受賞	20	24	18	11

査読付き学術論文，国際会議録，全国大会発表および支部大会発表のいずれも昨年度と同程度の件数である．平成 28 年度に比べると少ないが，これは好景気により大学院進学者数が減少していることが原因と考えられる．学外発表のさらなる奨励が必要であろう．一方，受賞件数は，ほぼ例年通りの水準を維持できている．なお，受賞の主な内容は，国際会議 Human-Agent Interaction 2019（HAI2019）Best Poster Award，第 18 回情報科学技術フォーラム（FIT 2019）奨励賞 1 件，電子情報通信学会中国支部奨励賞 4 件，情報処理学会中国支部優秀論文発表賞 1 件，電気学会優秀論文発表賞「賞 B」2 件，計測自動制御学会中国支部奨励賞 1 件，第 21 回 IEEE 広島支部学生シンポジウム（HISS2019）HISS 優秀研究賞 9 件，同特別功労賞 1 件などである.

表２　博士後期課程の研究発表件数

発表内容	件数			
	R1 年度	H30 年度	H29 年度	H28 年度
査読付き学術論文	5	3	4	2
国際会議録	1	4	5	4
全国大会発表	7	5	3	4
支部大会発表	0	0	0	0
学術表彰・受賞	1	2	1	0

博士後期課程では，ほとんどが社会人学生であり，本年度は業務多忙等による休学者が多く，必ずしもその活動は活発ではないが，査読付き学術論文 5 件，国際会議録 1 件，全

国大会発表 7 件，受賞 1 件がある．本年度は，2 名の学生に博士（工学）の学位を授与した．今後は，入学者数の増加及び休学者の減少も含め，研究の活性化が必要である．

2-3-2 国際交流

学術交流協定大学とは，次のような活動を実施した．

インドネシア・ハサヌディン大学（UNHAS）については，平成 29 年度から博士後期課程に学生 1 名を受け入れており，本年度末に博士（工学）の学位が授与された．また，UNHAS での学内競争研究費 Unhas International Cooperation Research について，A Development of Smart Home using Camera Device Based on Deep Learning and Data Mining を研究課題とした国際共同研究が 2018 年に採択され，現在も継続して行っている．これまでの共同研究の成果は，査読付き学術論文誌（英文）1 件，国際会議録 1 件である。なお，本学側の研究メンバーは教員 3 名と前述の大学院博士後期課程学生 1 名である．

韓国・又松大学校については，IT 融合学部が韓国の「ソフトウェア中心大学」に選ばれたことから，約 30 名の学生研修受け入れの検討依頼があった．しかしながら，諸般の事情により実現することができず，次年度以降の実施に向け協議を継続していくこととなった．一方，情報通信工学科において，今年度後期に又松大学校より交換留学生 1 名を受け入れた．なお，当該留学生から期間延長の申し出があり，来年度前期も継続して在学することとなった．

タイ・カセサート大学については，短期インターンとして理学部の学生 1 名を令和元年 6 月 3 日～7 月 26 日の間受け入れた．また，令和 2 年 3 月 5 日にカセサート大学シラーチャキャンパスで学生交流のワークショップを行い，3 月 6 日に同バンコクキャンパスで教員の研究交流ワークショップを開催する予定であったが，新型コロナウィルスの感染拡大が予想されることから，本年度の実施は見送りとなった．

また，制御・ロボット研究室（機械情報システム工学領域）において，次の 3 名の海外研究者を招聘し，院生と意見交換を行った．中国南開大学の孫寧准教授は，日本学術振興会（JSPS）の外国人特別研究員として，2018 年 11 月から 2019 年 10 月まで，2 台の劣駆動天井クレーン系の協調的な軌道計画と制御に関する研究を行った．中国南京工業大学の欧陽慧珉准教授は，2019 年 7 月に，クレーン系の制御などに関する情報交換を行った．中国東南大学の岳冬冬助教は，本学客員研究員として 2019 年 5 月から 8 月の期間，複雑システムの非線形制御とその応用に関する研究を行った．

以上に述べた以外にも，情報系工学研究科では院生の国際会議での研究発表を推奨しており，国際会議における研究発表に対する賞（最優秀ポスター発表賞）を 1 件受賞している．

2-4 デザイン学研究科

2-4-1 研究活動

2-4-1-1 デザイン工学専攻

1) 建築･都市デザイン学領域では，京都府　IOUA 都市アーキビスト会議のコンペティションにおいて「最優秀賞」を受賞した．（令和元年 7 月 20 日）
2) 建築・都市デザイン学領域では，南大東島における製糖工場周辺建築物の保存・活用について」『日本建築学会大会[北陸]において発表した.（令和元年 9 月 3 日）
3) 真備災害復興をテーマにした設計提案を行った．「読売新聞掲載」

2-4-1-2 造形デザイン学専攻

造形デザイン学領域では，学会発表や展示等の主だった活動はなかった．

2-4-2 国際交流

本年度は，国立台湾芸術大学卒業生が大学院生として入学し、今後の大学院の国際化に向けて活性化のきっかけになることを期待したい.

その他，研究科における国際交流協定大学との具体的な交流はなかった.

2-5 まとめと課題

2-5-1 保健福祉学研究科

大学院のグローバル教育の推進に関連して，海外特別奨学生としてインドネシアのハサヌディン大学から栄養学大講座への 1 名（指導教員：入江康至教授）の受け入れ，さらに中国の南昌大学から留学生１名を栄養学大講座へ受け入れ（指導教員：山下広美教授），その研究成果も国際学会で発表され，着実に共同研究が進んでいる．さらに看護学大講座でも学術交流協定校であるネパールのトリブバン大学から留学生 1 名（指導教員：井上幸子准教授）を受け入れ，研究指導が進められている．来年度はさらに海外特別奨学生として中国の南昌大学から留学生１名（山下広美教授）を栄養学大講座で受け入れる予定で，新制度を活用した留学生の増加は順調に進んでおり，さらなる共同研究の成果が期待される.

2-5-2 情報系工学研究科

博士前期課程の研究活動は概ね順調である．一方，博士後期課程については，休学者の多いことが大きな理由ではあるが，研究活動の活性化が望まれる．平成 27 年度には博士後期課程の早期修了要件を明確に定め，研究活動の活性化を図ると共に，既に研究業績を有する社会人の修学環境を整備し，本年度，早期修了制度による初めての博士を輩出した．また，平成 28 年度より，社会人が学びやすい環境への改善に取り組んでおり，平成 31 年度 4 月の入学予定者は社会人 5 名まで増加したが，さらなる広報活動が必要である.

情報系工学研究科では，大学間協定校のみならず，独自に協定を締結した大学との学術交流も推進している．これらの活動を足がかりに，大学院生による国際交流のさらなる活性化を期待したい.

2-5-3 デザイン学研究科

大学院における研究活動については，入学者数の減少が続き十分活性化しているとは言えない.デザイン工学専攻では学会発表や地域の課題に向けた提案を行っているが,造形デザイン学専攻は研究活動が活発な状況にないため,今後学会発表を義務付けるなど検討が必要である.国際交流活動や学会発表を通じて,専門的思考力や技術だけでなく，国際的・総合的視野を備えた指導的実務者，研究者としてのデザイナーや建築家を育成するための意識付けが求められていると言える.

第２部　各センターにおける教育活動と成果

１　概要

平成 26 年度 10 月に大学教育開発センター，国際交流センターの 2 センターが発足，平成 27 年 10 月からはさらに学術研究推進センターがスタートし，この間，平成 27 年度における「教育研究開発機構」への 3 センターの合流・再編があった． 2019 年度は第 3 期中期計画の初年度として本機構を廃止し，大学教育開発センター内にあった学生支援部会とキャリア形成支援部会を事実上独立させ，正課外・ボランティア支援活動ならびに就職支援活動を合わせて学生支援全体を担うキャリア・学生生活支援センターとして新設した．大学教育開発センターは教育開発センターと名称変更し，アドミッション，共通教育，教育評価ならびに FD・SD を担う部署としての機能を強化した．

第 2 部は次のように構成されている．第 1 章は教育開発センターの 4 部門の活動と成果，教育力向上支援事業を発展的に改正した教育改革推進事業の順で記述した．第 2 章は新設のキャリア・学生生活支援センターの 4 部門の活動と成果について記述し，センターと連携関係にある学生相談室と保健室の活動は学生生活支援部門の中で記載した．第 3 章は国際交流センターにおける，本学方針の一つであるグローバル化戦略に基づいた，国際交流締結（MOU）校を主対象とする教育研究交流活動の支援を中心に，また，第 4 章は学術研究推進センターにおける研究倫理に関する啓蒙活動や研究支援に関する実績を柱にまとめて記述した．

第１章　教育開発センターにおける教育活動と成果

1 概要

大学教育開発センターは，平成 26 年 4 月から半年の準備室の期間を経て,同年 10 月に発足し活動を開始した．平成 27 年 4 月にはメンバー（センター員及び幹事）を充実して大略現在の構成となって 2 年間の任期で活動を開始した．平成 31 年 3 月までには「アドミッション部会」,「共通教育部会」,「FD 部会」,「教育評価部会」,「キャリア形成支援部会」,「学生支援部会」の機能的 6 部会制をとっていたが、平成 31 年 4 月より、「キャリア形成支援部会」と「学生支援部会」の機能を一つに集約して「キャリア・学生生活支援センター」として独立化させる組織改革があり、これに伴って、「大学教育開発センター」は、その名称を「教育開発センター」に改め、部会も「アドミッション部門」,「共通教育部門」,「FD 部門」,「教育評価部門」の 4 部門とした。この中でも大学の将来像を考慮してアドミッションの機能強化のために、「アドミッション・センター準備室」を設置し次年度での独立強化を検討することとし、また従前より検討中であった教学 IR 部門についても「教育評価部門」へ組み込むことの可能性を検討した。この経緯から教育開発センターは「教育の質」を中心に、その調査や評価や改善を検討するセンターとして活動することとなった。

2 各部門における教育活動と成果

2-1 概要

現在、教育開発センターは、「アドミッション部門」,「共通教育部門」,「FD 部門」,「教育評価部門」の 4 部門から成り立っている。教育開発センターのメンバーのうち、部門長は、各部門の教育開発上の目的を達成する任務を担っている。この任務に応じて、各学部各学科の事情に合わせて、その任に相応しい教員が運営委員として配置されている。事務局職員からは教務班と入試班が配置され、教学上の課題を教職員相互で協力的な仕方で協議している。この協議の態勢に基づいて、教育開発センターは教育改革に係る調査や企画、提案を行う機関となっている。以下、「アドミッション部門」、「共通教育部門」,「FD 部門」,「教育評価部門」の 4 部門の活動と成果について説明する。

2-2　アドミッション部門

2-2-1　概要

2021 年度入試から実施される大学入学者選抜改革が公表され，今年度中のアドミッション・ポリシーの公表に向けて，各学部学科において入学日程，入学試験の実施方法を含めてポリシーの策定を行った．入試環境調査として入学時アンケート調査ならびに入試日程別成績追跡調査を全学的に実施し，入試広報活動としてはオープンキャンパスならびに高校訪問，高大連携事業として高校生のための大学授業開放を，いずれも全学的に実施した．学内研修会としては，教育開発講座を主催した．

2-2-2　入試改革

入試改革に向けたアドミッション・ポリシーの策定

高大連携システム改革会議最終報告を受け，本年度は本学の 3 つのポリシーを一貫性のある形に見直す中で，全学および各学部学科アドミッション・ポリシーの見直しを行い入試日程別に入学者選抜の基本方針を示した.

2-2-3　入試環境調査

(1)　入学時アンケート結果（表は付録 B に掲載）

1.　基本情報

- 実施日時：2019 年 4 月 8 日～4 月 15 日
- 実施方法：Web アンケートサイト（Questant）上で実施
- 対象者：総数 410 人中、回答 395 人（回答率 96.6%）

1.1　回答率

学生にアンケート回答用の URL を印刷した紙を配布して、各自でスマートフォンや PC を使って回答してもらった。若干の混乱があり、情報通信工学科で本来の人数以上（50 人のところ 51 人）の回答が入ってしまった。また、回答が一時に集中して接続が不安定になり、回答データが正しく入っていないケースが見られたので除外した。その結果、回答率は全体で 96.6%になった（付録Ｂ　表 1)。

1.2　出身県

入学者の出身高校の所在地を質問した（付録Ｂ　表 2)。岡山県内出身者が多い学科は、子ども学専攻（86.36%)、看護学科（68.29%)、社会福祉学専攻（51.16%）の順である。岡山県内出身者が少ない学科は、デザイン工学科（33.33%)、人間情報工学科（35.71%）である。それ以外の学科は、栄養学科（41.46%)、情報通信工学科（39.34%)、情報システム工学科（39.34%)、造形デザイン学科（38.46%）と 4 割前後になっている。

岡山県内出身者は全体で 48.37%になり、昨年の 52.92%と比較して 4.55 ポイント減少し、山口、鳥取、島根などの近隣県や京都などの出身者が増加していた。

2.　結果

2.1　本学志望順位

本学の志望順位を付録Ｂ　表 3 に示す。本学を第一志望とする学生が多いのは保健福祉学科子ども学専攻（95.45%)、栄養学科（92.68%)、造形デザイン学科（86.54%)、保健福祉学科社会福祉学専攻（86.05%）がいずれも 8 割超である。一方で、情報工学部はいずれも人間情報工学科（47.62%)、情報通信工学科（45.10%)、情報システム工学科（39.34%）と 4 割程度に留まっている。

2.2　併願校

学科ごとの併願校を付録Ｂ　表 4 に示す。看護学科の併願校は、全てが大学看護科または看護専門学校であり、一貫している。栄養学科の併願校は、大学・栄養学科、食物学科、食品、農学などの食に関する専門分野に志願している。社会福祉学専攻では、生活、福祉、理学療法、作業療法など、福祉分野が多い。子ども学専攻では、児童、初等教育、保育などが多いが、人文、英文学など、直接関係しない専攻への併願も見られる。

情報通信工学科の併願校は、中国、四国、九州の国立大工学部が多くを占めるが、関西、関東、北海道などの遠隔地を併願しているケースも見られ、広く分布している。情報システム工学科の併願校は中国、関西、九州地方の国立大が多く、関東、東北、北海道地方にまで広い分布をしている。特に、静岡大学の併願者が 5 人もいるのは特徴的ではないだろうか。人間情報工学科は、北海道、東北以外の全エリアに併願校が分布している。

デザイン工学科の併願校は、芸術、デザイン、建築などの学科が多く、国公立、私立大に志願している。造形デザイン学科の併願校も国公立、私立大と幅広く、専門分野では工芸デザイン、造形デザインなどに志願している。

2.3　本学を志望した動機

本学を志望した動機の 1 位は、保健福祉学部の看護、栄養、社会福祉学専攻で「希望する資格が得られる」が最も多く、昨年と同じだった（付録Ｂ　表 5）。唯一、子ども学専攻では「希望する資格が得られる」から「教育内容が希望に近い」が最も多くなり、去年と変わった。

情報工学部、デザイン学部では「教育内容が希望に近い」がいずれも最も多く、昨年と同じだった。

2.4　アドミッションポリシーの理解

アドミッションポリシーの理解状況を付録Ｂ　表 6 に示す。子ども学専攻の全員が「よく理解できた」と答えていることが特徴的である。先に示した「2.3 志望動機」で「教育内容が希望に近い」が最も多かったことや、「2.7 出願時の参考にしたもの」でも「オープンキャンパス」が挙げられていることから、オープンキャンパスで教育内容を明示した効果が現れたかもしれない。その他では、社会福祉学専攻、情報通信工学科で 20 ポイント台の改善、栄養学科、造形デザイン学科で 10 ポイント前後の減少が見られた。

2.5　受験科目

受験科目に関する質問では、昨年度と同様に数学が最も受験しやすかった科目になった。受験しにくかった科目については昨年度は実技が挙げられていたが、今年度は小論文が最も受験しにくかった科目になった（付録Ｂ　表 7）。小論文科目についてのコメントでは「あまりやったことがない」「どう学習すればいいのかわかりにくい」「対策しづらい」といったコメントが寄せられていた。

2.6　個別科目

個別試験にあったら受験しなかった科目は「プレゼンテーション」が最大で 51.7%、次いで「TOEIC や英語検定」の 49.1%などが続く（付録Ｂ　表 8)。昨年度と比較をしてみると「集団面接」「学力試験（英語)」の割合が減少してきており、これらの科目への抵抗感がなくなってきている状況がうかがえる。一方で「実技」「集団討論」「ディベート」「プレゼンテーション」などは増加している。

2.7　出願時の参考にしたもの

出願時の参考にしたものを付録Ｂ　表 9 に示す。看護学科と栄養学科、子ども学専攻は昨年度は「大学案内」が最も多かったが、今年度は「大学のオープンキャンパスで得た情報」になった。社会福祉学専攻は「大学のホームページ」「学部学科パンフレット（チラシ)」から「大学案内」「大学のオープンキャンパスで得た情報」が多くなった。いずれの学科専攻とも「大学のオープンキャンパスで得た情報」が多い。

情報通信工学科、情報システム工学科、人間情報工学科ともに「大学のホームページ」または「学科のホームページ」を参考にしたという意見が多い。情報システム工学科については「高校の先生からの情報やアドバイス」も多く、この傾向は去年と同じである。

デザイン工学科では「学科のホームページ」が最も多い。造形デザイン学科では「大学のホームページ」が最も多いが、それに次いで「塾の教員からの情報やアドバイス」も多くなっている。

まとめると保健福祉学部は対面（オープンキャンパスや大学案内)、情報工学部、デザイン学部では Web 媒体が多く、情報システム、造形デザインは高校や塾のアドバイスも参考にしていることが分かった。

ステークホルダーのニーズに対応した広報の工夫も必要であることが分かった。

2.8　入学前に知りたかった情報

入学前に知りたかった情報を付録Ｂ　表 10 に示す。昨年度は保健福祉学部、デザイン学部で「カリキュラムや授業内容」を挙げる学生がトップになり、今年度もその傾向は変わらなかった。

情報工学部では、情報通信工学科が昨年度と同様に「各学部・学科の特色」、情報システム工学科では「カリキュラムや授業内容」、人間情報工学科は昨年度と同様に「就職先と就職率」がトップであった。

2.9　大学授業開放

大学授業開放についての結果を付録Ｂ　表 11 に示す。子ども学専攻の受講者が 15 ポイント増加し 40%に達していた。造形デザイン学科では、18 ポイント減少し 17%になっていた。他は、10 ポイント以下の増減である。

2.10　今の気持ち

本学で学び始めるにあたっての今の気持ちを聞いた質問（付録Ｂ　表 12）では「真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい」を選んだ学生が全ての学科で最も多く、デザイン工学科（73.8%）、情報システム工学科（65.6%）、造形デザイン学科（61.5%）、栄養学科（56.1%）、情報通信工学科（54.9%）が 5 割超であった。

2.11　本学に対する期待

本学に対する期待 1 位は、全学部で「専門教育」がトップになった（付録Ｂ　表 13）。それに次ぐものは看護学科、栄養学科では「国家試験対策」（社会福祉学専攻では専門教育と同位）である。その他では一般教養教育、学内教育設備、図書館などに回答が分散している。

2.12　本学で身につけたい能力

身に付けたい能力（付録Ｂ　表 14）は、全学でコミュニケーションスキルが挙げられており、看護学科、情報工学部、デザイン工学科でコミュニケーションスキルの「外国語」。栄養学科、社会福祉学専攻、子ども学専攻、造形デザイン学科ではコミュニケーションスキルの「日本語」が多かった。それ以外では保健福祉学部が「チームワーク」、情報工学部が「ICT を利用する力」、デザイン学部では「課題解決力」「チームワーク」などが多かった。

また、同じく身につけたい能力（PROG テストに合わせた質問）では、保健福祉学部は「主体性」を挙げる者が多く、このうち栄養学科は「実行力」、社会福祉学専攻は「発信力」を挙げる者も多くいた。情報工学部では「主体性」を挙げる者が多く、デザイン学部では「創造力」が多く挙げられた。

2.13　卒業後希望進路

卒業後希望進路の結果を付録Ｂ　表 15 に示す。県内就職希望が最も多いのは子ども学専攻で 72.7%になり、続いて多いのは社会福祉学専攻が 34.9%、看護学科が 34.2%と大差がついていた。県外就職希望は、栄養学科の 48.8%が最も多く、続いて造形デザイン学科の 40.4%、デザイン工学科の 38.1%と続いた。大学院への進学希望は情報工学部が多く、情報システム工学科の 29.5%、人間情報工学科の 28.6%、情報通信工学科の 27.5%が他大学の大学院への進学を希望していた。まだわからないという回答は情報工学部、デザイン学部、社会福祉学専攻、看護学科に多く 30～40%に達している。一方で栄養学科、子ども学専攻は 10%台と少なかった。

2-2-4　研修会等の実施

(1)　教育開発講座

国際バカロレア（IB）は次世代を担う若者を育成する教育プログラムで、世界の 5,000 校で実施されている。日本では奨励政策が展開され、IB コースを設置する普通科高校が増加している。IB 教育は世界共通のシステムで、その修了資格については、世界の大学が高く

評価して入学を許可し、日本の国立大学も積極的な受け入れを開始している。IB 学修に専心することで、国内外の大学に進学する途が拓けてきているので，その事例を紹介していただき、本学の今後の入学者選抜改革などに大いに参考となった．なお参加者は，教員 16 人，事務員 7 人，学外者 1 人の計 24 人が参加した．

（演　　題）「国際バカロレアとは？未来を拓く教育の途が見えてきた！」
（講　　師）田原　誠　先生　岡山理科大学附属中学校・高等学校校長
（日　　時）令和元年 6 月 18 日（火）
（講演時間）13：00～14：30 講演
（会　　場）本部棟大会議室

⑵ ワークショップ

大学入試が高校教育に極めて大きい影響力をもっていることは周知の事実である。グローバル社会で活躍できる人材育成をめざして，文科省が高大接続改革を標榜するのも，その根底には高校，大学における教育の質の変革を期待してのことである。岡山大学の高大接続部門（アドミッションセンター）で経験されたことを踏まえ，求められている高大接続改革や各大学に委ねられた入学者選抜における普遍的な問題点を整理し，より良い入学者選抜はどうあるべきかをご講演いただいた。さらに，進学を目指す高校生の視点から魅力ある大学であると理解あるいは認識されるために，大学の教職員は何をすべきかを考えるきっかけとなり、今後の高大接続改革に向けて大いに参考となった．なお参加者は，教員 18 人，事務員 5 人の計 23 人が参加した．

（演　　題）「大学と高校に架ける橋　～一方通行にしないために～」
（講　　師）佐竹　恭介　先生　元岡山大学アドミッションセンター　副センター長
（日　　時）令和 2 年 1 月 21 日（火）
（講演時間）13：00～14：30 講演
（会　　場）学部共通棟北 8104 講義室

2-2-5　入試広報活動

⑴ オープンキャンパス 2019

オープンキャンパス 2019 が令和元年 7 月 20 日から 21 日にかけて，本学で開催された．

各学部，各学科別の参加者数およびアンケートの男女比，参加者の県内外の状況について以下にまとめた．昨年度の参加者は一昨年度よりすべての学部で減少していたが，今年の参加者数は情報工学部のみ昨年よりも減少したが，保健福祉学部とデザイン学部は増加した．少子化に向けた対策として，少しでも良い学生を確保するためにもオープンキャンパスの参加者を増やすために今後より積極的な工夫が必要である．

1　開催日

令和元年７月２０日（土）情報工学部、デザイン学部

平成元年７月２１日（日）保健福祉学部

2　学部・学科参加者数

学部		参加者総数	（参考）直近３年の参加者数			前年度比較	
			平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	H30－H29	H30/29
保健福祉学部		１，７８０	１，５８０	１，８５０	１，６８０	２００	１３％
	（看護学科）	（６３０）	（５５０）	（７１０）	（５５０）	（＋８０）	（＋１５％）
	（栄養学科）	（４８０）	（４００）	（５６０）	（５００）	（＋８０）	（＋２０％）
	（保健福祉学科）	（６７０）	（６３０）	（５８０）	（６３０）	（＋４０）	（＋６％）
情報工学部		３８０	４２０	４９０	２２０	－４０	－１０％
デザイン学部		５２０	５００	５８０	５８０	２０	４％
大学計		２，６８０	２，５００	２，９２０	２，４８０	１８０	７％

（比率の小数点以下は四捨五入）

3　アンケートの実施

当日、参加者を対象にアンケート調査を行い７８３人から回答を得た。

【内訳】保健福祉学部延べ５９９人、情報工学部延べ８２人、デザイン学部延べ２６１人

（内訳計：９４２人　※学科・専攻の項目が複数回答のため重複有り）

（１）男女比と学年構成比

（男女比）　単位：％

学部	男子	女子	不明
保健福祉	４	９５	１
情報工	７６	２３	１
デザイン	１８	７８	４
全体	１３	８５	２

※未回答者は除外している。

（学年構成比）　単位：％

区分	令和元年度	平成 30 年度
３年生	４３	４１
２年生	３７	３８
１年生	１５	１９
その他	５	２

※未回答者は除外している。

（２）県内外の状況

（県内外比率）　単位：％

学部	県内	県外	平成 30 年度の県外比率
保健福祉	７０	３０	２２
情報工	８０	２０	２６
デザイン	５３	４７	３９
全体	６６	３４	２５

※未回答者は除外している。

（出身県上位１０県）

順位	県名	回答者数	順位	県名	回答者数
1	岡山	５１６	6	鳥取	２３
2	広島	５５	7	徳島	１６
3	兵庫	４６	8	山口	１１
4	香川	３２	9	大阪・京都	9
5	愛媛	２８	１０	島根	6

(2) 大学院オープンキャンパス

１．保健福祉学研究科のオープンキャンパス２０１９の開催状況

１　開催日時

令和元年５月２５日（土）

８：４０～　教室開錠（学部棟入口の鍵は警備に依頼）

９：３０～　受付開始（８２０１）

１０：００～　全体説明（同上）

・ 伊東研究科長がパワーポイントで全体説明をした。

・ 試験日程、長期履修制度、授業料減免、奨学金等についても伊東研究科長から説明をした。

１０：４０～　各専攻に分かれて説明・研究室紹介等

看護　6316　栄養 6101，6102　保福 8902

１１：５０～１５：００

経済的支援の相談窓口及び過去問閲覧コーナー（８２０１）

１５：００　大学院オープンキャンパスの全日程終了

２　参加人数

１４６人	看護学専攻・大講座	３５人
	栄養学専攻・大講座	１２人
	保健福祉学専攻・大講座	９９人

※保健福祉学専攻については、保健福祉学科の３年生が４８人、４年生４６人が参加していた。

※高校生とその保護者が１組、学部のオープンキャンパスと間違えて参加していたため、改めて７月２１日の参加を促した。

３　配布資料

・大学案内２０２０
・研究科パンフレット
・令和２（２０２０）年度博士前期課程学生募集チラシ
・令和２（２０２０）年度博士後期課程学生募集チラシ
・長期履修学生制度
・経済的支援（授業料減免、奨学金）
・アンケート
・ＯＰＵフォーラムチラシ
・県大グッズ(トートバック、クリアファイル、ボールペン)

4　経済的支援等の相談窓口実績

・経済的支援等の相談窓口として会場で待機し、２名から相談があった。

（相談内容）

Ｑ．奨学金の予約採用の申込についての案内はどういう形で行われるのか。

Ａ．合格発表のタイミングで案内を入れさせていただくか、もしくは合格発表後に本学の学生支援班にお問い合わせいただければと思います。

Ｑ．奨学金の返還免除について「在学中に特に優れた業績」とは具体的になにか。

Ａ．具体的な業績については公表していない。学会発表や論文などが対象になるとは思われるが、専攻によって基準は異なるので一概には言えない。

Ｑ．授業料減免対象と奨学金の推薦の基準は、別々と考えてよいのか。

Ａ．そのとおりです。授業料減免の基準は本学で定めており、奨学金の推薦基準は、日本学生支援機構が定めています。

・過去問閲覧コーナーについては以下のとおりであった。

閲覧者数：３８人

看護学専攻	２２人	看護学大講座	３人
栄養学専攻	９人	栄養学大講座	０人
保健福祉学専攻	４人	保健福祉学大講座	０人

ほとんどの閲覧者が全文を書き写していた。

閲覧用の冊子は３部用意していたが、看護学専攻では部数が足らず閲覧希望者に待ってもらったり、２人で１冊を見てもらうなどして対応した。

来年度からは、看護学専攻の冊子については５部程度準備する必要がある。

２．情報系工学研究科およびデザイン学研究科のオープンキャンパス２０１９の開催状況

日時　令和元年５月２９日（火）１４：２０～１７：００

場所　ＯＰＵフォーラムの展示会場に大学院情報系工学研究科およびデザイン学研究科のブースを設ける．

内容　パンフレット，募集要項等を配布するとともに，研究領域，入試情報，早期修了制度，長期履修制度などの説明・相談を行った．

(3) 高校訪問

本年度も昨年度に引き続き各学部学科別に高校訪問を行い，高校側に本学の情報を提供した．

１．保健福祉学部

①看護学科

2019 年度，看護学科は 20 校の高校訪問を実施した．各高校とも看護学科への進学を希望する生徒は多く，教諭からは入試や，入学後の実習，助産師教育に関する質問があった．特に，入試に関する質問としては，推薦入試出願の A 判定基準の緩和や出願者数を増加してほしい，面接や英語外部試験の導入に関する質問があった．授業や国家資格，実習など具体的な質問も多かった．

次年度以降も高校訪問は継続する予定であり，訪問時には大学の情報提供のみならず，4 月に入学した学生の現状を知らせ，県内を中心とした高校教諭との協力や連携を深めていきたいと考えている．

②栄養学科

令和元年度は，県内 8 校，県外 2 校の計 10 校の高校を訪問した．大学案内 2019，栄養学科紹介チラシ， 高校生のための大学授業開放チラシ， 栄養学科授業開放チラシ， 岡山創生学パンフレット，大学院紹介パンフレットを持参資料とし，マニュアルに従い学科および学部の説明を行った．オープンキャンパスと授業開放について紹介し，興味を示す生徒がいれば参加を勧めていただけるよう要請した．ほとんどの高校から，2021 年度の入試改革の概要について質問があり，英語外部試験の取り扱い等，本学で予告した内容について回答した．

県内および県外それぞれ 1 校ずつ，今回初めて卒業生を同行させた．高校の先生方の様子を見ていて非常に喜んでおられたので，高校側との良好な関係を維持させるためには，卒業生を同行させることも有効な手段の一つであると思われた．

県外の 2 校は管理栄養士養成課程を持たない鳥取県を選択した．すでに卒業生が本学科で学んでいることもあり，訪問は喜ばれているようであった．後期試験を取りやめる大学が多いなか、継続している本学科には後期試験を残しておいてほしいとのことであった．管理栄養士養成課程がない県には，訪問を定期的に行い，友好関係を築くことが，進路先として認識してもらううえで有用であると思われた．

③保健福祉学科

保健福祉学科は，県内 13 校の訪問を行った（うち，私立高校 2 校）．本学科への進学実績が多い県立高校を中心に訪問することで、高校側との良好な関係を維持・深化することをめざした。また、進学者があった私立高校 2 校へも訪問することで新たに関係構築をすることができた。各校、進学実績があるため，本学への関心も高くおおむね好意的であった．

高校からの質問は，学科の改変に係ることが多く，新しい資格の取得方法（精神保健福祉士やスクールソーシャル教育課程修了）や，令和 3 年度改変予定の学科の定員や入試の方法，大学入試センター試験後継試験の対応方法などが挙げられた．

今年度新しく私立高校の訪問を実施したが，私立高校からの入学者も増えていることから来年度以降も訪問を続けていきたい。新しい学科体制に向けて広報活動を公立・私立の枠を超えて幅広く行っていく必要性を感じている．

２．情報工学部

情報工学部を広く正しく知ってもらうための広報活動の一環として、専任教員が県内を中心に高校訪問をしている。平成 27 年度以前は一部の学科で、平成 28 年度は全学共同で実施したが、平成 29 年度から学科ごと（または学部ごと）に実施することになり、それ以降本学部は学部単位で実施している。平成 31 年度は県内 35 校を訪問した。

訪問担当教員が、学部学科の教育や研究の概要、主な就職先、入学試験、オープンキャンパス、大学授業開放、COC+事業について持参した資料を用いて説明するとともに、平成 28 年度高校訪問の反省から、訪問先高校出身者の修学状況や進路状況を必要に応じて高校側へ伝えている。また、広報効果を高めるために、オープンキャンパスよりも前に訪問日を設定している。

高校側からの質問の多くは、入試や卒業後の進路に関するもので、一部には COC+事業に関するものもあった。また、令和 3 年度からの推薦入試英語の口頭試問に関する質問も多く見受けられた。

2-2-6　高大連携事業

(1) 高校生のための授業開放

Ⅰ　実施日

令和元年 8 月 24 日（土）

10：00～（保健福祉学部）

10：20～（情報工学部）

13：30～（デザイン学部）

Ⅱ　授業内容

１．保健福祉学部看護学科

10：10～11：40　高校生のための看護学入門：看護の役割とチーム医療（講義）
佐藤美恵准教授，高林範子助教（6316）

13：00～14：30　高校生のための精神看護学演習：
心に寄り添うコミュニケーション（演習）井上幸子准教授（6511）

13：00～14：30　高校生のための基礎看護学演習：聴診器で聴いてみよう！身体（心臓）の音（演習）
佐々木新介准教授，佐藤美恵准教授，高林範子助教 他（6412）

２．保健福祉学部栄養学科

10：10～11：40　高校生のための栄養学入門（講義）山下広美教授（8201）

10：10～11：40　高校生のための公衆栄養学入門（講義）久保田恵教授（8202）

13：00～16：00　高校生のための遺伝子工学実験（実験）
田中晃一教授、岩岡裕二助教（8109）

13：00～16：00　高校生のための臨床調理（実験）
平松智子准教授，丸田ひとみ助教（8107）

3．保健福祉学部保健福祉学科社会福祉学専攻

10：10～10：55　高校生のための国際福祉論（講義）近藤理恵教授（8901）

11：00～11：55　高校生のための福祉のまちづくりとユニバーサルデザイン（講義）
高戸仁郎教授（8901）

12：40～13：20，13：30～14：10　高校生のためのソーシャルワーク演習（演習）
竹本与志人教授（8901）

12：40～13：20，13：30～14：10　高校生のための介護福祉演習（演習）
佐藤ゆかり准教授，趙敏廷准教授，松田実樹助教（8902）

12：40～13：20，13：30～14：10　精神科ソーシャルワーク（PSW）の
仕事と専門性（演習）
坂野純子教授，大倉高志講師（8903）

12：40～13：20，13：30～14：10　高校生のためのスクールソーシャルワーク
演習（演習）　周防美智子准教授（8904）

4．保健福祉学部保健福祉学科子ども学専攻

10：10～11：50　高校生のための教育哲学（講義）山本孝司教授（8904）
高校生のための家庭支援論（講義）中野菜穂子准教授（8904）

13：10～14：40　高校生のための保育内容（表現）（演習）
岡﨑順子特任教授，新山順子准教授（5201）

13：10～14：40　高校生のための乳児保育演習（演習）柏まり准教授（5108）

5．情報工学部

10：20～11：50　現代社会を拓くレーザー工学（講義）徳田安紀教授（8102）

10：20～11：50　高校生でもわかる強度設計入門（講義）福田忠生准教授（8103）

10：20～11：50　高校生のための画像工学入門（講義）佐藤洋一郎教授（8104）

12：40～14：10　オシロスコープを用いた電気測定（実験）
福嶋丈浩准教授，坂口浩一郎助教（2317）

12：40～14：10　動かして楽しむ組み込みシステム製作講座（演習）
石井裕准教授，山﨑大河准教授（2315）

12：40～14：10　コンピュータによる画像解析と物理現象シミュレーション（演習）
山内仁准教授，大山剛史助教（2906）

6．デザイン学部

14：00～15：30　建築をつくる楽しさ（講義）向山徹教授

14：00～15：30　「君の名は。」を通して見る“映像的なおもしろさ”（講義）
山下万吉准教授
14：00～16：00　「DISCOVERY」　―近未来の住まい―（実技）朴貞淑准教授
14：00～16：00　プレゼンテーションのためのポスターデザイン（実技）
助川たかね教授
14：00～16：00　レリーフカップ（実技）真世土マウ准教授，作元朋子講師
14：00～17：00　ステーショナリーのデザイン（講義＋実技）
益岡了准教授，尾崎洋講師，中原嘉之助手
14：00～17：00　浸染技法で糸を染める（講義＋実技）島田清徳准教授

Ⅲ　実施状況

１．参加者数（アンケート回収数より）カッコ内昨年度実績

全体：429 名　　（昨年度 393 名）

保健福祉学部 277 名　　（昨年度：255 名）

（看護 76 名，栄養 78 名，保福 123 名）　　昨年度（看護 88 名，栄養 75 名，保福 92 名）

情報工学部 64 名　　（昨年度 51 名）

デザイン学部 88 名　　（昨年度 87 名）

参加者数内訳：

学年別参加者（%）

学年	看護学科	栄養学科	保健福祉学科 社会福祉専攻	保健福祉学科 子ども学専攻	デザイン学部	総計
3 年生	47（61.9%）	42（53.8%）	35（53.0%）	32（56.1%）	40（45.5%）	196（53.7%）
2 年生	26（34.2%）	33（42.3%）	21（31.8%）	18（31.6%）	37（42.0%）	135（37.0%）
1 年生	3（3.9%）	3（3.9%）	10（15.2%）	7（12.3%）	11（12.5%）	34（9.3%）
不明	0（0%）	0（0%）	0（0%）	0（0%）	0（0%）	0（0%）

県内，県外参加者

看護学科	栄養学科	保健福祉学科 社会福祉専攻	保健福祉学科 子ども学専攻	デザイン学部	総計
県内 70	県内 65	県内 61	県内 55	県内 60	県内 311（85.2%）
広島 4	広島 6	香川 2,	広島, 徳島各 1	広島 8	県外 54（14.8%）
兵庫, 愛媛各 1	兵庫，鳥取，島根，京都，愛媛，徳島，宮崎各 1	兵庫，広島各 1		兵庫 7	
				香川 4	
				徳島, 福岡各 2	
				大阪，京都，島根，高知，長崎各 1	

全学部の参加者数は昨年度（393 名）と比較して 36 名増加した。内訳は 1 年生が 9.3%（昨年度 12.9%），2 年生が 37.0%（昨年度 34.8%），3 年生が 53.7%（昨年度 52.0%）で，昨年度までは 1, 2 年生の参加者の割合が多かったが，今年度は 1 年生の参加者の割合が減少し，2, 3 年生の参加者の割合が増加した。また県外からは中四国地方が多く，南は宮崎県からの参加者もあり，県外からの参加者数は 14.8%と昨年度（13.2%）より若干増加した。学部別ではデザイン学部の県外参加者の割合が 31.8%（昨年度 27.6%）と最も多く，続い

て栄養学科が 16.7%（昨年度 14.7%）であり，県外出身者の入学者が比較的多い学部，学科を反映していた。

２．授業開放参加者の入試受験状況（平成 30 年度）

授業開放参加全体に対する入学者の割合は，全学では 15.4%で昨年度（18.4%）よりも減少したが，情報工学部のみ昨年度より増加した。高校 3 年生および既卒者の参加者に対する入学者は全体で 28.8%を占め，特にデザイン学部では 50.0%で，参加者の半数が入学していることになる。また，入学者の中で授業開放に参加していた割合も昨年度（22.6%）よりも少なく，特に情報工学部で 7.6%と低かったが，全体で 15.4%を占めた。

平成 30 年度の授業開放参加者全体に対する平成 31 年度入学者の割合

		保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
授業開放参加者（全体）に対する入学者の割合	H30 年度	12.0%	24.0%	20.9%	15.4%
	H29 年度	14.5%	20.9%	28.1%	18.4%
	H28 年度	17.2%	20.8%	18.4%	18.0%
授業開放参加者（高3，既卒）に対する入学者の割合	H30 年度	21.7%	40.0%	50.0%	28.8%
	H29 年度	24.0%	31.6%	48.2%	30.1%
入学者に対する授業開放参加者の割合	H30 年度	21.9%	7.6%	18.0%	15.4%
	H29 年度	29.1%	12.1%	29.0%	22.6%
	H28 年度	32.0%	8.9%	17.4%	19.2%

３．今後の課題

授業開放における受験生の参加者の中で，本学に入学した割合が 28.8%で，さらに入学者の 6.5 人に 1 人の割合で授業開放に参加していた結果から，高大接続事業として本事業が高校生にとって進路の参考となる可能性が高く，今後もさらに広報活動を強化し，調査を続ける必要がある。学生確保のためにも，今年度発足した高大接続推進作業部会における高校側からの要望も検討しながら，来年度は授業開放の複数回実施やコモンズ等を利用した出前講義等，積極的な高大連携事業の拡大が望まれる。

□平成30年度大学授業開放参加者における平成31年度入試（推薦・一般）受験状況

	授業開放参加者	推薦入試		一般入試（前期日程）						一般入試（中・後期日程）						入学者
		志願者	合格者	志願者	うち推薦受験者	合格者	うち推薦受験者	不合格者	うち推薦受験者	志願者	うち推薦受験者	合格者	うち推薦受験者	不合格者／欠格（他大学合格）者	うち推薦受験者	
看護学科	91 (45)	22	6	2	1	1	1	1	0	2	1	0	0	1／1	0／1	7
栄養学科	75 (43)	20	7	2	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1／1	0／0	7
保健福祉学科 社会福祉学専攻	51 (31)	14	8	10	2	6	2	4	0	5	1	0	0	2／3	0／1	14
保健福祉学科 子ども学専攻	57 (33)	13	2	5	1	1	1	4	0	3	1	2	0	0／1	0／1	5
保健福祉学部計	274 (152)	69	23	19	4	8	4	11	0	12	3	2	0	4／6	0／3	33
情報通信工学科	6 (1)	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0／0	0／0	2
情報システム工学科	28 (17)	6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0／0	0／0	5
人間情報工学科	16 (12)	10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0／0	0／0	5
情報工学部計	50 (30)	19	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0／0	0／0	12
デザイン工学科	41 (15)	7	6	3	0	2	0	1	0							8
造形デザイン学科	45 (21)	12	6	10	2	4	1	6	1							10
デザイン学部計	86 (36)	19	12	13	2	6	1	7	1							18
合計	410 (218)	107	47	32	6	14	5	18	1	12	3	2	0	33／12	12／5	63
H31年度入試全体 （追加合格者含む）		268	110	539		215		324		1742 ←中期 222 ←後期		235 ←中期 20 ←後期		462/1045 ←中期 61/141 ←後期		409

①授業開放参加者全体における入学者の割合：15.37%

②入学者全体における授業開放参加者の割合：15.40%

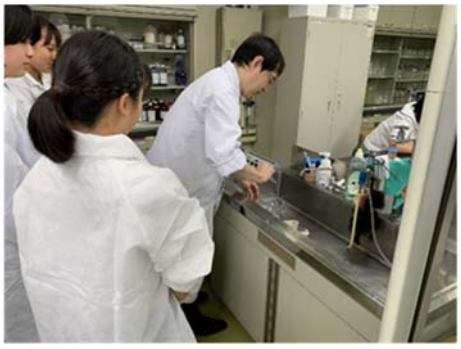
□平成29年度大学授業開放参加者における平成30年度入試（推薦・一般）受験状況

	授業開放参加者		推薦入試		一般入試（前期日程）						一般入試（中・後期日程）						入学者
			志願者	合格者	志願者	うち推薦受験者	合格者	うち推薦受験者	不合格者	うち推薦受験者	志願者	うち推薦受験者	合格者	うち推薦受験者	不合格者／欠格（他大学合格）者	うち推薦受験者	
看護学科	98	(57)	23	8	6	1	4	0	2	1	6	2	0	0	3／3	2／0	12
栄養学科	84	(43)	20	9	5	2	1	0	4	2	1	1	0	0	1／0	1／0	10
保健福祉学科 社会福祉学専攻	52	(35)	19	8	11	6	6	5	5	1	9	5	1	0	3／5	0／5	15
保健福祉学科 子ども学専攻	62	(44)	13	4	19	5	2	0	17	5	16	4	0	0	14／2	4／0	6
保健福祉学部計	296	(179)	75	29	41	14	13	5	28	9	32	12	1	0	21／10	7／5	43
情報通信工学科	29	(20)	7	4	2	1	0	0	2	1	3	1	0	0	3／0	1／0	4
情報システム工学科	33	(19)	11	6	4	0	0	0	4	0	7	2	0	0	6／1	2／0	6
人間情報工学科	24	(18)	13	7	5	2	0	0	5(1)	2	5	2	1	0	3／1	2／0	8
情報工学部計	86	(57)	31	17	11	3	0	0	11	3	15	5	1	0	12／2	5／0	18
デザイン工学科	49	(31)	14	8	4	1	2	1	2	0							10
造形デザイン学科	47	(25)	24	6	17	14	11	11	6	3							17
デザイン学部計	96	(56)	38	14	21	15	13	12	8	3							27
合計	478	(292)	144	60	73	32	26	17	47	15	47	17	2	0	33／12	12／5	88
H30年度入試全体 （追加合格者含む）			255	107	606		217		389 (7)	←欠格内数	1758 206	←中期 ←後期	223 26	←中期 ←後期	792/743 84/96	←中期 ←後期	390

①授業開放参加者全体における入学者の割合：18.41%

②入学者全体における授業開放参加者の割合：22.56%

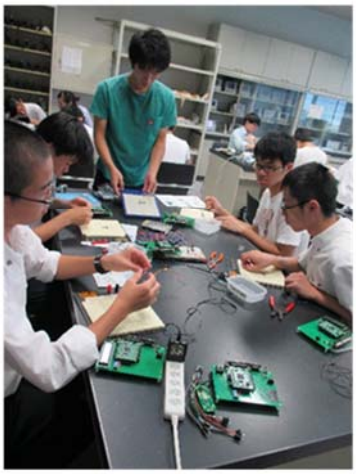
高校生のための看護学入門：
看護の役割とチーム医療



高校生のための遺伝子工学実験

高校生のための介護福祉演習

高校生のための保育内容（表現）



動かして楽しむ組み込み
システム製作講座

浸染技法で糸を染める

2-2-7　まとめと課題

令和３年度からの大学入学共通テストの導入を控え，平成 30 年度初頭にアドミッション・ポリシーおよび入試概要を公表した．これまでに収集した入学者成績追跡調査ならびに入学時アンケートの分析結果，他大学の入試改革状況，外部試験実施準備状況など鑑みて，学力の３要素を醸成に向けた高大連携改革を進め，今後，高大連携事業や入試広報などの改革を積極的に進め，高校側との信頼関係を深めながら高大連携の更なる充実を図ることが必要と考えられる．

2-3 共通教育部門

共通教育部会は，教育開発センター規程第2条第1項第7号に示される「共通教育の充実及び共通教育と専門教育との連携に関する」業務を実施するために設置された部会である．共通教育科目に対するカリキュラムの企画・立案を行うとともに，教養教育の体系化，教養教育に対する評価基準の作成と実施，共通教育におけるアクティブ・ラーニング授業の企画と実施などが具体的な業務である．今年度の取組について，概要は以下の通りである．

・共通教育科目の各カテゴリーにおいて，学生アンケート等を活用して開講科目と開講形式の検討を行った．その結果，英語教育の学修成果はセメスター制の方が高いと判断し，平成31年度時間割りにおいて，英語ELP1～6をセメスター制で開講することを共通教育部に提案し実施に至った．また，複合PBL科目のうち2科目を廃止し，1科目を1単位化するなどの科目削減及び選択必修化の案を共通教育部に提案し、R2から実施する計画に至った．

・例年通り、共通教育科目の学修成果の評価法について以下の検討を行った．(1)成績や履修人数の経年変化等の調査、(2)共通教育科目の達成度等に関する学生アンケート実施の可能性、(3)各教員の評価法の調査と意見の収集、である。これらを教育開発センターにて検討している各種学生アンケートと連携して課題を検討することとした。

・共通教育におけるアクティブ・ラーニングの導入を推進するため，特に複合PBL科目についてアクティブ・ラーニング導入に必要な予算の設置を共通教育部に提案したが、これについては教育開発センターを通じてアクティブ・ラーニングの定義と教員アンケートの実施と評価によって推進することとした。

・大学祭等における語学教育推進室主催の活動を推進させる検討を重ねた．

最後に共通教育部会の今後の課題について，スケジュールも含めて述べる．

1. 共通教育全般について，目標を達成すべく内容を継続して検討，評価し，評価結果に応じて改善する．

2. H30 年度から導入した教養新カリキュラム（人文・社会科学，自然科学，健康科学）の

定着を図るが，その中で複合 PBL 科目を中心に，単位数の適正化や科目数の削減も視野に入れつつ内容を検討，評価し，評価結果に応じて改善する．

3. 語学国際では，(1) ELP の学修成果指標の 1 つである TOEIC の全学平均点について，第 3 期中期計画の目標を達成できるように，全学的な課題として英語教育のさらなる充実を図る．また，(2) 国際交流センターと協働で，語学文化研修，海外研修として効果的な実施先と実施数を継続して検討する．

4. 社会連携では，平成 31 年度で終了する COC+事業について，後継事業も勘案して、その後のカリキュラムについて検討する．さらに R2 年度から定常的な開講へ移行する．

	第 3 期中期計画					
	H31	H32	H33	H34	H35	H36
1. 共通教育の検討，評価と改善	検討，評価，改善 →					
2. 教養新カリの実施，評価と改善	実施と評価 →			改善 - - - →		
3(1). ELP の実施，評価と改善	実施と評価 →	改善 - - - →				
3(2). 国際交流	研修実施先と実施数の検討 →		定常的な開講 - - - →			
4. 社会連携	ポスト COC+の検討 →	定常的な開講 - - - →				

2-4 FD 部門

2-4-1 概要

FD 部門では，「教育の質の改善」を目的に，主として，1) 相互授業参観，2) 授業評価アンケート，3) FD 研修会，4)アクティブラーニングの推進について取り組んだ．FD 研修会では，アクティブラーニングに関する講演およびワークショップを企画した．また，相互授業参観結果を授業の実践に活かすための授業改善意見交換会を企画すると共に，教員への支援に関する取組を行った．以下，各取組についての詳細を報告する．

2-4-2 相互授業参観

2-4-2-1 相互授業参観の概要

(1) 令和 1 年度授業参観の方針

平成 17 年度の講演会，平成 18 年度のモデル授業参観の実績を踏まえ，平成 19 年度より授業の工夫や改善のための研鑽機会を設けるという目的のもと，全専任教員を対象とした

相互授業参観を継続実施してきた．本年度においては，実施方法及び実施期間（各クォーター3 週間）は昨年度取組と同様とし，公開教員及び参観教員の多様化を図るため実施時期を第１クォーター及び第２クォーターに変更した．

(2) 令和１年度授業参観の実施内容

1)目的

具体的な授業の進め方や指導技術について学び，自己の授業環境で活かすことのできる指導方法を模索することにより，よりよい授業づくりを推進する．

2)実施方法

①公開授業の開示

すべての専任教員（助手を除く）は，第１クォーターまたは第２クォーターより，公開する授業科目１コマ（授業形態は問わない）を選び，授業概要，月日，時限，教室名を知らせる．共通教育を兼務する教員は当該科目の公開を行なうものとする．ただし実施期間に該当するものがない場合は学部教育科目でもよい．2 コマ以上の連続授業については，原則そのうちの１コマを公開する．

②参観授業の選択

すべての専任教員は，公開授業一覧から参観希望授業を選択する（他学部教員の公開授業を参観してもよい）．

③実施期間

第１クォーター　5 月 7 日（火）～5 月 30 日（木）（3 週間）　および

第２クォーター　7 月 5 日（金）～7 月 29 日（月）（3 週間）

3)授業参観レポート

授業参観終了後，参観教員は下記項目についてレポートを作成し，公開教員に提出する．

① 観点別 6 項目の意見・助言（意見・助言の記述及び，特に参考になった項目へのチェック）

項目 1　授業の準備・導入

（例）環境づくり，出欠確認の仕方，前回授業内容のふりかえり，学習目標の確認　等

項目 2　授業の構成

（例）形式・構成，時間配分，アクティブ・ラーニングの活用　等

項目 3　授業の展開技術

（例）重要ポイントの強調，話し方，板書の仕方　等

項目 4　教材の内容・活用

（例）（適切な）内容・形態，視聴覚機材等の適切な選択と使い方，教材提示のタイミング　等

項目５　学生への関わり

（例）学生とのコミュニケーションの仕方，学生の意欲や理解を高める関わり方，理解力の異なる学生への配慮　等

項目６　授業のまとめ

（例）授業内容のふりかえり，予復習など自己学習の促進　等

②その他，授業全体を通して参考となった点・工夫が見られた点・助言等（自由記述形式）

③今後，自身の授業改善において具体的に採り入れたい点（自由記述形式）

公開教員はコメント欄にコメント記入し，レポートを参観教員と各学科授業参観担当委員の双方に提出する．

4)授業改善意見交換会

相互授業参観活動を基に，具体的な授業の進め方や指導技術について意見交換・情報共有し今後の授業改善に役立てることを目的に，令和１年９月 20 日に授業改善意見交換会を開催した（詳細は後述）．

2-4-2-2　相互授業参観の結果

相互授業参観後に提出された授業参観レポート 33 件を分析した結果は次に示す内容であった．

(1) 参観報告者と授業公開者の集計表

令和元年度授業改善意見交換会　相互授業参観　参観報告者と授業公開者の集計表　　令和元年9月20日

学科	看護学科	栄養学科	保健福祉学科	情報通信工学科	情報システム工学科	人間情報工学科	デザイン工学科	造形デザイン学科	計
教員数	22	19	29	20	18	10	18	21	全教員158名
公開者数	11	9	21(15科目)	14	16(11科目)	10(10科目)	12(11科目)	12	全公開者105名
参観された教員数(参観者の数)	3(4)	4(5)	3(3)	3(4)	2(2)	5(5)	5(5)	2(5)	27(33)名
参観した教員数	5	3	4	5	3	4	6	3	33名

参観された / 参観した	看護学科	栄養学科	保健福祉学科	情報通信工学科	情報システム工学科	人間情報工学科	デザイン工学科	造形デザイン学科	参観した教員数計
看護学科	2	2				1			5
栄養学科	1		2						3
保健福祉学科	1	1	2						4
情報通信工学科				3	1	1			5
情報システム工学科	1			1	1				3
人間情報工学科				1	1	2			4
デザイン工学科						1	3	2	6
造形デザイン学科	1							2	3

(2) ６つの観点別の意見・助言の結果

授業の準備・導入では，28 件の意見があった．「授業冒頭で十分に時間をとって前回授業をふりかえる」など，効果的な前回授業の振り返りに関してや，「授業開始前に本時のテーマをスライドに映す」「円卓に配席され自由対等に意見を述べられる環境」など，効果的な授業中の学生への指針に関して，肯定的な意見があった．また「座席を指定」「ミ

ニレポート用紙の配布」など，効率的な出席の確認方法が確認された．

授業の構成では，24 件の意見があった．「TA に任せたアクティブ・ラーニングの形式で，自主性と協働性が養われる」「１グループが 4～5 名で役割分担」などアクティブ・ラーニングを効果的に活用していた意見や，「前半は講義，途中でまとめ，後半で小テスト形式の演習問題という構成」「発表だけでなく質疑応答の時間が充実」など効率的な時間の使い方に関する意見があった．また，「講義（約 60 分）の後に視聴覚教材（約 30 分）を用いる」といった効率的な機材の活用に関する意見があった．

授業の展開技術では，31 件の意見があった．「これから行うことの説明を講義内容とリンクさせて行う」など，授業の展開に関しての肯定的な意見，「丁寧，かつ，はっきりとした口調」「問い掛けるように進めている」など，話し方・態度・技術に関しても肯定的な意見があった．また，「用語の穴埋めだけではなく，たまにその意味や概念の方を穴埋めにしてもよいのではないか」など学生の理解度・到達度を確認に対しての指摘もあった．

教材の内容・活用では 29 件の意見があった．教材を使用する時間，機会に対して，「図表はスクリーンで示し解りやすい」とする一方で，「板書も部分的に入れると良いと思う」という指摘もあった．「テキストには載っていない写真などを適宜提示」「予め座学で実験に必要な情報提供や資料配布」など，理解度を深める工夫に関しての意見があった．また教材の選定とバランスに関しては，「文字と画像の分量が絶妙であった」「理解しやすいＤＶＤが教材として選定されている」という意見があった．

学生への関わりでは，31 件の意見があった．「適宜，学生に声をかけて必要に応じてアドバイスをしていた」など，学生個々への対応ができているといった意見や，「質問回数が個人評価になる」など，学生の参加を促す工夫が取り上げられていた．また「サポート教員や TA が十分動員されている」「直接指名はしないものの問いかけがある」といった学生の集中力持続への工夫，授業の雰囲気づくりへの工夫が取り上げられていた．

授業のまとめでは，25 件の意見があった．「毎回，レポート課題が課されている」「授業の最後に振り返りメモを提出する」など，予習・復習，自己学習を促す工夫に対しての意見が挙げられていた．また「今回話し合った内容を次回に発表してもらう」など，自己学習を促す工夫に関しての意見があった．また，まとめ方に関しては，「最後の２０分程度を確認テストに割り当て」「終了 10 分前にクリッカーによる正解%明示で本日講義の復習を行う」等の工夫があったことが取り上げられていた．

授業全体を通して参考となった点や工夫が見られた点では，32 件の意見があった．「導入，振り返り，テスト，まとめ，と授業の構成が良く考えられている」「知識や技術の習得に重きを置かない深い世界を垣間見た」など，学生を興味深く聞き入れさせることや，学生の理解度を高めるための工夫があったこと，また，「授業趣旨に対し見せている映像が良かった」「課題ごとに学生が理解すべき技術水準が明確」との報告もあり，学生の現在の到達点や，到達目標を具体化する工夫があったことも報告されていた．さらに，「学生たちがスマホで写真として板書を「写して」いた様子に驚いた」などの意見もあった．

今後，自身の授業改善において具体的に採り入れたい点では，29 件の意見があった．

「前回の要点確認と今日のテーマの概要説明の手際が良い」「一つのテーマについて学生に自由に討論させる授業」「グループワークの演習を通じて学生に考える機会を提供する」「教科書の図や説明に沿うことに固執せず，自分が理解し易いと思う説明をする」といった，今後採り入れたい内容についての意見があった．

授業公開教員コメントでは，33 件のコメントがあった．参観者の意見や助言を受けて，「①前回の資料鑑賞の感想に関連した発想で制作されているもの，②課題説明+課題に関連した資料，とすることで，学生の興味関心にできるだけ応えるように心がけている」という意見や，「現在の学生の学習意欲や取り組み方に合わせた授業の構成を考えたい」など助言に対し今後参考にしたいといったコメントがあった．また，参観者の肯定的な意見や参考にしたい内容に対して公開教員から丁寧に補足説明がされているコメントもあった．

2-4-3　授業評価アンケート

本学では，FD 活動の一環として，平成 16 年度より定期的（毎学期末）に授業評価アンケートを行っている．授業科目ごとの集計結果は各授業担当者にフィードバックし授業改善に活用してもらうとともに，これらのデータに基づいた評価尺度の妥当性・信頼性の検討，評価得点の経年変化の吟味など統計的分析も随時行っている．また，組織的（学部・学科・コース・カテゴリー 別授業科目単位等）な教育改善の資料として用いられてもいる．今まで，授業評価アンケートは変遷を経てきたが，平成 29 年度から教学システム（Campus Square，「はっとりん」）が導入されたのを機に，新しい Web アンケートを開始した．新アンケートの質問項目は，以下の 19 問に自由記述を加えたものである．

【平成 31［令和元］年度アンケート質問項目】

Q1-1【取組み】予習や復習、課題等に使った授業１回当たりの平均時間(分)を教えてください
Q1-2【取組み】あなたのおよその出席率を教えてください
Q1-3【取組み】この授業を真剣に受講した
Q1-4【取組み】この授業を理解するために努力した
Q2-1【進め方】授業は計画的に行われていた
Q2-2【進め方】授業では考える機会や時間が与えられた
Q2-3【進め方】授業で用いた教科書や資料は適切だった
Q2-4【進め方】授業は学生の理解度を確認しながら進められた
Q3-1【対応】授業では教員に熱意があった
Q3-2【対応】教員は学生の質問に対して丁寧に対応した(課外含む)

Q3-3【対応】授業は丁寧に進められた
Q3-4【対応】授業中に課された提出物(小テスト・レポート等)は内容をよく評価していた
Q4-1【シラバス】シラバスの内容はよく理解できた
Q4-2【シラバス】授業内容はシラバスにある目標に合っていた
Q4-3【シラバス】シラバスの説明は十分に行われた
Q5-1【総合】教員の説明はわかりやすかった
Q5-2【総合】受講して内容に興味や関心が湧いた
Q5-3【総合】この授業を受けて力がついた
Q5-4【総合】この授業を友人や後輩にも勧めたい

(1)授業評価アンケートの実施方法・活用方法

原則として全授業科目（非常勤講師担当科目を含む）を評価対象とするが，学外実習をともなう科目や履修者が 4 人未満の科目などは，本学統一様式によるアンケート対象からは除いた．アンケートは授業科目ごとに全受講生を対象として無記名で学期末に実施した．回収されたアンケートは教育開発センターが集計し，後日，統計処理した資料を授業担当者に送付している．学部・学科・コース・授業科目によっては，これらの資料に基づいた授業改善策などの検討が行われている状況である．

一方，アンケートの回答者である学生に対する直接的なフィードバックは現在行われていない．現在の複数の学内アンケートが実施されており、学生へのフィードバックも含めた包括的なアンケート実施体制の見直しが必要と考えられる。

(2)アンケート集計結果の概要（平成 31［令和元］年度前期及び後期）

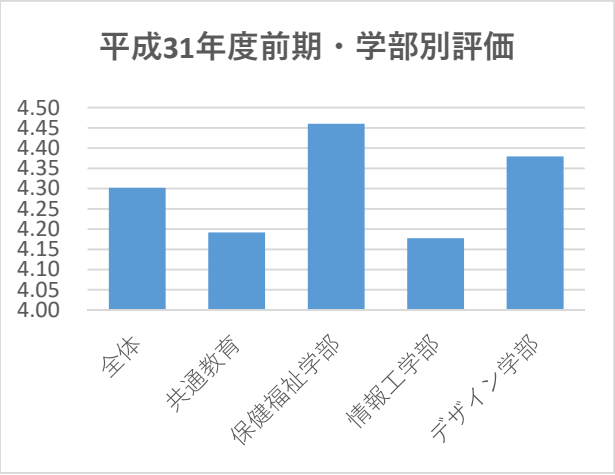
学部授業科目については，平成 31 年度前期の実施科目数は 431 科目（実施率 98.6%，延べ受講生数 17,373 人），平均回収率は 57.42%であり，平成 31 年度後期の実施科目数は 410 科目（実施率 95.4%，延べ受講生数 15,201 人），平均回収率は 51.12%であった．実施率は約 95%以上と高いが，回収率は 50%程度である．Web アンケートに移行以来回収率が低く，その向上が引き続き課題となっている．

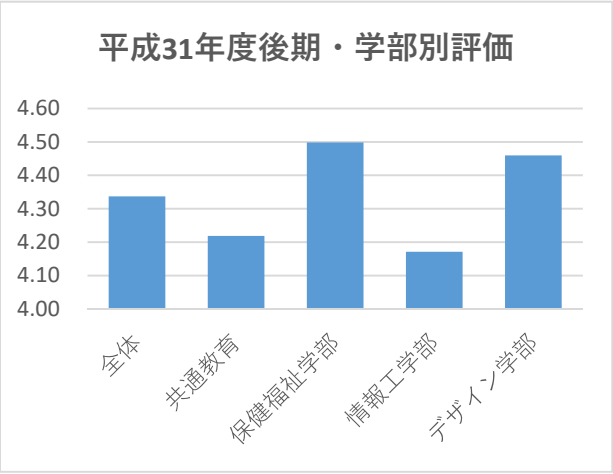
大学院授業科目については，平成 31 年度前期（博士前期課程対象）の実施科目数は 36 科目（実施率 77.8%，延べ受講生数 396 人），平均回答率は 35.1%であり，平成 31 年度後期（博士後期課程対象）の実施科目数は 23 科目（実施率 69.6%，延べ受講生数 170 人），平均回答率は 16.5%であった．実施率および回答率が学部に比べて低く，その向上が大学

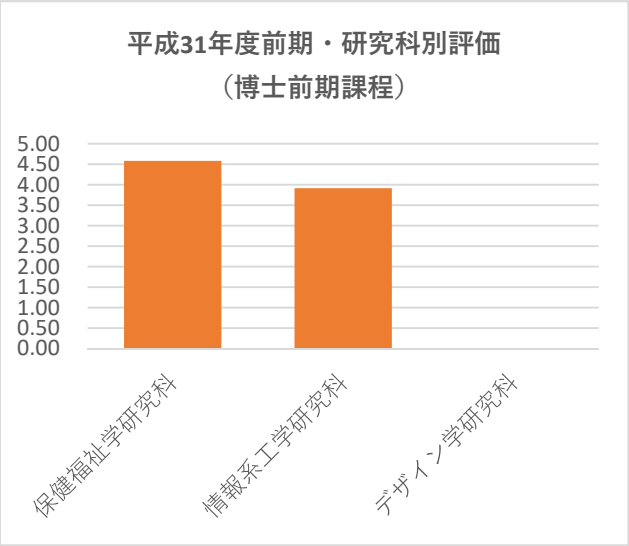
院においても課題となっている．

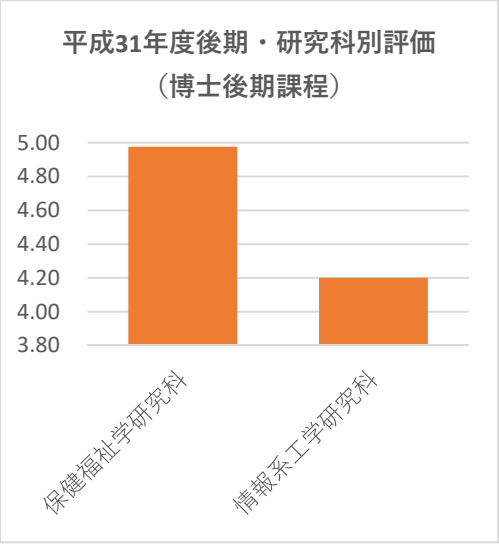
平成 31 年度前期及び後期に実施した授業評価アンケートの平均評価点を学部および研究科別にグラフにて示す．なお，グラフに示される平均評価点は，Q1-3 から Q5-4 の１７項目に対する平均値である．

学部授業科目については，平成 31 年度前期実施アンケートの平均評価点は 4.30，後期実施アンケートの平均評価点は 4.34 であった．次いで，大学院授業科目については，前期実施アンケートの平均評価点は 4.25，後期実施アンケートの平均評価点は 4.59 であった．学部，大学院ともに高い評価を得た．









※参考資料：

【平成 30 年度質問項目】

問１　授業１回あたりの学習時間

問２　授業の出席率

問３　真剣に受講した

問４　この授業を理解するために努力した

問５　授業は計画的に行われていた

問６　授業では考える機会や時間が与えられた

問７　授業で用いた教科書や資料は適切だった

問８　授業は学生の理解度を確認しながら進められた

問９　　授業では教員に熱意があった
問１０　教員は学生の質問に対して丁寧に対応した
問１１　授業は丁寧に進められた
問１２　授業中に課された提出物は内容をよく評価していた
問１３　シラバスの内容はよく理解できた
問１４　授業内容はシラバスにある目標に合っていた
問１５　シラバスの説明は十分に行われた
問１６　教員の説明はわかりやすかった
問１７　受講して内容に興味や関心が湧いた
問１８　この授業を受けて力がついた
問１９　この授業を友人や後輩にも勧めたい

2-4-4　FD 研修会

令和１年度は，教育力向上支援事業成果報告会を行い研究成果の教員への周知を図ると共に，アクティブラーニングに関する研修会を実施し，相互授業参観結果を授業の実践に活かすため，授業改善意見交換会を企画した．

2-4-4-1　教育力向上支援事業成果報告会

(1)開催概要

教育の充実・質の向上及び教員の教育力の向上に直接結びつく調査並びに実践活動に交付する学内競争的資金である教育力向上支援事業の成果について，教員間での共有を促進するとともに広く公表するために，報告会を開催した．本年度は，平成 30 年度末に完了した事業を対象に，下記のように成果報告会を実施した．

日　　時	令和元年 5 月 29 日（水），13:00～17:00（OPU フォーラムと同時開催）
場　　所	体育館
発表方法	ポスター展示 各ブースには B1 サイズ（縦 1030mm×横 728mm）スチレンボード 1 枚を設置し，指定ブースにポスターを展示した．また，事業関係者 1 名以上がブースに常駐し来場者への発表と議論を行った．

(2)参加者と結果

沖学長をはじめとして多くの参加者による聴講及び議論が活発になされ，教員間の情報共有が促進された．その結果，各教員の教育力向上のための改善策が多く生まれる良い機会になった．また，昨年度から OPU フォーラムとの同時開催となったため来場者が多く，保健福祉分野・情報工学分野・デザイン分野に携わる様々な企業の方，地域の方，教職員が参加し意見交換を行った．

事業代表者(学科)	事　業　名
名越恵美(看護学科)	SBAR を用いたシミュレーション演習プログラムの作成

實金栄(看護学科)	看護アセスメント力向上のための看護理工学の導入 第Ⅰ期
新田陽子(栄養学科)	韓国又松大学校での調理実習を通したグローバル教育の推進
中村光(保健福祉学科)	「岡山創生学」科目としての保健福祉学部「チームガバナビリティ演習」の展開
新山順子(保健福祉学科)	保育士養成課程の見直しに対応した岡山県立大学モデル・カリキュラムの開発
津田勢太(デザイン工学科)	建築学科(仮称)の教育体制構築に向けた課題調査
野宮謙吾(造形デザイン学科)	デザイン学科(仮称)における DP・CP 達成に関する教育状況調査

2-4-4-2　教育開発センターFD 部門「センター・ワークショップ：アクティブ・ラーニングの仕組みと仕掛け―学生の主体性を引き出すために―」

(1)開催概要

インストラクショナル・デザイン（教育設計）の考え方に基づき，アクティブ・ラーニングの意義と手法について学んだ．そもそも，アクティブ・ラーニングとは何なのかに始まり，学生がアクティブになる授業をどのように組み立てたらよいのか，授業時間外学習を促すにはどのような仕掛けが効果的なのか等について，参加者全体で学び，考えた．

開催日時	令和 2 年 2 月 20 日（木）12：40～14：10
開催場所	岡山県立大学　学部共通棟（東）8904 講義室
講師	仲道雅輝先生（愛媛大学　教育・学生支援機構教育企画室）

(2)参加者

参加者数は教員が 76 名（保健福祉学部 34 名，情報工学部 25 名，デザイン学部 17 名），職員が 6 名の合計 82 名であった．

(3)アンケート結果

参加者には用意したアンケートの回答を要請し，72 名の回答を回収した．研修会の満足度や研修会の成果が活用できるかについての回答は以下の通りであった．

設問	教員・職員の別	とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
研修会のテーマ・内容の満足度	教員	84%	13%	3%	0%	0%
	職員	50%	50%	0%	0%	0%
講師についての満足度	教員	77%	23%	0%	0%	0%
	職員	75%	25%	0%	0%	0%
研修会の全体の満足度	教員	66%	29%	5%	0%	0%
	職員	75%	25%	0%	0%	0%
研修会の成果を活用したい	教員	59%	32%	9%	0%	0%
	職員	75%	25%	0%	0%	0%

自由記述の中から，(A)今回の研修会への感想・意見，(B)今後の研修会で希望するテーマの２点に関する主なものを以下に示す．

(A)今回の研修会への感想・意見

分類	記述
成果	・AL の具体的手法が教示され，しかも体験的に知ることができ，大変役に立つ研修会でした. ・今までの研修会で一番良かった．具体案と理論＋知識のバランスがとれている講師選択が良かった. ・具体的な例も話してくださったので，とても勉強になりました. ・授業に活用出来そうな具体的な手法を学ぶことができた. ・AL を取り入れた講義とそうでないもので区別されているものと思っていたが，そうではなく，すべての講義に取り入れられる手法であると認識した. ・研修会全体が AL のモデルとなっていて参考になりました. ・講師の講演はそれ自体 AL の手法を盛り込んだ内容で，体感しながら理解できた. ・「話し合って下さい」の時の盛り上がりはびっくりしました．こんな感じの授業ができたらなと思いました．机やイスが動かなくても AL ができることにおどろきました. ・現在取り組んでいる AL の手法について，根拠となるお話をうかがうことができ自信につながった. ・授業の設計と運営について，自分が普段感じていることを理論立てて説明していただいて面白かったです. ・90／20／8 という考え方を知り，授業に活かしたいと思います. ・90／20／8 の区切りなど，自身の授業でも取り入れていきたいと思う. ・具体的に教えていただき，４月からの講義で実践しようと思います．予習，復習（時間外学習）の意義が理解できました. ・ふだん教員同士で意見交換する機会がほとんどないので，講義の中でたまたまとなりに座られた方（他学科）と話し合いをする機会がありとても刺激になりました. ・近くの先生と具体的な話ができて深まったと感じた.
課題	・AL の効果，メリットはわかったが，デメリット・実施上の注意点は？ ・教養教育や専門教育の個々について適した AL の手法や例を知りたかった. ・AL の成果をどのように評価するかまで示していただくとありがたい. ・AL は教育分野毎に，きめ細やかな研究が必要であろう.

(B) 今後の研修会で希望するテーマ

・AL の実践に対する評価（とくにグループワーク）について. ・Moodle をはじめ e-learning や ITC 型授業の展開方法について. ・シラバスの書き方，授業設計. ・教員と職員さんが距離を縮められそうなテーマ. ・教育手法に関するより細分化したテーマ. ・広島県の教育改革の取り組み.

2-4-4-3　授業改善意見交換会

(1) 実施概要

相互授業参観活動を基に，具体的な授業の進め方や指導技術について意見交換・情報共有し，今後の授業改善に役立てることを目的に，授業改善意見交換会を開催した．

本年度については，昨年度に引き続き分野別の議論深化を図ることを目的とし，学部及び共通教育部別のグルーピングとした．

開催日時：令和元年 9 月 20 日（金）12:40～13:50

開催場所：岡山県立大学 8901 講義室

プログラム：

１　開会（河合 FD 部門長）

２　相互授業参観の実施結果報告（西川）

３　グループディスカッション（荻野）

テーマ：「よりよい授業づくりの方法とは」

相互参観授業レポートの観点 6 項目より最大 3 項目を選び，「よりよい授業づくりの方法とは」をテーマにディスカッションする．

・ディスカッション後，模造紙にまとめる

・各班の代表者にて発表する

４　閉会（河合 FD 部門長）

(2) 参加者

参加者数は 52 人，その内訳は教員が 51 人，職員が 1 人であった．

(3) グループディスカッションについて

学部及び共通教育部別による８班（各班 4～8 名）をグルーピングし，「よりよい授業づくりの方法とは」をテーマに班別のディスカッション（約 30 分間）を行った．次に各班の代表者により，ディスカッションの結果を発表した（各班約 3 分）．

写真 1（ディスカッション風景 1）

写真 2（ディスカッション風景 2）

各班において選択された項目とディスカッションの内容（抜粋）は下記の通りであった.

【項目 1 授業の準備，導入】

・カードリーダーを部屋に整備している.

・提出物で途中退出者の対策をしている.

・ふりかえりをして見通しのよい講義を心がけている.

【項目 2 授業の構成】

・グループで討論が深まっても，発表だけでは細かなところまで共有できない.

・アクティブ・ラーニングを入れると時間が不足する.

・クリッカーを使うのは効果的である.

【項目 3 授業の展開技術】

・学生への個別対応が困難だ.

・図表はプロジェクタに映している.

・明確な指示と適当な課題を与えることが大事だ.

【項目 4 教材の内容・活用】

・現物を使って説明すると効果的であった.

・資料をデジタル化している.

・視聴覚教材を用いる際，１本５分程度のビデオを流している.

【項目 5 学生への関わり】

・授業中に寝ている学生に対して，その場に行き注視すると，周りの学生が起こしてくれる.

・理解度の異なる学生への配慮としては，「分からなかったら手を挙げてください」と言う，できるだけ全員に対する質問を行い，答えられない学生には「パス」の権利を与える等している.

・くじ引きで突然に当てられるという緊張感を与えている.

【項目 6 授業のまとめ】

・まとめの時間を十分に取っている.

・個人評価を質問の数で行うと効果的だった.

なお，ディスカッションのテーマとして選択された項目の総数は下記の通りであった.

項目１　授業の準備・導入・・・４

項目２　授業の構成・・・３

項目３　授業の展開技術・・・３

項目４　教材の内容・活用・・・３

項目５　学生への関わり・・・４

項目６　授業のまとめ・・・１

(4) アンケート結果

参加者には用意したアンケートの回答を要請した．回収した回答は 42 通（教員 39 名）であった．意見交換会の満足度等は以下の通りであった.

(A)意見交換会について	とても満足 21.4%	割合満足 57.1%	どちらともいえない 14.3%	やや不満 7.2%
(B)実施方法について	とても満足 16.7%	割合満足 45.2%	どちらともいえない 31.0%	やや不満・とても不満 7.1%
(C)講師の発表について	とても満足 15.6%	割合満足 40.6%	どちらともいえない 37.5%	やや不満 6.3%
(D)会の長さについて	とても長い 0.0%	やや長い 2.4%	ちょうどよい 54.8%	やや短い・とても短い 42.8%
(E)必要な知識・方法は学べたか	かなりできた 7.9%	できた 60.5%	どちらともいえない 26.3%	あまりできない 5.3%
(F)得た知識・方法を活用しますか	是非活用したい 16.2%	できたら活用したい 62.2%	どちらともいえない 21.6%	

自由記述の中から，(A) 意見交換会についてその理由，(B) 実施方法についてその理由，(C) 講師の発表についてその理由，(D) 会の長さについてその理由，(E) 必要な知識・方法は学べたか，それはどのような点か，(F) 得た知識・方法を活用しますか，それはどのような点か，(G) 意見・要望の七つについて分類したものを以下に示す.

(A) 意見交換会についてその理由

分類	記述
肯定的な意見	・他の先生の考えを聞く機会が少ないので，この会は有意義. ・他学科の先生と意見交換する機会となった. ・いろいろなアイデアや意見を聞くことができた. ・他の教員の取り組み（工夫）について知ることができる. ・同学部の教員がそろっており，非常に意見交換をしやすかった. ・他学科の状況を知ることができた. ・同じ学部でそろえてあったので話しやすかった. ・各グループからの報告が学びにつながった. ・同じ課題が共有できたことが良かったです. ・何を議論し，改善するかという点で有効な気がしない.
否定的な意見	・時間が足りなくて討議を進めるところまでいかなかった. ・学部間で改善する内容が異なるのでは. ・ディスカッションのテーマ（観点）を統一したほうが良い. ・時間が足りない．話ができたのは少し. ・戦術的なレベルの議論しかできない枠組み.

(B) 実施方法についてその理由

分類	記述
肯定的な意見	・同じ学部の教員グループでしたが，学部を混ぜた方が新鮮味があってよいと思う． ・グループワークは良い． ・同学部の教員揃っており，各教員の授業のやり方を知ることができて有意義だった． ・小グループなので話しやすい． ・同じ学部の先生方との意見交換なので，共感しやすかった． ・時期的には良かったですし，参加サイズも適当だったと思います．
否定的な意見	・内容は良いが，時間が短い．個々の先生が思うことは多い． ・会場が狭いのが難点． ・グループワーク形式の進行に慣れていない教員へのサポートがほしい（意見が出にくい）． ・形式が同じで若干のマンネリ感が出てきている．毎回似たような意見ができてくる．参加したこのない教員に参加してもらいたい． ・時期を再考してほしい．3Q 前で忙しい． ・学部間で改善する内容が異なるのでは． ・テーマを 6 つに限定する必要がない．

(C) 講師について，その理由

分類	記述
肯定的な意見	・各代表の方々の発表を聞くことができて良かった． ・資料を準備して頂いてわかりやすく説明を頂いた． ・新任（前任も教員であった）方の比較的意見を聞けたのは良い． ・他学部の文化や雰囲気を知る機会になり，刺激を感じるところもある． ・全体の傾向が分かった． ・思いがけないアイデアが聞けました．
否定的な意見	・レポートのまとめの説明にもう少し時間をかけ，詳しくしてほしい． ・まとめがよくわからなかった． ・足早で，あまり頭に入ってこなかった．

(D) 会の長さについてその理由

分類	記述
肯定的な意見	・ディスカッションと発表の時間もちょうど良かった． ・日程の都合上今年度は短くなったようです．例年通りの長さが良いと思います． ・集中して参加できた． ・60～70 分がよい． ・ちょっと短いぐらいがちょうどよいと思います．
否定的な意見	・議論がまとまらないうちに終わってしまう．

	・テーマを絞るのにも時間が必要で，意見交換の時間が短いと感じた． ・観点の数に比して時間が足りないのでは？（3 テーマではなく，1～2 テーマでよかったかもしれない） ・もう少し話したかった． ・ディスカッション時間が短い（あらかじめテーマが決まっていれば，すぐに具体的なディスカッション活動に入れる）． ・発表時間が少し詰まった感がある．

(E) 必要な知識・方法は学べたか，それはどのような点か

記述
・いろいろと活用できる案がありました．どうもありがとうございました．
・各教員が同じような悩みをかかえていること．
・アクティブラーニングの実施の考え方について．
・自分では気づかなかった点を確認できた．
・講義・演習，講義室の形態によるので，参考になるものもあれば，できないものもある．
・自分とは異なる方法は参考になった．
・改めて出欠確認の不便さを思い知らされました．
・「相互授業参観レポートまとめ」にある多くの意見・感想が参考になりました．
・自分がリードを取る場面が多く，自分の経験を話す方が多かった．
・学生の気質と関係性をどうとらえるか？という視点が必要に思えた．
・方向性を意識した講義にしたい．
・他学部が面白かった．
・私の授業はダンスなので実技系の先生が少なく．．勉強になるが，そのまま参考にはできない．
・学生のスマホ利用について考えるよい機会になった．
・アクティブラーニングの具体的な方法をや工夫を知ることができました．活用したいと思います．
・グループワークの方法，学生との関わり方など具体的な方法を知ることができた．
・これからの結果なので何とも言えませんが，活用できると思います．

(F) 得た知識・方法を活用しますか，それはどのような点か

記述
・難易度のレベルを変えた課題をいくつか用意しておいて，様子を見ながら使い分ける．
・授業の時間割，学生の対応．
・小テストによる理解度測定．
・演習中心に担当しているので，特にミニテストに関するつくりに反映させたい．
・理解できない人に挙手してもらい，再度丁寧に説明する．
・スマホ，視聴等機材の利用情報収集ができたので，今後活用する．
・ワールドカフェ，質疑の回数を点数化する．
・TA を活用する．が，TA が削減されている．

(G) 意見・要望

記述
・″授業参観に代わる何か良い方法を考えるべきと思います．完全にマンネリで参加率は下がる一方だと思います． ・今回，教室などの施設面の改善点も出ましたが，これらは対処していただけるのでしょうか？″ ・今回のような演習形式が良い（講義より）． ・いろいろと参考になりました．ありがとうございました． ・もう少し長めに． ・同学部の教員のため，改善すべき事項が共通していることがわかった．今後もこの様なグループで交換会を実施することが望ましいと思う． ・教室の設備の老朽化が著しい．他学の良いとされる授業を動画等で見て，どのあたりを重視するか議論するのはどうか？ ・交換会の意見ではないですが，他の教員の授業参観する機会はいろいろな意味で非常に役立つので，公開授業数を少しでも増やす工夫を続けて頂けると幸いです． ・発表は，たまには最後のグループ（デザイン）から始めて頂けると，変化があるのではないかと思います． ・よりつっこんだ議論は学部をまたいでは難しいと感じた．同学部でのグループディスカッションの形はよいと思うが，学部毎に違う日程で行ってもよいのでは． ・授業参観の時期が今年前期であったため，あわただしく参観できなかった．意見交換会も必要だが，授業を参観しやすい環境づくりも必要と思った． ・本学の学生評価の良い授業がどんな授業か知りたいです． ・先生方は学生への対応を工夫されている．

2-4-5　アクティブラーニングの推進

本学では，アクティブラーニング（以下，AL）の導入を推進する取組をおこなっている．本年度は，現状における AL の実施状況を調査した．

（１）調査内容

調査は，講義科目を担当する本学専任教員を対象として，令和元年 11 月 20 日～26 日にかけておこなわれた．調査内容は，授業の規模を確認するための項目として，「対象学部等」，「対象年次」，「受講者数」，「授業回数」を設けた．AL の実施状況については，AL の実施回数と採用している手法について調査した．その際の AL の手法については，以下の項目を設定した．また，本稿では，少人数クラスでの運用に適したものを AL (A)，大人数クラスでも比較的運用しやすいものを AL(B)とする．

１．　グループワーク	AL(A)
２．　ディスカッション	
３．　プレゼンテーション	

４．　振り返り	AL(B)
５．　宿題	
６．　発問，挙手	
７．　その他	

（２）調査結果

		保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	共通教育部	計
対象科目数		171	126	48	39	384
AL実施科目数（実施率）		103 (60.2%)	95 (75.4%)	40 (83.3%)	27 (69.2%)	265 (69.0%)
	AL(A)	69 (40.4%)	15 (11.9%)	28 (58.3%)	12 (30.8%)	124 (32.3%)
	AL(B)	100 (58.5%)	91 (72.2%)	36 (75.0%)	27 (69.2%)	254 (66.1%)

令和元年度開講計画にある本学専任教員担当の講義科目 384 件のうち，何らかの AL を実施しているとの回答があったのは 265 件（69%）であった．本学では，学生の能動的な学修を必然的に伴う演習，実験，実習が，全科目のうち約 40%と大きな割合を占めていることから，今回の講義科目での調査結果と合わせると，能動的な学修の機会は十分に確保されているといえる．

学部別に見ると，デザイン学部，情報工学部，共通教育部，保健福祉学部の順に実施率が高い．これは，デザイン学部は作品制作やプレゼンテーションなどの技能修得を目的としており，他方で保健福祉学部は資格取得の際に要求される知識の修得が重視されるなど，学部による学修内容に応じた違いであることが推測される．同様に，AL(A)の実施率が保健福祉学，デザイン学部で高いことは，それぞれ，実習や演習といった集団で学修する科目が多いことから，講義科目でも関連した AL の手法が取り入れられているためだと考えられる．

AL の手法としては，上述の 6 種類に加えて，反転授業，Project Based Learning，Problem Based Learning，e-learning，体験学習，ロールプレイングといった手法も用いられている．また，学修内容の特性にあわせた独自の AL を導入している科目もあり，各教員は学修成果の向上のために様々な工夫を行っている．

今後の課題としては，AL の導入という手段と学修成果の向上という目的が逆転しないように留意しつつ，FD 研修会をつうじて AL の手法に関する情報共有と活用方法についての理解を深めるとともに，実際の学修成果について追跡調査を行うことが必要だと考えられる．

2-4-6　まとめと課題

令和元年度の FD 部門活動を総括する．相互授業参観と授業改善意見交換会を開催することにより，他者の授業からヒントを得るだけで無く，教員同士の意見交換を通じて多くの新しい気づきが生じており，良好な結果が得られた．FD 研修会では，アクティブラーニング

を題材に取り上げ，アンケートでは良好な評価を得た．アクティブラーニングに関する調査結果とあわせて，本学におけるアクティブラーニングの推進にとって良好な見通しがえられた．授業評価アンケートに関しては，評価結果が高止まり傾向にあったため，平成 28 年度後期実施以降では教育評価部会と合同で検討した新しい質問項目に変更すると共に，Web で回答する方法へと改めた．しかし，平均回収率はマークシート方式に比べて低く，その向上が課題である．

2-5 教育評価部門

教育評価部門における平成 31 年度の主な活動として、(1) 教育満足度予備調査の実施，(2) 学部学科横断型教育評価検討会（英語教育）を実施した。(1) の教育満足度予備調査は、学部 3 年生を対象に、在学中の学びの実態について状況を把握することを目的とした。調査結果は本学での教育改善や大学教育に対する社会の理解促進のための基礎資料として今後活用する予定である。なお、平成 31 年度については、適切な調査方法や設問項目などを整理・検証することも目的とする試行調査として実施した。以下がその実施内容である。

2-5-1　教育満足度予備調査の目的

・令和 2 年度から文部科学省実施の全国的な学生調査（以下、本調査とする）が予定されている。本調査のねらいは、学修の主体である学生の目線から大学の教育力の発揮の実態を把握することになる。また、大学進学希望者など社会が理解しやすいよう、調査結果を原則大学・学部毎に公表することになる。さらに、その調査結果を踏まえ、各大学が自ら教育改善を行うことが期待されている。こうした学生目線から大学教育の実態を把握することで、文部科学省では今後の政策立案の際のエビデンスとしても活用することをねらいとしている。
・教育開発センター教育評価部門では、令和 2 年度からの本調査（文部科学省と国立教育政策研究所による共同実施）に備え、教育満足度予備調査を実施し、本学の学生動向を把握するとともに、本学の教育評価に関する情報収集および分析をおこない、授業や教育環境について評価、検討し、教育の質保証をはかる。また、調査結果は、教育開発センターFD 部門およびアドミッション部門と共有し、本学の教育改善や入学者選抜の広報戦略的展開、高大連携・接続を推進する。

2-5-2　調査方法及び体制について

・学部 3 年生を対象とする。
・後期（第 4 クォータ）試験期間を含む 3 週間で実施する。
・オンライン回答形式（はっとりん等）　※15～20 分程度で回答可
・設問を固定化することで経年変化を調査する。
・設問は大問 8 問程度とする。
・設問は全学的（＋各学部）なもので、各科目に関する授業評価アンケートとは別にする。
・文部科学省・学生調査（案）に加え、学部別の質問項目（3～8 問程度）を追加する。

・(株) サーベイリサーチセンター広島事務所に業務委託する（実施経費については、「教育改善事業費」を活用する)。
・解析結果フィードバック（外部公開方法）については、次期 IR 担当教員が調査結果を整理する予定である（大学 HP 上で公開予定　※自由記述欄は非公開）

2-5-3　調査項目

（１）学部名を選択してください
（２）大学での授業等について答えてください。
２－１：これまでに受けた授業では、次の項目は、どれくらいありましたか。それぞれの項目について、「①よくあった、②ある程度あった、③あまりなかった、④ほとんどなかった」から当てはまるものを選択してください。
■項目
１．授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた
２．理解がしやすいように教え方が工夫されていた
３．教員以外の者（アシスタントなど）が配置されており、補助的な指導があった
４．小テストやレポートなどの課題が出された
５．適切なコメントが付されて課題などの提出物が返却された
６．グループワークやディスカッションの機会があった
７．教員から意見を求められたり、質疑応答の機会があった
８．主に英語で行われる授業（語学科目は除く）があった

２－２：大学に入ってから次のような経験はありましたか。また、その経験は有用でしたか。それぞれの項目について、
「①非常に有用だった、②有用だった、③有用ではなかった、④経験していない」
から当てはまるものを選択してください。
■項目
１．大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目
２．研究室やゼミでの少人数教育
３．（授業以外で）教員に質問したり、勉強の仕方を相談する機会
４．キャリアに関する科目、キャリアカウンセリング（就職や進学相談）
５．インターンシップ（５日以上のもの）
６．海外留学（３か月以上のもの）
７．図書館やアクティブラーニングスペースを活用した学習

２－３：授業期間中の平均的な１週間（７日間）の生活時間について、当てはまる時間数を選択してください。

項目	授業期間中の平均的な１週間（７日間）の生活時間（単位：時間）						
	0 時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-30	31 時間以上
１．授業（実験・実習含む）への出席	1	2	3	4	5	6	7
２．予習・復習・課題など授業に関する学習	1	2	3	4	5	6	7
３．授業以外の学習	1	2	3	4	5	6	7
４．部活動/サークル活動	1	2	3	4	5	6	7
５．アルバイト/定職	1	2	3	4	5	6	7
６．就職活動	1	2	3	4	5	6	7
７．趣味/娯楽/交友	1	2	3	4	5	6	7

２－４：これまで受けた授業の形態について、全体が１０割になるようお答えください。
（足して 10 割になるように、おおよその割合をお答えください。）

大講義（出席者数が 100 人以上）	中講義（出席者数が 50 人以上 100 人未満）	小講義（出席者数が 50 人未満）	演習・ゼミ	実験・実習
割	割	割	割	割

２－５：次の知識や能力を身に付けるために、大学教育は役に立っていると思いますか。
それぞれの項目について、「①とても役に立っている、②少し役に立っている、③あまり役に立っていない、④役に立っていない」から当てはまるものを選択してください。

項目
専門分野に関する知識・理解
将来の仕事に関連しうる知識・技能
文献・資料・データを収集・分析する力
論理的に文章を書く力
人に分かりやすく話す力
外国語の力
統計数理の知識・技能
問題を見つけ、解決方法を考える力
多様な人々と協働する力
幅広い知識、ものの見方
異なる文化に関する知識・理解

２－６：ここまでの設問への回答にどのくらいの時間が必要でしたか。
「①５分以内、②５分～１０分以内、③１０分以上」から当てはまるものを選択してください。

２－７：大学での学びについて、ご意見などがあれば自由に記載してください。（自由記述：100 字以内）

■以下については、所属学部の質問についてのみ回答してください。
２－８：【保健福祉学部】
これまでに受けた学外実習では、次の項目はどれくらいありましたか。
それぞれの項目について、
「①よくあった、②ある程度あった、③あまりなかった、④ほとんどなかった」から当てはまるものを選択してください。

１．実習の目的にそった専門知識や技術について適切な指導を受けることができた
２．学習意欲を引き出すような支援を受けることができた
３．実習記録（事前準備を含む）は、学習効果をあげるものであった
４．個人の学びを全体（グループ）で共有する機会があった
５．自身のキャリア形成を考えるための参考となった

２－８：【情報工学部】
入学してからの 3 年間で、次の能力を身に付けてきていると思いますか。
それぞれの項目について、
「①そう思う、②ややそう思う、③ややそう思わない、④そう思わない、⑤まだわからない」から当てはまるものを選択してください。

１．幅広く豊かな教養と多面的な思考力
２．異文化理解・コミュニケーション力
３．地域におけるコミュニケーション力と企画提案力
４．数学、自然科学に関する知識とそれらを応用できる能力
５．情報工学の基礎分野に関する知識とそれらを応用できる能力
６．情報工学と関連工学分野の専門知識とそれらを複合的に応用できる能力
７．行動力・課題解決力
８．生涯学習力

２－８：【デザイン工学部】
以下の項目について、
「①そう思う、②ややそう思う、③ややそう思わない、④そう思わない、⑤まだわからない」から当てはまるものを選択してください。

１．デザイン学部棟の施設の開放時間（授業時間外含む）は十分だと思うか。
２．デザイン学部棟の設備（撮影機材、アトリエ棟工房など）について、制作に支障なく充実していると思うか。
３．デザイン学部について、制作意欲が湧く環境だと思うか。

2-5-4　調査結果

■回答状況

学部名	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	計
回答者数	80 (47.1%)	44 (25.9%)	46 (27.1%)	170 (100.0%)

■学科別

学部名	看護学科	栄養学科	保健福祉学科	情報通信工学科	情報システム工学科	人間情報工学科	デザイン工学科	造形デザイン学科	計
回答者数	10 (5.9%)	23 (13.5%)	47 (27.6%)	10 (5.9%)	10 (5.9%)	24 (14.1%)	18 (10.6%)	28 (16.5%)	170 (100.0%)

2-5-5　学部学科横断型教育評価検討会

教育評価部門では、教育評価の観点から学部学科横断的な検討を行うことで、本学の教育改善につなげることを目的とする活動を実践している。平成 31 年度では、英語教育を取り上げた。以下に令和 2 年度より実施予定の英語外部試験 TOEIC の単位履修要件化に関する課題として挙がった主なものを記す。

・留年生の増加が危惧される
・本学は（センター試験に英語が含まれているものの）個別学力試験で英語を課していないため、個別試験に英語のある大学に比べて、教科による能力のばらつきの大きい学生も多い
・アドミッションポリシーに（英語を厳密にみるということは）明記されていないのでは
・情報工学部やデザイン学部の場合、セーフティネットで救うのにも苦労するような学生（単位過剰債務学生や合理的配慮を要する学生含む）が増えることが予想される
・セーフティネットにも外部評価テストによる厳密な閾値を設ける必要があるのか
・外部試験のスコアにとらわれず、英語が好きな（嫌いでない）学生や TOEIC の重要性に賛同するような学生（成績上位層等）を伸ばす方向に力を割くことで、結果的に全学平均値も上げる、という戦略が望ましいのではないか
・どうしても足切りの点数を設ける必要があり、それにより一定の教育効果が期待できるのであれば、その妥協点は、現実的に全員を引き上げることが可能な数字に設定するべきではないか
「数字だけみれば」、現状、平均値 361 点（最低点 135 点）の集団に対して、いきなり 350 点以上のハードルを設けるのは、高すぎるのではないか
・再履修を想定し、（情報工学部における）卒業研究の履修要件に共通教育科目分のバッファをもたせるべきだ

なお、本検討会にあたり、すでに学部独自に進級要件として TOEIC スコアを導入している岡山大学環境理工学部・木村幸敬教授と面談し、直接ご教示を頂いた。参考までに以下にその主な打ち合わせ内容を記す。

進級要件としての TOEIC スコア導入の取り組み：岡山大学環境理工学部

１）導入のきっかけ
・文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業による（全学的）語学力の強化
・工学部による卒業要件 TOEIC450 の設定
・環境理工学部は 4 年進級時の要件（3 年次対象）のため、TOEIC400 に設定することで卒研配属にハードルを課すねらい
２）導入にあたっての問題点および対応策
・一般教育科目の英語とは切り分けること
・専門科目の先生方の理解（コンセンサス）を得ること
・全学学生支援機構（基幹教育センター）の英語教員は、TOEIC スコア導入に消極的であった（当時）こと
・全学的に GTEC（4 技能）を導入し、環境理工学部では換算表を用いて評価していること

・TOEIC スコア 400 未達者への対応として、セーフティネットとしての「基礎英語実践演習」2 単位分の修得をもってかえることを可としたこと
３）導入後の問題点および対応策
・再履修生の扱いとして、過年度生も上記「基礎英語実践演習」の受け入れを可としたこと
・再履修生の増加への対応策の結果として、4 年前の導入当初は 25 名、その後、18 名、10 名、3 名と減少した
・実施から数年が経過し、ほぼ全員が 3 年次までに TOEIC スコア 400 を取得している
・留年は教務システム上、あり得るが現状はない

2-5-6 まとめと課題

平成 31 年度においては，(1) 教育満足度予備調査の実施，(2) 学部学科横断型教育評価検討会（英語教育）を行った．

今後，教育満足度予備調査については、令和３年度以降に実施予定の全国学生調査の本実施にむけて、今年度の経験を生かしながら、準備を整えていきたい。また、学部学科横断型検討会については、今年度の英語教育は引き続き検討を重ねるとともに、地域連携やグローバル関連科目といった他の全学的な学問領域も検討課題として取り上げたい。

2-6 まとめと課題

各部門にて入試と教育に集中した事業や活動が実施された．

アドミッション部門では，2021 年度から始まる大学入学者選抜改革に対応して本学のアドミッション・ポリシーの策定を行った．新たなポリシーに沿って入学時アンケート調査を実施・分析し、これを活かしてオープンキャンパスならびに高校訪問などの入試広報活動を再検討し、またこれに備えるために学内研修会の教育開発講座も実施した。さらに令和 3 年から始まる学部改組に応じた入試体制の準備も必要なため、各学部各学科と調整しながらアドミッションポリシーに沿った入試方法も再検討した。

共通教育部門では，平成 30 年度に始まった新たなカリキュラムの定着を図るために、各種アンケートを利用し、授業評価も参照しつつ、再検討を続けた。中でも、語学に関してセメスター制を導入したこと、複合 PBL 科目についてアクティブ・ラーニングの積極的な導入を推進した。

FD 部門では，相互授業参観、授業評価アンケート,FD 研修会、アクティブラーニングの推進の四つの活動を軸足にしつつ、授業改善意見交換会も実施し、教員の教授能力向上に寄与する取り組みを行った．アクティブラーニングについては、アンケート結果（70%近い高い実施率）を得たことで今後のアクティブラーニング推進についてもきめ細かな課題を検討する見通をたてることができた。

教育評価部門では，文科省の調査に対する予備調査として「教育満足度予備調査」を実施できた点が大きな成果であった。

次年度からはアドミッション部門が独立強化される予定である。これに対応して教育開発センターも「教育の質」を向上させる事業や取り組みなど、教育に特化した活動を積極的に推進させていく所存である。

3 教育改革推進事業における教育活動と成果

3-1 目的

大学教育の充実・質の向上に結びつく調査並びに実践活動を助成する事業として平成21年度から実施されてきた教育力向上支援事業であるが，教員の教育力向上・開発に関する活動と教員個人の研究との棲み分けが必ずしも明確でない事業が含まれること，教育改革推進を目的として実施されたにも拘わらずがカリキュラム改革に必ずしも結びついていない事業があることなど，いくつかの課題が指摘されていた．そこで2019年度から，全学又は各部局等のディプロマ・ポリシー又は教育方針等に基づいた学修成果の向上に直接結びつく調査，研究及び実践活動等に対して助成を行う事業として，名称を教育改革推進事業と変更し，組織的に学修成果の向上に取り組むものであれば共通教育部，学部，学科，専攻のみならず大学事務局（教学課）を単位としたものも支援する事業に改めた．

3-2 本年度実施事業及び来年度実施予定事業

（１）2019 年度教育改革推進事業一覧

2019 年度に申請のあった３つの事業は互いに関連しており，事業の円滑な推進に向けて経費を効果的に活用する観点から，３つの事業をそれぞれサブ事業 A～サブ事業 C として，１つの統合事業として実施することとした．

2019 年度 教育改革推進事業

代表者所属	代表者氏名	事業名	査定額（千円）
副学長（教育担当）	高橋　吉孝	（統合事業名）令和 2 年度に向けた学内評価の分析及び増進事業	1,500
教育開発センター長	樋笠　勝士	（サブ事業 A）教育満足度予備調査の実施と評価解析	
情報工学部長	榊原　勝己	（サブ事業B）情報工学部におけるGPA導入の効果に関する検証	
教育開発センター長	樋笠　勝士	（サブ事業 C）広報メディアサービスを活用した戦略的入試広報	
		計（千円）	1,500

（２）2019 年度教育改革推進事業の概要と成果

サブ事業名	（サブ事業 A）教育満足度予備調査の実施と評価解析
代表者	樋笠　勝士（教育開発センター長）

目的及び 活動概要	（目的） 令和２年度から文部科学省実施の全国的な学生調査（以下,「本調査」と略記）が予定されている．本調査のねらいは，学修の主体である学生の目線から大学の教育力の発揮の実態を把握することになる．また，大学進学希望者など社会が理解しやすいよう，調査結果を原則大学・学部毎に公表することになる．さらに，その調査結果を踏まえ，各大学が自ら教育改善を行うことが期待されている．こうした学生目線から大学教育の実態を把握することで，文部科学省では今後の政策立案の際のエビデンスとしても活用することをねらいとしている． 教育評価部門では，令和 2 年度からの本調査に備え，本学の学生動向を把握するとともに，本学の教育評価に関する情報収集および分析をおこない，教育開発の推進に資する事業，特に授業や教育環境について評価，検討し，教育の質保証をはかりたい．そこで，本事業では，教育満足度予備調査を実施し，その調査結果のデータ解析をアウトソーシングすることで，より精度の高い教育評価を期待する．
	（活動概要） ・文部科学省実施の本調査と同様，学部 3 年を対象とした．また，実施時期は，後期（第４クォーター）試験期間を含む３週間とした． ・実施形式は，オンライン回答式とした．（「はっとりん」を使用）内容は，学生調査の質問事項をベースに，学部の特性に応じた本学独自の設問を追加で設定した． ・本事業で得られたデータにより，本学学生の大学教育に対する期待度や満足度，学生自身の学習行動や教育活動への関与等を把握する．
成果	本事業は，令和 2 年度実施予定の文部科学省学生調査をふまえ，学修の主体である学生の目線から大学の教育力の発揮の実態を把握することをねらいとしたものである．この点については，本章の２－５にある通り，本学における教育の実態の一端を知るデータを収集できたと言える．特に，教員の指導に対する学生満足度については，一定の評価を得ることができた．また，図書館やアクティブラーニングスペースなど大学施設を活用した学習行動も把握することができたことは今後の貴重な資料となる．
課題等	・一部の学科では実習等が重なり，全体で半数以下の 170 名からの回答となった．回答率を上げるための実施時期の見直しおよび学生への周知方法は検討課題である． ・今後他のアンケート事業と調整の上，大学進学希望者など社会が理解しやすいよう，調査結果を大学ホームページ等を活用して公表する．

サ　ブ 事　業　名	（サブ事業B）情報工学部におけるGPA導入の効果に関する検証
代　表　者	榊原　勝己（情報工学部長）
目的及び 活動概要	（目的） 学生の学習意欲を向上させること，履修登録した授業科目に真摯に取り組むことを主眼として，GPA（Grade Point Average）制度が平成27年度入学生から導入され，平成30年度末に「GPA制度第一期生」を輩出した．本学のGPA計算式では，履修科目が不合格になると，GPAスコアが大きく減少するため，特に3年次生は，前期までに「卒業研究」着手要件を満たす単位を修得した場合，後期に選択科目を履修しなくなる傾向がみられる．また，情報工学部3学科では，「卒業研究」に係る研究室配属を，GPA制度導入に伴い，GPAスコアを利用した評価指標に基づいて行うようになった．これは，3年次後期にGPAスコアの低下を招きかねない授業科目の履修を敬遠することに拍車をかけているように見受けられる． 本申請事業では，上記のような学生の履修行動を定量的に評価するとともに，他大学工学系学部におけるGPA制度の取り扱いを調査し，情報工学部におけるGPA利活用のあり方を検証することを目的とする
	（活動概要） ・GPA制度導入前の平成26年度以前入学生と，GPA制度導入後の平成27年度以降入学生の履修行動を把握するため，半期ごとの履修登録単位数および修得単位数の平均値，標準偏差，変動係数，分布などの推移を可視化する． ・以上の調査結果に基づき，情報工学部におけるGPAスコアの有効な利用方法を提言する．
成果	・半期ごとの履修登録単位数の調査結果 3学科とも，3年次後期の履修登録単位数は，3年次前期までと比べ，数単位から十数単位減少している．この傾向はGPA導入前から見られ，3年次前期までに「卒業研究」履修要件を充足した学生が，3年次後期に履修登録科目を減らす行動に出ているものと考えられる．学科別では，情報通信工学科と人間情報工学科に，この傾向が強く見られ，特にGPA導入後の平成27年度以降入学生では顕著に表れている．情報システム工学科では，GPA導入一期生である平成27年度入学生では同様の傾向であったが，平成28年度入学生では，GPA導入以前の水準に戻っている．GPA導入後のデータが2年間でしかないため，今年度に3年次生となっている平成29年度入学生のデータが待たれる

	ところである． ・3 年次前期末までの「卒業研究」履修要件単位数と 3 年次後期の履修登録単位数の関係 3 学科とも，GPA 導入後の入学生では，GPA 導入前の入学生と比べ，3 年次後期の履修登録単位数が減少している検証結果となっている．もっとも顕著であるのは人間情報工学科である．人間情報工学科では，卒業要件単位数をほぼ維持したまま，「卒業研究」履修要件単位数を GPA 導入と同時に平成 27 年度入学生から 110 に増やしたことも一因と考えられる．情報通信工学科においても，3 年次前期までに多くの単位を修得している学生は 3 年次後期に履修登録単位数を下げており，GPA 導入が拍車をかけている．一方，情報システム工学科では，他の 2 学科とは異なる履修行動を示している．「卒業研究」履修要件ギリギリでは，3 年次後期に履修すべき単位数が，他学科より多いことも要因と考えられる．
課題等	本来，GPA は学生の履修意欲（履修登録した授業科目に責任を持たせる）を維持，向上させるために導入されるべきものであると考えられる．しかしながら，3 年次後期には専門性が最も高くなる授業科目が配置されているにもかかわらず，優秀な学生（3 年次前期までに多くの単位を修得している学生）が 3 年次後期における履修登録を避ける傾向にあることが，本事業の結果から示された．専門性が高い授業科目では，良い成績で合格する可能性が低下すると考え，履修登録をした場合，結果的に GPA を下げてしまう恐れがあることを危惧しての行動と考えられる．このため， (1) 授業科目の履修により上下する GPA に代わり，低下することのない GPT を利用する． (2) 3 年次後期に履修登録を促すことができるようなカリキュラムを検討する． の 2 点を，本事業結果に基づいて提言する．

サブ事業名	（サブ事業 C）広報メディアサービスを活用した戦略的入試広報
代表者	樋笠　勝士（教育開発センター長）
目的及び活動概要	（目的） 令和 3 年度からの保健福祉学部の現代福祉学科，子ども学科およびデザイン学部のビジュアルデザイン学科，工芸工業デザイン学科，建築学科の学科改編と大学入学者選抜改革が相まって，本学にとって大きな変革の時期を迎えている．今まで本学が実施している高校側や保護

	者との懇談会，オープンキャンパス，ホームページによる広報では，特に文化，価値観，情報への接触態度が全く異なる 1996-2010 年生まれの Generation Z（Z 世代）といわれる世代に向けて，またこれからの社会に向けた情報発信，手段としては不十分であると考えられる．これからの高校生，高校教諭，保護者をはじめとする様々なステークホルダーに向けて，積極的に本学の改革を発信するためには，社会の動向やニーズ調査データを有する広報メディアサービスを活用した戦略的な入試広報が有効であると考えられる．また広報メディアサービスが保有している豊富な市場データを活用すれば，本学のブランド力向上の強化に繋がることが期待できる．
	（活動概要） ・主に高校生を対象に Web 上で映像授業やアクティブラーニングなどを活用した大学受験講座を実施しているスタディサプリ等の広報メディアサービスを利用し，広報メディアサービスが有する豊富な広報施策のための客観データも活用しながら，従来の広報手段にとらわれず，入試専門業者による戦略的な入試広報を展開する． ・各学部学科の特色，ビジョンを明確化し，既存大学や既存学部学科との差異化，差別化を活かして各学部学科で広報ターゲットや広報時期を絞り，学ぶ内容のみならず，具体的なカリキュラム，実習・演習内容，在学生，卒業生，教員のコメントや卒業後の社会での活躍等のコンテンツを通じて，本学の魅力に関して積極的な広報を行う． ・広報メディアサービスが有する調査データを有効活用する（契約範囲内で無償提供）． (1) 学部学科のトレンド調査，進学マーケティング，ニーズ等の客観的調査データから，学部学科のポテンシャル施策検討に活用できる． (2) 入試分析調査，入試実態調査等により入試制度施策の検討に活用できる． (3) 募集プロセス調査，入学時の期待度と卒業時の満足度調査，高校生の進路選択の現状調査，高校生と保護者の進路に関する意識調査，高校生の意識価値観調査，高校の進路指導，キャリア教育に関する調査等から，広報戦略施策の検討に活用できる．

成果	従来の広報手段にとらわれず，入試専門業者による戦略的な入試広報を展開するために，映像授業などによりWebを活用した大学受験講座を実施しているリクルート社の「スタディサプリ進路」の広報メディアサービスを利用した．契約範囲内で無償提供されるリクルート社保有の客観データや戦略的入試広報の結果について，来年度から新設されるアドミッション・高大連携センターで議論を進めることで，少子化が進む中，今後の入試改革，広報改革を基盤に本学のブランド力の向上に繋げることができると考えられる．

3-3 まとめと課題

平成 21 年度に創設された本事業は，本学における FD 活動である「相互授業参観や授業評価アンケートに基づく教育改善活動」，「全学 FD 研修会による啓蒙活動」と並び，本学教員の教育力向上に向けた「教育開発活動」としてその柱の一つを担ってきた．年度によっては教員における教育改善意欲の反映として 30 件をゆうに超える申請があったが，10 年間の推移において次第に，高大接続，地域連携，グローバルさらにはキャリア形成など，大学教育に求められる課題が多様化するようになったこともあり，申請案件によってはその潮流と同時に汎用性の意識が薄れ，個別化・表層化の様相を呈するに至ったといえる．また，各事業の成果について，計画期間終了後の波及効果や発展性などが，十分配慮されているかどうかについて不明な点があり，アフターフォローの課題も浮上していた．

以上をふまえ，新たなディプロマ・ポリシーの指標に基づいて学修成果を点検し，その向上に直接結びつく組織的な調査，研究及び実践活動等を支援する教育改革推進事業として新たなスタートを切った．しかしながら，本年度の取り組みにおいては結果として広報に終始したものも含まれるなど，上記の事業目的を達成できたかどうかは課題である．今年度公表した新たな３つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現のためには教育成果，学修成果の恒常的な点検，評価が必要であり，今後は Institutional Research (IR)の充実に特化して本事業を活用していくことも考える必要があるかもしれない．

第２章　キャリア・学生生活支援センターにおける教育活動と成果

1　概要

キャリア・学生生活支援センターは，2019 年 4 月に発足し「キャリア形成支援部門」，「就職支援部門」，「学生生活支援部門」，「正課外・ボランティア活動支援部門」から構成されている．「キャリア形成支援部門」と「学生生活支援部門」はそれぞれ大学教育開発センター（現　教育開発センター）に組織されていた「キャリア形成支援部会」と「学生支援部会」を移行するかたちで設置され，「正課外・ボランティア活動支援部門」は「学生支援部会」の所掌であった学生のボランティア活動を含む正課外活動の支援を引き継ぐかたちで設置された．一方，「就職支援部門」は本センター発足に合わせて新たに設置された．さらに，本センターは「学生相談室」と「保健室」とも連携して業務を行っている．

2　各部門における教育活動と成果

キャリア形成支援部門は，県大吉備塾やキャリアカルテ，キャリア相談などキャリア教育に関する業務と卒業生・修了生アンケートなどキャリア形成支援のための調査を行っている．就職支援部門は，求人情報やインターンシップ情報の発信，就職相談窓口の開口，各種セミナーの開催など学生向けの対応と企業からの求人受付など学外向けの業務を行っている．正課外・ボランティア活動支援部門は，学生支援団体 PZL とともにボランティア要請の集約と発信を行うとともに，学生が積極的にボランティア活動を行えるように大学としての支援体制を整備している．学生生活支援部門は，障がいをもった学生の支援，主体的な学習活動のための支援，厚生補導，学習環境の整備，学生 FD 活動の支援などを行っている．

2-1　キャリア形成支援部門

2-1-1　概要

キャリア形成支援部門は，学部学科を横断する全学的取組みとして以下の調査・企画立案業務を掲げ，本学学生のキャリア形成を支援することを目的としている．在学生が本学の卒業生からキャリア形成に関する知見を得る『県大吉備塾』の企画・実施，学生のキャリア形成支援において重要なツールとなる『キャリアカルテ』の整備と運用など，学生のキャリア形成意識の向上を目指している．その他，本学卒業生との連携に必要な課題抽出のため，岡山県立大学同窓生が主催する『Reunion Day』に協力し同窓生と本学のネットワーク構築のあり方についても検討している．加えて，本学におけるキャリア支援のための活動の充実に向けた基礎資料を得ることを目的とした『卒業生および修了生アンケート』の検討を継続している．以下に本年度の活動概要を記す．

2-1-2　県大吉備塾の開催

県大吉備塾は平成27年度より取り組んでいる事業で，本学の卒業生を特別講師として招聘し，講演会やワークショップ・ディスカッション等を開催し，学科学部を超えた教職協働の視点から在学生へのキャリア形成支援を目的として展開・構築しようとするものである．以下に令和元年度の第27回県大吉備塾から第34回までの開催概要を記す．いずれの回においても参加した学生および教員によるアンケート結果は，吉備塾の内容が意義のあるものであったとの回答が多かった．次年度に向けて，より具体的なキャリア支援となるよう，対象学年や実施時期について企画毎に検討する必要が確認された．

第 27 回県大吉備塾

〇学外講師

倉敷中央病院／管理栄養士　高須栞氏（2016 年 3 月卒業）

岡山県備中保健所／行政管理栄養士　吉家愛氏（2009 年 3 月卒業）

吉備中央町立円城小学校／学校栄養教諭　峯園友理氏（2014 年 3 月卒業）

国立循環器病研究センター／管理栄養士　竹本小百合氏（2010 年 3 月卒業）

〇テーマ：「大学での学びは業務のこんなところで生かされている」

〇実施日時：令和元年 7 月 27 日（土）13:00～16:30

〇会場：学部共通棟（東）8902 教室

〇企画運営教員：平松智子，都島梨紗，我如古菜月，山下広美

第 28 回県大吉備塾

〇学外講師

リスパック株式会社　水野冴理（2007 年 3 月修了）

株式会社 CAPCOM　梶原伸司（2016 年 3 月卒業）

〇テーマ：「デザイン学部で学んだことと現在の仕事」

〇実施日時：令和元年 10 月 3 日（木）14：20～17：30

〇会場：デザイン学部棟 3413 講義室

〇企画運営教員：野宮謙吾，関崎哲，齋藤美絵子，作元朋子

第 29 回県大吉備塾

〇学外講師

岡山県倉敷児童相談所　粂田舞氏（2017 年 3 月卒業）

倉敷中央病院　高橋葉月氏（2019 年 3 月卒業）

にしのみや聖徳園（特別養護老人ホーム）　鈴木星氏（2019 年 3 月卒業）

〇テーマ：「福祉の仕事のやりがいと学生時代の過ごし方」

〇実施日時：令和元年 10 月 31 日（木）12:40～14:10

〇会場： 学部共通棟（東）8904 講義室

〇企画運営教員：桐野匡史

第 30 回県大吉備塾

〇学外講師

スズキ株式会社　薮内駿氏（2017 年 3 月卒業）

フェンリル株式会社　福水恵理氏（2018 年 3 月卒業）

株式会社藤田建装　逸見麻衣氏（2017 年 3 月卒業）

〇テーマ：「過去の私をふりかえる・未来の私を夢みる」

〇実施日時：令和元年 11 月 26 日（木）14:20～17:30

〇会場：デザイン学部棟 3312 教室

〇企画運営教員：林秀紀

第 31 回県大吉備塾

〇学外講師

旭川荘療育・医療センター／保健師　福田彩夏氏（2014 年 3 月卒業）

旭川荘療育・医療センター／看護師　岩部汐李氏（2015 年 3 月卒業）

〇テーマ：「大学での学びと仕事の経験は，看護実践に活かされている」

〇実施日時：令和元年 12 月 2 日（月）13：30～16：30

〇会場：学部共通棟（北）8201 講義室

〇企画運営教員：名越恵美，犬飼智子

第 32 回県大吉備塾

〇学外講師

アシックス商事株式会社／海外生産本部　倉本尚幸氏（2017 年 3 月修了）

トヨタ車体株式会社／第 1 ボデー設計部　小出彩友美氏（2017 年 3 月修了）

ミズノ株式会社／スポーツ営業本部　正木良典氏（2017 年 3 月卒業）

〇テーマ：「スポーツ用品メーカーと自動車メーカーに就職した先輩のお話」

〇実施日時：令和元年 12 月 13 日（金）14:20～17:00

〇会場：情報工学部教育・研究棟 2906 室

〇企画運営教員：齋藤誠二

第 33 回県大吉備塾

〇学外講師

学校法人虫明学園中仙道幼稚園　近久惟氏（2017 年 3 月卒業）

学校法人川崎学園　徳永小綺氏（2017 年 3 月卒業）

社会福祉法人宮川福祉会こじかこども園　西山由香里氏（2018 年 3 月卒業）

倉敷市立赤崎保育園　橋本葵氏（2019 年 3 月卒業）

広島西こども発達支援センターくれよん　三坂優花氏（2019 年 3 月卒業）

〇テーマ：「人を育て人と関わる仕事を目指して」

〇実施日時：令和 2 年 1 月 16 日（木）9：00～12：00

〇会場：学部共通棟（南）8210 講義室

〇企画運営教員：柏まり，樟本千里

第 34 回県大吉備塾

〇学外講師

NTT コミュニケーションズ株式会社　野村大和氏（2013 年 3 月修了）

NTT ビズリンク株式会社　田中一也氏（2018 年 3 月修了）

〇テーマ：「巨大グループ会社で"はたらく"ために学生時代に培っておくべきこと

～ICT を活用したサービス提供の現場から～」

〇実施日時：令和 2 年 2 月 7 日（金）14：20～16：30

〇会場：学部共通棟（北）8105 講義室

〇企画運営教員：石井裕

2-1-3　キャリアカルテの運用

本学キャリアカルテは2018年度以降入学生を対象に運用している．「入学前の自分について」「現在の自分について」「将来の自分について」と3つのカテゴリで構成し，学生自身に

よる入力を促すことで，自己分析やその後の行動計画を支援する質問項目を整備している．2019年度は１～２年次入力項目の再検討および３年次入力項目の検討を行った．確定した入力項目は下の表に示す．本学キャリアカルテのより効果的な活用について，共通教育科目「大学で学ぶ」の1/2単元を用いて，その効果や使用方法について説明した．

本学キャリアカルテ 2020 年度１～２年次入力項目（アンダーラインが修正箇所）

入学前の自分について（年度当初に入力しましょう）	高校時代の趣味（好きなことや楽しみ）は何でしたか？
	高校時代の特技（自信のあるスキル）は何でしたか？
	高校時代に好きだった科目は何でしたか？（理由を具体的に）
現在の自分について（随時更新しましょう）	現在の趣味・特技は何ですか？（楽しみ方やきっかけ等を具体的に）
	好きな科目は何ですか？（理由を具体的に）
現在の自分について（年度当初に入力し，年度終盤に自己評価を入力しましょう）	今年度，頑張りたい科目や習得したい知識・スキルは何ですか？（学業・プライベートを問わず）
	取得を目指している資格は何ですか？（取得予定時期，級なども具体的に）
	あなたはどんなことができる人になりたいですか？（旧：現在，できていないことや身につけたいこと）
	TOEIC の目標スコアは何点ですか？（受験予定月）＊英検も可
現在の自分について（年度終盤に入力しましょう）	クラブやサークル，アルバイトなどで得たことは何ですか？
	卒業生の講演（県大吉備塾など）を受講して気付いたことや学んだことは何ですか？
	異文化交流（スタディツアーや留学，国際交流行事など）に参加して気付いたことや学んだことは何ですか？
	どんなボランティア活動に参加しましたか？（気付きがあれば具体的に）
	この一年で新たに自分の強みとなったことや成長できたことは何ですか？
将来の自分について（年度末に入力しましょう）	次年度，頑張りたい科目は何ですか？
	次年度，頑張りたい活動（部活，アルバイト，ボランティア，国際交流など）は何ですか？
	現時点で興味のある仕事（業種・職種）は何ですか？

本学キャリアカルテ 2020 年度３年次入力項目（新規）

現在の自分について（随時更新しましょう）	趣味・特技は何ですか？（楽しみ方やきっかけ等を具体的に）
	好きな科目は何ですか？（理由を具体的に）
	自身の強み・弱みは何ですか？
現在の自分について（3年次の当初に入力し，終盤に自己評価を入力しましょう）	頑張りたい科目や習得したい知識・スキルは何ですか？（学業・プライベートを問わず）
	取得を目指している資格は何ですか？（取得予定時期，級なども具体的に）
	あなたはどの分野のスペシャリスト（専門家）になりたいですか？
	TOEIC の目標スコアは何点ですか？（受験予定月）＊英検も可
	インターンシップや企業訪問についての目標（どの業種に何カ所？）
	ゼミでどのような研究をしたいですか？（未定の場合は予定を入力）
	大学院に進学するために準備することは何ですか？
	目標を達成するために，この一年間どのように行動しますか？
現在の自分について（3年次の終盤に入力しましょう）	チーム活動（演習，部活，サークル，アルバイト，ボランティアなど）で得たことは何ですか？
	卒業生の講演（県大吉備塾など）を受講して気付いたことや学んだことは何ですか？
	異文化交流（スタディツアーや留学，国際交流行事など）に参加して気付いたことや学んだことは何ですか？
	どんなボランティア活動に参加しましたか？（気付きがあれば具体的に）
	この一年で新たに自分の強みとなったことや成長できたことは何ですか？
将来の自分について（3年次の末に入力しましょう）	次年度，頑張りたい科目や研究は何ですか？
	一年後どうなっていたら最高ですか？
	五年後どうなっていたら最高ですか？

2-1-4　卒業生と本学との連携課題（Reunion Dayへの協力）

岡山県立大学３期生主催のもと，本学同窓会後援，大学（キャリア形成部門）の協力で令和元年11月2日（土）に岡山県立大学卒業生の卒業20年を記念し，３学部に短期大学部を加えた合同同期会が開催された．出席者は73名（学内教員10名，退職教員1名を含む）であった．県大祭や学内開放に足を運ぶ参加者もおり，76名分の同窓会名簿がアップデートされ，卒業生とのネットワークづくりなど多面的な機会創出に寄与した．

2-1-5　各学科におけるキャリア形成支援活動の集約と広報活動

キャリア形成支援部門は，学部学科の横断的な全学的取組みを調査し広く周知する役割も担っており，学生支援班と協働して本学学生のキャリア形成を支援することを目的としていることから，各学部・学科が実施した前年度の「キャリア形成支援に関する活動」を調査・集約した．下の表に示す．さらに大学の公式サイトにその全容を掲載し（https://www.oka-pu.ac.jp/media_images/files/h31/gakuseishien/2018katsudou.pdf）学内外へ向けて情報を提供した．

2018 年度　キャリア支援に関する活動

学科名	開催月	対象学生	イベント名	概要
看護学科	4 月	3～4 年生	就職・進学ガイダンス	卒業生 10 名による自施設の紹介と進学した学生によるカリキュラムの説明
	4 月	在校生，卒業生	ホームカミングデー	卒業生と在校生対象の交流会
	１２月	全学年	第２４回県大吉備塾	学科卒業生による講演会
	1 月	２年生	就活スタートアップ講座	外部業者による就活をスタートするにあたっての基本講座
	3 月	4 年生	就活アドバンス講座	外部業者による就活で気を付けるべき具体的内容の講座
栄養学科	4 月	3 年生	就職・進学ガイダンス	学科教員と本学キャリアカウンセラーによる説明会
	5 月	4 年生	岡山県採用試験説明会	岡山県教育委員会の人事担当者が来学，教員採用試験の説明.
	7 月	在学生	第１回就職支援セミナー 第２１回県大吉備塾	卒業生による講演会
	１０月	4 年生	岡山県講師登録説明会	岡山県教育委員会の人事担当者が来学，講師登録の説明と希望者への登録面接.
	１１月	3 年生	企業説明会	オハヨーとピゼン化成の 2 社による会社説明会
	1 月	1～3 年生 大学院生	第２回就職支援セミナー	就職内定者との意見交換会
保健福祉学科 社会福祉学専攻	5 月	3～4 年生	就職合同説明会	福祉関係の仕事に就いている卒業生に学科主催の合同就職説明会に参加してもらい，情報交換を行う.
	１１月	全学年	第２３回県大吉備塾	専攻卒業生による講演会
保健福祉学科 子ども学専攻	6 月	卒業生	ホームカミングデー	新卒者を対象とした交流会（勤務状況等の確認）
	１２月	3～4 年生 卒業生	就職ガイダンス （卒業生を囲む会）	卒業生と在校生対象の交流会
	1 月	全学年	第２６回県大吉備塾	専攻卒業生による講演会
	2 月	2～3 年生	就職ガイダンス	保育・福祉専門職従事者（卒業生）を講師に招いての懇話会

	2月	3年生	進学・就職懇話会	大学院在学生・各種一般・専門就職採用試験合格者（4年生）によるガイダンス
情報工学部（3学科共通）	3月	3年生，M1	合同企業説明会（学内開催）	午前：県内外企業69社，午後：システムエンジニアリング岡山会員企業26社
	3月	3年生，M1	合同企業説明会（学内開催）	岡山県立大学協力会会員企業36社により開催
	12月	3年生，M1	業種説明会（学内開催）	岡山県立大学協力会会員企業6社による「機械」「農業機械」「ソフトウェア」「造船」「設備」「化学」の6業種の説明
	8～10月	3年生	長期インターンシップ（エンジニアリング演習）および報告会	34名の学生による県内企業18社での17日間のインターンシップ，受入れ企業も参加した報告会
情報通信工学科	2月	3年生，M1	学科進路ガイダンス	就職・進学についての教員および業者によるガイダンス
情報システム工学科	1月	3年生，M1	就職・進学ガイダンス1	進路（就職・進学）についての説明会1：基本的な考え方の説明
	2月	3年生，M1	就職・進学ガイダンス2	進路（就職・進学）についての説明会2：データ分析等を踏まえての説明
人間情報工学科	7月	全学年	第25回県大吉備塾	学科卒業生による講演会
	2月	3年生，M1	学科進路ガイダンス	就職・進学についてのガイダンス，および卒業生とM2による就活説明
デザイン工学科	5月	3年生	スズキ クレイモデルワークショップ	スズキ現役モデラー（卒業生含む）によるクレイモデルワークショップ
	6月	3年生	株式会社類設計室 企業説明会	建築設計事務所若手社員による会社説明・設計業界研究会
	6～7月	全学年	夏季インターンシップ説明会	大手メーカーによる夏季インターンシップ学内説明会（3社）
	8月	2年生	中四国連携合宿授業	中四国7大学の学生が参加しマツダの商品企画を体験する文科省AP継続事業
	10月	全学年	第22回県大吉備塾	学科卒業生による講演会
	10月	2年生	スズキ スケッチワークショップ	スズキ現役デザイナーによるカースケッチワークショップ
	10～1月	3年生	冬季インターンシップ説明会	大手メーカーによる冬季インターンシップ学内説明会（20社）
	2月	全学年	3大学連携会議	岡山理科大学，山口東京理科大学と連携したキャリア支援に関する文科省AP継続事業
造形デザイン学科	7月	3年生	ポートフォリオセミナー①	県内学生服企業からの外部講師を招いた学生のポートフォリオ講評会
	7月	全学年	第20回県大吉備塾	学科卒業生による講演会
	12月	全学年	インターンシップ報告会	造形デザイン学科専門科目「インターンシップ」の報告会

	1月	3年生	ポートフォリオセミナー②	広告会社に勤務する卒業生を招いた学生のポートフォリオ講評会
	2月	3年生	ポートフォリオセミナー③	大手印刷会社 国内デザイン部長を招いた学生のポートフォリオ講評会

2-1-6　まとめと課題

キャリア形成支援部門は，学生支援班と協働して本学学生のキャリア形成を支援することを目的とした部門である．卒業生の活躍を在学生のキャリア形成支援に結びつける目的で実施した県大吉備塾においては，出席した在学生や卒業生講師によるアンケートの結果より，本取り組みに対する満足度や期待度の高さが確認できた．しかし，よりキメ細かい支援とするため，対象学年や実施時期についてさらに明確な目的を掲げ企画・実施する必要がある．昨年度より運用を開始したキャリアカルテにおいては，入力項目についてはブラッシュアップされたが，利用者増加や活用支援の方法について検討する必要がある．

2-2　就職支援部門

2-2-1　概要

令和元年度に新設の就職支援部門は，各学科の就職担当教員及び本学のキャリアカウンセラー，事務局職員で構成されており，求人企業の受付対応，企業情報の収集，就職ガイダンスや就職セミナー，インターンシップ情報の提供，学生相談などを行った．

2-2-2　就職支援活動とインターンシップ

2-2-2-1　就職支援活動と実績

全学部を対象として，就職ガイダンスや各種模擬テストを実施した．また，専門のキャリアカウンセラーを2名配置し，学生への個別指導を行った．来学求人企業対応は218社で，企業と学生とのマッチング促進を図った．

各学科においても，就職担当教員が中心となり，学科の特性に応じた就職指導やセミナー，企業説明会等を開催し，学生を細やかに支援した．

就職ガイダンスの実施状況

実施日	ガ イ ダ ン ス の 内 容	実 施 機 関 等	参加学生数
4月20日	公務員全国公開模試	(株)東京リーガルマインド	33
5月20日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	0
5月21日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	4
6月18日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	0

6月20日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	1
6月20日	県大生のための就活基礎知識	本学キャリアカウンセラー	8
6月27日	自己分析，業種・職種について	本学キャリアカウンセラー	13
7月18日	応募書類の作成方法	本学キャリアカウンセラー	14
7月23日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	0
7月25日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	0
7月25日	リクルートスーツの着こなし方	はるやま商事(株)	12
8月 1日	公務員ガイダンス	本学キャリアカウンセラー	7
9月26日	就活マナー	本学キャリアカウンセラー	8
10月10日	就活メイク	(株)資生堂	8
10月15日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	2
10月17日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	1
10月17日	グループワーク対策	本学キャリアカウンセラー	2
10月24日	面接対策（基本動作・集団）	本学キャリアカウンセラー	12
10月31日	自己分析，業界・職種について	本学キャリアカウンセラー	8
11月 7日	応募書類の作成方法	本学キャリアカウンセラー	10
11月19日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	2
11月21日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	2
12月17日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	2
12月19日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	0
12月19日	公務員ガイダンス	本学キャリアカウンセラー	17
1月 9日	就活準備のポイント講座	(株)リクルートキャリア	41
1月16日	リクルートスーツの着こなし講座	はるやま商事(株)	23
1月21日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	8
1月23日	社会人基礎能力を高めるための自由講座	本学キャリアカウンセラー	0
1月23日	書類選考・筆記試験 実践講座	(株)リクルートキャリア	54
1月30日	合説の回り方＆必須マナー講座	(株)マイナビ	54
2月10日	就活セミナー	本学キャリアカウンセラー	120
2月27日	就活ゼミ	本学キャリアカウンセラー	30
3月 3日	就活ゼミ	本学キャリアカウンセラー	30

就職活動バス（合同企業説明会へのバス）の運行（中止）

運行日	合同企業説明会参加場所	主　　催　　者	参加学生数
3月 1日	大阪（インテックス大阪）	(株)マイナビ	－

※新型コロナウイルスの影響で主催者の(株)マイナビにおいて中止を決定した。

キャリアカウンセラー（２名）による就職相談

相談日	相談時間	内　　容　　等
週3～4日	9:30～16:20	キャリアカウンセラーによる各種相談を実施 ◇相談内容等 ・就職活動のすすめ方 ・履歴書・エントリーシート等書類に関する相談 ・面接対策　　など ◇R1年度相談件数 ・1,029件 4月…135、5月…116、6月…92、7月…100、8月…87、9月…85 10月…81、11月…74、12月…83、1月…58、2月…65、3月…53

企業からの求人数（２０２０年３月卒業生向け）

掲載月	求人ＮＡＶＩ掲載	はっとりん掲載	来学企業数
２０１９年１月	8	3	15
２月	11	35	17
３月	41	15	19
４月	107	0	15
５月	127	0	21
６月	190	7	13
７月	150	10	12
８月	148	7	9
９月	58	5	20
１０月	42	9	14
１１月	27	1	11
１２月	22	1	14
２０２０年１月	16	0	13

２月	5	0	13
３月	1	0	12
計	953	93	218

2-2-2-2　インターンシップ

本学では，自らの専攻，将来のキャリアに関連した就業体験を行うため，総社市，病院や民間企業等との連携を図り，インターンシップ参加希望学生への支援や情報提供などを行った．なお，情報工学部とデザイン学部においては授業科目として取り組んでいるほか，保健福祉学部においては，特定の資格取得を目的に各種実習として取り組んでいる．

令和元年度の総社市におけるインターンシップの実施状況は次のとおりである．

総社市のインターンシップは，本学と総社市の連携協力に関する協定の一環として平成21年度から実施しているもので，令和元年度は，建築住宅課，生涯学習課，都市計画課，市政情報課，長寿介護課，魅力発信室，学校教育課，復興推進室，環境課，市民課，政策調整課など多部署にわたり，１１名が参加した．また，インターンシップで体験した結果をもとに，学生が市に政策提言することを義務づけ，市はその提言の中から独創性や実現可能性などを評価して，２名の学生を選び表彰した．

〔総社市インターンシップ参加者〕

年　度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	累計
人　数	11	19	23	21	15	12	19	19	30	17	11	197

2-2-3　まとめと課題

本学においては，各学科の特性に応じたきめ細かな就職支援が必要とされるところであり，引き続き，関係教員及びキャリアカウンセラーなど関係者の連携を図るとともに，外部のハローワークや，総社市などの自治体との連携による支援も推進していく必要がある．

2-3　正課外・ボランティア活動支援部門

2-3-1　概要

正課外・ボランティア活動支援部門は，学内の部活動・サークル活動などの正課外活動や，学外でのボランティア活動など，学生の主体的な正課外活動を支援するために設立した部門である．部活動・サークル活動などの正課外活動については，開学以来長年の歴史があり，学生のニーズに応じて，自由な活動ができるよう側面的に援助を行っている．さらに近年ボランティア活動の支援のニーズが高まり，本年度は下記の通り，ボランティア活動の支援の充実を掲げ，学生の主体的な活動を支援できる体制づくりを検討してきている．

2-3-2　ボランティア活動推進体制の検討

本学におけるボランティア活動を通した地域貢献活動・地域連携活動を推進させるために，また，COC+事業が終了して以降もその意思をつなぎ地域における大学の役割を果たすためにも，既存の体制を整備する必要があった．一方で，来年度以降は本部門の所掌が地域創造戦略センターに移行することが決まったため，検討を進めていた体制を新センターにスムーズに移行できるよう再検討を行った．

2-3-3　ボランティア研修会の開催

上記，ボランティア推進体制の検討に合わせ，学生のボランティア活動の促進を目的として，2 回のボランティア研修会を実施した．

【第 1 回目：災害ボンラティア研修】

テーマ：災害ボランティア入門編（活動の心構えなど）

日時：令和元年 7 月 5 日（金）14：20～15：50

会場：岡山県立大学学部共通棟（東）8901 教室

講師：林武文先生（社会福祉法人岡山県社会福祉協議会地域福祉部地域支援班）

参加者：55 名

【第 2 回目：国際ボランティア研修】

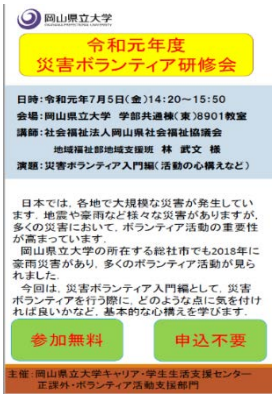
テーマ：国際平和のために私たちができること

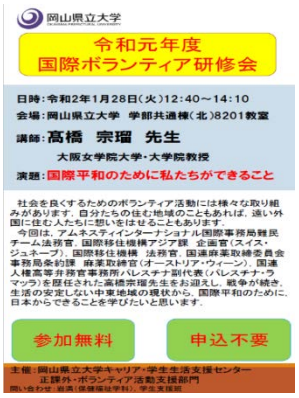
日時：令和 2 年 1 月 28 日（火）12：40～14：10

会場：岡山県立大学　学部共通棟（北）8201 教室

講師：髙橋　宗瑠　先生（大阪女学院大学・大学院教授）

参加者：42 名



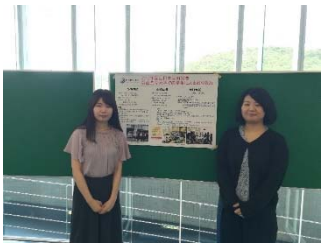


2-3-4　平成 30 年度西日本豪雨災害を忘れないプロジェクトの実施

昨年度，岡山県総社市で西日本豪雨災害により甚大な被害を受けたことを踏まえ，学生たちがその被害を忘れないための取り組みを行った．

【平成 30 年度西日本豪雨災害に対する本学の取り組みの発表】

大会名：日本地域福祉学会第 33 回大会
日時：2019 年 6 月 8 日（土）
場所：川崎医療福祉大学川崎祐宣記念講堂
方式：ポスター発表
参加者：2 名（保健福祉学部保健福祉学科 4 年生）



【災害ボランティア研修】（再掲：2-4-3 ボランティア研修会の開催）
【被災地へのメッセージの作成】
日時：2019 年 7 月 3 日（水）～7 月 8 日（月）
場所：岡山県立大学学生会館 1 階
方式：ポスター掲示
参加者：約 100 名

2-3-5　ボランティアバンク制度の実施

これまで，SAS 登録学生制度を実施し，ボランティア情報などを必要とする学生の登録制度を実施してきた．本年度より，ボランティアバンク制度と名称を変更し，1 年生全員を対象に希望者を募った．本年度は 139 名の登録があった．

2-3-6　地域活動ネットワーク「カタリバ」の実施

COC+も 4 年が経過し，自治体等との域学連携において，大学生（若者）の地域活動への協力に関するニーズは高く，地域のお祭りのボランティアから地域イベントでの企画・運営や地域貢献プロジェクトの立案・実施等，多岐にわたる．これらのニーズに対して，学生とのマッチングが難しく，対応できる学生の把握を目的に，日頃から積極的に地域と関わろうとする地域志向の学生を募り，対話的手法を取り入れながら，学生同士の交流を図るネットワークを開設した．

活動日時：毎月第 2 火曜日・第 4 木曜日　17：45～19：30

活動場所：学生会館 3 階　SAS 室
実施回数：14 回

2-3-7　まとめと課題

正課外・ボランティア活動支援部門では，本年度，学生のボランティア活動の支援体制を中心に検討してきた．その結果，新たに，ボランティア研修会の開催，地域活動ネットワーク「カタリバ」の設置などにより，学生相互の情報交換の場を設置することができた．また，不幸にも平成 30 年度に発生した西日本豪雨についての取り組みも開始することができた．次年度に向け，学生のボランティア活動を支援する体制の拡充につないでいきたいと考えている．

今後，大学として，学生の主体的な活動を支えていきたいと考えるが，大学が学生にお願いするボランティア活動ではなく，学生の主体的なボランティア活動になるよう，これらのボランティア活動支援の取り組みに，学生が参画できる仕組みを来年度も継続して検討していきたい．

2-4　学生生活支援部門

2-4-1　概要

学生生活支援部門は，11 名の教職員から構成されており，障がいをもった学生の支援，主体的な学修活動のための支援，厚生補導，学習環境の整備，学生 FD 活動の支援などを行っている．また，学生相談室と保健室と連携しながらこれらの活動を行っている．

2-4-2　学生生活アンケートの実施

これまでの学生生活アンケートは，大学教育開発センターとして各部会に関連する内容で実施してきたが，キャリア・学生生活支援センターの発足に合わせて，内容の見直しを行った．具体的には，学生が密接にかかわるキャリア・学生生活支援センターの 4 部門，教育開発センター，附属図書館，地域共同研究機構から，学生の学修環境の改善につながる内容の設問に刷新した．

今年度は，2019 年 10 月 7 日から 11 月 8 日にかけて実施し，学部生 1,027 名（回答率 62.0%），大学院生 51 名（回答率 28.0%）からの回答が得られた．回答から学生生活支援部門の管轄内の課題として，アドバイザー制度，オフィスアワー制度，学生相談室などの学生相談窓口の認知度の低さが浮き彫りとなった．また，食堂，喫茶，コンビニにおける値段やメニュー等の改善についての要望が強いことが分かった．さらに，自主学習のためのスペースの確保および既存スペースにおける環境改善についての要望も強いことが分かった．

以上の結果に加えて他の組織に向けた意見や要望については，大学活動委員会において共有し，大学として改善できるところから随時着手して行くことが確認された．

2-4-3　障がい学生支援

2-4-3-1　対応事例

2019 年度に提出された支援要請に対して学生生活支援部門を中心として検討会議を重ね，合意形成がなされた項目について以下の要請・支援ならびに関連事項への対応を行った（継続要請・支援も含む）.

・所属学科の教員に対して，学修面および学修面以外の配慮を要請
・科目担当教員に対して，学習面の配慮を要請
・全教職員へ学生に見やすい板書やスライドの作成を要請（色弱等対応）
・FM マイクが使用できる教室環境の整備（ハウリング対応のマイクとプラグの設置）
・排泄介助（学生支援班）
・通学介助（ピア・サポーターによる）
・合理的配慮を希望する新入生への入学前面談の実施
・学生相談室，保健室との連携による個別対応

2-4-3-2　UE-Net への加盟

UE-Net（教育のユニバーサルデザイン化推進に関する地域連携ネットワーク）に加盟.

2-4-3-3　研修会参加

1）日本特殊教育学会第 57 回大会　自主シンポジウム「我が国における障害学生支援の現状と課題（4）～どこまで支援すべきか～障害学生の教育実習支援を通して」
・令和元年 9 月 22 日（日），広島大学
・参加者：京林部門員

2）岡山県　おかやま発達障害者支援センター「発達障害のある学生の支援のための勉強会～日々の学校生活の振り返り～」
・令和元年 11 月 26 日（火），津山市総合福祉会館
・参加者：齋藤部門員，小崎部門員，武田部門員

3）第 26 回 UE－Net 研究会「就労移行支援・キャリア支援と地域連携」
・令和 2 年 2 月 1 日（土），TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前
・参加者：齋藤部門員

4）大学コンソーシアム岡山
・第 16 回障がい学生支援委員会，2019 年 5 月 22 日（水），岡山大学
参加者：齋藤部門員
・第 17 回障がい学生支援委員会，2019 年 12 月 5 日（木），岡山大学
参加者：齋藤部門員

2-4-4　学生表彰制度

本学においてはこれまで学生の表彰に関する制度・規定はなかった．他大学の多くは学生表彰制度を設けており，H29 年度時点において公立大学は 93.2%の割合で実施している．そこで，本学においても「学業や各種活動において優秀な成績を収めた学生や他の学生の模範となる学生の功績を表彰し，今後の学業・各種活動の励みとする.」ことを目的とした学

生表彰制度の制定案を作成した．なお，本制度は令和 2 年度からの実施を予定している．

2-4-5　アドバイザー制度様式

2017 年度に多様化する学生に対して大学として適切な支援を実施するためにアドバイザー制度の整備を行った．これにより，アドバイザー面談の実施が進み学生における本制度の認知も高まった．一方で，アドバイザー面談の実施において，教務的な意味合いが強くなり生活面等の相談やアドバイスには必ずしもなっていない現状であったり，教員で聞き取り内容が異なる，適当な組織につなぐことができていないなどの課題がでてきた．そこで，アドバイザー制度（面談）の本来の目的に沿って，教員による対応のばらつきなく，また要注意学生を見落とすことなく対応（つなぐ）するため，アドバイザー面談報告様式を作成した．なお，本様式は 2019 年度後期から使用している．

2-4-6　ホームページの整備

今日の学生にとって学内制度に関する情報や各種証明書，申請書の様式をウェブから得ることは一般的となっているが，本学のホームページによる学生への情報提供は十分に整備されているとは言い難い．そこで 2018 年度から学生にとってアクセシビリティの高いホームページを目指した改善作業を進めている．今年度はトップページのリンクを変更し，掲載内容と関連する大学組織が対応するようなページ構成に変更した．それに伴い，各ページの掲載内容についても修正や統合などの整理を行った．今後も改善作業の継続は必要であり，学生便覧のウェブ化や学務システム「はっとりん」との連携についても引き続き検討を進める予定である．

2-4-7　交通指導

学生の通学マナーの向上のため，第 1 クォーター開始（4/10～），第 3 クォーター開（9/24～）にあわせ，学生支援部会の教員，職員が，総社市役所及び総社警察署の方と協働で，早朝（8:10～8:40）に，交通安全の現地指導を実施した．

第 1 クォーター開始時は 4 月 10 日(水)，15 日（月）に，第 3 クォーター開始時は 9 月 24 日（火），26（木）に，国道 429 号のツタヤ北交差点及び国道 180 号バイパス南溝手交差点に分かれ，主に自転車通学の学生に交通安全のチラシを渡し，運転中のスマートフォンやイヤホンで音楽を聴きながらの運転の禁止などを重点的に指導した．

2-4-8　スチューデント・アシスタント制度の検討

スチューデント・アシスタント制度（SA 制度）は，学生相談および支援体制の充実を図ることを目的として検討を進めている．今年度は，各学科における学生相互支援の取り組みを把握した．各学科において既にいくつかの学生相互による支援体制が整っていることから，今後は SA 制度の枠組みの中で大学からの支援の下で各学科の取り組みが実施できるか等について検討を進めていく．

2-4-9　PZL 支援（PORU，義援金，友達 100 人，キャリア支援，学生 FD）

今年度 PZL が企画・実施・参加した以下の活動について支援をした.

・PURU の発行
・台風 19 号義援金募金活動
・友だち 100 人できるかな？
・しゃべり場（学生発キャリアアップ支援）
・学生 FD サミット

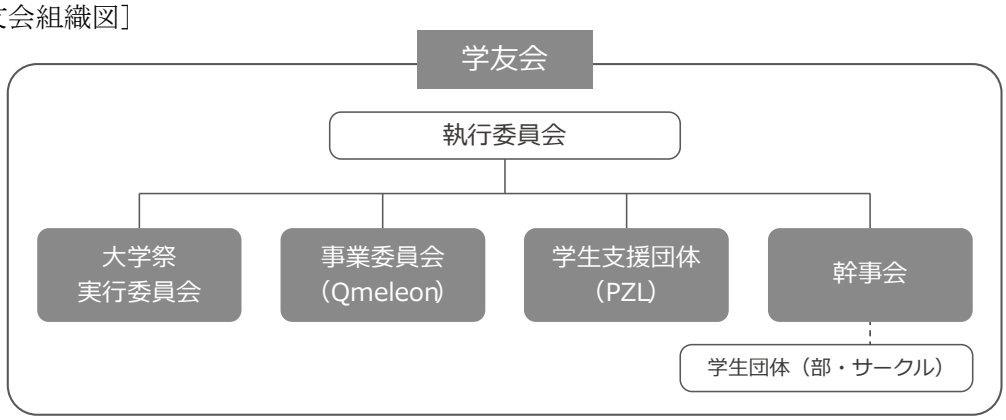
2-4-10　授業料免除制度の周知

令和 2 年 4 月から実施される文部科学省の「高等教育の修学支援新制度」により，意欲と能力のある若者が経済的理由で進学及び修学の継続を断念することが無いよう，原則として返還義務のない奨学金の受給及び授業料の免除・減免を申請できることとなった. この新制度により，従来の授業料免除制度では免除対象とならなかった多くの学生が支援を受けられることになる. よって学生に広く周知を図るため，令和元年 11 月に学内説明会を実施した.

2-4-11　学友会と PZL の体制整備

学生らが自発的に行う様々な課外活動の活動母体として学友会（執行委員会,大学祭実行委員会,事業委員会,幹事会からなる)が存在していたが,平成 28 年度に学生支援団体 PZL が設立されて以降,互いの関係性や業務分担が曖昧になっていた.そこで,各々の活動内容や役割を再度整理し,PZL 及び学友会組織の体制整備を行った.新体制では,学友会組織の中に学生支援団体 PZL を取り込むことで組織を単純化したうえで,それぞれの役割や業務内容を明確にした.新体制の組織図と役割は以下に示すとおりである.

[学友会組織図]



(1)執行委員会

学友会組織のまとめ役であり,大学祭実行委員会／事業委員会（Qmeleon）／学生支援団体（PZL）／幹事会の代表経験者を中心とした学生によって構成される.年 2 回全体会

議を開催し活動報告・収支報告及び各団体の活動支援を行うための予算配分を行う.

(2)大学祭実行委員会

例年 11 月に開催される大学祭に向け,企画・立案,会議の開催,関係者への連絡,収支計画の作成,関係企業・団体への依頼,広告・宣伝,保健所への届出等の活動を行う.

(3)事業委員会 Qmeleon（カメレオン）

新入生歓迎会,球技大会,七夕フェスティバル,ハロウィン,クリスマス等,学生相互の交流と学生生活の充実を目的としたイベントを自ら企画・運営するほか,学友会年報や「WITH SOJA」の発行を行う.

(4)学生支援団体 PZL（パズル）

学生が主体的に取り組む正課外活動,大学における学習環境・学生生活環境の整備などを支援・提供する組織で,様々な正課外活動や学生 FD 活動を企画するほか,障がい学生の支援（ピア・サポート）,学生支援室（SAS）の運営などを行う.

(5)幹事会

学生団体（各部・サークル活動）の幹事によって構成され,部・サークルの活動をサポートする.

2-4-12　学生相談室の活動

（１）相談体制

学生相談室は平成 6 年 5 月に開設された．開設当初は本部棟 1 階事務室横にあったが，平成 8 年からは図書館 2 階個人閲覧室の一室，平成 24 年度からは学部共通棟（西）へ移動している．平成 26 年度からは学生相談室の認知度向上を図る観点から環境を整備し，より入りやすくより安心して相談できる環境づくりを目指している．

相談室のスタッフは平成 6～9 年度は学内カウンセラー2 名（臨床心理士）により週 2 日，平成 10 年度からは臨床心理を専門とする学内カウンセラー1 名と学外嘱託カウンセラー（臨床心理士）1 名が新たに配置され，4 名体制で週 4 日開室していた．平成 11～12 年度は学内カウンセラー2 名と学外嘱託カウンセラー1 名の週 3 日，平成 13～16 年度は学内カウンセラー（臨床心理士，心理学専門）3 名と学外嘱託カウンセラー（臨床心理士）1 名の 4 名で週 4 日開室していた．平成 17 年度からは学内カウンセラー（臨床心理士，心理学専門）3 名と学外嘱託カウンセラー（臨床心理士）3 名の計 6 名体制となり，月～金曜日まで毎日開室できる体制となった（ただし，休業期間中を除く）．令和元年度の開室時間は週 23～25.5 時間である．

〔令和元年度　開室時間〕

曜日	時間	氏名	備考
月	14:30～16:30＊1	周防　美智子	保健福祉学部准教授
	17:00～18:30＊2		
火	10:00～14:00	津川　美智子	学外カウンセラー
	16:00～17:30	井上　幸子	保健福祉学部准教授
水	9:30～13:30	斉藤　弘美	学外カウンセラー
	14:00～18:30	疋田　基道	学外カウンセラー
木	8:45～12:15	疋田　基道	学外カウンセラー
金	12:00～16:00	津川　美智子	学外カウンセラー
	16:30～18:30＊3	京林　由季子	保健福祉学部准教授

＊1　第１,第２，第４クォーターのみ

＊2　第３クォーターのみ

＊3　第１週,第２週のみ，第２クォーター閉室

相談室スタッフは学生相談室長（学生部長），学校医（精神科医）を含め，計９名で構成され，保健室及び学生支援班と連携と図りながら運営している．平成 20～29 年度は精神科医として中田謙二医師を，令和元年度からは岡山県精神科医療センターより佐藤康治郎医師を委嘱している．

また，各学部教員から要請があった場合やカウンセラーが重要ケースと判断した場合，相談室長や複数のカウンセラー，関係する学部長や教員で対応について協議することとし，必要に応じて岡山県精神科医療センターと連携を図ることとしている。

（２）相談室の取組

学生相談室（愛称：ほっとルーム）でのカウンセリング以外の取り組みとしては，下記のものがある．

・こころの健康調査（UPI）

平成 23 年度から，「こころの健康調査（UPI：University Personality Inventory)」を実施している．結果に応じてその場でカウンセラーと話す時間を設け，必要があればほっとルームを勧めるなど，学生の心的問題への早期対応を行っている．

・チラッとほっとルームキャンペーン

4 月前半に相談室を開放し，面談中を除き，予約なしでほっとルームを見学できるようにしており，初めての場所や人への抵抗感を和らげる取組を行っている．

・広報活動

新入生へのパンフレットの配布，入学オリエンテーションでの PR，健康診断でのほっとルームカードの配布，その他，はっとりんや学内の掲示板を用いて広報活動を行っている．

・相談室会議　等

年３回の相談室会議に加え，学校医（精神科医）による教職員向けの研修会を開催した．

（３）学生相談内容及び相談件数

学生相談室は来談者との秘密保持の遵守が必要である．相談の内容は，①特定の精神症状・気分変調に関するもの②大学環境・学生生活に関するもの③友人・知人との人間関係に関するもの④進路に関するもの等である．件数は少ないが保護者からの相談もある．相談内容は多岐にわたり，中には病理水準域の学生も来室する．

学生相談室では，学生に個別に会い，ゆったりと時間をとり，学生が語る内容を聴き，心理臨床の専門家として必要な支援を行っている．学生が自己を語り，自己を理解し，自己をまとめていく過程を大切にして，個々の学生の発達や成長という視点から心理教育的に関わり，危機介入が必要な場面を除いては学生本人が自ら解決できるように支援をしていきたいと考えている．

来談者の平成30年度及び令和元年度の月別人数は，下表のとおりである．

〔月別延来談者数〕　　(R2.3.31現在)　　（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		うち学生来談者数	
														うち実数	延数	実数
R1年度	24	35	25	17	3	10	29	20	24	16	18	5	226	68	213	60
H30年度	22	23	25	30	11	11	35	30	28	20	16	9	260	61	244	50

2-4-13 保健室の活動

（１）保健室業務

保健室は，開学時より本部棟１階にある．主に学生の健康診断，健康相談，健康診断証明書等の発行，けがや急病の手当等，学生の心身の健康に関わる業務を行っている．

保健室のスタッフは，常勤職員は養護教諭１名のみであるが，平成27年度より医師免許を持つ教員２名が保健室主任を，学生部長が保健室長を兼務している．

本学では，開学当初より平成26年度まで森下病院の森下和郎医師，平成27年度より済生会総合病院の塩出純二医師に学校医を委嘱しており，学生の健康や感染症予防対策，その他保健活動に関する相談をしている．

（２）具体的内容

保健室で行う主な取組は次のとおりである．

・学生定期健康診断
・学生の心身の相談
・オープンキャンパスや大学祭等における救護業務

・健康診断証明書，検査結果証明書等の証明書発行
・「保健だより」による健康に関する情報発信
・インフルエンザ流行時期等の感染症予防対策
・けがや病気の手当及び緊急時の救急搬送依頼
・学生相談室の予約等

（３）令和元年度保健室利用状況　　（R2.3.31 現在）　（人）

	内科	外科	その他疾病	検査	相談等	証明書	その他
R1 年度	105	69	3	53	183	232	4
H30 年度	81	123	11	93	772	300	7

2-4-14　まとめと課題

第 3 期中期計画にかかわる本部門の所掌には，①アドバイザー制度とオフィスアワー制度の実施，②スチューデントアシスタント（SA）制度の検討，③経済的困窮学生に対する支援，④障がい学生支援であった．①については，今年度刷新した学生生活アンケートにより認知度と利用状況について調査した．その結果，学生相談室を含めて相談窓口の認知度の低さが浮き彫りになったため，今後は学内ホームページなどを活用しながら一層の周知を図り，相談したい学生が置き去りにならないよう支援していく必要がある．②については，制度実施に向けて，各学科で実施している学生によるサポート活動について調査し，SA 制度への移行可能性について議論等を進めており，今後も検討を重ねていく．③については，奨学金制度や授業料免除制度の認知度は比較的高いことが学生生活アンケートから明らかになったが，今後も様々な財政的な援助制度の周知を図っていく．④については，新たに合意形成をした学生を含めて各学科等で支援をしていただいているところである．また，今後の対応のために，他大学との情報共有やリソース共有を図るべく，UE-Net への加盟や研修会参加などを進めてきた．今後は本学教職員に向けて，障がい学生の対応等について研修会を実施する予定にしている．また，就職支援部門とも連携して就労移行支援も進めていく予定である．一方，中期計画以外においても学生生活を支援すべく様々な取り組みをしてきた．学生生活アンケートから得られた様々な要望に対しても，改善できるよう引き続き取り組んでいく必要がある．

2-5 まとめと課題

キャリア・学生生活支援センターは今年度が 1 年目であった．キャリア形成支援部門と学生生活支援部門は，大学教育開発センターから引き継がれた組織であったため，これまでの事業の継続と新たな取り組みができたが，就職支援部門と正課外・ボランティア活動支援部門は，新たに設置された組織であり，手探りの状態で充分な支援や検討が実施できなかったことは否めない．一方，各部門はセンター内組織ではあるが，様々な事業等の決定を各部門で行えるようにしたことで，迅速に事が運べたことは良かったと考えている．

来年度から正課外・ボランティア活動支援部門の正課外活動の部分は学生生活支援部門へ，ボランティア活動部分は地域創造戦略センターへ移される．ボランティアを含む正課外の活動はキャリア形成においても重要な活動である．これまで学生支援部門や正課外・ボランティア活動支援部門で検討を進めてきた支援体制が新センターにおいて実行に移されることを強く望むところである．

また，来年度に向けて各部門内の体制も変えて行こうとしている．今年度の様々な課題や反省を受けて，それらをしっかりと解決しながら学生のサポートを充実させていく必要がある．

第３章　国際交流センターにおける教育活動と成果

1　概要

国際交流センターは，本学同窓会から寄贈された建物を活用する形で，平成 26 年 10 月にオープンした．本学の教育研究に係る国際交流推進，本学学生の海外派遣や外国人留学生の受入支援等を業務としている．

学生海外短期研修の充実，協定校等との共同研究の推進への支援，本学学生への外国語学教育及び留学生への日本語教育の実施，日本学生支援機構の「海外留学支援制度」への申請や，学生の中長期間の留学をサポートする「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」への申請支援を行っている．

2　国際交流における教育活動と成果

2-1 海外研修等

教育研究のグローバル化を目的として，各学部・共通教育部で様々な学生派遣を実施しており，センターではそれらの支援を行っている．

4 月に平成 30 年度の参加者による報告会を開催して，令和元年度プログラムへの学生の興味関心を喚起した．約 120 名の参加者があり，学生アンケートを実施して，「海外研修等で訪問したい国・地域」を尋ねたところ，以下の結果であった．

アメリカ 39 名，オーストラリア 35 名，イギリス 32 名，韓国 47 名，台湾 28 名，
香港 22 名　他　（複数回答可，回収数：84 名）

学生を派遣するプログラムとしては，語学力向上とその国の文化や歴史の理解を深めることを目的とした「語学文化研修」が 3 件，保健福祉学部の専門分野と関連した学習や施設見学等を行う「海外研修（保健福祉学)」が 3 件，学内競争的資金である国際交流活動費により各教員が企画・実施する各種スタディツアー等が 9 件計画された．

「語学文化研修」では，イギリスのバンガー大学での約 3 週間の研修に 5 名の学生が参加した．韓国の梨花女子大学及びオーストラリアのアデレイド大学での研修については，派遣先の情勢や感染症の影響により中止となった．

「海外研修（保健福祉学)」では，韓国の又松大学校での 5 日間の研修に 15 名，南オーストラリア州での研修に 9 名が参加した．香港理工大学での研修については，派遣先の情勢悪化により中止となった．

授業科目外の学生を派遣する国際交流活動として，タイのカセサート大学食品科学開発研究所での国際シンポジウム（5 名)，アメリカのポートランド州立大学での英語研修を中心としたスタディツアー（7 名)，韓国の白石大学等での多文化介護・社会福祉交流（5 名)，メキシコのモンテレイ大学・モンテレイ工科大学やモンテレイ市内でデザインを学ぶスタディツアー（6 名)，台湾芸術大学での研究プレゼンテーション（2 名)，ネパールのトリブバン大学及び AMDA との看護学交流（1 名）を実施した．その他，マレーシアのマラッカ技

術大学への短期留学，タイのカセサート大学工学部での合同ワークショップ，台湾の雲林科技大学等へのスタディツアーが計画されていたが，感染症の影響により中止となった．

語学文化研修（英国）

海外研修（保健福祉学：韓国）

海外研修（保健福祉学：豪州）

米国スタディツアー

また，センターでは，官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」への申請を支援し，本学としては初めて同制度の奨学金を利用した海外留学を行うことができた．平成 30 年度全国コースに採択された人間情報工学科の学生 1 名が香港に 8 月から約 1 カ月半，令和元年度地域（岡山県）コースに採択さた造形デザイン学科の学生がフィンランドに約 7 カ月の留学を行った．

2-2 教育交流

例年実施している「日本語・日本文化研修」で，中国の河南科技大学から学生 13 名を受け入れ，日本語授業や文化体験，ホームステイ等，9 日間の研修を行った．

また，看護学科で香港理工大学生 6 名を受け入れ，本学の授業への参加や学生同士の交流，県内外の施設見学等，12 日間の研修を行った．

2-3 国際交流センターの様々な活動

英語村は，英語のネイティブスピーカー等とのおしゃべりやゲームを通じて，学生に英語の楽しさを体得させる取組であるが，授業期間中の火～金曜日の 11:00 から 15:00 まで開村し

た．指導者は学外者のアメリカ人 1 名が務め，合計で約 120 回の開村にのべ約 650 名の学生が来訪した．センターの取組の PR と体験者増大を目的とした季節のイベントも実施した．

令和元年度は，英語村への来村の回数や目的，利用前後の変化について，4 回目のアンケートを実施した．リピーターが中心であったことから，サンプル数は多くはないが，以下の結果となった．

（回答者）　20 名

（学年）　学部 1 年生：12 名，2 年生：0 名，3 年生：6 名，4 年生：1 名，大学院生：1 名

（利用回数）　5 回以内：6 名，6～10 回：8 名，11～20 回：1 名，21～30 回：0 名，
31 回以上：5 名

(利用目的)　＊複数回答可

「英語が上手になりたい」17 名，「英語を話したい」13 名，
「外国人と話したい」10 名，「外国旅行の準備のため」8 名
「自分を向上させたい」7 名，「英語の成績を向上させたい」7 名，
「国際感覚を身に付けたい」5 名，「異文化を体験・理解したい」4 名　など

(利用前後の変化)

「英語でのコミュニケーションに，より積極的になったと思う」
とても当てはまる：8 名，まあまあ当てはまる：12 名，あまり当てはまらない：0 名

「英語が上手になったと思う」
とても当てはまる：3 名，まあまあ当てはまる：13 名，あまり当てはまらない：4 名

「英語の成績が向上したと思う」
とても当てはまる：5 名，まあまあ当てはまる：10 名，あまり当てはまらない：5 名

「英語をもっと勉強しようと思うようになった」
とても当てはまる：14 名，まあまあ当てはまる：6 名，あまり当てはまらない：0 名

「異文化への理解が進み，より関心が高まったと思う」
とても当てはまる：9 名，まあまあ当てはまる：11 名，あまり当てはまらない：0 名

「海外のことをもっと知りたいと思うようになった」
とても当てはまる：15 名，まあまあ当てはまる：3 名，あまり当てはまらない：2 名

「外国旅行に出掛けたいと，より強く思うようになった」
とても当てはまる：15 名，まあまあ当てはまる：2 名，あまり当てはまらない：2 名

※回答結果から，以下のような傾向があることがわかった．

- 利用者の多くは，英語の成績の向上より，英語が上手になりたい，英語を使ってみたいという目的で参加している．
- 利用者に対しては，英会話能力や英語の成績の向上より，英語や海外への興味・関心を喚起させる効果が強い．

本学の韓国語担当教員が実施する韓国語村は，語学学習支援と韓国理解の促進を目的として，計 7 回，各 1 時間開催し，のべ約 60 名が参加した．

アデレイド大学との Skype 英語は，バンガー大学での語学文化研修やポートランド州立大学でのスタディツアー等の事前研修としての位置付けも加えながら，前期の木曜日（不定期）の夕方に 1 時間実施し，のべ約 30 名の学生が参加した．

協定校等からの交換留学生等を含め在籍する留学生の支援のため，「特別日本語指導」を，能

力別の 3 クラスに分けて，各週 1 回実施した.

その他，留学相談，海外からの短期研修生と本学学生の交流会等も含め，令和元年度は，総計で約 1,200 名が来訪した.

2-4 共通教育との連携

共通教育科目である海外研修について，語学の授業での案内や国際交流センターでの説明会，語学教員や語学教育推進室 TA による指導と英語村を活用しての事前英会話練習等，語学教育推進室と国際交流センターで連携し，参加者の増加や事前・事後指導を含めた研修内容の充実を図った.

2-5 まとめと課題

本格的な取組が実施されて 5 年目の年であったが，センターの実施する教育活動に関しては，英語村の利用者数がのべ約 650 名，センター利用者総計でのべ約 1,200 名と，ある程度の数字は確保できており，学生が実践的な英会話を学んだり，国際交流関連の情報を得たりする場所等として，一定の貢献はできていると考えられる. しかしながら，利用者数は一昨年度から減少が続いていることに加え，来訪者の固定化が見られることから，多様な学生の利用に結び付くよう，事業内容や情報発信の工夫と強化が必要となる．また，グローバル教育として学生の英語能力の向上が求められる中で，英語や海外への興味・関心の喚起を重視してきた国際交流関連の事業においても，より英語学習の効果を高めるため，語学教育推進室をはじめとした学内組織と連携しながら取り組みを改善する必要がある.

【国際交流センターの主な活動の学部・研究科別のべ利用者数（令和元年度）】

	（保健福祉学部）	（情報工学部）	（デザイン学部）
〈英語村〉	321 名	138 名	186 名
〈韓国語村〉	52 名	8 名	3 名
〈スカイプ英語〉	3 名	16 名	13 名

3　国際交流における教育・研究支援活動と成果

3-1 国際交流協定校

令和元年度は新たにイタリアのダンヌンツィオ大学及び台湾の台南芸術大学と協定を締結し，大学間の協定校は合計 19 校となった.

【大学間協定校】

平成 8 年度　(1) バンガー大学（英国），(2) セント・アンドリュース大学（英国）
平成 17 年度　(3) 又松大学校（韓国）
平成 19 年度　(4) 四川大学（中国），(5) 南昌大学（中国）
平成 20 年度　(6) 延辺大学（中国）
平成 26 年度　(7) ハサヌディン大学（インドネシア），(8) アデレイド大学（豪州）
平成 27 年度　(9) トリブバン大学（ネパール），10) 雲林科技大学（台湾）
(11) モンテレイ工科大学プエブラ工（メキシコ）
(12) モンテレイ大学（メキシコ）
平成 28 年度　(13) 河南科技大学（中国），(14) ポートランド州立大学（アメリカ）

(15) 東南大学（中国）
平成 29 年度　(16) カセサート大学（タイ）
平成 30 年度　(17) ラハティ応用科学大学（フィンランド）
令和元年度　(18) ダンヌンツィオ大学（イタリア），(19) 台南芸術大学（台湾）

協定に基づく交換留学では，又松大学校から 2 名，雲林科技大学から 1 名，河南科技大学から 2 名の学生を受け入れた．

平成 27 年度に創設した「博士後期課程留学生特別入学試験制度」については，現在の対象は中国，韓国，台湾，インドネシア，ネパールの協定校 8 校である．令和元年度に実施した入学試験には，南昌大学出身の学生 1 名が合格し，令和 2 年 4 月に博士後期課程に入学予定である．

〈概要〉　入学金・授業料は免除，選考は書類と面接（Skype 利用可）

協定校等からの交換留学生等の支援として，授業や日常生活での会話をより充実させるための日本語講座を，能力別の 3 クラスに分けて，各クラスを週 1 回（90 分）実施した．

3-2 国際研究協力

インドネシアのハサヌディン大学とは保健福祉学研究科博士後期課程（栄養学大講座）に在学中の学生と指導教員を中心とした共同研究を実施している．また，情報工学部からハサヌディン大学で開催する合同ワークショップに 2 名の教員が参加した．

タイのカセサート大学とは，栄養学科及び情報システム工学科で教員及び学生の相互訪問，ワークショップやシンポジウム開催による研究交流を継続している．

中国の東南大学からは，情報システム工学科で客員研究員を 1 名受け入れ，約 3 か月間の共同研究を実施した．

3-3 基盤整備

本学の財政状況が極めて厳しい中で，国際交流事業についても外部資金を活用することが課題となっている．令和元年度は，大学の派遣プログラムに参加する学生への奨学金制度である日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定派遣）」，学生の中長期間の留学をサポートする「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」及び「おかやま若者グローバルチャレンジ応援事業」，アジアからの学生受入事業への支援制度である JST「さくらサイエンスプラン」への申請支援を行った．申請と採用の状況は以下の通りである．

〈海外留学支援制度（協定派遣）〉

- 令和 2 年度に実施するマレーシアのマラッカ技術大学での短期留学プログラムが採用された．

〈トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム（全国コース）〉

- 平成 30 年度に採択された学生 1 名（人間情報工学科）が香港に約 6 週間留学した．

〈おかやま若者グローバルチャレンジ応援事業〉

- 学生 1 名（造形デザイン学科）が採択され，フィンランドに約 7 カ月間留学した．

〈さくらサイエンスプラン〉

- 香港理工大学生の短期研修プログラムが採択され，6 名を約 2 週間受け入れた．

海外における取組の充実のため，昨年から引き続き，香港（2 名），台湾（1 名），アメリカ（1 名），フィンランド（1 名）の客員教授を配置している．

令和 2 年度からは，第 3 期中期計画である「グローバル人材の育成」への注力を明確化するため，国際交流センターを「グローバルラーニングセンター」に名称変更するとともに，担当業務を整理し，新たな組織体制で取り組むことを決定した．

3-4 まとめと課題

これまで国際交流センターが率先して交流先の拡大に取り組んできた海外大学等との交流について，今後は学部等を主体とした教育研究の発展につながる深い交流に発展させ，センターはその支援や調整を行う役割の強化が求められる．また，令和元年度は特に国際情勢の変化や感染症により，学生の危機管理面での対応が求められる事案が多数発生した．

令和 2 年度からは，新たな組織体制のもと，各学部及び共通教育部との連携により教育研究のグローバル化を推進するとともに，大学として戦略的に取り組むための情報収集や成果の分析，学生の海外での活動における危機管理の強化を図る必要がある．

第４章　学術研究推進センターにおける教育活動と成果

1 概要

本章では，平成 27 年 10 月に発足した学術研究推進センターについて，令和元年度における次の活動内容について報告する．

１　コンプライアンス・研究倫理教育に関する研修会の実施
２　科研費計画書の作成に係る研修会の実施
３　科研費計画書の提出前検討会の実施および科研費採択計画書の閲覧制度
４　学内の競争的研究資金のあり方の見直し
５　本学の研究シーズの発信

2 学術研究推進における教育活動と成果

2-1 コンプライアンス・研究倫理教育に関する研修会の実施

平成 31 年 4 月に大学院新入生オリエンテーションにおいて，田中学術研究推進センター長が全研究科全専攻科新入生を対象に研究倫理教育を実施した．（出席者 80 名）
また，今年度新たに本学に赴任した教員に対しては，事務局が実施した新任教員研修会において，コンプライアンス・研究倫理教育研修会を実施した．

2-2 科研費計画書作成研修会

令和元年 9 月に学術研究推進センター主催による「科学研究費計画書作成研修会」を開催した．田中センター長による挨拶のあと，ロバスト・ジャパン株式会社中安豪氏による研修会が行われた．内容は，科研費制度改革・新様式に対応した申請戦略を中心に説明がなされ，採択されやすい計画書の書き方の解説が行われた．当日は 34 名（教員 30 名，職員 4 名）の参加があり，昨年度（22 名）よりも大幅に増加した．また，当日出席できなかった教員・職員対象に対しては，研修資料を学内教職員専用ホームページで閲覧可能とし，研修会のビデオ記録を当センターのウェブページにて閲覧ができるようにして視聴機会を設けた．

開催日時	令和元年 9 月 20 日（金）14 時 00 分～16 時 00 分
開催場所	本部棟２Ｆ大会議室
講師	ロバスト・ジャパン株式会社　中安　豪
講演内容	科研費制度改革・新様式に対応した申請戦略

2-3 科研費計画書の提出前検討会の実施および科研費採択計画書の閲覧制度

科研費計画書について，研究内容，経費の妥当性等の事前検討を行う場として，添削指導機会（学内ベテラン教員又は外部業者）を設けた．外部業者による添削指導に対して，助教，准教授を中心に５件の添削依頼があった．

・申込募集期間　　７月１７日から７月３１日
・計画書提出期限　８月２６日

また，実際に採択された科研費計画書のうち教員本人から承諾があったものについては，各学部事務室において閲覧可能としている．

2-4 学内の競争的研究資金の交付方法の見直し

限られた研究資金を効率的かつ戦略的に交付するために,従来個別に募集を行っていた「特別研究費」「国際交流活動費」「地域連携事業費」「企業人材育成事業費」を，統一スケジュールでの募集に変更した．また，学部を越えた連携研究の推進に向けて，本学が重点的に取り組むべき領域を定める重点領域研究助成費については，学部の異なる教員が共同して行う研究テーマに絞って募集を行った．

2-5 本学の研究シーズの発信

令和元年 12 月 2 日から 6 日にかけて，岡山県庁 1 階県民ホールにおいて，本学の研究シーズを紹介するパネル展示を開催した．本学の概要，COC+事業に加え，16 件（情報工学部 9 件，保健福祉学部 4 件，デザイン学部 3 件）の研究内容をまとめたポスターを展示した．

2-6 まとめと課題

学術研究推進センターが当初掲げた本年度の取り組みはほぼ達成された．前述 2-2,2-3 に記載した科研費獲得に向けた各種取り組みにより,今年度の新規採択率は 30.3%となり，昨年度から引き続き高水準を維持している.今後も，科研費獲得に向けた支援を精力的に行うとともに,研究活動の不正行為を事前に防止し適正な研究活動を推進するためのコンプライアンス教育ならびに研究倫理教育を実施する．

第３部　附属図書館における教育活動と成果

1　概要

本学図書館は，大学設置基準第 38 条に示す大学附属図書館として，学部の種類，規模等に応じ，専門書，学術雑誌，視聴覚資料等の教育研究上必要な専門的資料を系統的に備えるべく努力をしてきた．また，グローバル化の中で学生に必要とされる広い視野と教養を涵養すべく，一般教養図書，語学学習推進図書についても各学部および共通教育部教員の視点で選書を行い，充実を図っている．さらに学術情報の電子化や検索システムの整備を行い，学生，教員，地域に向けたサービスの充実・向上を目指し，積極的な取組を進めている．

1-1　図書館活用の推進

1-1-1　図書館の利用状況

平成 31 年 4 月から令和 2 年 3 月の期間における図書館の利用状況を以下に示す．

蔵書冊数は約 21 万冊でその内訳として，和書が約 8 割，洋書が約 2 割を占め，その他視聴覚資料が約 2%となっている．入館者数は約 9 万人で貸出冊数は約 1 万 5 千冊となり，平成 25 年からほぼ同様の推移となっている．施設等の利用状況として，館内 PC，研究閲覧室及びグループ閲覧室の貸し出し件数は平成 25 年から増加傾向にあり，昨年度はいずれも約 1.5 倍増の利用があった．研究閲覧室及びグループ閲覧室は，学生の主体的，能動的な学修を支援するスペースで，近年多くの大学や図書館で設けられているラーニングコモンズに準じたものである．当館のエントランス部分に設けたラーニングコモンズでも，学生がグループ学習を進めている様子が常時見受けられることからも、自発的学修の意識が定着してきている故と推察する．

令和元年度図書館利用状況について

（１）蔵書冊数　　(R2．3．31 現在)

分　類	和　書	洋　書	視聴覚	合　計
0　総　記	13,439	3,003	144	16,586
1　哲　学	8,153	1,248	190	9,591
2　歴　史	6,463	566	465	7,494
3　社会科学	37,302	5,260	908	43,470
4　自然科学	45,908	13,455	1,517	60,880
5　工学・工業	18,274	5,320	386	23,980
6　産　業	2,863	446	50	3,359
7　芸術・スポーツ	20,065	4,564	1,456	26,085
8　語　学	4,489	4,407	31	8,927
9　文　学	11,552	1,065	70	12,687
合計	168,508	39,334	5,217	213,059
構成比	79.1%	18.5%	2.4%	100%

（２）入館者数等

項　目	開館日数	入館者数（人）		貸出冊数（冊）		貸出人数（人）		学外者利用（人）
			１日平均		１日平均		１日平均	
元年度	264	81,919	310	13,715	52	6,438	24	1,741
30 年度	263	85,371	325	16,011	61	7,343	28	1,915

（３）資料受入状況

項　目	和　書		洋　書		計	
	元年度	30 年度	元年度	30 年度	元年度	30 年度
図　書	2,124	1,868	459	505	2,583	2,373
雑　誌	133	135	25	32	158	167
視聴覚資料	33	26	2	5	35	31

（４）相互協力

項　目		件　数	
		元年度	30 年度
文　献　複　写	複写提供件数	610	689
	複写取寄件数	891	1,048
相　互　協　力	借　受　冊　数	147	79
	貸　出　冊　数	121	119

（５）施設等の利用

項　目	件　数	
	元年度	30 年度
館内パソコン利用者数	9,338	9,217
研究閲覧室	2,002	2,132
グループ閲覧室	282	206

1-1-2　図書館ギャラリーの利用状況

図書館では，学生・教職員・院生の貸出冊数の増加，また特集本コーナーや，図書館のギャラリーの貸出しにより，図書館の利用率向上を目指している．図書館ギャラリーは，学生や教員に館内の壁面等の空間を有効活用してもらうことにより図書館利用の増加を図ったもので，令和元年度は学生サークルや教員により多く利用された．図書館利用者に安らぎを与えるような展示を意図した．本年度の図書館ギャラリーの利用件数は 17 件であった．

1-1-3　学生を対象とした図書館利用教育

図書館では蔵書検索方法やデータベース活用法を具体的に示す「図書館ガイダンス」への受講を学生に勧め，学生への教育・研究支援を図ってきた．平成 27 年度からは共通教育講義科目「大学で学ぶ」（対象：全学科 1 年，必修）での図書館長担当授業において，図書館ガイダンス受講を復習課題として導入し，令和元年度は 373 名が受講した．その他の正課内及び正課外でのガイダンス受講状況は，「文献の探し方（PubMed，医中誌等）」が 11 名であった．

1-1-4　選書ツアー・ブックフェアへの学生参加状況及び学生希望図書の状況

平成 21 年度から実施している選書ツアーは，学生が学習や研究に役立つ書籍を書店で実際に手に取って選書する企画である．本年度は 9 名の学生が参加し，教養書や専門書を選書した．内訳を以下に示す．あわせて，図書館内で書店が準備した本の中から学習等に必要な本を学生及び教職員が選んだ「ブックフェア」の内容も以下に示す．また学内で希望図書の申請のあった図書数を以下に示す．

(1)選書ツアー2019

実 施 日：令和元年 7 月 13 日（土）

場　　所：紀伊國屋書店クレド岡山店

参加人数：9 名

購入冊数：128 冊

(2)ブックフェア

実 施 日：令和元年 6 月 28 日（金）

場　　所：図書館エントランス

参加人数：73 名

購入冊数：189 冊

(3)学生希望図書（令和元年度）

	大学院			保健福祉			情報工			デザイン		総計
学科	保健福祉学	情報系工学	デザイン学	看護	栄養	保福	通信	システム	人間	デ工	造形	
受付	3	2	0	4	0	4	3	2	10	16	29	73
購入	3	2	0	3	0	4	3	2	8	5	11	41

1-2　英語文献利用講習会

英語文献の利用推進を図るため，令和元年 10 月 17 日に講師を招いて講習会を実施した．講義は初級編（論文執筆の基礎，データベースの使い方等）と中級編（文献管理ソフトの使い方の実習）の 2 回に分けて行った．参加人数は 42 名（2 回の延べ数）であった．参加者の内訳を以下に示す．

教　　員　　5 名（保福 1，看護 4）
院　　生　　8 名（看護 3，栄養 1，保福 4）
学 部 生　　12 名（看護 5，保福 5，通信 1，スポーツ 1）

1-3　電子ジャーナルの利用

教育・研究推進に必要不可欠な英語文献の電子ジャーナル契約の要望が増えている．以下に本学で契約中の電子ジャーナルのタイトル及びその分野を示す．

令和元年度　利用可能な電子ジャーナルタイトル

データベース名	分　野
ScienceDirect（約 1,000 タイトル）	健康科学・神経科学・生化学等
タイトル名	分　野
The American journal of clinical nutrition	食品科学・栄養学
Applied physics letters	物理学一般/応用物理学
Architectural design	建築デザイン
Journal of biological chemistry	生化学・分子生物学
The Journal of nutrition	食品科学・栄養学
Proceedings of national academy of sciences	科学技術一般
Machine Learning	認知科学・人工知能
Journal of the ACM	情報理論・データ構造・暗号学/データベース/コンピューター一般
Journal of Agricultural and Food Chemistry	農業・食品/農学/食品科学・栄養学
Journal of nursing education	看護教育

1-4　リポジトリ公開登録及び利用状況

現在，日本の機関リポジトリ設置機関数は世界有数の規模にまで広がり，教育研究成果の公開やオープンアクセスの義務化も検討されようとする現状にある．このような中，オープンアクセスへ寄与することは研究者や大学，研究機関として必要とされる条件となりつつある．本学におけるリポジトリ公開登録件数及び利用状況を以下に示す．

リポジトリ公開登録件数　　1,618 件（令和 2 年 3 月 31 日現在）

	公開登録件数	ダウンロード数	閲覧数
令和元年度	37 件	183,365 件	34,477 件
平成 30 年度	53 件	258,689 件	27,003 件

1-5　まとめと課題

図書館利用推進の一環として本年度も図書館ギャラリーの貸出しや学生を対象とした図書館利用教育を実施した．学生の意向が蔵書に直接反映できる特性を持つ選書ツアーは，学生参加をさらに増やすためにも、企画の周知ならびに意義を認知させる工夫が今後さらに必要と考えられる．書店が準備した本の中から学習等に必要な本を選ぶブックフェアを開催し,参加した学生から「自分達で選書できる機会を設けてもらえるのはありがたい」「普段は手に取らない他学科の本も見られて楽しかった」等の感想が寄せられた.また年間を通じて受付けている学生希望図書は昨年度と比べると希望図書数は増えており，図書館ガイダンスやホームページでの広報の成果と推察する．電子ジャーナルの活用促進を目的として開催した講習会では，参加した学生及び教員に対して文献管理ツール活用法を教示した．洋雑誌及び電子ジャーナルの利用統計を蓄積し今後も利用状況をモニタリングして，よりより学修環境の提供に努めたい．

付録

Ａ　入試統計

A-1 学士課程

一般入試　　単位：人

学 部	学 科	平成31年度						令和2年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	看護学科	28	133	80	29	28	2.8	28	94	48	28	28	1.7
	栄養学科	28	70	67	33	27	2.0	28	29	76	38	29	2.0
	保健福祉学科社会福祉学専攻	28	155	88	34	33	2.6	28	80	49	33	29	1.5
	保健福祉学科子ども学専攻	14	55	34	15	15	2.3	14	67	40	19	14	2.1
	学 部 計	98	413	269	111	103	2.4	98	270	213	118	100	1.8
情報工学部	情報通信工学科	37	648	354	96	37	3.7	37	596	239	84	37	2.8
	情報システム工学科	37	873	464	124	49	3.7	37	1,003	388	101	37	3.8
	人間情報工学科	27	407	239	61	31	3.9	27	355	160	49	27	3.3
	学 部 計	101	1,928	1,057	281	117	3.8	101	1,954	787	234	101	3.4
デザイン学部	デザイン工学科	30	84	76	36	35	2.1	30	78	73	34	33	2.1
	造形デザイン学科	38	78	76	42	42	1.8	38	85	81	42	38	1.9
	学 部 計	68	162	152	78	77	1.9	68	163	154	76	71	2.0
合 計		267	2,503	1,478	470	297	3.1	267	2,387	1,154	428	272	2.7

推薦入試　　単位：人

学 部	学 科	平成31年度						令和2年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	看護学科	12	52	52	13	13	4.0	12	44	44	13	13	3.4
	栄養学科	12	32	32	13	13	2.5	12	31	31	12	12	2.6
	保健福祉学科社会福祉学専攻	12	27	27	14	14	1.9	12	27	27	12	12	2.3
	保健福祉学科子ども学専攻	6	25	25	7	7	3.6	6	26	26	6	6	4.3
	学 部 計	42	136	136	47	47	2.9	42	128	128	43	43	3.0
情報工学部	情報通信工学科	13	26	26	13	13	2.0	13	22	22	13	13	1.7
	情報システム工学科	13	38	38	15	15	2.5	13	30	30	14	14	2.1
	人間情報工学科	13	28	28	13	13	2.2	13	22	22	13	13	1.7
	学 部 計	39	92	92	41	41	2.2	39	74	74	40	40	1.9
デザイン学部	デザイン工学科	10	12	12	10	10	1.2	10	16	16	10	10	1.6
	造形デザイン学科	12	28	28	12	12	2.3	12	41	41	12	12	3.4
	学 部 計	22	40	40	22	22	1.8	22	57	57	22	22	2.6
合 計		103	268	268	110	110	2.4	103	259	259	105	105	2.5

第3年次編入学試験　　単位：人

学 部	学 科	平成31年度						令和2年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学部	栄養学科	1	9	9	1	1	9.0	1	3	3	1	1	3.0
合 計		1	9	9	1	1	9.0	1	3	3	1	1	3.0

○倍率＝受験者数/合格者数

A-2 大学院課程

博士前期課程・修士課程　　単位：人

研 究 科	専 攻	平成31年度						令和2年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学研究科	看護学専攻	7	18	18	10	6	1.8	7	14	14	13	11	1.1
	栄養学専攻	6	6	6	6	5	1.0	6	6	6	6	6	1.0
	保健福祉学専攻	7	7	7	7	6	1.0	7	7	7	7	6	1.0
	研 究 科 計	20	31	31	23	17	1.3	20	27	27	26	23	1.0
情報系工学研究科	システム工学専攻	52	52	51	50	45	1.0	52	52	52	48	43	1.1
デザイン学研究科	デザイン工学専攻	7	4	4	3	3	1.3	7	3	2	2	2	1.0
	造形デザイン学専攻	9	4	4	4	4	1.0	9	2	2	2	2	1.0
	研 究 科 計	16	8	8	7	7	1.1	16	5	4	4	4	1.0
合 計		88	91	90	80	69	1.1	88	84	83	78	70	1.1

博士後期課程　　単位：人

研 究 科	専 攻	平成31年度						令和2年度					
		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	倍率
保健福祉学研究科	保健福祉科学専攻	5	7	7	7	7	1.0	5	8	8	7	7	1.1
情報系工学研究科	システム工学専攻	6	5	5	5	5	1.0	6	0	0	0	0	－
合 計		11	12	12	12	12	1.0	11	8	8	7	7	1.1

○倍率＝受験者数/合格者数

Ｂ　入学時アンケート

- 実施日時：2019 年 4 月 8 日～4 月 15 日
- 実施方法：Web アンケートサイト（Questant）上で実施
- 対象者：総数 410 人中、回答 395 人（回答率 96.6%）

表１　アンケート回答率

	回答数	全数	回答率(%)
看護学科	41	42	97.62
栄養学科	41	41	100.00
保健福祉学科・社会福祉学専攻	43	47	91.49
保健福祉学科・子ども学専攻	22	22	100.00
情報通信工学科	51	50	102.00
情報システム工学科	61	64	95.31
人間情報工学科	42	44	95.45
デザイン工学科	42	45	93.33
造形デザイン学科	52	55	94.55
全体	395	410	96.64

表２　出身高校分布（都道府県別）

		看護学科		栄養学科		保健福祉学科 社会福祉学専		保健福祉学科 子ども学専攻		情報通信工学科		情報システム工学科		人間情報工学科		デザイン工学科		造形デザイン学科		都道府県別平均		地方別平均		東西別平均	
		2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019
1	北海道				2.44		2.33							2.70						0.30	0.53	0.30	1.01	7.68	7.09
2	青森県																			0.00	0.00				
3	岩手県																			0.00	0.00				
4	宮城県																			0.00	0.00				
5	秋田県																			0.00	0.00				
6	山形県										1.96						2.38			0.00	0.48				
7	福島県																			0.00	0.00				
8	茨城県											2.04								0.23	0.00	1.12	0.00		
9	栃木県																			0.00	0.00				
10	群馬県																			0.00	0.00				
11	埼玉県																			0.00	0.00				
12	千葉県			2.38																0.26	0.00				
13	東京都									3.39										0.38	0.00				
14	神奈川県															2.27				0.25	0.00				
15	新潟県																2.38			0.00	0.26	6.26	6.08		
16	富山県																			0.00	0.00				
17	石川県				2.44						3.92	2.04		2.70						0.53	0.71				
18	福井県				2.44												2.38			0.00	0.54				
19	山梨県																			0.00	0.00				
20	長野県																	2.08		0.23	0.00				
21	岐阜県		2.44		2.44	2.22				1.69	1.96			2.70		2.27				0.99	0.76				
22	静岡県			2.38						3.39		4.08	1.64		2.38					1.09	0.45				
23	愛知県			4.76	2.44	2.22	2.33			3.39	1.96	6.12	3.28		4.76	2.27	4.76			2.09	2.17				
24	三重県			2.38	2.44	2.22	2.33			5.08	1.96		1.64			2.27	2.38			1.33	1.19				
25	滋賀県				2.44			5.00		1.69		2.04	3.28				2.38			0.97	0.90	17.83	19.74	92.08	92.43
26	京都府				4.88		2.33			1.69	1.96	2.04	8.20		2.38	2.27	9.52	2.08		0.90	3.25				
27	大阪府			4.76	2.44	2.22	2.33			8.47		6.12	4.92	2.70	4.76	4.55	7.14	4.17	3.85	3.67	2.83				
28	兵庫県	4.44	9.76	9.52	12.20	8.89	11.63	5.00	4.55	8.47	9.80	10.20	11.48	13.51	11.90	22.73	7.14	6.25	9.62	9.89	9.79				
29	奈良県			2.38						5.08			3.28	2.70		2.27	4.76		1.92	1.38	1.11				
30	和歌山県		4.88	2.38							3.92	2.04	3.28	2.70	4.76			2.08		1.02	1.87				
31	鳥取県		2.44	2.38	2.44		6.98					4.08		2.70	4.76	4.55			1.92	1.52	2.06	59.89	59.36		
32	島根県				4.88				4.55	1.69	1.96	2.04			2.38					0.42	1.53				
33	岡山県	82.22	68.29	45.24	41.46	62.22	51.16	75.00	86.36	35.59	41.18	46.94	39.34	43.24	35.71	29.55	33.33	56.25	38.46	52.92	48.37				
34	広島県	4.44	7.32	4.76	2.44	2.22	2.33	5.00		3.39	5.88	2.04	1.64	8.11	11.90	9.09	2.38	6.25	11.54	5.03	5.05				
35	山口県				2.44				4.55		3.92		1.64		2.38		2.38		3.85	0.00	2.35				
36	徳島県		2.44	4.76	2.44		2.33	5.00		1.69			1.64	2.70	2.38				1.92	1.57	1.46	9.14	8.72		
37	香川県			4.76	2.44	4.44	6.98	5.00		3.39	1.96		4.92	2.70	2.38	4.55	4.76	2.08	9.62	2.99	3.67				
38	愛媛県	4.44		2.38		4.44	4.65			1.69	7.84	4.08	4.92		2.38			14.58	1.92	3.51	2.41				
39	高知県	2.22		2.38		2.22	2.33				3.92			2.70			2.38		1.92	1.06	1.17				
40	福岡県	2.22				2.22				5.08	1.96		1.64	2.70	2.38	4.55	4.76		3.85	1.86	1.62	5.22	4.61		
41	佐賀県										1.96	2.04				2.27				0.48	0.22				
42	長崎県				2.44								1.64			2.27				0.25	0.45				
43	熊本県			2.38							1.96		1.64		2.38		2.38	2.08	1.92	0.50	1.14				
44	大分県									3.39		2.04				2.27			1.92	0.86	0.21				
45	宮崎県													2.70				2.08		0.53	0.00				
46	鹿児島県					2.22				1.69				2.70			2.38		3.85	0.74	0.69				
47	沖縄県				2.44															0.00	0.27				
99	その他		2.44			2.22													1.92	0.25	0.48				
	n =	45	41	42	41	45	43	20	22	59	51	49	61	37	42	44	42	48	52						

表 3　志望順位

		2018		2019	
	項目	度数	割合(%)	度数	割合(%)
看護学科	第1志望	33	73.33	28	68.29
	第2志望	11	24.44	12	29.27
	第3志望	1	2.22	1	2.44
	第4志望以下	0	0.00	0	0.00
栄養学科	第1志望	35	83.33	38	92.68
	第2志望	6	14.29	2	4.88
	第3志望	1	2.38	0	0.00
	第4志望以下	0	0.00	1	2.44
保健福祉学科　社会福祉学専攻	第1志望	39	86.67	37	86.05
	第2志望	3	6.67	6	13.95
	第3志望	2	4.44	0	0.00
	第4志望以下	1	2.22	0	0.00
保健福祉学科　子ども学専攻	第1志望	17	85.00	21	95.45
	第2志望	3	15.00	1	4.55
	第3志望	0	0.00	0	0.00
	第4志望以下	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	第1志望	24	40.68	23	45.10
	第2志望	18	30.51	15	29.41
	第3志望	11	18.64	11	21.57
	第4志望以下	6	10.17	2	3.92
情報システム工学科	第1志望	23	46.94	24	39.34
	第2志望	13	26.53	22	36.07
	第3志望	11	22.45	9	14.75
	第4志望以下	2	4.08	6	9.84
人間情報工学科	第1志望	19	51.35	20	47.62
	第2志望	8	21.62	11	26.19
	第3志望	7	18.92	6	14.29
	第4志望以下	3	8.11	5	11.90
デザイン工学科	第1志望	33	75.00	33	78.57
	第2志望	7	15.91	6	14.29
	第3志望	2	4.55	1	2.38
	第4志望以下	2	4.55	2	4.76
造形デザイン学科	第1志望	46	95.83	45	86.54
	第2志望	1	2.08	7	13.46
	第3志望	1	2.08	0	0.00
	第4志望以下	0	0.00	0	0.00

表 4　併願校

学科	併願校	人数
看護	川崎医療福祉大学	12
	岡山大学	4
	岡山済生会	3
	兵庫県立大学	3
	兵庫医療大学	2
	倉敷中央看護専門学校	2
	東京医療保健大学	2
	吉備国際大学	1
	香川大学	1
	広島大学	1
	神戸大学	1
	姫路赤十字看護専門学校	1
	関西医科大学	1
	九州大学	1
	岐阜県立看護大学	1
	大阪府立大学	1
	安田女子大学	1
	岡山医療センター付属岡山看護助産学校	1
	岡山赤十字看護専門学校	1
	岐阜医療科学大学	1
	国立病院機構岡山医療センター	1
	新見公立大学	1
	鳥取看護専門学校	1
	徳島県立総合看護学校	1
	和歌山県立高等看護学院	1
	摂南大学	1

学科	併願校	人数
栄養	ノートルダム清心女子大学	4
	近畿大学	3
	龍谷大学	3
	武庫川女子大学	3
	神戸女子大学	3
	川崎医療福祉大学	2
	名古屋学芸大学	2
	美作大学	2
	長崎県立大学	2
	県立広島大学	2
	同志社女子大学	2
	安田女子大学	1
	広島工業大学	1
	鳥取大学	1
	島根大学	1
	徳島大学	1
	高知大学	1
	大阪府立大学	1
	中国学園大学	1
	京都女子大学	1
	熊本県立大学	1
	滋賀県立大学	1
	東京農業大学	1
	酪農学園大学	1
	琉球大学	1
	くらしき作陽大学	1
	岡山理科大学	1
	仁愛大学	1
	東京家政大学	1
	藤女子大学	1
	比治山大学	1
	新潟県立大学	1
	神戸学院大学	1

学科	併願校	人数
社会福祉	ノートルダム清心女子大学	7
	新見公立大学	4
	就実大学	5
	川崎医療福祉大学	5
	武庫川女子大学	2
	佛教大学	2
	龍谷大学	2
	関西福祉大学	2
	愛知淑徳大学	1
	岡山大学	1
	畿央大学	1
	近畿大学	1
	県立広島大学	1
	高知リハビリテーション専門職大学	1
	高知県立大学	1
	就実短期大学	1
	松山大学	1
	大阪市立大学	1
	兵庫県立大学	1
	川崎医療短期大学	1
	OIC医療情報学科	1
	愛知学院大学	1
	四国学院大学	1
	神戸医療福祉大学	1
	椙山女学園大学	1

学科	併願校	人数
子ども	ノートルダム清心女子大学	9
	就実大学	6
	くらしき作陽大学	3
	新居見公立大学	1
	川崎医療福祉大学	1
	倉敷私立短期大学	1
	安田女子短期大学	1
	岡山大学	1
	福山市立大学	1
	関西大学	1
	近畿大学	1
	桜の聖母短期大学	1
	中国学園大学	1

学科	併願校	人数
情報通信	岡山大学	10
	鳥取大学	5
	広島大学	3
	九州工業大学	3
	高知工科大学	3
	愛媛大学	3
	兵庫県立大学	3
	近畿大学	3
	徳島大学	3
	広島市立大学	2
	山梨大学	2
	茨城大学	2
	立命館大学	2
	香川大学	2
	室蘭工業大学	2
	会津大学	1
	岐阜大学	1
	九州大学	1
	神戸大学	1
	静岡大学	1
	大阪工業大学	1
	筑波大学	1
	電気通信大学	1
	島根大学	1
	福井大学	1
	福山大学	1
	北九州市立大学	1
	龍谷大学	1
	福島大学	1
	法政大学	1
	北見工業大学	1
	甲南大学	1
	山陽小野田市立山口東京理科大学	1
	関西学院大学	1
	宮崎大学	1
	松山大学	1
	大分大学	1
	東京理科大学	1

学科	併願校	人数
システム	鳥取大学	6
	静岡大学	5
	岡山大学	4
	愛媛大学	4
	同志社大学	4
	広島大学	3
	九州工業大学	3
	関西大学	3
	立命館大学	3
	近畿大学	2
	三重大学	2
	甲南大学	2
	神戸大学	2
	大分大学	2
	筑波大学	2
	福井大学	2
	京都工芸繊維大学	1
	金沢大学	1
	岡山理科大学	1
	熊本大学	1
	広島市立大学	1
	香川大学	1
	山口大学	1
	滋賀大学	1
	秋田県立大学	1
	秋田大学	1
	大阪工業大学	1
	大阪市立大学	1
	大阪府立大学	1
	電気通信大学	1
	東京海洋大学	1
	東京農工大学	1
	東洋大学	1
	奈良女子大学	1
	兵庫県立大学	1
	北海道大学	1
	琉球大学	1
	和歌山大学	1

学科	併願校	人数
人間情報	近畿大学	6
	九州工業大学	4
	関西大学	4
	愛媛大学	3
	岡山理科大学	3
	立命館大学	3
	徳島大学	3
	兵庫県立大学	3
	岡山大学	2
	宮崎大学	2
	山梨大学	2
	信州大学	2
	鳥取大学	2
	北九州市立大学	2
	ノートルダム清心女子大学	1
	宇都宮大学	1
	京都大学	1
	金沢工業大学	1
	九州大学	1
	広島大学	1
	香川大学	1
	高知工科大学	1
	山口大学	1
	滋賀大学	1
	神戸学院大学	1
	神戸女子大学	1
	川崎医療福祉大学	1
	大阪大学	1
	大分大学	1
	中央大学	1
	中京大学	1
	島根大学	1
	東京理科大学	1
	藤田医科大学	1
	富山県立大学	1
	武庫川女子大学	1
	防衛大学校	1
	和歌山大学	1

学科	併願校	人数
デザイン	倉敷芸術科学大学	4
	大阪工業大学	4
	広島大学	2
	香川大学	2
	静岡文化芸術大学	2
	関西学院大学	1
	関西大学	1
	畿央大学	1
	京都橘大学	1
	京都工芸繊維大学	1
	京都造形芸術大学	1
	近畿大学	1
	金沢美術工芸大学	1
	嵯峨美術短期大学	1
	山口大学	1
	滋賀県立大学	1
	芝浦工業大学	1
	秋田県立大学	1
	秋田公立美術大学	1
	女子美術大学	1
	神戸芸工大学	1
	神戸大学	1
	大阪市立大学	1
	大分県立芸術文化短期大学	1
	筑波大学	1
	長岡造形大学	1
	東洋大学	1
	富山大学	1
	武蔵野美術大学	1
	福井工業大学	1
	名古屋学芸大学	1
	名古屋市立大学	1

学科	併願校	人数
造形	神戸芸術工科大学	4
	成安造形大学	4
	大阪芸術大学	4
	大分県立芸術文化短期大学	3
	金沢美術工芸大学	3
	広島市立大学	2
	安田女子大学	2
	嵯峨美術短期大学	2
	秋田公立美術大学	2
	静岡文化芸術大学	2
	長岡造形大学	2
	畿央大学	1
	吉備国際大学	1
	京都精華大学	1
	近畿大学	1
	九州産業大学	1
	九州大学	1
	桑沢デザイン研究所	1
	広島大学	1
	香川大学	1
	嵯峨美術大学	1
	山陽学園大学	1
	四国大学	1
	滋賀県立大学	1
	松山大学	1
	崇城大学	1
	川崎医療福祉大学	1
	倉敷芸術科学大学	1
	倉敷市立短期大学	1
	大阪成蹊大学	1
	東京工科大学	1
	尾道市立大学	1
	富山大学	1

表 5　志望動機

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
看護学科	教育内容が希望に近い	10	22.22	10	24.39
	研究内容に興味がある	0	0.00	0	0.00
	施設設備が充実	2	4.44	0	0.00
	就職職種が希望に近い	8	17.78	0	0.00
	希望する資格が得られる	10	22.22	18	43.90
	卒業生が社会で活躍している	1	2.22	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	2	4.44	2	4.88
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	1	2.22	1	2.44
	入試科目が受験しやすかった	2	4.44	3	7.32
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	5	11.11	4	9.76
	学費が安い	3	6.67	0	0.00
	通学に便利	1	2.22	2	4.88
	その他	0	0.00	1	2.44
栄養学科	教育内容が希望に近い	8	19.51	6	15.00
	研究内容に興味がある	1	2.44	4	10.00
	施設設備が充実	0	0.00	2	5.00
	就職職種が希望に近い	2	4.88	0	0.00
	希望する資格が得られる	18	43.90	19	47.50
	卒業生が社会で活躍している	1	2.44	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	1	2.44	1	2.50
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	1	2.50
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	1	2.44	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	0	0.00	3	7.50
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	7	17.07	3	7.50
	学費が安い	2	4.88	0	0.00
	通学に便利	0	0.00	1	2.50
	その他	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	教育内容が希望に近い	14	23.73	13	25.49
	研究内容に興味がある	6	10.17	6	11.76
	施設設備が充実	0	0.00	3	5.88
	就職職種が希望に近い	3	5.08	3	5.88
	希望する資格が得られる	0	0.00	0	0.00
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	4	6.78	1	1.96
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	1	1.69	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	12	20.34	4	7.84
	入試日程が受験しやすかった	3	5.08	6	11.76
	センター試験等、学力的にみて適当だった	14	23.73	10	19.61
	学費が安い	0	0.00	1	1.96
	通学に便利	0	0.00	2	3.92
	その他	2	3.39	2	3.92
情報システム工学科	教育内容が希望に近い	16	32.65	16	27.12
	研究内容に興味がある	6	12.24	3	5.08
	施設設備が充実	0	0.00	3	5.08
	就職職種が希望に近い	1	2.04	2	3.39
	希望する資格が得られる	0	0.00	0	0.00
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	1	2.04	0	0.00
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	2	4.08	6	10.17
	入試日程が受験しやすかった	7	14.29	2	3.39
	センター試験等、学力的にみて適当だった	7	14.29	14	23.73
	学費が安い	7	14.29	6	10.17
	通学に便利	1	2.04	5	8.47
	その他	1	2.04	2	3.39
デザイン工学科	教育内容が希望に近い	23	52.27	17	40.48
	研究内容に興味がある	1	2.27	1	2.38
	施設設備が充実	0	0.00	3	7.14
	就職職種が希望に近い	2	4.55	2	4.76
	希望する資格が得られる	3	6.82	5	11.90
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	1	2.27	4	9.52
	本学で学ぶことに誇りを感じる	1	2.27	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	0	0.00	1	2.38
	入試科目が受験しやすかった	1	2.27	1	2.38
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	1	2.38
	センター試験等、学力的にみて適当だった	7	15.91	4	9.52
	学費が安い	3	6.82	2	4.76
	通学に便利	0	0.00	1	2.38
	その他	2	4.55	0	0.00

保健福祉学科 社会福祉学専攻	教育内容が希望に近い	11	24.44	11	26.19
	研究内容に興味がある	2	4.44	2	4.76
	施設設備が充実	0	0.00	2	4.76
	就職職種が希望に近い	2	4.44	2	4.76
	希望する資格が得られる	12	26.67	17	40.48
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	5	11.11	1	2.38
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	2	4.44	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	0	0.00	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	2	4.44	3	7.14
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	3	6.67	2	4.76
	学費が安い	6	13.33	1	2.38
	通学に便利	0	0.00	1	2.38
	その他	0	0.00	0	0.00
保健福祉学科 子ども学専攻	教育内容が希望に近い	4	20.00	11	50.00
	研究内容に興味がある	0	0.00	0	0.00
	施設設備が充実	1	5.00	0	0.00
	就職職種が希望に近い	1	5.00	1	4.55
	希望する資格が得られる	7	35.00	3	13.64
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	3	15.00	2	9.09
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	1	5.00	2	9.09
	入試科目が受験しやすかった	1	5.00	1	4.55
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	0	0.00
	センター試験等、学力的にみて適当だった	0	0.00	1	4.55
	学費が安い	2	10.00	1	4.55
	通学に便利	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	教育内容が希望に近い	10	27.03	15	36.59
	研究内容に興味がある	7	18.92	7	17.07
	施設設備が充実	0	0.00	1	2.44
	就職職種が希望に近い	2	5.41	2	4.88
	希望する資格が得られる	0	0.00	0	0.00
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	0	0.00
	本学で学ぶことを強く希望していた	1	2.70	0	0.00
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	1	2.70	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	0	0.00	2	4.88
	入試科目が受験しやすかった	5	13.51	3	7.32
	入試日程が受験しやすかった	4	10.81	2	4.88
	センター試験等、学力的にみて適当だった	4	10.81	5	12.20
	学費が安い	2	5.41	3	7.32
	通学に便利	1	2.70	1	2.44
	その他	0	0.00	0	0.00
造形デザイン学科	教育内容が希望に近い	20	41.67	18	35.29
	研究内容に興味がある	1	2.08	6	11.76
	施設設備が充実	2	4.17	2	3.92
	就職職種が希望に近い	3	6.25	3	5.88
	希望する資格が得られる	0	0.00	0	0.00
	卒業生が社会で活躍している	0	0.00	1	1.96
	本学で学ぶことを強く希望していた	4	8.33	5	9.80
	本学で学ぶことに誇りを感じる	0	0.00	0	0.00
	本学で学びたい先生がいる	0	0.00	0	0.00
	本学が開催した授業の印象がよかった	1	2.08	0	0.00
	入試科目が受験しやすかった	3	6.25	3	5.88
	入試日程が受験しやすかった	0	0.00	1	1.96
	センター試験等、学力的にみて適当だった	4	8.33	6	11.76
	学費が安い	9	18.75	4	7.84
	通学に便利	1	2.08	1	1.96
	その他	0	0.00	1	1.96

表 6　AP の理解

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
看護学科	よく理解できた	32	71.11	28	70.00
	どちらとも言えない	13	28.89	12	30.00
	わかりにくかった	0	0.00	0	0.00
栄養学科	よく理解できた	24	68.57	20	57.14
	どちらとも言えない	10	28.57	13	37.14
	わかりにくかった	1	2.86	2	5.71
保健福祉学科 社会福祉学専攻	よく理解できた	23	51.11	32	76.19
	どちらとも言えない	22	48.89	10	23.81
	わかりにくかった	0	0.00	0	0.00
保健福祉学科 子ども学専攻	よく理解できた	14	70.00	22	100.00
	どちらとも言えない	6	30.00	0	0.00
	わかりにくかった	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	よく理解できた	19	38.78	24	60.00
	どちらとも言えない	26	53.06	12	30.00
	わかりにくかった	4	8.16	4	10.00
情報システム工学科	よく理解できた	14	35.00	18	42.86
	どちらとも言えない	20	50.00	20	47.62
	わかりにくかった	6	15.00	4	9.52
人間情報工学科	よく理解できた	16	48.48	14	53.85
	どちらとも言えない	12	36.36	8	30.77
	わかりにくかった	5	15.15	4	15.38
デザイン工学科	よく理解できた	17	40.48	20	55.56
	どちらとも言えない	20	47.62	15	41.67
	わかりにくかった	5	11.90	1	2.78
造形デザイン学科	よく理解できた	29	61.70	26	54.17
	どちらとも言えない	14	29.79	19	39.58
	わかりにくかった	4	8.51	3	6.25

表 7　受験科目

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
センター試験	受験しやすかった	310	94.22	329	96.48
	どちらかというと受験しにくかった	19	5.78	12	3.52
	受験しなかった	60		54	
小論文	受験しやすかった	107	91.45	110	90.16
	どちらかというと受験しにくかった	10	8.55	12	9.84
	受験しなかった	272		273	
理科	受験しやすかった	75	94.94	76	96.20
	どちらかというと受験しにくかった	4	5.06	3	3.80
	受験しなかった	310		316	
数学	受験しやすかった	156	98.11	154	98.72
	どちらかというと受験しにくかった	3	1.89	2	1.28
	受験しなかった	230		239	
実技	受験しやすかった	88	89.80	94	94.95
	どちらかというと受験しにくかった	10	10.20	5	5.05
	受験しなかった	291		296	
面接	受験しやすかった	179	92.75	177	96.72
	どちらかというと受験しにくかった	14	7.25	6	3.28
	受験しなかった	196		212	

表 8　個別科目

	2018, n = 389 度数	割合（%）	2019, n = 395 度数	割合（%）	2018との%の差異
集団面接	144	37.02	130	32.91	−4.11
学力試験（英語）	87	22.37	75	18.99	−3.38
TOEICや英語検定	195	50.13	194	49.11	−1.01
小論文	125	32.13	124	31.39	−0.74
総合問題	106	27.25	109	27.59	0.35
学力試験（理科）	89	22.88	93	23.54	0.67
その他	2	0.51	5	1.27	0.75
学力試験（数学）	101	25.96	110	27.85	1.88
個人面接	78	20.05	98	24.81	4.76
聴講型試験	134	34.45	155	39.24	4.79
口頭試問	127	32.65	149	37.72	5.07
プレゼンテーション	181	46.53	204	51.65	5.12
ディベート	139	35.73	164	41.52	5.79
集団討論	144	37.02	174	44.05	7.03
実技	94	24.16	128	32.41	8.24

表 9　出願時の参考

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
看護学科	大学のホームページ	4	8.89	2	4.88
	学科のホームページ	6	13.33	4	9.76
	大学案内	10	22.22	6	14.63
	学部学科パンフレット（チラシ）	2	4.44	1	2.44
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	1	2.22	1	2.44
	本学のオープンキャンパスで得た情報	6	13.33	11	26.83
	本学の「高校生のための大学授業開放」	4	8.89	1	2.44
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	0	0.00	0	0.00
	赤本等の過去問	0	0.00	0	0.00
	予備校が提供する情報	2	4.44	2	4.88
	高校の先生からの情報やアドバイス	7	15.56	6	14.63
	塾の教員からの情報やアドバイス	2	4.44	0	0.00
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	1	2.22	6	14.63
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	1	2.44
栄養学科	大学のホームページ	6	14.29	7	17.07
	学科のホームページ	4	9.52	4	9.76
	大学案内	10	23.81	3	7.32
	学部学科パンフレット（チラシ）	2	4.76	3	7.32
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	1	2.38	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	2	4.76	6	14.63
	本学の「高校生のための大学授業開放」	2	4.76	1	2.44
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	1	2.38	2	4.88
	赤本等の過去問	1	2.38	1	2.44
	予備校が提供する情報	1	2.38	3	7.32
	高校の先生からの情報やアドバイス	8	19.05	6	14.63
	塾の教員からの情報やアドバイス	0	0.00	1	2.44
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	3	7.14	4	9.76
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	1	2.38	0	0.00
情報通信工学科	大学のホームページ	9	15.25	9	17.65
	学科のホームページ	5	8.47	16	31.37
	大学案内	9	15.25	3	5.88
	学部学科パンフレット（チラシ）	3	5.08	1	1.96
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	0	0.00	1	1.96
	本学のオープンキャンパスで得た情報	4	6.78	2	3.92
	本学の「高校生のための大学授業開放」	1	1.69	0	0.00
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	1	1.69	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	3	5.08	4	7.84
	赤本等の過去問	5	8.47	2	3.92
	予備校が提供する情報	1	1.69	2	3.92
	高校の先生からの情報やアドバイス	9	15.25	8	15.69
	塾の教員からの情報やアドバイス	4	6.78	1	1.96
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	5	8.47	2	3.92
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	大学のホームページ	12	24.49	14	22.95
	学科のホームページ	3	6.12	6	9.84
	大学案内	8	16.33	6	9.84
	学部学科パンフレット（チラシ）	2	4.08	3	4.92
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	0	0.00	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	4	8.16	3	4.92
	本学の「高校生のための大学授業開放」	0	0.00	1	1.64
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	2	4.08	2	3.28
	赤本等の過去問	0	0.00	3	4.92
	予備校が提供する情報	4	8.16	4	6.56
	高校の先生からの情報やアドバイス	11	22.45	12	19.67
	塾の教員からの情報やアドバイス	2	4.08	2	3.28
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	1	2.04	4	6.56
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	1	1.64
デザイン工学科	大学のホームページ	4	9.09	6	14.29
	学科のホームページ	6	13.64	9	21.43
	大学案内	9	20.45	3	7.14
	学部学科パンフレット（チラシ）	5	11.36	2	4.76
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	2	4.55	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	3	6.82	5	11.90
	本学の「高校生のための大学授業開放」	2	4.55	0	0.00
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	1	2.27	0	0.00
	赤本等の過去問	0	0.00	2	4.76
	予備校が提供する情報	1	2.27	2	4.76
	高校の先生からの情報やアドバイス	6	13.64	4	9.52
	塾の教員からの情報やアドバイス	2	4.55	2	4.76
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	1	2.27	5	11.90
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	2	4.55	2	4.76

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
保健福祉学科 社会福祉学専攻	大学のホームページ	10	22.22	4	9.30
	学科のホームページ	2	4.44	7	16.28
	大学案内	6	13.33	8	18.60
	学部学科パンフレット（チラシ）	10	22.22	5	11.63
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	0	0.00	1	2.33
	本学のオープンキャンパスで得た情報	5	11.11	8	18.60
	本学の「高校生のための大学授業開放」	1	2.22	3	6.98
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	1	2.33
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	0	0.00	0	0.00
	赤本等の過去問	0	0.00	0	0.00
	予備校が提供する情報	0	0.00	2	4.65
	高校の先生からの情報やアドバイス	5	11.11	2	4.65
	塾の教員からの情報やアドバイス	0	0.00	1	2.33
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	4	8.89	1	2.33
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	2	4.44	0	0.00
保健福祉学科 子ども学専攻	大学のホームページ	2	10.00	2	9.09
	学科のホームページ	5	25.00	4	18.18
	大学案内	6	30.00	2	9.09
	学部学科パンフレット（チラシ）	0	0.00	1	4.55
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	1	5.00	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	2	10.00	8	36.36
	本学の「高校生のための大学授業開放」	2	10.00	5	22.73
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	1	5.00	0	0.00
	赤本等の過去問	0	0.00	0	0.00
	予備校が提供する情報	0	0.00	0	0.00
	高校の先生からの情報やアドバイス	1	5.00	0	0.00
	塾の教員からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	0	0.00	0	0.00
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	大学のホームページ	3	8.11	11	26.19
	学科のホームページ	11	29.73	6	14.29
	大学案内	5	13.51	3	7.14
	学部学科パンフレット（チラシ）	4	10.81	4	9.52
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	0	0.00	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	2	5.41	3	7.14
	本学の「高校生のための大学授業開放」	0	0.00	2	4.76
	高校で実施された進学ガイダンスでの情報	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	受験雑誌	1	2.70	1	2.38
	赤本等の過去問	0	0.00	1	2.38
	予備校が提供する情報	2	5.41	3	7.14
	高校の先生からの情報やアドバイス	4	10.81	5	11.90
	塾の教員からの情報やアドバイス	1	2.70	1	2.38
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	4	10.81	1	2.38
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	1	2.38
造形デザイン学科	大学のホームページ	3	6.25	12	23.08
	学科のホームページ	6	12.50	3	5.77
	大学案内	4	8.33	5	9.62
	学部学科パンフレット（チラシ）	4	8.33	4	7.69
	学科の受入方針（アドミッションポリシー）	0	0.00	0	0.00
	本学のオープンキャンパスで得た情報	10	20.83	5	9.62
	本学の「高校生のための大学授業開放」	2	4.17	2	3.85
	高校で実施された進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	本学で実施した進学ガイダンス	0	0.00	0	0.00
	イベント会場等で実施された進学ガイダンス	1	2.08	0	0.00
	受験雑誌	2	4.17	0	0.00
	赤本等の過去問	0	0.00	0	0.00
	予備校が提供する情報	1	2.08	0	0.00
	高校の先生からの情報やアドバイス	8	16.67	8	15.38
	塾の教員からの情報やアドバイス	4	8.33	11	21.15
	家族や知人からの情報やアドバイスなど	3	6.25	2	3.85
	出身高校の先輩(本学学生)からの情報やアドバイス	0	0.00	0	0.00

表 10　知りたかった情報

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
看護学科	各学部・学科の特色	18	14.29	12	11.54
	カリキュラムや授業内容	28	22.22	23	22.12
	教員の研究内容や人物	9	7.14	5	4.81
	取得できる資格と合格率	14	11.11	13	12.50
	就職先と就職率	19	15.08	11	10.58
	学生生活	21	16.67	23	22.12
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	4	3.17	7	6.73
	教育設備や周辺環境	13	10.32	9	8.65
	その他	0	0.00	1	0.96
栄養学科	各学部・学科の特色	8	8.99	15	11.63
	カリキュラムや授業内容	16	17.98	25	19.38
	教員の研究内容や人物	10	11.24	13	10.08
	取得できる資格と合格率	12	13.48	16	12.40
	就職先と就職率	14	15.73	23	17.83
	学生生活	16	17.98	17	13.18
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	6	6.74	7	5.43
	教育設備や周辺環境	7	7.87	12	9.30
	その他	0	0.00	1	0.78
情報通信工学科	各学部・学科の特色	30	22.39	29	21.17
	カリキュラムや授業内容	22	16.42	26	18.98
	教員の研究内容や人物	10	7.46	7	5.11
	取得できる資格と合格率	15	11.19	11	8.03
	就職先と就職率	21	15.67	21	15.33
	学生生活	21	15.67	25	18.25
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	8	5.97	7	5.11
	教育設備や周辺環境	7	5.22	9	6.57
	その他	0	0.00	2	1.46
情報システム工学科	各学部・学科の特色	23	22.12	30	20.83
	カリキュラムや授業内容	14	13.46	35	24.31
	教員の研究内容や人物	7	6.73	5	3.47
	取得できる資格と合格率	10	9.62	11	7.64
	就職先と就職率	19	18.27	25	17.36
	学生生活	18	17.31	18	12.50
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	2	1.92	3	2.08
	教育設備や周辺環境	11	10.58	17	11.81
	その他	0	0.00	0	0.00
デザイン工学科	各学部・学科の特色	17	14.53	16	13.33
	カリキュラムや授業内容	26	22.22	25	20.83
	教員の研究内容や人物	8	6.84	5	4.17
	取得できる資格と合格率	16	13.68	17	14.17
	就職先と就職率	22	18.80	22	18.33
	学生生活	12	10.26	19	15.83
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	5	4.27	5	4.17
	教育設備や周辺環境	10	8.55	11	9.17
	その他	1	0.85	0	0.00
保健福祉学科 社会福祉学専攻	各学部・学科の特色	16	13.68	10	8.26
	カリキュラムや授業内容	26	22.22	30	24.79
	教員の研究内容や人物	8	6.84	7	5.79
	取得できる資格と合格率	10	8.55	19	15.70
	就職先と就職率	14	11.97	18	14.88
	学生生活	26	22.22	21	17.36
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	9	7.69	9	7.44
	教育設備や周辺環境	8	6.84	7	5.79
	その他	0	0.00	0	0.00
保健福祉学科 子ども学専攻	各学部・学科の特色	5	10.42	10	17.54
	カリキュラムや授業内容	14	29.17	14	24.56
	教員の研究内容や人物	3	6.25	2	3.51
	取得できる資格と合格率	5	10.42	5	8.77
	就職先と就職率	5	10.42	7	12.28
	学生生活	9	18.75	10	17.54
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	1	2.08	3	5.26
	教育設備や周辺環境	5	10.42	6	10.53
	その他	1	2.08	0	0.00
人間情報工学科	各学部・学科の特色	13	13.00	18	20.00
	カリキュラムや授業内容	15	15.00	18	20.00
	教員の研究内容や人物	10	10.00	3	3.33
	取得できる資格と合格率	18	18.00	13	14.44
	就職先と就職率	18	18.00	19	21.11
	学生生活	12	12.00	12	13.33
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	3	3.00	3	3.33
	教育設備や周辺環境	10	10.00	2	2.22
	その他	1	1.00	2	2.22
造形デザイン学科	各学部・学科の特色	17	12.23	19	13.19
	カリキュラムや授業内容	29	20.86	32	22.22
	教員の研究内容や人物	9	6.47	12	8.33
	取得できる資格と合格率	17	12.23	13	9.03
	就職先と就職率	23	16.55	21	14.58
	学生生活	20	14.39	20	13.89
	学費や授業料減免制度・奨学金制度	9	6.47	15	10.42
	教育設備や周辺環境	15	10.79	11	7.64
	その他	0	0.00	1	0.69

表 11　大学授業開放

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
看護学科	受講した	13	28.89	9	21.95
	知っていたが、受講しなかった	18	40.00	11	26.83
	知らなかった	14	31.11	21	51.22
栄養学科	受講した	11	26.19	8	19.51
	知っていたが、受講しなかった	3	7.14	9	21.95
	知らなかった	28	66.67	24	58.54
保健福祉学科 社会福祉学専攻	受講した	15	33.33	12	27.91
	知っていたが、受講しなかった	8	17.78	12	27.91
	知らなかった	22	48.89	19	44.19
保健福祉学科 子ども学専攻	受講した	5	25.00	9	40.91
	知っていたが、受講しなかった	9	45.00	6	27.27
	知らなかった	6	30.00	7	31.82
情報通信工学科	受講した	4	6.78	3	5.88
	知っていたが、受講しなかった	9	15.25	5	9.80
	知らなかった	46	77.97	43	84.31
情報システム工学科	受講した	6	12.24	9	14.75
	知っていたが、受講しなかった	6	12.24	9	14.75
	知らなかった	37	75.51	43	70.49
人間情報工学科	受講した	7	18.92	8	19.05
	知っていたが、受講しなかった	4	10.81	3	7.14
	知らなかった	26	70.27	31	73.81
デザイン工学科	受講した	10	22.73	9	21.43
	知っていたが、受講しなかった	7	15.91	5	11.90
	知らなかった	27	61.36	28	66.67
造形デザイン学科	受講した	17	35.42	9	17.31
	知っていたが、受講しなかった	18	37.50	15	28.85
	知らなかった	13	27.08	28	53.85

表 12　今の気持ち

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
看護学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	28	62.22	17	41.46
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	5	11.11	7	17.07
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	4.44	7	17.07
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	10	22.22	10	24.39
	その他	0	0.00	0	0.00
栄養学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	22	52.38	23	56.10
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	5	11.90	4	9.76
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	4	9.52	7	17.07
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	11	26.19	7	17.07
	その他	0	0.00	0	0.00
保健福祉学科 社会福祉学専攻	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	26	57.78	17	39.53
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	3	6.67	10	23.26
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	9	20.00	6	13.95
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	7	15.56	10	23.26
	その他	0	0.00	0	0.00
保健福祉学科 子ども学専攻	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	10	50.00	10	45.45
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	4	20.00	4	18.18
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	10.00	6	27.27
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	4	20.00	2	9.09
	その他	0	0.00	0	0.00
情報通信工学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	45	76.27	28	54.90
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	1.69	3	5.88
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	7	11.86	10	19.61
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	6	10.17	10	19.61
	その他	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	30	61.22	40	65.57
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	2	4.08	4	6.56
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	9	18.37	9	14.75
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	7	14.29	8	13.11
	その他	1	2.04	0	0.00
人間情報工学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	21	56.76	18	42.86
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	5	13.51	5	11.90
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	6	16.22	7	16.67
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	5	13.51	10	23.81
	その他	0	0.00	2	4.76
デザイン工学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	30	68.18	31	73.81
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	2	4.55	2	4.76
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	6	13.64	6	14.29
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	6	13.64	3	7.14
	その他	0	0.00	0	0.00
造形デザイン学科	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	33	68.75	32	61.54
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	5	10.42	5	9.62
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	4	8.33	6	11.54
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	5	10.42	9	17.31
	その他	1	2.08	0	0.00

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
推薦入試	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	59	57.28	52	47.71
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	11	10.68	14	12.84
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	15	14.56	18	16.51
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	18	17.48	25	22.94
	その他	0	0.00	0	0.00
帰国生入試	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	1	100.00	1	50.00
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	0	0.00
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	0	0.00
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	0	0.00	1	50.00
	その他	0	0.00	0	0.00
一般入試　前期日程	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	123	62.44	108	56.25
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	13	6.60	23	11.98
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	36	18.27	35	18.23
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	24	12.18	26	13.54
	その他	1	0.51	0	0.00
一般入試　中期日程	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	48	70.59	49	64.47
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	4	5.88	4	5.26
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	9	13.24	9	11.84
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	6	8.82	12	15.79
	その他	1	1.47	2	2.63
一般入試　後期日程	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	14	70.00	6	37.50
	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	4	20.00	3	18.75
	課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	5.00	2	12.50
	とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	1	5.00	5	31.25
	その他	0	0.00	0	0.00

			2018		2019	
		項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	8	57.14	3	23.08
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	7.14	1	7.69
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	5	35.71	3	23.08
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	6	46.15
		その他	0	0.00	0	0.00
	帰国	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	0		1	100.00
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0		0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0		0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0		0	0.00
		その他	0		0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	14	63.64	10	52.63
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	2	9.09	3	15.79
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	4	18.18	4	21.05
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	2	9.09	2	10.53
		その他	0	0.00	0	0.00
	後期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	6	66.67	3	37.50
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	2	22.22	3	37.50
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	11.11	0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	2	25.00
		その他	0	0.00	0	0.00
栄養学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	6	46.15	6	46.15
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	3	23.08	1	7.69
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	3	23.08	3	23.08
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	1	7.69	3	23.08
		その他	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	14	51.85	17	60.71
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	2	7.41	3	10.71
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	8	29.63	4	14.29
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	3	11.11	4	14.29
		その他	0	0.00	0	0.00
	後期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	2	100.00	0	
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	0	
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	0	
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	0	
		その他	0	0.00	0	
保健福祉学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	5	45.45	7	53.85
社会福祉学専攻		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	9.09	1	7.69
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	9.09	3	23.08
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	4	36.36	2	15.38
		その他	0	0.00	0	0.00
	私費	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	1	100.00	0	
	留学	地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	0	
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	0	
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	0	
		その他	0	0.00	0	
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	16	59.26	9	34.62
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	3.70	9	34.62
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	6	22.22	2	7.69
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	4	14.81	6	23.08
		その他	0	0.00	0	0.00
	後期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	4	66.67	1	25.00
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	16.67	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	1	25.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	1	16.67	2	50.00
		その他	0	0.00	0	0.00
保健福祉学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	2	33.33	4	57.14
子ども学専攻		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	2	28.57
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	33.33	1	14.29
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	2	33.33	0	0.00
		その他	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	6	54.55	4	36.36
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	3	27.27	2	18.18
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	18.18	4	36.36
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	1	9.09
		その他	0	0.00	0	0.00
	後期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	2	66.67	2	50.00
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	33.33	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	1	25.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。(資格試験の合格を含む)	0	0.00	1	25.00
		その他	0	0.00	0	0.00

情報通信工学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	8	61.54	7	53.85
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	1	7.69
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	2	15.38
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	5	38.46	3	23.08
		その他	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	13	81.25	9	56.25
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	3	18.75	5	31.25
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	0	0.00	2	12.50
		その他	0	0.00	0	0.00
	中期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	24	80.00	12	54.55
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	3.33	2	9.09
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	3	10.00	3	13.64
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	2	6.67	5	22.73
		その他	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	9	69.23	9	60.00
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	7.69	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	7.69	2	13.33
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	2	15.38	4	26.67
		その他	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	8	57.14	6	46.15
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	2	15.38
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	7.14	4	30.77
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	5	35.71	1	7.69
		その他	0	0.00	0	0.00
	中期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	13	59.09	25	75.76
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	1	4.55	2	6.06
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	5	22.73	3	9.09
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	2	9.09	3	9.09
		その他	1	4.55	0	0.00
人間情報工学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	4	40.00	2	15.38
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	3	30.00	5	38.46
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	20.00	1	7.69
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	1	10.00	5	38.46
		その他	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	6	54.55	5	55.56
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	2	18.18	3	33.33
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	3	27.27	1	11.11
		その他	0	0.00	0	0.00
	中期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	11	68.75	11	55.00
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	2	12.50	0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	6.25	3	15.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	2	12.50	4	20.00
		その他	0	0.00	2	10.00
デザイン工学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	8	72.73	7	70.00
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0	0.00	1	10.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	1	9.09	1	10.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	2	18.18	1	10.00
		その他	0	0.00	0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	22	66.67	24	75.00
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	2	6.06	1	3.13
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	5	15.15	5	15.63
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	4	12.12	2	6.25
		その他	0	0.00	0	0.00
造形デザイン学科	推薦	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	9	75.00	7	58.33
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	2	16.67	2	16.67
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0	0.00	2	16.67
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	1	8.33	1	8.33
		その他	0	0.00	0	0.00
	帰国	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	0		0	0.00
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	0		0	0.00
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	0		0	0.00
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	0		1	100.00
		その他	0		0	0.00
	前期	真剣に学んで、多くの知識や技術を身につけたい	24	66.67	25	64.10
		地域ボランティアや海外留学など多くの経験を積んで、人間性を磨きたい	3	8.33	3	7.69
		課外活動やアルバイトなどを含め、学生生活を思い切り楽しみたい	5	13.89	4	10.26
		とりあえず無事に卒業し、就職や進学をしたい。（資格試験の合格を含む）	3	8.33	7	17.95
		その他	1	2.78	0	0.00

表 13　本学に対する期待

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
看護学科	専門教育	20	44.44	19	46.34
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	15	33.33	12	29.27
	一般教養教育	2	4.44	2	4.88
	語学教育	2	4.44	4	9.76
	学内教育設備	2	4.44	0	0.00
	地域活動・ボランティア活動の機会	1	2.22	0	0.00
	国際的活動（海外での授業など）の機会	0	0.00	2	4.88
	インターンシップ	1	2.22	1	2.44
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	0	0.00	0	0.00
	図書館	1	2.22	0	0.00
	課外活動施設（体育館・プールなど）	0	0.00	0	0.00
	その他	1	2.22	1	2.44
栄養学科	専門教育	22	55.00	18	48.65
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	11	27.50	14	37.84
	一般教養教育	0	0.00	0	0.00
	語学教育	1	2.50	0	0.00
	学内教育設備	1	2.50	1	2.70
	地域活動・ボランティア活動の機会	2	5.00	2	5.41
	国際的活動（海外での授業など）の機会	2	5.00	1	2.70
	インターンシップ	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	0	0.00	0	0.00
	図書館	0	0.00	1	2.70
	課外活動施設（体育館・プールなど）	0	0.00	0	0.00
	その他	1	2.50	0	0.00
情報通信工学科	専門教育	39	66.10	38	79.17
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	1	1.69	0	0.00
	一般教養教育	9	15.25	2	4.17
	語学教育	2	3.39	1	2.08
	学内教育設備	1	1.69	3	6.25
	地域活動・ボランティア活動の機会	1	1.69	2	4.17
	国際的活動（海外での授業など）の機会	1	1.69	1	2.08
	インターンシップ	1	1.69	0	0.00
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	2	3.39	0	0.00
	図書館	2	3.39	1	2.08
	課外活動施設（体育館・プールなど）	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00
情報システム工学科	専門教育	36	75.00	38	64.41
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	0	0.00	0	0.00
	一般教養教育	1	2.08	7	11.86
	語学教育	3	6.25	1	1.69
	学内教育設備	4	8.33	4	6.78
	地域活動・ボランティア活動の機会	2	4.17	1	1.69
	国際的活動（海外での授業など）の機会	0	0.00	0	0.00
	インターンシップ	0	0.00	1	1.69
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	0	0.00	1	1.69
	図書館	1	2.08	3	5.08
	課外活動施設（体育館・プールなど）	0	0.00	2	3.39
	その他	1	2.08	1	1.69
デザイン工学科	専門教育	32	72.73	33	80.49
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	1	2.27	0	0.00
	一般教養教育	0	0.00	1	2.44
	語学教育	2	4.55	1	2.44
	学内教育設備	3	6.82	4	9.76
	地域活動・ボランティア活動の機会	1	2.27	0	0.00
	国際的活動（海外での授業など）の機会	0	0.00	0	0.00
	インターンシップ	2	4.55	1	2.44
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	1	2.27	0	0.00
	図書館	0	0.00	0	0.00
	課外活動施設（体育館・プールなど）	2	4.55	1	2.44
	その他	0	0.00	0	0.00
保健福祉学科 社会福祉学専攻	専門教育	22	48.89	17	41.46
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	15	33.33	17	41.46
	一般教養教育	1	2.22	1	2.44
	語学教育	0	0.00	0	0.00
	学内教育設備	0	0.00	0	0.00
	地域活動・ボランティア活動の機会	2	4.44	5	12.20
	国際的活動（海外での授業など）の機会	1	2.22	1	2.44
	インターンシップ	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	3	6.67	0	0.00
	図書館	1	2.22	0	0.00
	課外活動施設（体育館・プールなど）	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00
保健福祉学科 子ども学専攻	専門教育	14	70.00	16	80.00
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	5	25.00	1	5.00
	一般教養教育	1	5.00	2	10.00
	語学教育	0	0.00	0	0.00
	学内教育設備	0	0.00	0	0.00
	地域活動・ボランティア活動の機会	0	0.00	1	5.00
	国際的活動（海外での授業など）の機会	0	0.00	0	0.00
	インターンシップ	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	0	0.00	0	0.00
	図書館	0	0.00	0	0.00
	課外活動施設（体育館・プールなど）	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00
人間情報工学科	専門教育	20	54.05	25	60.98
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	0	0.00	0	0.00
	一般教養教育	2	5.41	6	14.63
	語学教育	6	16.22	1	2.44
	学内教育設備	1	2.70	1	2.44
	地域活動・ボランティア活動の機会	0	0.00	1	2.44
	国際的活動（海外での授業など）の機会	1	2.70	0	0.00
	インターンシップ	0	0.00	1	2.44
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	1	2.70	1	2.44
	図書館	4	10.81	4	9.76
	課外活動施設（体育館・プールなど）	2	5.41	0	0.00
	その他	0	0.00	1	2.44
造形デザイン学科	専門教育	35	72.92	41	78.85
	国家試験対策（保健福祉学部のみ）	0	0.00	0	0.00
	一般教養教育	0	0.00	1	1.92
	語学教育	1	2.08	1	1.92
	学内教育設備	11	22.92	3	5.77
	地域活動・ボランティア活動の機会	0	0.00	2	3.85
	国際的活動（海外での授業など）の機会	1	2.08	0	0.00
	インターンシップ	0	0.00	0	0.00
	学生生活支援（奨学金・就活サポートなど	0	0.00	1	1.92
	図書館	0	0.00	0	0.00
	課外活動施設（体育館・プールなど）	0	0.00	1	1.92
	その他	0	0.00	2	3.85

表 14　身につけたい能力

	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合	項目	2018 度数	2018 割合	2019 度数	2019 割合
看護学科	コミュニケーションスキル（日本語）	31	20.39	29	17.26	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	13	28.89	12	29.27
	コミュニケーションスキル（外国語）	18	11.84	31	18.45	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	4	8.89	2	4.88
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	5	3.29	7	4.17	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	6	13.33	8	19.51
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	14	9.21	15	8.93	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	1	2.22	0	0.00
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	2	1.32	2	1.19	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	7	15.56	3	7.32
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	14	9.21	10	5.95	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	4	8.89	3	7.32
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	14	9.21	19	11.31	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	6	13.33	5	12.20
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	16	10.53	13	7.74	新しい価値を生み出す力（創造力）	2	4.44	3	7.32
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	25	16.45	23	13.69	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	2	4.44	5	12.20
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	13	8.55	19	11.31	その他	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00					
栄養学科	コミュニケーションスキル（日本語）	35	18.52	31	19.14	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	13	30.95	10	24.39
	コミュニケーションスキル（外国語）	21	11.11	18	11.11	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	4	9.52	12	29.27
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	10	5.29	12	7.41	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	10	23.81	4	9.76
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	17	8.99	16	9.88	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	1	2.38	1	2.44
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	4	2.12	6	3.70	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	2	4.76	1	2.44
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	19	10.05	10	6.17	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	4	9.52	3	7.32
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	14	7.41	13	8.02	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	3	7.14	1	2.44
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	25	13.23	17	10.49	新しい価値を生み出す力（創造力）	3	7.14	6	14.63
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	25	13.23	23	14.20	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	2	4.76	3	7.32
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	19	10.05	16	9.88	その他	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00					
保健福祉学科	コミュニケーションスキル（日本語）	28	15.91	36	21.69	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	8	17.78	12	27.91
社会福祉学専攻	コミュニケーションスキル（外国語）	22	12.50	16	9.64	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	10	22.22	5	11.63
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	12	6.82	6	3.61	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	5	11.11	11	25.58
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	14	7.95	13	7.83	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	1	2.22	1	2.33
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	4	2.27	3	1.81	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	3	6.67	1	2.33
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	20	11.36	15	9.04	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	5	11.11	4	9.30
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	18	10.23	13	7.83	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	7	15.56	3	6.98
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	14	7.95	18	10.84	新しい価値を生み出す力（創造力）	5	11.11	1	2.33
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	19	10.80	25	15.06	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	1	2.22	5	11.63
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	25	14.20	21	12.65	その他	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00					
保健福祉学科	コミュニケーションスキル（日本語）	13	17.33	20	20.41	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	4	20.00	5	22.73
子ども学専攻	コミュニケーションスキル（外国語）	7	9.33	7	7.14	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	3	15.00	6	27.27
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	3	4.00	4	4.08	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	7	35.00	4	18.18
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	10	13.33	7	7.14	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	0	0.00	1	4.55
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	1	1.33	3	3.06	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	0	0.00	2	9.09
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	8	10.67	6	6.12	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	1	5.00	1	4.55
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	5	6.67	11	11.22	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	3	15.00	0	0.00
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	9	12.00	13	13.27	新しい価値を生み出す力（創造力）	1	5.00	2	9.09
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	11	14.67	14	14.29	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	1	5.00	1	4.55
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	8	10.67	13	13.27	その他	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00					
情報通信工学科	コミュニケーションスキル（日本語）	36	13.04	32	12.55	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	19	32.20	21	42.00
	コミュニケーションスキル（外国語）	30	10.87	37	14.51	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	13	22.03	7	14.00
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	45	16.30	40	15.69	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	11	18.64	5	10.00
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	22	7.97	24	9.41	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	3	5.08	0	0.00
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	16	5.80	16	6.27	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	3	5.08	2	4.00
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	29	10.51	19	7.45	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	1	1.69	1	2.00
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	20	7.25	22	8.63	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	1	1.69	5	10.00
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	24	8.70	21	8.24	新しい価値を生み出す力（創造力）	6	10.17	9	18.00
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	25	9.06	20	7.84	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	2	3.39	0	0.00
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	28	10.14	23	9.02	その他	0	0.00	0	0.00
	その他	1	0.36	1	0.39					
情報システム工学科	コミュニケーションスキル（日本語）	34	14.98	42	15.38	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	15	30.61	20	33.33
	コミュニケーションスキル（外国語）	30	13.22	43	15.75	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	8	16.33	16	26.67
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	33	14.54	36	13.19	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	7	14.29	7	11.67
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	17	7.49	15	5.49	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	1	2.04	2	3.33
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	14	6.17	14	5.13	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	3	6.12	2	3.33
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	24	10.57	23	8.42	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	0	0.00	1	1.67
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	19	8.37	22	8.06	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	3	6.12	2	3.33
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	19	8.37	28	10.26	新しい価値を生み出す力（創造力）	10	20.41	7	11.67
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	17	7.49	25	9.16	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	1	2.04	3	5.00
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	20	8.81	25	9.16	その他	1	2.04	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00					
人間情報工学科	コミュニケーションスキル（日本語）	21	12.00	20	18.87	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	14	37.84	13	30.95
	コミュニケーションスキル（外国語）	26	14.86	23	21.70	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	8	21.62	8	19.05
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	17	9.71	16	15.09	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	6	16.22	8	19.05
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	16	9.14	7	6.60	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	0	0.00	1	2.38
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	5	2.86	2	1.89	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	0	0.00	0	0.00
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	16	9.14	7	6.60	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	1	2.70	2	4.76
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	18	10.29	6	5.66	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	1	2.70	3	7.14
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	21	12.00	10	9.43	新しい価値を生み出す力（創造力）	4	10.81	5	11.90
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	19	10.86	8	7.55	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	2	5.41	1	2.38
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	16	9.14	5	4.72	その他	1	2.70	1	2.38
	その他	0	0.00	2	1.89					
デザイン工学科	コミュニケーションスキル（日本語）	33	15.14	27	13.92	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	8	18.18	4	9.52
	コミュニケーションスキル（外国語）	24	11.01	28	14.43	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	4	9.09	9	21.43
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	14	6.42	9	4.64	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	9	20.45	4	9.52
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	18	8.26	18	9.28	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	2	4.55	0	0.00
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	8	3.67	8	4.12	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	1	2.27	2	4.76
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	22	10.09	19	9.79	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	1	2.27	1	2.38
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	22	10.09	19	9.79	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	1	2.27	0	0.00
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	21	9.63	17	8.76	新しい価値を生み出す力（創造力）	17	38.64	19	45.24
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	31	14.22	22	11.34	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	1	2.27	3	7.14
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	25	11.47	27	13.92	その他	0	0.00	0	0.00
	その他	0	0.00	0	0.00					
造形デザイン学科	コミュニケーションスキル（日本語）	38	17.92	39	17.11	物事に自ら進んで取り組む力（主体性）	10	20.83	14	26.92
	コミュニケーションスキル（外国語）	22	10.38	26	11.40	目的を設定し確実に行動する力（実行力）	4	8.33	6	11.54
	情報の収集・分析・発信力（ICTを利用する力）	9	4.25	9	3.95	自分の意見をわかりやすく伝える力（発信力）	10	20.83	7	13.46
	卒業後も自律的に学習する力（生涯学習力）	22	10.38	26	11.40	社会のルールや人との約束を守る力（規律・倫理性）	0	0.00	0	0.00
	社会や自然の事象を数量的に扱う力（数量的スキル）	5	2.36	4	1.75	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力（状況把握力）	1	2.08	0	0.00
	論理的思考力（ものごとの客観的な分析や表現）	19	8.96	17	7.46	他人に働きかけ協働する力（働きかけ力）	1	2.08	3	5.77
	グローバルに考える力（多文化、異文化の知識と理解）	18	8.49	27	11.84	現状を分析し目的や課題を明らかにする力（課題発見力）	3	6.25	0	0.00
	自分の行動や生活を適切に律する力（自己管理力）	27	12.74	23	10.09	新しい価値を生み出す力（創造力）	19	39.58	19	36.54
	他者と協調し共に行動する力（チームワーク）	27	12.74	28	12.28	相手の意見を丁寧に聞く力（傾聴力）	0	0.00	3	5.77
	発見した問題を解決に導くための計画力（問題解決力）	24	11.32	27	11.84	その他	0	0.00	0	0.00
	その他	1	0.47	2	0.88					

表 15　希望進路

		2018		2019	
	項目	度数	割合	度数	割合
看護学科	岡山県内に就職したい	25	55.56	14	34.15
	岡山県外に就職したい	9	20.00	10	24.39
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	2	4.44	1	2.44
	他大学の大学院に進学したい	0	0.00	2	4.88
	まだわからない	9	20.00	14	34.15
栄養学科	岡山県内に就職したい	15	35.71	10	24.39
	岡山県外に就職したい	14	33.33	20	48.78
	就職は希望しない	1	2.38	1	2.44
	本学の大学院に進学したい	2	4.76	2	4.88
	他大学の大学院に進学したい	1	2.38	1	2.44
	まだわからない	9	21.43	7	17.07
保健福祉学科　社会福祉学専攻	岡山県内に就職したい	20	44.44	15	34.88
	岡山県外に就職したい	11	24.44	13	30.23
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	1	2.22	0	0.00
	他大学の大学院に進学したい	1	2.22	0	0.00
	まだわからない	12	26.67	15	34.88
保健福祉学科　子ども学専攻	岡山県内に就職したい	12	60.00	16	72.73
	岡山県外に就職したい	3	15.00	3	13.64
	就職は希望しない	1	5.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	0	0.00	0	0.00
	他大学の大学院に進学したい	0	0.00	0	0.00
	まだわからない	4	20.00	3	13.64
情報通信工学科	岡山県内に就職したい	8	13.56	8	15.69
	岡山県外に就職したい	6	10.17	7	13.73
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	6	10.17	3	5.88
	他大学の大学院に進学したい	15	25.42	14	27.45
	まだわからない	24	40.68	19	37.25
情報システム工学科	岡山県内に就職したい	6	12.24	7	11.48
	岡山県外に就職したい	5	10.20	9	14.75
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	6	12.24	4	6.56
	他大学の大学院に進学したい	16	32.65	18	29.51
	まだわからない	16	32.65	23	37.70
人間情報工学科	岡山県内に就職したい	4	10.81	6	14.29
	岡山県外に就職したい	8	21.62	6	14.29
	就職は希望しない	1	2.70	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	7	18.92	5	11.90
	他大学の大学院に進学したい	11	29.73	12	28.57
	まだわからない	6	16.22	13	30.95
デザイン工学科	岡山県内に就職したい	4	9.09	6	14.29
	岡山県外に就職したい	16	36.36	16	38.10
	就職は希望しない	0	0.00	0	0.00
	本学の大学院に進学したい	0	0.00	0	0.00
	他大学の大学院に進学したい	4	9.09	3	7.14
	まだわからない	20	45.45	17	40.48
造形デザイン学科	岡山県内に就職したい	10	20.83	8	15.38
	岡山県外に就職したい	19	39.58	21	40.38
	就職は希望しない	0	0.00	2	3.85
	本学の大学院に進学したい	0	0.00	0	0.00
	他大学の大学院に進学したい	0	0.00	1	1.92
	まだわからない	19	39.58	20	38.46

C　卒業時・修了時アンケート

C-1 卒業時アンケート

実施日時：2018 年 3 月 22 日
実施方法：Web（「はっとりん」）上で実施
対象者：総数人 361 中，回答数 232 人（回収率.64.3%）

平成30年度「卒業時アンケート」の結果	看護学科	栄養学科	保健福祉学科	情報通信工学科	情報システム工学科	スポーツシステム工学科	デザイン工学科	造形デザイン学科	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	全体
対象者数	40	43	61	57	46	39	42	41	144	142	83	361
回答者数	22	29	38	47	15	37	14	30	89	99	44	232
回収率(%)	55.0	67.4	62.3	82.5	32.6	94.9	33.3	73.2	61.8	69.7	53.0	64.3
【教養的成長】次の全学教育科目群は，あなたの成長にどの程度意義がありましたか												
「コミュニケーション(語学教育)」系は	3.50	3.24	3.29	3.06	3.07	3.03	3.00	3.60	3.33	3.05	3.41	3.22
「人間と文化の理解」系は	3.05	3.00	3.34	2.94	2.53	2.76	3.36	3.77	3.16	2.81	3.64	3.10
「現代社会に生きる」系は	2.91	3.76	3.26	3.19	2.73	3.08	3.21	3.33	3.34	3.08	3.30	3.22
「科学技術と環境」系は	3.45	3.93	3.58	3.13	2.87	3.30	3.21	3.03	3.66	3.15	3.09	3.34
「健康の維持・増進(体育を含む)」系は	4.14	3.34	3.34	3.23	3.00	3.19	3.36	3.50	3.54	3.18	3.45	3.37
教育的成長の平均	3.41	3.46	3.36	3.11	2.84	3.07	3.23	3.45	3.40	3.05	3.38	3.25
【専門的成長】次の教育科目群(学部教育関連)は，あなたの成長にどの程度意義がありましたか												
全学教育科目群「学部教育への準備」系は	3.77	3.21	3.71	2.89	2.93	2.89	2.93	3.43	3.56	2.90	3.27	3.22
学部育科目の講義は	4.41	4.14	3.97	3.62	3.80	3.57	3.50	4.70	4.13	3.63	4.32	3.95
実験・実習・演習は	4.86	4.79	4.84	4.23	4.27	4.24	4.43	4.83	4.83	4.24	4.70	4.56
卒業研究は	4.36	4.62	4.29	4.30	4.53	4.11	4.29	4.83	4.42	4.26	4.66	4.40
専門的成長の平均	4.35	4.19	4.20	3.76	3.88	3.70	3.79	4.45	4.24	3.76	4.24	4.03
【総合的成長】あなたが本学在学中に身につけた能力について尋ねます												
社会の一員として生きる力は	4.27	4.03	4.11	3.23	3.27	3.51	3.36	3.40	4.12	3.34	3.39	3.65
専門性を活かすための基礎知識とスキルは	4.27	4.34	4.29	3.51	3.47	3.35	3.50	4.03	4.30	3.44	3.86	3.85
専門的な知識と技術は	4.14	4.38	4.26	3.49	3.40	3.27	3.79	3.87	4.27	3.39	3.84	3.81
創造的に考える力は	4.18	3.93	4.03	3.30	3.33	3.35	3.43	3.97	4.03	3.32	3.80	3.69
自らをみがき発展させる力は	4.05	3.97	4.13	3.40	3.27	3.49	3.57	3.83	4.06	3.41	3.75	3.72
コミュニケーションの力は	4.18	4.28	4.24	3.30	3.67	3.41	3.36	3.63	4.24	3.39	3.55	3.75
ソーシャルスキル・ビジネスマナーは	3.86	3.83	3.63	2.89	3.07	2.89	3.36	3.23	3.75	2.92	3.27	3.31
職業人となる意識は	4.14	3.86	3.87	3.04	3.13	3.11	3.14	3.30	3.93	3.08	3.25	3.44
総合的成長の平均	4.14	4.08	4.07	3.27	3.33	3.30	3.44	3.66	4.09	3.29	3.59	3.65
【全般的満足】全般的に本学の教育は満足でしたか												
全般的に本学の教育は満足でしたか	4.55	4.52	4.34	3.74	3.60	3.54	3.79	4.10	4.45	3.65	4.00	4.02

注)アンケートの集計結果は，５段階評価(1:否定～5:肯定)の平均値を示す

C-2 修了時アンケート

実施日時：2018 年 3 月 22 日
実施方法：Web（「はっとりん」）上で実施
対象者：総数人 67 中，回答数 41 人（回収率 61.2%）

平成31年度「修了時アンケート」の結果	博士前期						博士後期		保健福祉学研究科	情報系工学研究科	デザイン学研究科	全体
	看護学	栄養学	保健福祉学	システム工学	デザイン工	造形デザイン学	保健福祉科学	システム工学博士後期				
対象者数	9	3	7	42	2	2	1	1	20	43	4	67
回答者数	2	0	4	34	1	0	0	0	6	34	1	41
回収率(%)	66.7	0.0	57.1	81.0	50.0	0.0	0.0	0.0	30.0	79.1	25.0	61.2
【研究環境】												
学業に意欲的に取り組むことができた。	5.00	0.00	5.00	0.00	3.94	0.00	5.00	0.00	5.00	3.94	5.00	4.12
修士論文の作成や研究について、指導教員から十分な指導を受けることができた。	5.00	0.00	5.00	0.00	4.24	0.00	3.00	0.00	5.00	4.24	3.00	4.32
研究倫理について学ぶことができた。	5.00	0.00	5.00	0.00	4.06	0.00	5.00	0.00	5.00	4.06	5.00	4.22
研究環境は満足のいくものだった。	5.00	0.00	5.00	0.00	3.88	0.00	2.00	0.00	5.00	3.88	2.00	4.00
研究環境の平均	5.00	0.00	5.00	0.00	4.03	0.00	3.75	0.00	5.00	4.03	3.75	4.16
【発表機会】												
研究内容を学会等で発表する機会があったら、その回数を教えてください。	3.50	0.00	3.25	0.00	3.12	0.00	1.00	0.00	3.33	3.12	1.00	3.10
研究内容を学会等の論文に執筆する機会があったら、その回数を教えてください。	2.50	0.00	2.25	0.00	2.03	0.00	1.00	0.00	2.33	2.03	1.00	2.05
（分担執筆の場合も含め、1論文1回としてください。修士論文やアブストラクト執筆は除きます。）												
発表機会の平均	3.00	0.00	2.75	0.00	2.57	0.00	1.00	0.00	2.83	2.57	1.00	2.57
【学修成果】												
本学での学修で、高い専門性が身についたと思う。	5.00	0.00	5.00	0.00	3.74	0.00	4.00	0.00	5.00	3.74	4.00	3.93
本学での学修で、研究を行うための基礎知識やスキルが身についたと思う。	5.00	0.00	5.00	0.00	4.03	0.00	5.00	0.00	5.00	4.03	5.00	4.20
本学での学修で、自分で研究課題を発見する力が身についたと思う。	5.00	0.00	4.75	0.00	3.85	0.00	3.00	0.00	4.83	3.85	3.00	3.98
本学での学修で、課題を研究するときに研究計画を立てる力が身についたと思う。	5.00	0.00	4.75	0.00	3.82	0.00	3.00	0.00	4.83	3.82	3.00	3.95
本学での学修で、課題を解決するための分析や評価方法が身についたと思う。	5.00	0.00	4.75	0.00	3.82	0.00	5.00	0.00	4.83	3.82	5.00	4.00
本学での学修は、今後の仕事（進学先または就職先）で役立つと思う。	5.00	0.00	5.00	0.00	3.85	0.00	5.00	0.00	5.00	3.85	5.00	4.05
学修成果の平均	5.00	0.00	4.88	0.00	3.85	0.00	4.17	0.00	4.92	3.85	4.17	4.02
【修了後の進路】												
あなたの修了後の進路を教えてください。	4.00	0.00	2.75	0.00	3.12	0.00	3.00	0.00	3.17	3.12	3.00	3.12
修了後の進路の平均	4.00	0.00	2.75	0.00	3.12	0.00	3.00	0.00	3.17	3.12	3.00	3.12
【総合的評価】												
岡山県立大学で学ぶことが出来て良かったと思う。	5.00	0.00	5.00	0.00	4.06	0.00	5.00	0.00	5.00	4.06	5.00	4.22

注)アンケートの集計結果は，５段階評価(1:否定～5:肯定)の平均値を示す

D 授業評価アンケート

2019年度

【 前期 ・ 大学 】 対象者数総合計＝ 17373 ・ 回答者数総合計＝ 9975

科目所属		対象者数	回答者数
共通教育	修学基礎	1042	776
	人文・社会科学	1134	778
	自然科学	1434	911
	健康科学	481	276
	語学国際	1634	1098
	社会連携	625	401
共通教育合計		6350	4240

科目所属		対象者数	回答者数
保健福祉学部	保健福祉学部統合	119	70
	看護学科	1024	641
	栄養学科	1446	705
	保健福祉学科	1604	1001
	—	—	—
	—	—	—
保健福祉学部合計		4193	2417

科目所属		対象者数	回答者数
情報工学部	情報工学部統合	801	347
	情報通信工学科	1393	713
	情報システム工学科	1046	369
	人間情報工学科	810	519
	—	—	—
	—	—	—
情報工学部合計		4050	1948

科目所属		対象者数	回答者数
デザイン学部	デザイン学部統合	934	377
	デザイン工学科	991	486
	造形デザイン学科	855	507
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
デザイン学部合計		2780	1370

【 前期 ・ 大学院 】 対象者数総合計＝ 396 ・ 回答者数総合計＝ 132

科目所属	対象者数	回答者数
保健福祉学研究科（合計）	139	41

科目所属	対象者数	回答者数
情報系工学研究科（合計）	250	91

科目所属	対象者数	回答者数
デザイン学研究科（合計）	7	0

【 後期 ・ 大学 】 対象者数総合計＝ 15201 ・ 回答者数総合計＝ 7814

科目所属		対象者数	回答者数
共通教育	修学基礎	9	0
	人文・社会科学	1083	574
	自然科学	697	284
	健康科学	600	260
	語学国際	1506	990
	社会連携	669	347
共通教育合計		4564	2455

科目所属		対象者数	回答者数
保健福祉学部	保健福祉学部	7	3
	看護学科	1292	699
	栄養学科	1110	505
	保健福祉学科	1820	1209
	—	—	—
	—	—	—
保健福祉学部合計		4229	2416

科目所属		対象者数	回答者数
情報工学部	情報工学部統合	817	476
	情報通信工学科	856	498
	情報システム工学科	1192	432
	人間情報工学科	1000	593
	—	—	—
	—	—	—
情報工学部合計		3865	1999

科目所属		対象者数	回答者数
デザイン学部	デザイン学部	1145	411
	デザイン工学科	664	170
	造形デザイン学科	734	363
	—	—	—
	—	—	—
	—	—	—
デザイン学部合計		2543	944

【 後期 ・ 大学院 】 対象者数総合計＝ 261 ・ 回答者数総合計＝ 41

科目所属	対象者数	回答者数
大学院（合計）	7	0

科目所属	対象者数	回答者数
保健福祉学研究科（合計）	26	5

科目所属	対象者数	回答者数
情報系工学研究科（合計）	223	36

科目所属	対象者数	回答者数
デザイン学研究科（合計）	5	0

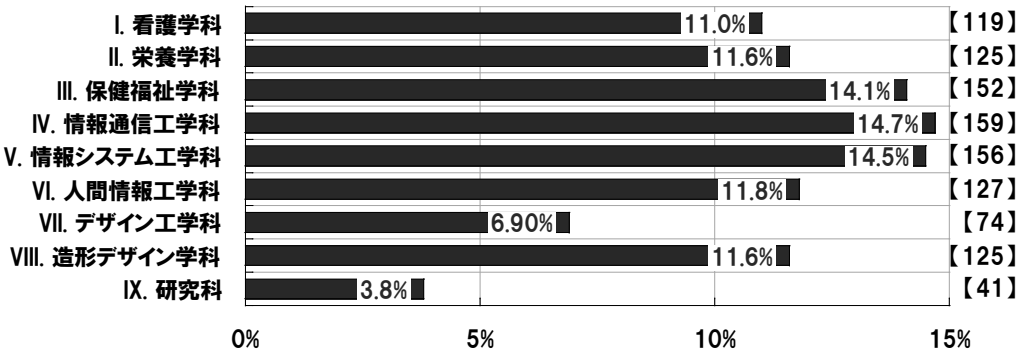
E　学生生活アンケート（学部生・大学院生）

調査項目：47 項目　（内訳：選択回答 39 項目、自由記述 8 項目）
調査時期：2019 年 10 月～2019 年 11 月
回収率：学部生 62.0%、大学院生 28.0%
集計方法：有効回答の範囲内での単純集計

【所属・学年】

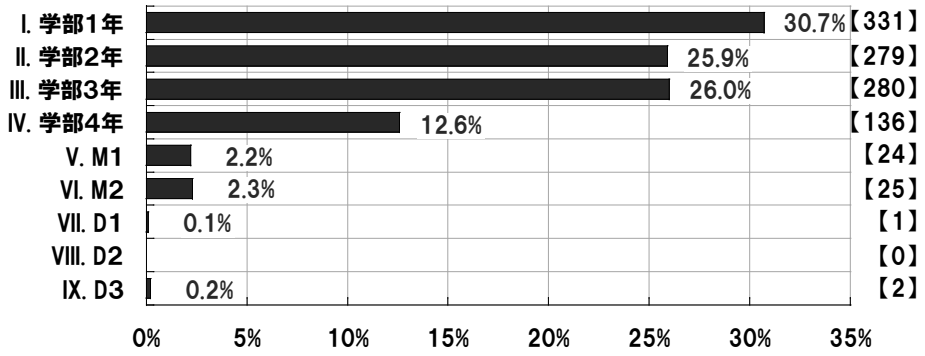
【N=1078】

Q1 所属



【N=1078】

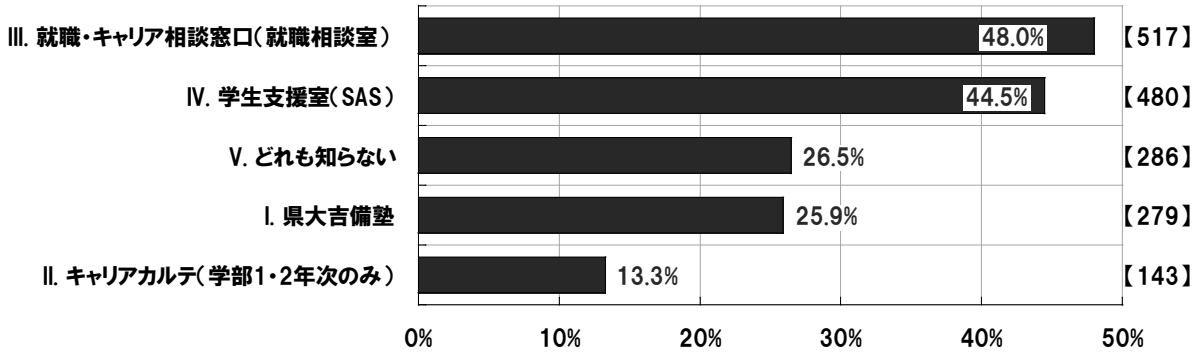
Q2 学年



【キャリア形成支援関連】

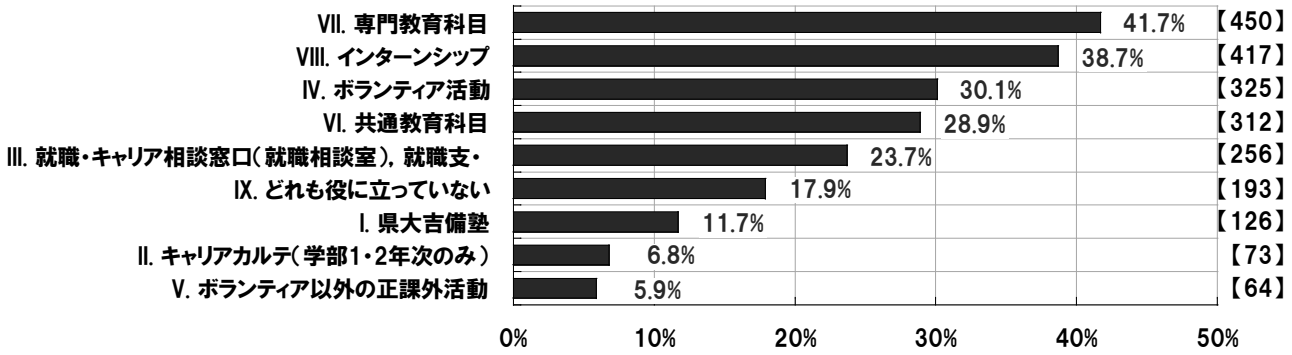
【N=1078】

Q3 キャリア形成支援について知っていることはどれですか？【複数回答可】【5者択5】（回答必須）



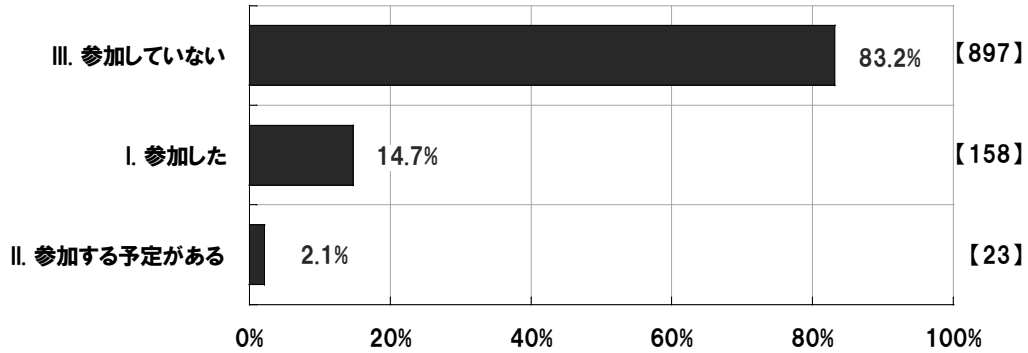
【N=1078】

Q4　キャリア形成のために役立っていると思うことは何ですか？【複数回答可】【9者択9】（回答必須）



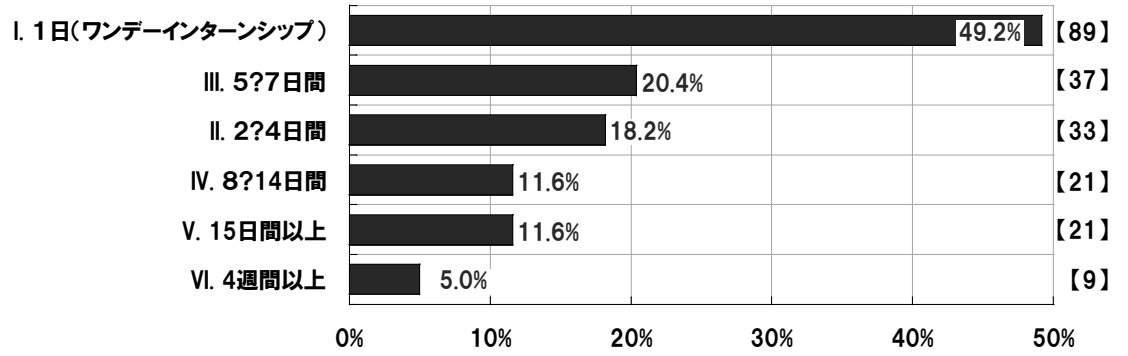
【N=1078】

Q5　今年度，インターンシップに参加しましたか？【3者択1】（回答必須）



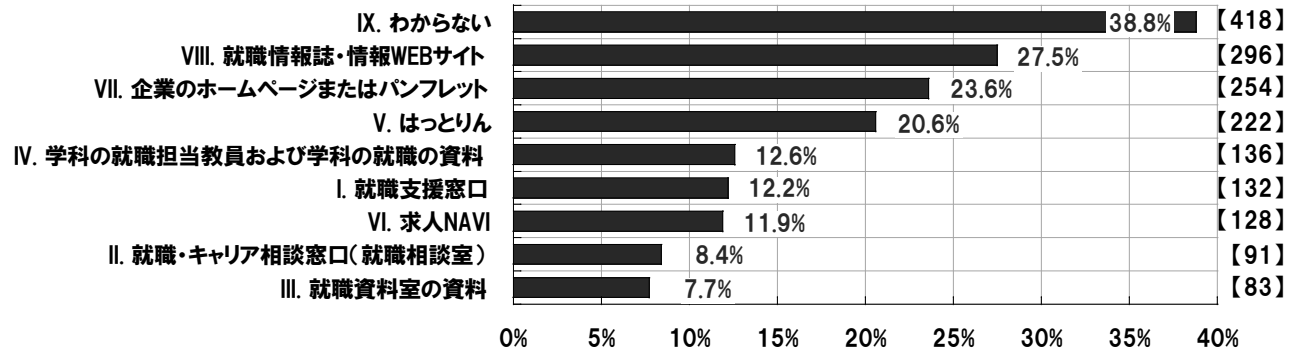
【N=181】

Q6　前問でⅠとⅡを選んだ方にお聞きします．参加したインターンシップの期間として当てはまるものを全て教えてください【複数回答可】【6者択6】



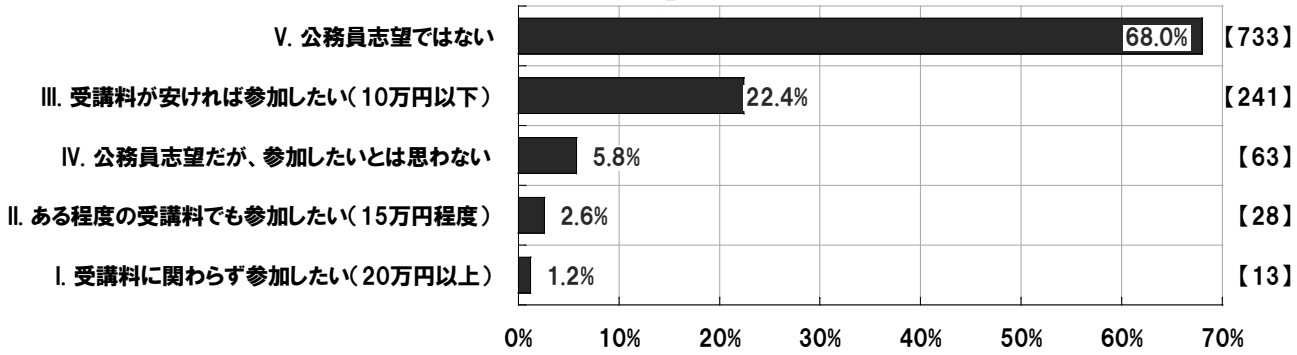
【N=1078】

Q7　インターンシップ情報を主にどこから入手しますか？（入手しようと思いますか？）【複数回答可】【9者択9】（回答必須）



【N=1078】

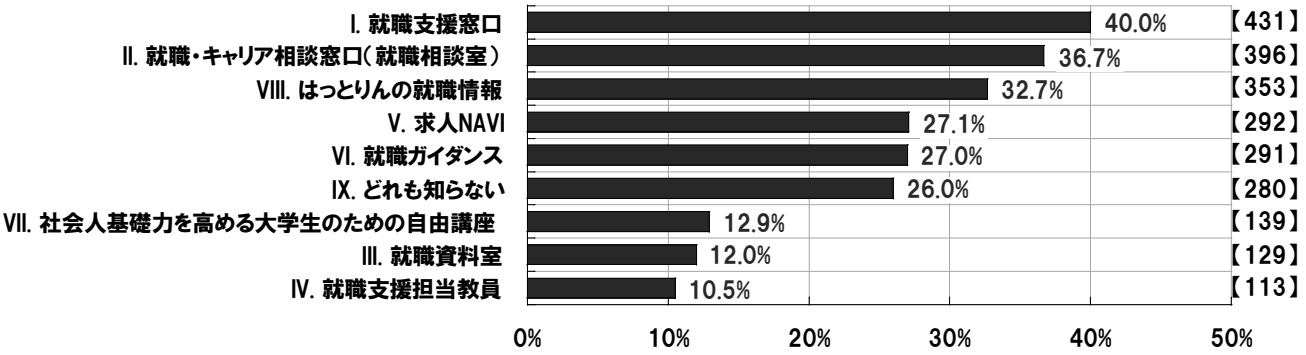
Q8 公務員講座（平日６限目等の授業がない時間帯に週１～２回程度行う有料講座）を大学で開催する場合、参加したいと思いますか？【5者択1】（回答必須）



【就職支援関連】

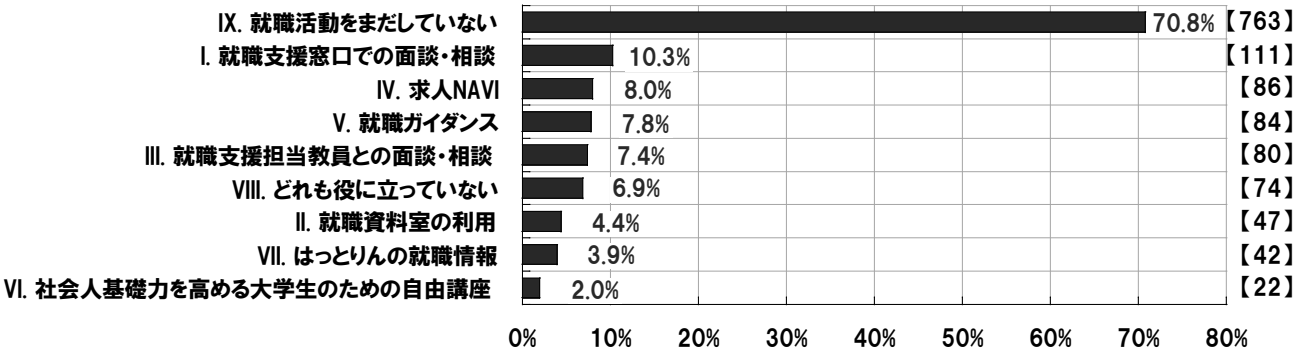
【N=1078】

Q9 就職支援について知っていることはどれですか？【複数回答可】【9者択9】（回答必須）



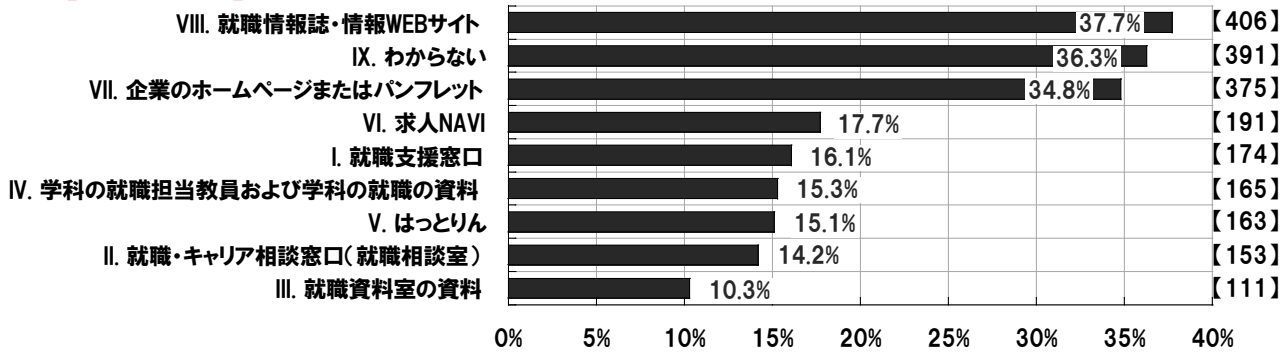
【N=1078】

Q10 就職活動で役立っている（役立った）ことは何ですか？【複数回答可】【9者択9】（回答必須）



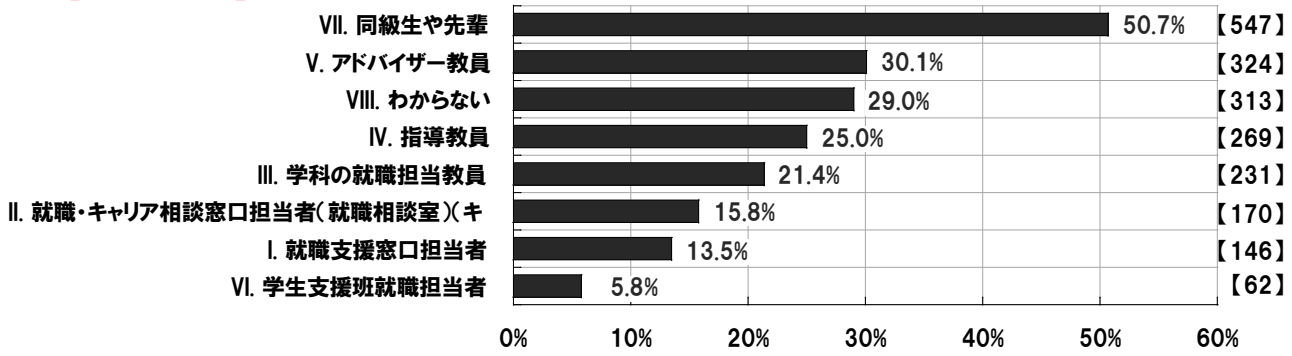
【N=1078】

Q11 就職先情報を主にどこから入手しますか？（入手しようと思いますか？）【複数回答可】【9者択9】（回答必須）



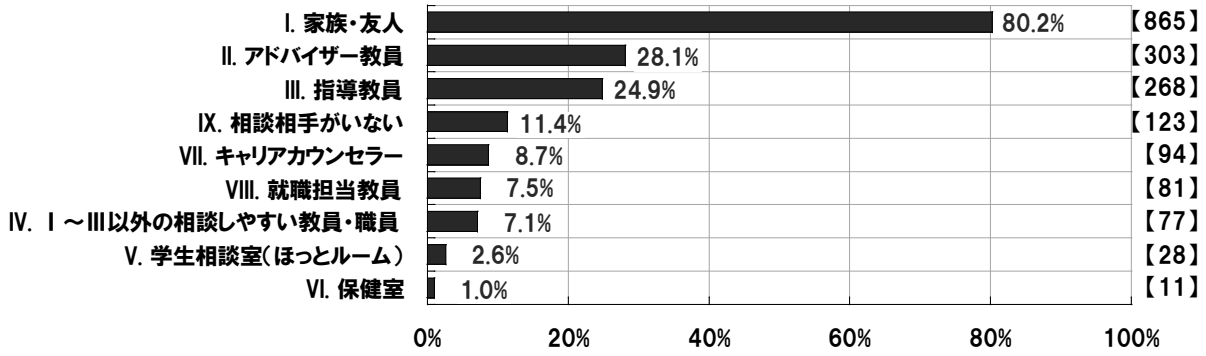
【N=1078】

Q12 具体的な就職活動のやり方，進め方について主にだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数回答可】【8者択8】（回答必須）



【N=1078】

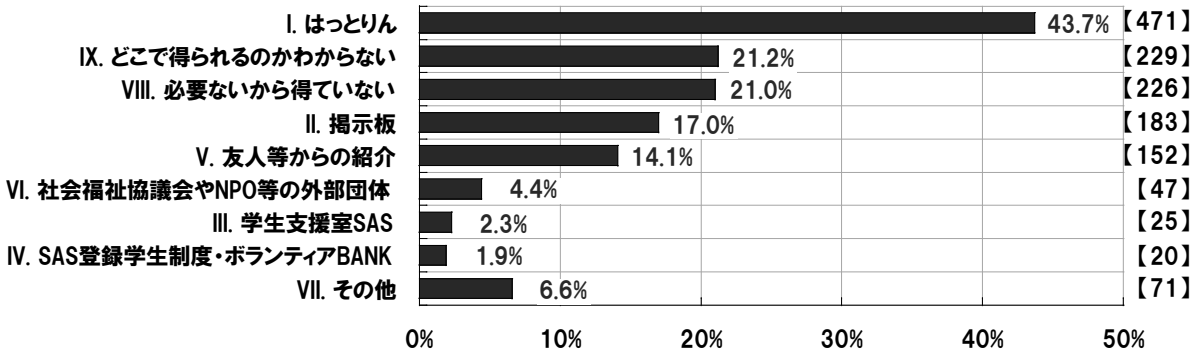
Q13 将来の進路に関する悩みをだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数回答可】【9者択9】（回答必須）



【正課外・ボランティア支援関連】

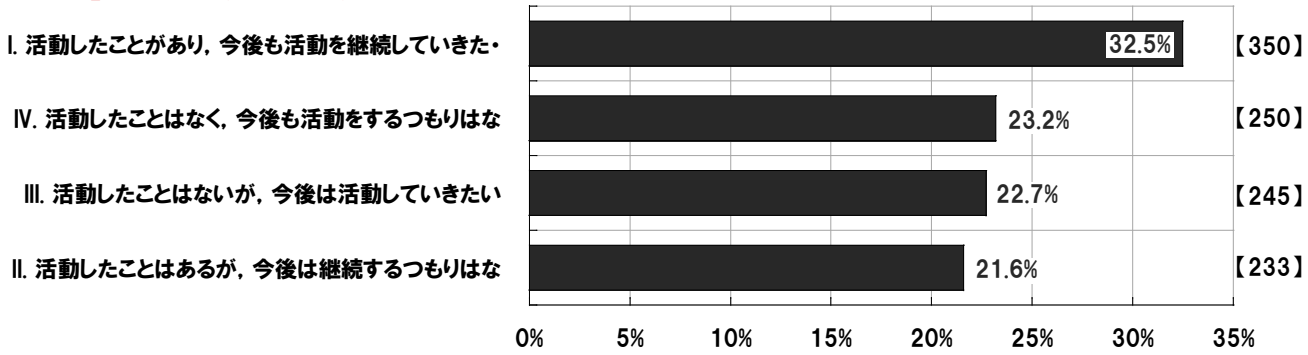
【N=1078】

Q14 ボランティア活動依頼の情報はどこから得ていますか？【複数回答可】【9者択9】（回答必須）



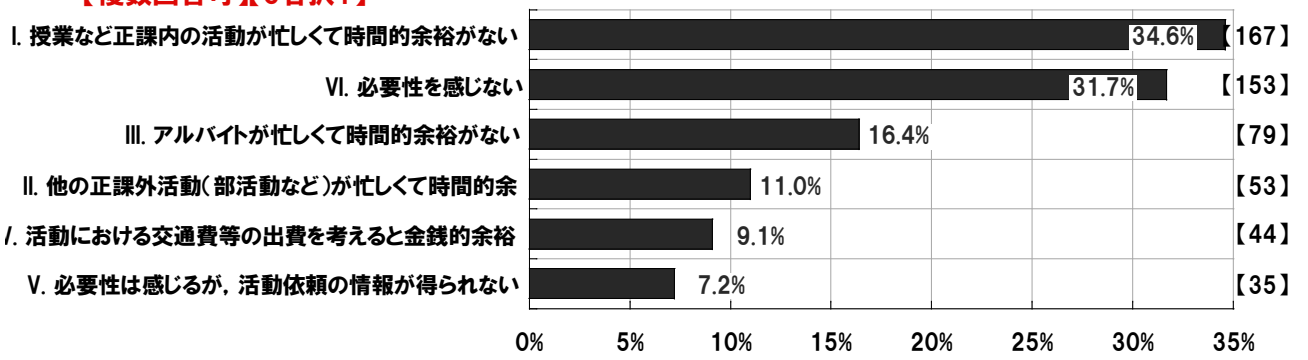
【N=1078】

Q15 大学入学からこれまでにボランティア活動をしたことがありますか？また，したいと思いますか？【4者択1】（回答必須）



【N=483】

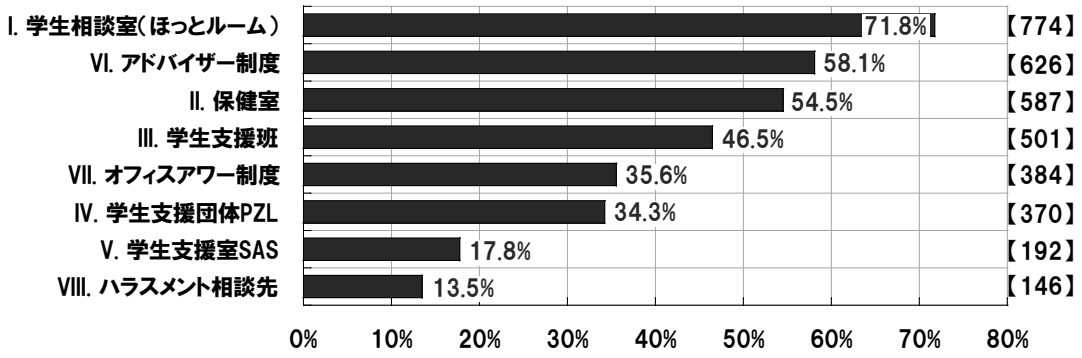
Q16 前問でIIまたはIVを選んだ方にお聞きします．継続しない，また活動するつもりはない理由は何ですか【複数回答可】【6者択1】



【学生生活支援関連】

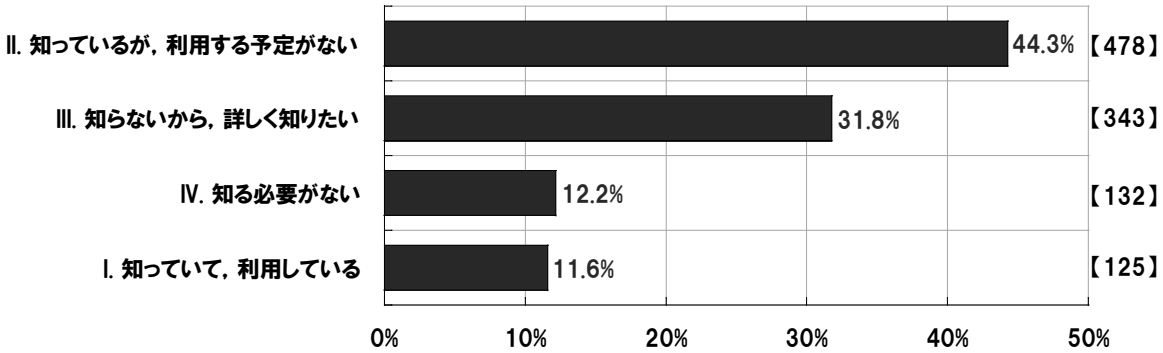
【N=1078】

Q18 学生生活支援に関して知っていることはどれですか？【複数回答可】【8者択8】（回答必須）



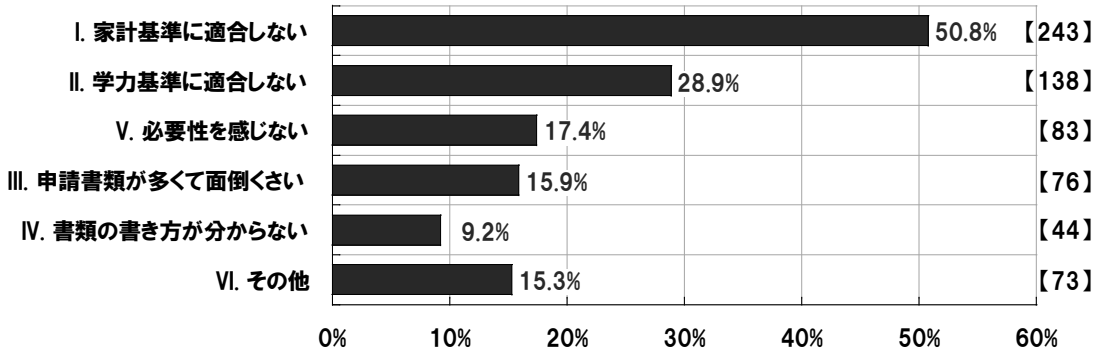
【N=1078】

Q19 授業料免除制度を知っていますか？【4者択1】（回答必須）



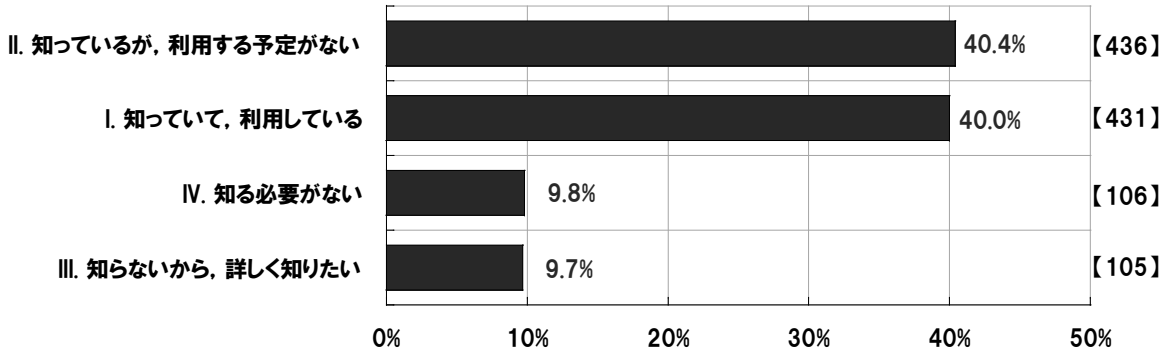
【N=478】

Q20 前問でIIを選んだ方にお聞きします．利用しない理由は何ですか？【複数回答可】【6者択6】



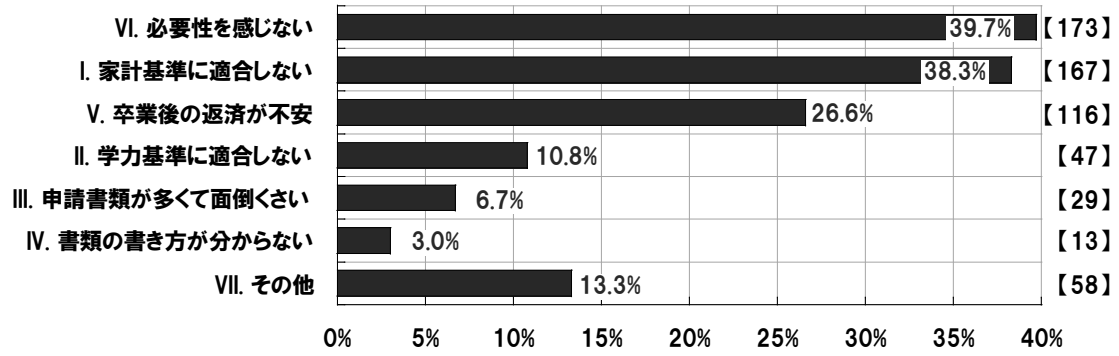
【N=1078】

Q21 奨学金制度を知っていますか？【4者択1】（回答必須）



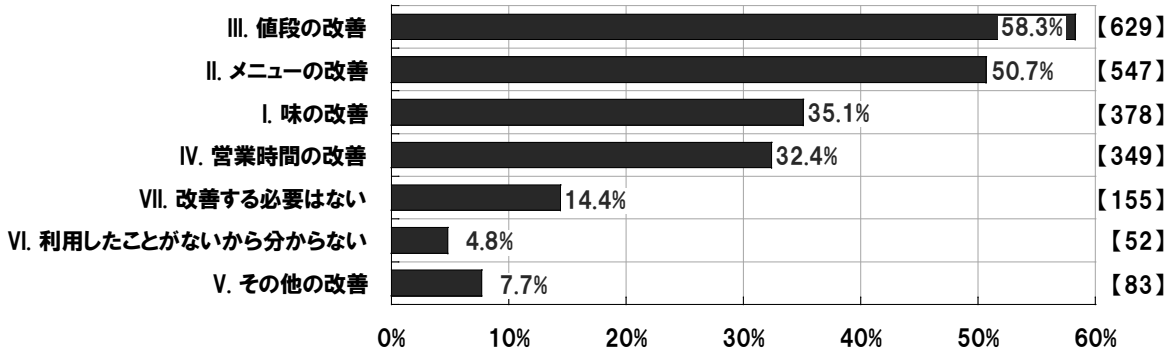
【N=436】

Q22 前問でIIを選んだ方にお聞きします．利用しない理由は何ですか？【複数回答可】【7者択7】



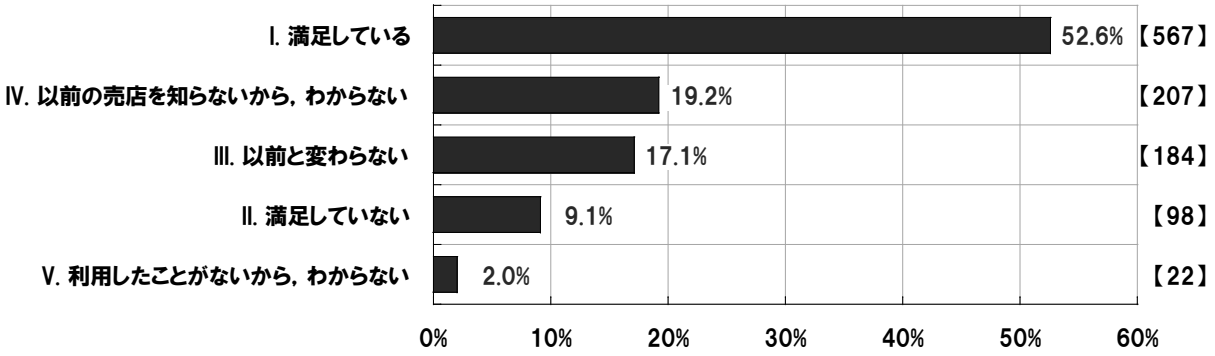
【N=1078】

Q23 食堂・喫茶で改善して欲しいことは何ですか？【複数回答可】【7者択7】（回答必須）



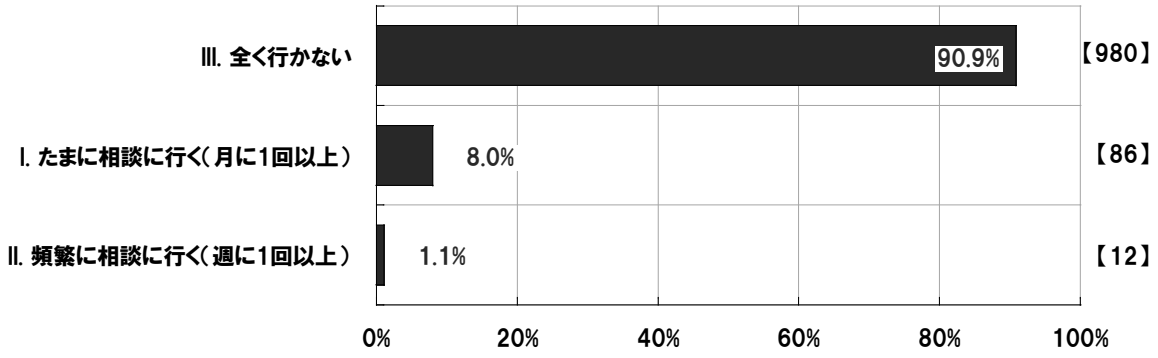
【N=1078】

Q25 売店がコンビニに変わって満足していますか？【5者択1】（回答必須）



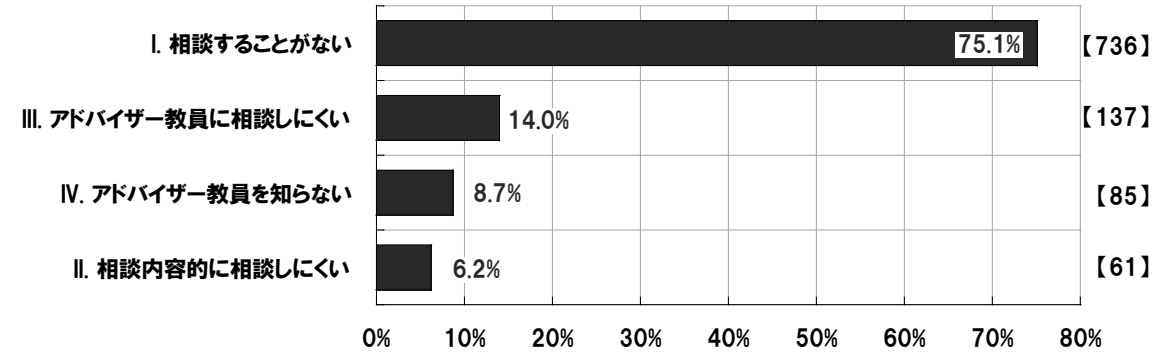
【N=1078】

Q29 アドバイザー面談以外にアドバイザーに相談に行きますか？【3者択1】（回答必須）



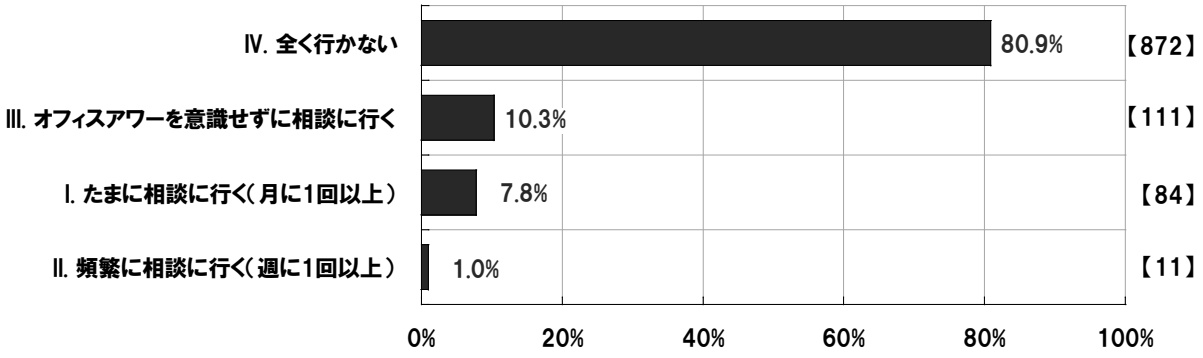
【N=980】

Q30 前問でⅢを選んだ方にお聞きします．行かない理由は何ですか？【複数回答可】【4者択4】



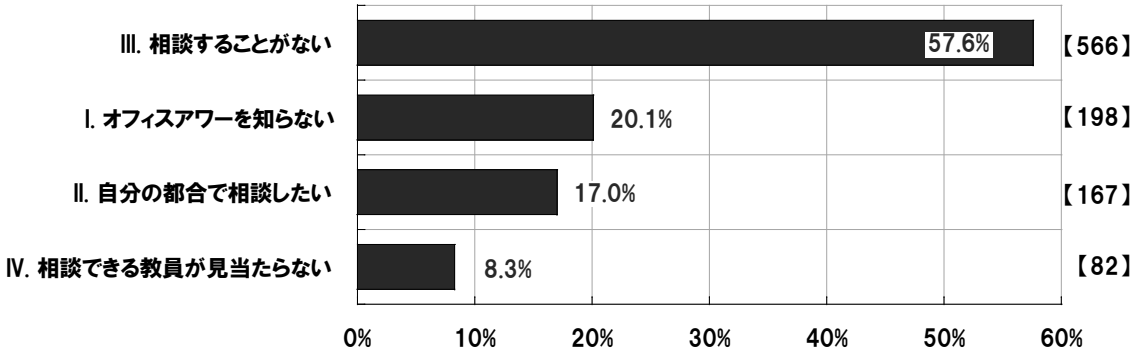
【N=1078】

Q31 オフィスアワーを意識して教員に相談に行きますか？【4者択1】（回答必須）



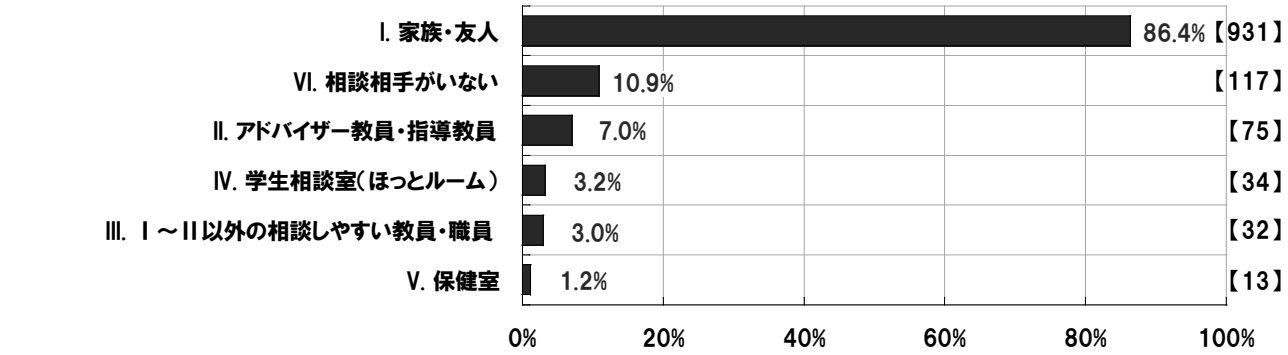
【N=983】

Q32 前問でⅢとⅣを選んだ方にお聞きします．意識しないまたは行かない理由は何ですか？【複数回答可】【4者択4】



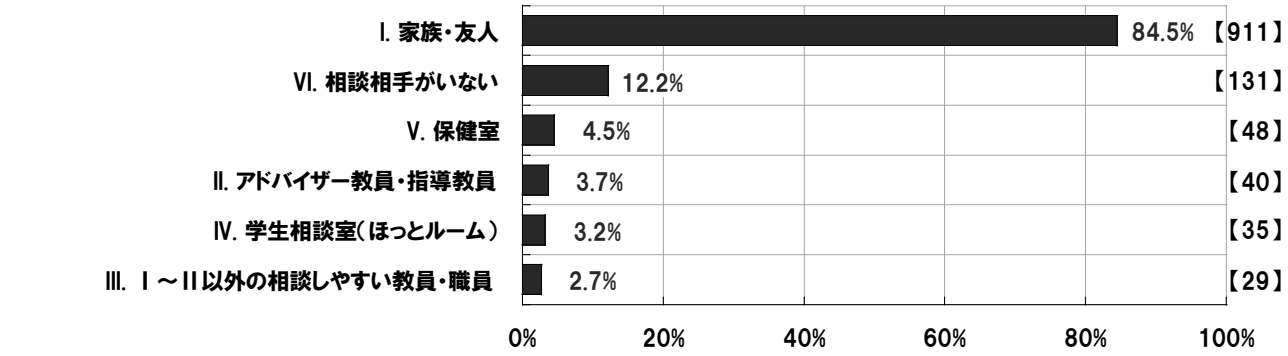
【N=1078】

Q33 対人関係の悩みをだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数回答可】【6者択6】（回答必須）



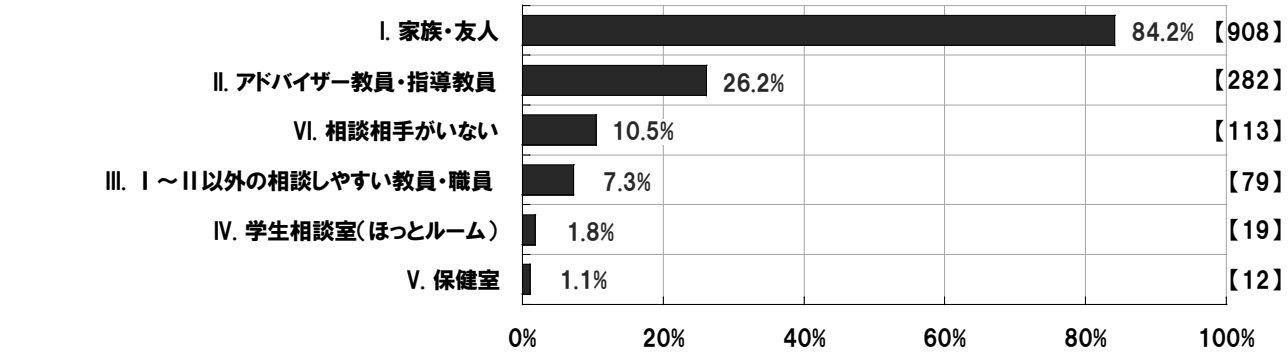
【N=1078】

Q34 心身の健康に関する悩みをだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数回答可】【6者択6】（回答必須）



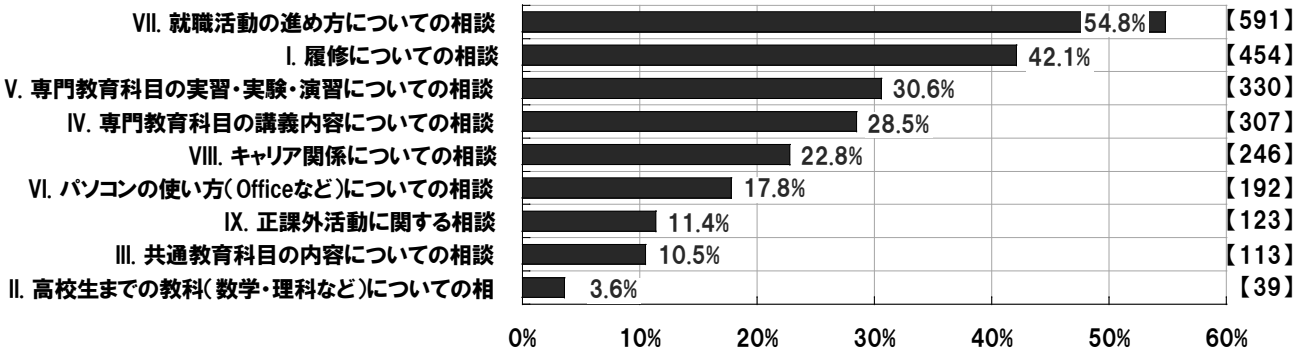
【N=1078】

Q35 学業に関する悩みをだれに相談しますか？（相談したいですか？）【複数回答可】【6者択6】（回答必須）



【N=1078】

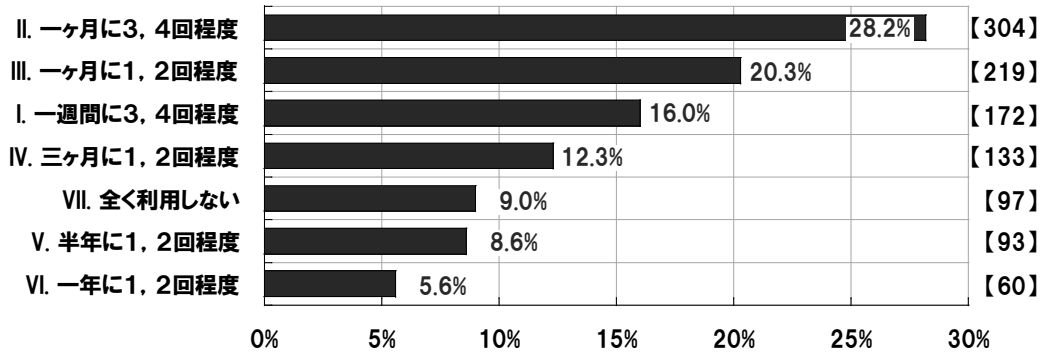
Q36 放課後や空き時間に先輩に何かサポートしてもらえるとしたら，何をサポートして欲しいですか？【複数回答可】【9者択9】（回答必須）



【図書館】

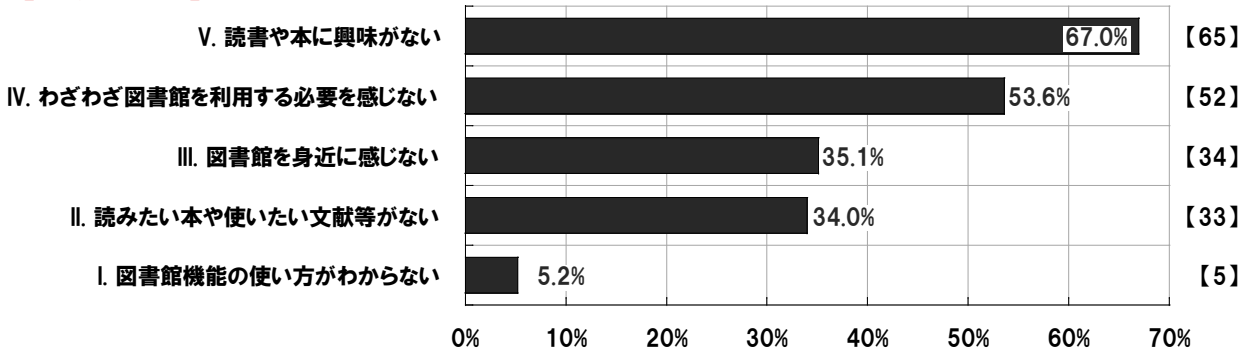
【N=1078】

Q39 本学図書館の利用頻度はどのくらいですか？【7者択1】（回答必須）



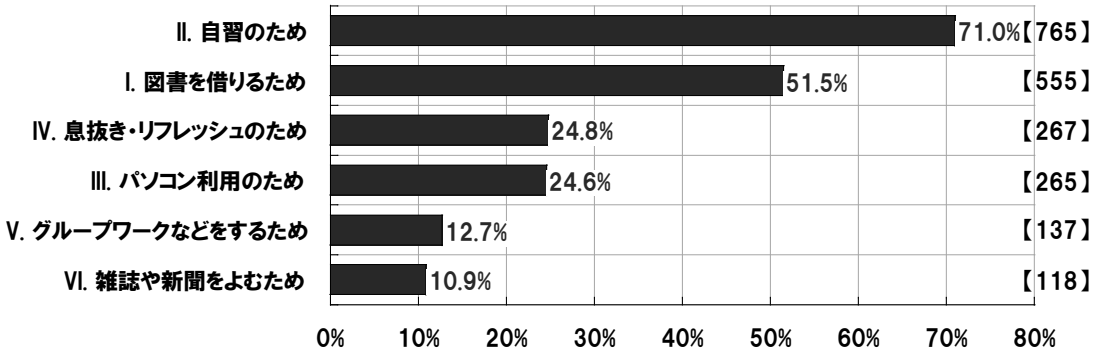
【N=97】

Q40 前問でVIIと回答した方にお聞きします．本学図書館を（ほとんど）利用しない理由は？【複数回答可】【5者択5】



【N=1078】

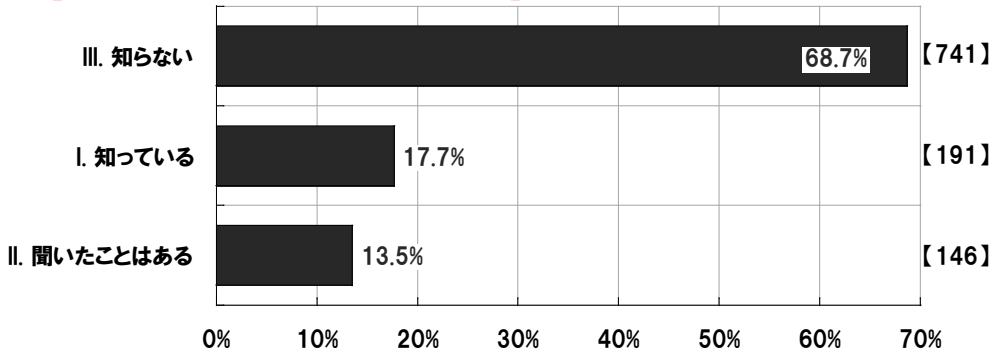
Q41 本学図書館の利用目的は何ですか？【複数回答可】【6者択6】（回答必須）



【雇用マッチングシステム】

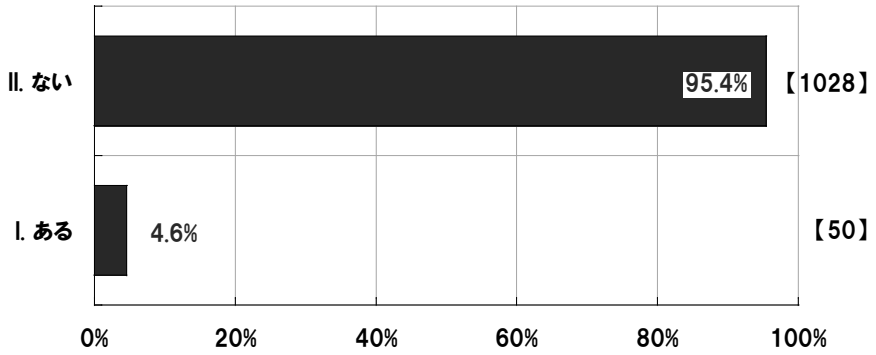
【N=1078】

Q44 岡山県内企業を対象に、PROGテストの結果や企業への希望についてマッチする企業を検索できる「雇用マッチングシステム」が運用されていますが知っていますか？【3者択1】（回答必須）



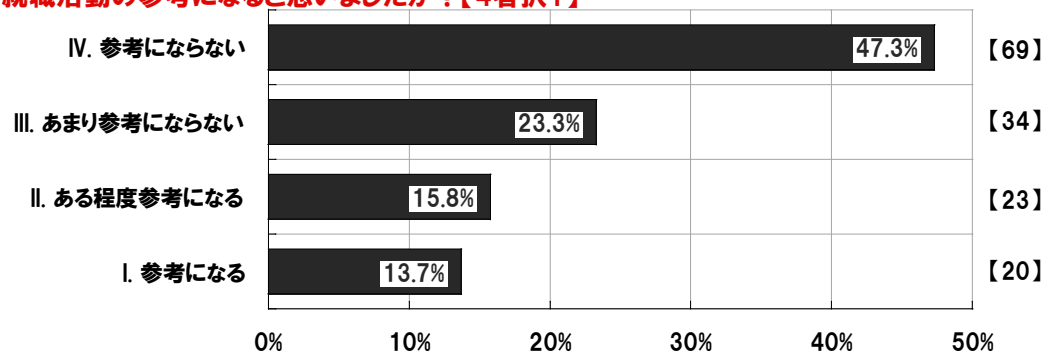
【N=1078】

Q45 「雇用マッチングシステム」を利用したことはありますか？【2者択1】（回答必須）



【N=146】

Q46 前問で、利用したことが「ある」と回答された方にお聞きします。利用した結果、就職活動の参考になると思いましたか？【4者択1】



F　修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数、除籍者数

全学部

卒業年度	入学年度	学部	入学者	修業年限期間内卒業者	修業年限超過卒業者	中途退学者	除籍者	在学者(R1.1現在)	計	修業年限期間内卒業率
H28	H25年度(2013年度)	保健福祉	147	141	1	5	0	0	147	95.92%
		情報工	155	136	15	4	0	0	155	87.74%
		デザイン	93	78	1	13	1	0	93	83.87%
		計	395	355	17	22	1	0	395	89.87%
H29	H26年度(2014年度)	保健福祉	146	139	1	2	2	2	146	95.21%
		情報工	144	123	8	8	2	3	144	85.42%
		デザイン	90	74	2	9	1	4	90	82.22%
		計	380	336	11	19	5	9	380	88.42%
H30	H27年度(2015年度)	保健福祉	147	143	0	2	0	2	147	97.28%
		情報工	156	129	0	4	1	22	156	82.69%
		デザイン	95	79	0	5	1	10	95	83.16%
		計	398	351	0	11	2	34	398	88.19%

保健福祉学部

卒業年度	入学年度	学科又は専攻	入学者	修業年限期間内卒業者	修業年限超過卒業者	中途退学者	除籍者	在学者(R1.1現在)	計	修業年限期間内卒業率
H28	H25年度(2013年度)	看護	45	42	0	3	0	0	45	93.33%
		栄養	40	38	1	1	0	0	40	95.00%
		社会福祉学	41	40	0	1	0	0	41	97.56%
		子ども学	21	21	0	0	0	0	21	100.00%
		計	147	141	1	5	0	0	147	95.92%
H29	H26年度(2014年度)	看護	40	37	1	1	0	1	40	92.50%
		栄養	41	41	0	0	0	0	41	100.00%
		社会福祉学	43	41	0	1	1	0	43	95.35%
		子ども学	22	20	0	0	1	1	22	90.91%
		計	146	139	1	2	2	2	146	95.21%
H30	H27年度(2015年度)	看護	43	39	0	2	0	2	43	90.70%
		栄養	43	43	0	0	0	0	43	100.00%
		社会福祉学	41	41	0	0	0	0	41	100.00%
		子ども学	20	20	0	0	0	0	20	100.00%
		計	147	143	0	2	0	2	147	97.28%

情報工学部

卒業年度	入学年度	学科又は専攻	入学者	修業年限期間内卒業者	修業年限超過卒業者	中途退学者	除籍者	在学者(R1.1現在)	計	修業年限期間内卒業率
H28	H25年度(2013年度)	情報通信工	60	55	5	0	0	0	60	91.67%
		情報システム工	51	46	3	2	0	0	51	90.20%
		スポーツシステム工	44	35	7	2	0	0	44	79.55%
		計	155	136	15	4	0	0	155	87.74%
H29	H26年度(2014年度)	情報通信工	54	51	1	2	0	0	54	94.44%
		情報システム工	50	43	1	4	1	1	50	86.00%
		スポーツシステム工	40	29	6	2	1	2	40	72.50%
		計	144	123	8	8	2	3	144	85.42%
H30	H27年度(2015年度)	情報通信工	66	53	0	3	0	10	66	80.30%
		情報システム工	50	44	0	0	1	5	50	88.00%
		人間情報工	40	32	0	1	0	7	40	80.00%
		計	156	129	0	4	1	22	156	82.69%

デザイン学部

卒業年度	入学年度	学科又は専攻	入学者	修業年限期間内卒業者	修業年限超過卒業者	中途退学者	除籍者	在学者(R1.1現在)	計	修業年限期間内卒業率
H28	H25年度(2013年度)	デザイン工	40	36	0	3	1	0	40	90.00%
		造形デザイン	53	42	1	10	0	0	53	79.25%
		計	93	78	1	13	1	0	93	83.87%
H29	H26年度(2014年度)	デザイン工	40	34	1	3	1	1	40	85.00%
		造形デザイン	50	40	1	6	0	3	50	80.00%
		計	90	74	2	9	1	4	90	82.22%
H30	H27年度(2015年度)	デザイン工	45	41	0	1	0	3	45	91.11%
		造形デザイン	50	38	0	4	1	7	50	76.00%
		計	95	79	0	5	1	10	95	83.16%

G　国際交流

学生の海外派遣プログラム

種別	研修・事業名	派遣先	期間	人数
共通教育科目	語学文化研修（英語）	バンガー大学（英国）	R1.8.28～9.19	5
	海外研修（保健福祉学）[豪州]	南オーストラリア大学, TAFE SA、他（豪州）	R1.8.31～9.8	9
	海外研修（保健福祉学）[韓国]	又松大学校	R1.9.18～9.22	15
国際交流活動	米国スタディツアー	ポートランド州立大学（米国）	R1.8.22～9.18	7
	多文化介護・社会福祉交流プロジェクト	白石大学校 他（韓国）	R1.9.2～9.7	5
	メキシコスタディツアー	モンテレイ工科大学プエブラ校, モンテレイ大学（メキシコ）	R1.9.8～9.17	6
	“Future Food for Well-Being ― Aging Society”参加	カセサート大学（タイ）	R1.9.22～9.25	5
	台南藝術大学との交流活動	台南藝術大学（台湾）	R1.11.30～12.7	2
	ネパール・トリブバン大学・ネパール AMDA との看護交流	トリブバン大学看護学科, ネパール AMDA（ネパール）	R1.12.13～12.18	1

学生の海外留学

留学先	期間	人数
ラハティ応用科学大学（フィンランド）	R1.8.10～R2.2.28	1
香港日本人商工会議所，香港理工大学　他（香港）	R1.8.11～9.22	1

海外学生の受入プログラム

研修・事業名	参加大学	期間	人数
日本語・日本文化研修	河南科技大学	R1.7.17～7.25	13
香港理工大学短期交換看護研修	香港理工大学	R1.7.29～8.9	6

留学生受入人数

大学名（国名）	学部（うち研究生）			大学院 博士前期課程・修士課程			大学院 博士後期課程		合計
	保健福祉	情報工学	デザイン	保健福祉	情報工学	デザイン	保健福祉	情報工学	
又松大学校（韓国）	2(1)	1							3
南昌大学（中国）				1			1		2
河南科技大学（中国）			2						2
雲林科技大学（台湾）			1						1
ハサヌディン大学（インドネシア）							1	1	2
カセサート大学（タイ）		1(1) [*]							1
トリブバン大学（ネパール）							1		1
協定校以外からの一般入学等				1		2			3
合計	2	2	3	2	0	2	3	1	15

[*] 研究室での短期（約２カ月）の受入

Ｈ　高大連携協定等に基づく授業に係る高等学校への講師派遣及び生徒の受入

H-1　講師派遣

高校名	実施場所	担当学部	教員名		講義内容等	受講人数	学年	実施日
岡山南高等学校	岡山南高校	保健福祉	教授	高戸 仁郎	「介護予防について」講義・実技指導	20	3	R1.5.13
倉敷古城池高等学校	倉敷古城池高校	保健福祉	准教授	池田　理恵	研究紹介・県大保健福祉学部の紹介	49	1-3	R1.6.17
総社高等学校	総社高校	保健福祉	准教授	佐々木　新介	土曜講座「看護師とその将来について」	50	3	R1.6.22
瀬戸南高等学校	瀬戸南高校	保健福祉	准教授	岡崎　愉加	性教育講演会	466	1-3	R1.7.8
勝間田高等学校	勝間田高校	保健福祉	教授	井村　圭壯	福祉・医療・保育等の専門職の魅力と重要性について	47	1-3	R1.7.8
邑久高等学校	邑久高校	保健福祉	教授	井村　圭壯	福祉に関する様々な仕事、県立大学社会福祉系学部で学べること、等	5	2,3	R1.7.30
総社高等学校	総社高校	保健福祉	准教授	岩満　賢次	土曜講座「福祉とその現状・将来性について」	25	2	R1.9.14
倉敷中央高等学校	倉敷中央高校	保健福祉	教授	井村　圭壯	保健・福祉系進路の魅力と大学での学び	20	2	R1.9.19
倉敷南高等学校	倉敷南高校	保健福祉	教授	入江　康至	「キャリアⅠ」学問の哲人講座：習慣的甘酒摂取の腸内環境に対する影響	19	2	R1.10.3
		保健福祉	准教授	名越　恵美	「キャリアⅠ」学問の哲人講座：求められる看護職の役割	32	2	
岡山商科大学附属高等学校	岡山商科大学附属高校	保健福祉	教授	井村 圭壯	大学の学問について大学進学にあたり，高校生活で必要なこと	20	1	R1.10.16
岡山南高等学校	岡山南高校	保健福祉	教授	高戸 仁郎	「高齢者の健康」について	80	2	R1.10.16
総社高等学校	総社高校	保健福祉	教授	山本　孝司	土曜講座「幼児教育とその現状について」	30	2	R1.10.19
総社高等学校	総社高校	保健福祉	准教授	井上　幸子	土曜講座「看護とその将来性について」	25	2	R1.11.9

H-2　生徒の受入

高校名	実施場所	担当学部	教員名		講義内容等	受講人数	学年	実施日
総社南高等学校	岡山県立大学	情報工学	教授	佐藤 洋一郎	Linux PC を用いた Web の基盤技術に関する実験	82	2	R1.9.18
			教授	綾部 誠也				
			准教授	國島 丈生	3 次元 CAD の入門			
			准教授	福田 忠生	骨格筋収縮時の筋電信号			
			助教	芝 世弐	ニューラルネットワークを用いた機械学習の初歩			
			助教	大山 剛史				
総社高等学校	岡山県立大学	デザイン	准教授	朴　貞淑	住環境※	15	2	R1.10.1 10.15
			准教授	真世土　マウ	セラミックデザイン※ （中南米土器）			R1.10.21 10.28
			准教授	益岡　了	ユニバーサルデザイン等※			R1.11.12 11.19

※ 講義内容等の※印は連携講座（高校が単位認定を行うことができるもの.）

Ⅰ　高等学校への講師派遣及び生徒の受入（授業以外）

Ⅰ-1　講師派遣（校内ガイダンス）

月　日	高等学校名	受講者		内　　容
		学年	人数	
4月23日	井原高校	2、3	32	看護学科の説明
5月30日	山陽女子高校	2、3	11	保健福祉学科の説明
6月10日	倉敷中央高校	3	10	保健福祉学科の説明
6月10日	創志学園高校	2、3	8	栄養学科の説明
6月19日	岡山一宮高校	1	33	保健福祉学科（子ども学専攻）の説明
7月3日	総社南高校	1	32	情報工学部、デザイン学部の説明
7月9日	井原高校	1、2	30	情報工学部の説明
9月20日	新見高校	1、2	12	情報工学部の説明
9月25日	勝山高校	1、2	30	情報工学部の説明
10月3日	就実高校	1、2	26	建築学科の説明
10月23日	総社南高校	1、2	25	情報工学部の説明説明

Ⅰ-2　生徒の受入

月　日	高等学校名等	訪問者		内　　容
		学年	人数	
4月26日	後楽館高校	2	40	大学全体の説明、 情報工学部・デザイン学部施設見学
6月11日	今治北高校大三島分校	1～3	91	大学全体の説明、各学部施設見学
7月19日	総社高校	不明	30	図書館見学
7月29日	岡山学芸館高校	1	84	大学全体の説明、各学部施設見学
10月3日	西大寺高校	1	44	大学全体の説明、保健福祉学部施設見学
10月9日	岡山御津高校	1	6	大学全体の説明、デザイン学部施設見学
10月17日	倉敷工業高校	1	41	デザイン学部施設見学、図書館見学
10月30日	琴平高校	2	18	大学全体の説明、 保健福祉学部・情報工学部施設見学

※ 訪問者数には引率教員等を含む。

Ｊ　学生・学生団体等の受賞

岡山県立大学 Web サイトの下記ページを参照してください。

・「岡山県立大学（ホームページ)」
↓
「大学案内」
↓
「学生・教員の受賞情報」
※URL　https://www.oka-pu.ac.jp/guide/guide_detail/index/870.html

Ｋ　委員会等の審議事項

Ｋ-1　大学活動委員会

第１回（令和元年５月 16 日）
（１）令和３年度岡山県立大学 DP・CP・AP について
（２）2019（令和元）年度後期交換留学生の募集について

第２回（令和元年６月 13 日）
（１）成績分布の検証について（依頼）
（２）岡山県立大学ホームステイ受入事業実施要領（案）について
（３）本学学生の旧姓及び通称使用について

第３回（令和元年７月 11 日）
（１）岡山県立大学大学院学則の一部改正及び東京大学と岡山県立大学との間における特別研究学生交流に関する協定について
（２）災害等による全学休講の措置及び災害等に係る欠席授業の取扱いについて
（３）アドバイザー面談報告書様式について

第４回（令和元年８月８日）
（１）2020(令和 2)年度前期交換留学生の募集について
（２）新学生生活アンケートについて

第５回（令和元年９月 12 日）
（１）クォーター制・セメスター制に関するアンケートについて
（２）令和３年度科目における特例的な単位及び開講時間の取扱いについて

第６回（令和元年 10 月 10 日）
（１）令和３年度クォーター制からセメスター制への学時暦の変更について
（２）全学講義について

第７回（令和元年度 11 月 14 日）
（１）愛媛大学大学院理工学研究科（工学科）及び工学部と岡山県立大学大学院情報系工学研究科及び情報工学部との教育・研究交流協定について
（２）台湾の国立台南芸術大学（ＴＮＮＵＡ）との大学間学術交流協定（ＭＯＵ）の締結について
（３）文部科学省「学生調査」に備えた「教育満足度予備調査」について

第８回（令和元年 12 月 12 日）
（１）英語習熟度別クラスの設置について
（２）大学等における修学支援に関する機関要件への対応について
（３）社会貢献年報 2019 について
（４）OPU フォーラム 2020 について
（５）2019 年度教育改革推進事業について
（６）学生生活アンケートについて
（７）学生表彰制度について
（８）全学講義について

第９回（令和２年１月９日）
（１）2020 年度の副専攻「岡山創生学」の実施について
（２）令和２年度「大学で学ぶ」について
（３）教育年報 2019 について

第１０回（令和２年２月 13 日）
（１）岡山県立大学履修規程の一部改正について（案）
（２）岡山県立大学大学院履修規程の一部改正について（案）
（３）令和２年度フレッシュマンセミナーについて
（４）交通機関の運休・忌引き等による欠席授業の取扱い（案）
（５）令和３年度学籍番号体系の一部改定について

第１１回（令和２年３月５日）
（１）令和２年度地域共同研究機構客員教授等について
（２）令和２年度教育開発センター、国際交流センター、
キャリア・学生生活支援センターの客員教授等について
（３）令和元年度後期の TOEIC L&R IP の結果と今後の方針について
（４）令和２年度公開講座について
（５）大学院生の学会発表等に係る助成金交付要綱の変更（案）について
（６）令和元年度後期アドバイザー制度の実績及び令和２年度アドバイザー制度の実施について
（７）保健調査票から知り得た個人情報の取扱いについて
（８）学生表彰規程について
（９）学生相談室規程及び保健室規程について
(10) 令和２年度ボランティア相談窓口について
(11) アクティブラーニングについて

Ｋ-2　教務学部専門委員会

第１回（令和元年５月１６日）
（１）令和元年度教務学部専門委員会開催日程について
（２）４年次生に係る年度末日程について
（３）令和３年度共通教育の開講計画への要望等について（依頼）

第２回（令和元年６月１３日）
（１）令和２年度開講計画等の協議スケジュールについて
（２）令和２年度共通教育の開講計画への要望等について（依頼）
（３）令和３年度共通教育科目の開講計画について
（４）令和３年度学部教育科目開講計画等について（依頼）

第３回（令和元年７月１１日）
（１）令和２年度共通教育科目の開講計画について
（２）令和２年度学部教育科目開講計画等について（依頼）
（３）令和３年度共通教育科目の開講計画について
（４）令和３年度学部教育科目開講計画等について
（５）令和元年度 TOEIC L&R IP テスト（2 年次生）の実施について

第４回（令和元年９月１２日）
（１）令和３年度共通教育科目の開講計画について
（２）令和３年度学部教育科目の開講計画について（情報工学部）
（３）令和２年度共通教育科目の開講計画について
（４）令和２年度共通教育科目の時間割について
（５）令和２年度学部教育科目の時間割編成について（依頼）
（６）令和２年度入学生の卒業要件および学部教育科目の開講計画について

第５回（令和元年１０月１０日）
（１）令和３年度共通教育科目の開講計画について
（２）令和３年度学部教育科目の開講計画について（保健福祉学部・デザイン学部）
（３）令和２年度共通教育科目の時間割について
（４）令和２年度教務・学生生活スケジュールについて

第６回（令和元年１１月１４日）
（１）令和２年度学部教育科目の時間割について
（２）令和２年度履修案内の原稿作成について
（３）令和２年度「大学コンソーシアム岡山」単位互換提供科目について
（４）令和２年度教務学生生活スケジュールの修正について
（５）４年次生に係る令和元年度末日程の修正について

第７回（令和元年１２月１２日）
（１）令和２年度廃止（予告）及び臨時に設ける授業科目について
（２）令和２年度履修案内について
（３）令和２年度新入生オリエンテーション日程について
（４）令和２年度「大学コンソーシアム岡山」単位互換提供科目について
（５）令和２年度アクティブ・ラーニング教室（8105 教室）の希望調査について
（６）令和２年度「シラバス」の作成について
（７）令和２年度学部教育科目開講計画の変更について（看護学科）

第８回（令和２年１月９日）
（１）令和２年度図書館ガイダンスの実施について
（２）令和２年度シラバス入力・承認用手引き等について
（３）令和２・３年度共通教育科目開講計画の変更について

第９回（令和２年２月１３日）
（１）令和３年度学部開講計画の変更について（保健福祉学部、デザイン学部）
（２）令和２年度学部開講計画の変更について（デザイン学部）
（３）令和２年度廃止（予告）及び臨時に設ける授業科目について
（４）令和２年度履修案内について
（５）令和２年度共通教育科目の時間割等の変更について

第１０回（令和２年３月４日）
（１）令和２年度履修案内（令和元年度以前入学生用）について
（２）令和２年度共通教育科目の廃止について（修正）
（３）令和２年度共通教育時間割等の変更について
（４）令和３年度デザイン学部開講計画の変更について

Ｋ-3　教務大学院専門委員会

第１回（令和元年５月１６日）
（１）令和元年度教務大学院専門委員会開催日程について

第２回（令和元年６月１３日）
（１）令和２年度開講計画等の協議スケジュールについて
（２）令和２年度授業科目の新設等について（情報系工学研究科）

第３回（令和元年９月１２日）
（１）令和２年度大学院教育科目の開講計画および履修案内原稿の作成について（依頼）
（２）令和２年度授業科目の新設について（保健福祉学研究科）
（３）令和２年度授業科目の廃止について（研究科共通科目）

第４回（令和元年１２月１２日）
（１）令和２年度大学院授業科目の新設・廃止について（保健福祉学研究科・情報系工学研究科）
（２）令和２年度開講計画および履修案内について
（３）令和２年度廃止（予告）及び臨時に設ける授業科目について
（４）令和２年度新入生オリエンテーション日程について
（５）令和２年度ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ実践論のＨ３１年度以前入学生向け開講について

第５回（令和２年２月１３日）
（１）令和２年度履修案内について
（２）令和２年度廃止（予告）及び臨時に設ける授業科目について

第６回（令和２年３月４日）
（１）令和２年度履修案内（令和元年度以前入学生用）について

編集後記

本学の「大学教育年報」は、大学教育開発センターと教学課教務班の協働作業として編集・制作が行われ始めてから毎年編集・制作され、2018 年度にて 5 年が経過するに至った。

本学の「大学教育年報」は教育の改革推進を目的にしている。この教育の改革推進の活動は、開学以来、学内委員会体制の下で別々に行われており、大学教育開発センターが設置されるまでは専任教職員を中心に運営するセンター化には至っていなかった。しかし，大学のグローバル規模の教育改革の活動，すなわち、世界規模で起こっている大学進学率の上昇に伴う高等教育の質保証のための，西欧型大学における高等教育の学位認定の整備の動き（ボローニャ・プロセスなど）や、アメリカ型大学の総合教育システムの導入傾向は，一方では国家にとらわれない国際水準規格の教育改革であると同時に、他方では各国家の繁栄を目ざす社会改革の一環でもあり、新時代の大学教育のあり方を模索するステージが到来したと言ってよい。

さて、「大学教育年報」6 年目を迎える 2019 年度からは、上記のグローバル規模の大学教育の改革推進だけでなく、少子化など国内・地域事情にも対応するためのポリシーの実質化・明確化等の整備の下、本学に相応しい大学教育のあり方を検討することとなった。その結果、本年度から開始する組織改革（キャリア・学生生活支援センターの独立化）と共に次年度に向けられた組織改革の計画（アドミッション・センターの独立強化）を念頭において、「教育の質の保証」を第一の目的とすることにし、これに沿ってセンター各部門の自律的な充実化を図ることとした。共通教育部門では H30 年度の包括的なカリキュラム改革に伴う教養改革の充実化を図った。その結果、PBL 科目のセミナー化及びそのコンテンツ等が計画・整備された。また FD 部門では、通常の授業評価の調査・分析や、FD 教員研修、授業改善意見交換会などに加えて、教育の質の保証の一環としてアクティブラーニングの定義・調査によって拡充を策定した。その結果、大半の授業がアクティブラーニングを既に導入していることが明らかとなり、次年度への課題を明確にできた。さらにアドミッション部門においては、全国的な推薦入試や AO 入試の拡大傾向に伴い、アドミッション・ポリシーの見直しと明確化、高大連携事業と広報活動の充実化等に力を注いだ。これらを通じて次年度の組織改革の内実を明確にすると共に、志願者獲得とその質の維持・向上のための多角的且つ柔軟な対応が可能な活動体制を策定できた。さらに教育評価部門では本学独自の学生の満足度等を調査・分析することで、文科省の全国的な満足度調査と比較評価する方策を立て、今年度は、先ず本学独自の調査を企画し実施するに至った。これによって教育の質の保証のための基礎データの整備に貢献したと言えよう。

以上のような課題の焦点を絞った改革推進の全学的な活動は、利害調整が多く遅滞を招きがちな、部署代表者による委員会形式では困難である。この点で、本学が進めてきたセンター化は、教育改革の推進に対して大きな成果を生んだと言ってよいであろう。センター化が全学的な改革に相応しいと言うのであれば、そこに必要なのは、大学執行部の大胆な目的

設定や決断力、人材・資金の集中的な投入であろう。そのためには数年後、十数年後、そして未来に向けられた将来構想が常に自覚されねばならない。岡山県の第3期中期計画も、文科省の認証評価も、本学が主体的な意志を以て明確な目的設計をしなければ対応・計画できないであろう。その意味で大学における教育改革の推進においては、センター化が、全学的な取り組みを推進できるという点で今後も必須の組織形態となると考えられる。

さて2019年度から、沖学長の体制下で、新たな教育改革が始まった。大学における教育力は、教員にも学生にも教育内容にも社会の中にも現れてくる以上、各々のあり方や評価の仕方については、時代状況に応じて常に対応し改善の努力が必要であろう。教育力を明確にするためには、現状を批判した上で、教学IRを中心とした教学システムを構築しなければならない。そして、何事であれ、改善のためにはデータの収集・分析・解釈が必要である。このようなPDCAサイクルが大学運営に積極的に取り入れられるようになって久しいが、本学においては、現状では依然として、PDCA サイクルに基づいた明確な教学システムが構築されているとは言い難い。先ずは多くのデータの処理と分析、そして「見える化」へのシステム構築が必要である。あらゆる改善プロセスにおいては、現状に対して問題を発見し、修正変更点を抽出する操作が必要であるが、そこには常に価値意識が伴う。項目を比較し「より善い」と判断できるための教学システムの全体的構築が急がれるのも、価値意識に重点があるからである。「見える化」は、教職員や学生にとって、そして高大連携や社会広報の場にとっても、教学上の価値意識の醸成と共有のために必須なのである。

本年度の教育年報におけるデータは，新しい教学システムの構築のための基礎資料である。これらを基盤として、われわれは、来年度に向けて、教学上の全学的な課題となる「教育の質の保証」の課題に積極的に取り組んで行かねばならないと考えている。

教育開発センター長 樋笠 勝士（編集責任者）

発行　〒719-1197
岡山県総社市窪木１１１番地
岡 山 県 立 大 学
TEL 0866-94-2111
URL https://www.oka-pu.ac.jp
編集　岡山県立大学 教育開発センター

岡山県立大学
OKAYAMA PREFECTURAL UNIVERSITY
〒719-1197 岡山県総社市窪木 111　岡山県立大学
TEL:0866-94-2111　FAX:0866-94-2196